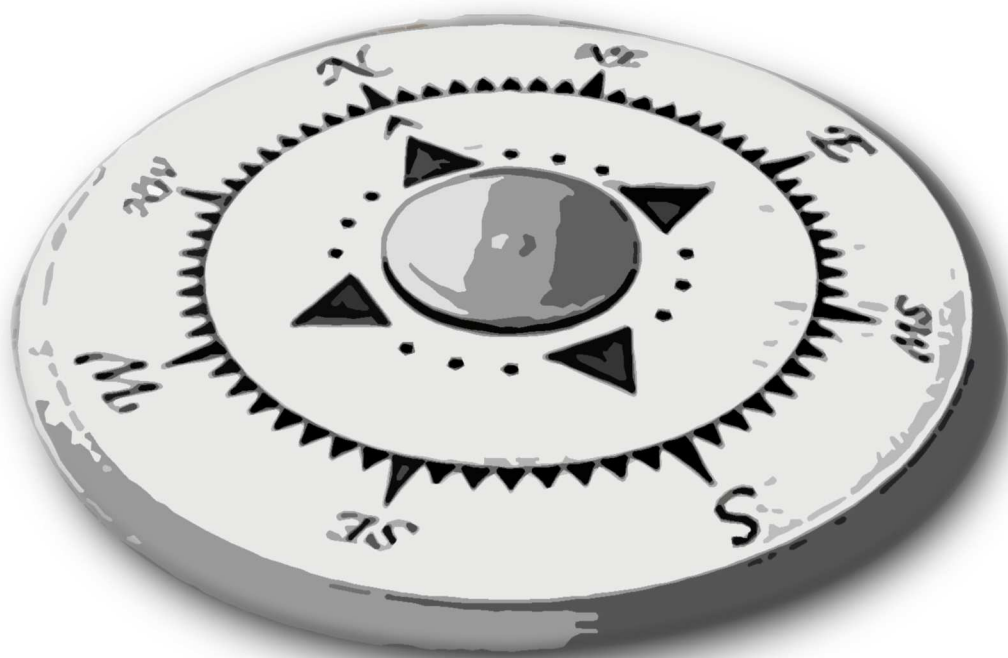




神奈川県

KANAGAWA

キャリア教育推進ハンドブック



平成17年3月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

21世紀という時代に即した教育の在り方をめぐる改革への取組は、構造改革や規制緩和、そして地方分権といった国政の展開と連動して、その速度を速めている現状にあります。こうした中で、現代社会の厳しい経済情勢や産業・経済及び雇用の構造的な変化を背景に、若者たちにとって、学校生活から職業生活への円滑な移行・接続が難しい状況が生じています。若年層での失業者やフリーターの増加、早期離職者の急増、さらにはニートと称される若者の出現など、将来の目標を見失い、学ぶことや働くことの意義をも見いだせない若者たちの存在が、大きな社会問題となりつつあります。そうした若年層の社会現象の背景には、働くことへの関心・意欲が低いことや基本的な社会規範やマナー等が身に付いていないこと、さらには異年齢者との交流等で円滑な人間関係を築くことができないなど、社会人として、職業人として未成熟な実態が浮かび上がってきます。

これらの諸課題を解決するために、小学校段階から子どもたちが自己を適切に理解し、将来に対して夢や希望を持ち、自らの生き方や進路について意欲的に考え、望ましい職業観・勤労観を育成するなど、自己実現に向けて努力するための態度や能力を養うことができるよう、各学校においてキャリア教育の推進と充実が求められています。

そのような状況を考慮し、当センターでは、これまでの文部科学省による調査研究や先進的な学校における取組事例等を踏まえ、本県の学校教育におけるキャリア教育の推進に向けて、全国に先駆けて、『キャリア教育推進ハンドブック』を作成しました。本ハンドブックは、理論編・実践編・情報編の3部構成により、各学校でのキャリア教育推進をサポートするガイド的な役割を担えるよう編集を工夫し、校種ごとの例示や関係する資料・情報の充実にも配慮しました。

21世紀の時代を生きる「かながわの子どもたち」が、自らの生き方・進路に関する諸能力を身に付け、力強くそしてたくましく自分の未来を拓いていくことを期待してやみません。本ハンドブックが、各学校での実りあるキャリア教育の実践に活用いただければ幸いです。

平成17年3月

神奈川県立総合教育センター
所長 清水進一

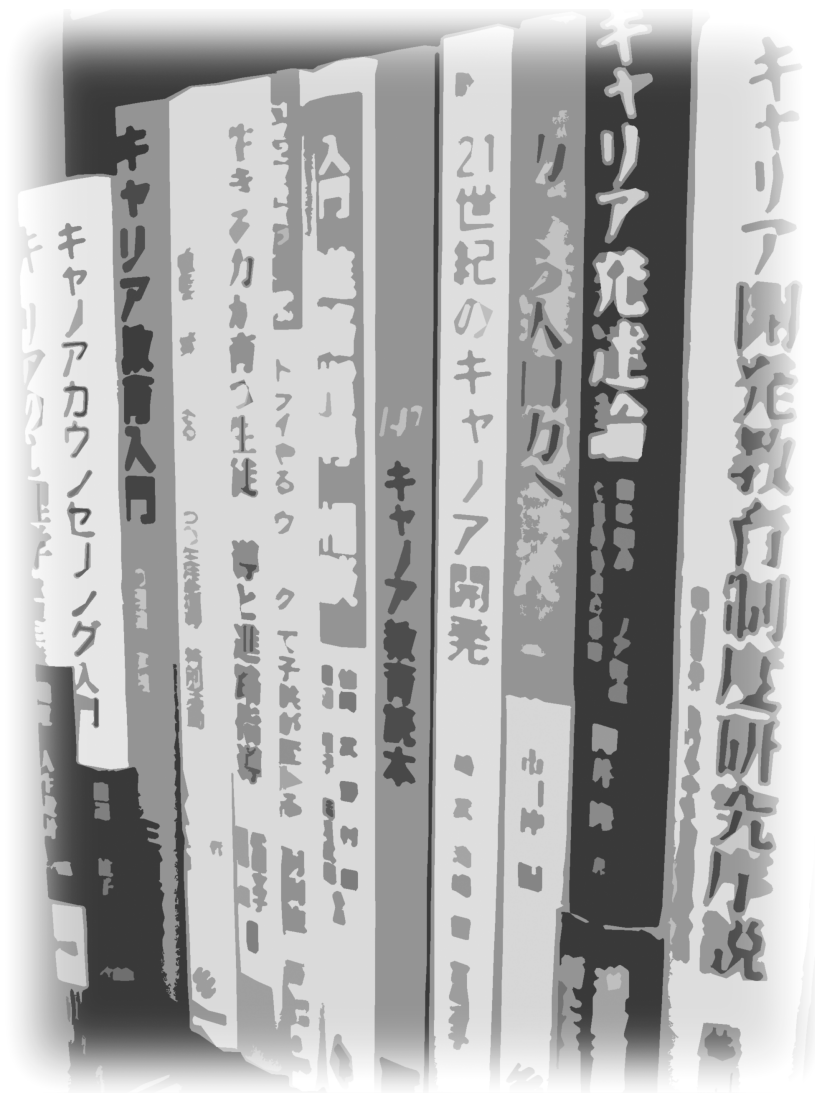
目 次

理論編	キャリア教育へのアプローチⅠ	1
1	キャリア教育とは何か	2
2	いま、なぜキャリア教育か	4
3	これまでの進路指導からキャリア教育への転換	8
4	キャリア教育を通して児童・生徒に育みたい力	10
5	学校でのキャリア教育カリキュラムの位置付け	18
実践編	キャリア教育へのアプローチⅡ	25
1	キャリア教育のカリキュラム・マネジメント	26
2	キャリア教育計画の立案と実践への準備	30
3	キャリア教育における進路学習	38
4	キャリア教育における啓発的な体験活動	44
5	キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの機能	46
6	キャリア教育推進に向けての指導體制	54
7	キャリア教育の評価	58
8	キャリア教育カリキュラムの例示紹介	62
	小学校キャリア教育カリキュラム	63
	中学校キャリア教育カリキュラム	77
	高等学校キャリア教育カリキュラム	101
情報編	キャリア教育へのアプローチⅢ	159
1	キャリア教育を推進するための基本資料	160
2	キャリア教育を推進するための主な参考文献	187
3	キャリア教育推進に役立つサイト集	191

活用ガイド

- 「クイック・マスター」では、各章の基本的な内容をわかりやすく解説しました。
- Q&Aは、キャリア教育の推進に関する基本的な知識や考え方を整理したものです。
実践上の課題や疑問点の解決に向けた手がかりとして活用ください。
- 情報編には、各学校でのキャリア教育の推進・導入に必要な資料・情報を掲載しました。

理論編



キャリア教育へのアプローチ I

1 キャリア教育とは何か

クイック・マスター1

キャリア教育とは、児童・生徒が自らの人生を歩む上で、体験的な活動などを通して、働くことの意義など望ましい勤労観や職業観を育み、また職業に関する知識や技能を身に付けるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育成する教育である。

そこで、学校教育では、小学校段階から児童・生徒の発達段階に応じて、自己と働くこととの関係付けや、職業観・勤労観等の自己の在り方生き方にかかわる価値観の形成に向けた発達課題の達成を促す指導・支援を通して、キャリア教育を実践することが必要である。

キャリア教育における発達課題には、自己理解、生き方や進路への関心・意欲、職業観や勤労観、職業や進路先に関する知識や情報、進路選択や意思決定能力、職業生活に関する習慣や行動様式及び必要な技術・技能等、様々な側面がある。

キャリア教育は、各学校に新たな教育の領域の導入を求めているものではなく、上述のキャリア教育の観点で従前のカリキュラムやそれに基づく教育活動の在り方を幅広く見直し、よりよく学校を改善していく上で、その理念や発達課題を意識して取り組むべきものである。

(1) キャリア教育の登場

我が国において、「キャリア教育」という用語が公的な資料に登場したのは、平成11年12月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」においてである（後掲、情報編参照）。この答申では、「学校と社会及び学校間の円滑な接続」を図ることを目的に、キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要があると指摘された。また、キャリア教育の実施にあたっては、家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に取り組み、さらには実施状況や成果を絶えず評価することの重要性等も提言された。

この答申以後、キャリア教育に関しては、国レベルでの調査研究が進められ、平成14年11月に国立教育政策研究所生徒指導研究センターによる調査研究報告書『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』、平成16年1月に文部科学省による調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』（以下、『キャリア教育報告書』と略記する。）という二つの成果が報告された。とりわけ、文部科学省は、後者の調査研究と並行して、教育・雇用・産業政策の連携強化等による雇用問題に対応した総合的な人材育成を目指した「若者自立・挑戦プラン」（平成15年6月）を、経済産業省・厚生労働省・経済財政政策担当の関係4大臣との合意により施策として取りまとめ、その一環にキャリア教育を位置付け、「初等中等教育からフリーターまでそれぞれに応じた適切な支援を展開」するところとなった。

平成16年4月より、文部科学省は、「若者自立・挑戦プラン」の具体的な推進施策として「新キャリア教育プラン推進事業」を展開し、43都道府県1政令市45地域（三重県のみは2地域）の指定のもとに、小学校110校・中学校86校・高等学校80校の全国で合計276校が実践協力校として3年間の研究に取り組む事業を推進した（後掲、情報編参照）。神奈川県では、「地域の教育力を活用し体験活動を行う中で、児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を発達段階に応じて育てる。」を研究の重点とし、県西部地区の公立の小学校2校・中学校2校・県立高等学校4校の合計8校が指定を受けて取り組むところとなった。



また、「新キャリア教育プラン推進事業」においては、キャリア教育の普及・啓発を目的に、同年中に全国2会場（山口・東京）でキャリア教育推進フォーラムが開催されるとともに、リーフレット「キャリア教育の推進に向けて」が文部科学省より配布された。

（2）キャリア教育の定義

「キャリア教育」とは何か、その用語の定義をめぐっては、前掲の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」で最初の公的な解釈がなされたのち、様々なとらえが見られた。現在、文部科学省は、『キャリア教育報告書』（平成16年1月）に基づいて作成したリーフレット「キャリア教育の推進に向けて」の中で、「キャリア教育」を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、またそれを端的に表現すると「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と説明している。

これまでの関係答申や調査研究報告書に見える「キャリア教育」のとらえを総合すると、次のように定義することができる。

キャリア教育とは、児童・生徒が自らの人生を歩む上で、体験的な活動などを通して、働くことの意味など望ましい職業観や勤労観を育み、また職業に関する知識や技能を身に付けるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育成する教育である。

今日求められているキャリア教育は、リーフレット「キャリア教育の推進に向けて」にも整理されているように、「学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進」を基本的な考え方としている。そのため、学校教育では、自己と働くこととの関係付けや、職業観・勤労観等の自己の在り方生き方にかかわる価値観の形成に向けた発達課題の達成を促す指導・支援を通して、キャリア教育を実践することが肝要である。なお、キャリア教育における発達課題としては、自己理解、生き方や進路への関心・意欲、職業観や勤労観、職業や進路先に関する知識や情報、進路選択や意思決定能力、職業生活に関する習慣や行動様式及び必要な技術・技能等、様々な側面がある。それらを小学校段階から、児童・生徒の発達に応じてキャリア教育のねらいや育みたい諸能力に照らした学習指導や学習活動を計画し、実践を通して評価し、また指導改善を図っていくためには、キャリア教育の観点からのカリキュラムの開発とその位置付けが必要不可欠であるといえる。

（3）キャリア教育の意義

各学校におけるキャリア教育の導入と実践には、一体どのような意義があるのだろうか。このことについて、『キャリア教育報告書』では、次の3点を指摘している。

- ① キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すものである。
- ② キャリア教育は、キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めることである。
- ③ キャリア教育は、子どもたちのキャリア発達を支援する観点に立って、各領域の関連する諸活動を体系化し計画的、組織的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことである。

すなわち、キャリア教育は、①学校教育の在り方の改善、②子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点、そして③各学校での教育課程編成の在り方を見直しという三つの課題を解決する方途・手立てとして期待され、学校・教職員をはじめ産業界など多方面から関心が高まっている。

学習者にとっては、各学校のカリキュラムに基づく教育活動（体験活動等を含む）を通して、自己の学習と生き方・進路にかかわる取組との関係付けを図りながら、目指す将来に向けて自己実現を果たす上で、小学校段階からキャリア教育を通して発達課題を達成していくことになる。

2 いま、なぜキャリア教育か

クイック・マスター2

キャリア教育が必要とされる背景は、①我が国における産業・経済の構造的変化により青少年の進路選択をめぐる環境が大きく変化したこと、②青少年の勤労意識・職業意識の希薄化により職業人としての基礎的資質・能力の低下が見られること、③青少年に対する職業意識の涵養及び職業能力の育成を小学校段階から意図的・体系的に行わなければならない状況に置かれていることである。キャリア教育の目的は、人生や職業生活の中で十分な自己実現を達成するのに必要な能力や価値観を育成するための組織的・体系的な教育を行うことである。キャリア教育の重要な側面は、今日の成熟化社会において、産業・経済の構造的変化に対応し得る個人のキャリアアップを促すことである。キャリア教育の導入に当たっては、望ましい職業観の育成とともに、アントレプレナーシップ（企業家精神）の育成など、時代の変化に応じた新しい能力育成を目指すカリキュラムを工夫することが重要である。

(1) キャリア教育の経緯

元来、キャリア教育は、1970年代初頭から80年代半ばまで、米国連邦教育局（現教育省）による教育改革最重点施策の一つとして、全米的規模で推進された進路教育（運動）として始まったものである（山崎保寿「用語解説」山崎保寿・黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房、2004年、p146）。キャリア教育の目的は、初等教育から中等教育まで、知的教科内容と職業的内容とを同時並行的に学習し、進路選択期において確かな自己理解、進路探索と進路設計に基づき、児童・生徒が主体的に生き方や進路を選択決定できる能力を高めることである。キャリア教育は、1970年代後半以降、我が国へも導入され幾つかの高等学校等で実施されたことがある。（昭和54年に開校した栃木県立小山南高等学校では、開校から一時期、県の研究指定校として、普通科におけるキャリアエデュケーションの実践を行っている。）キャリア教育では、人生や職業生活の中で十分な自己実現を達成するのに必要な能力や価値観を育成するための組織的・体系的な教育を行うことが求められているといえる。

こうした経緯を踏まえ、我が国においてキャリア教育が必要とされる背景を分析すれば、そこには様々な要因が見られる。そこで、現在、キャリア教育が必要とされる具体的な要因を資料に基づいて示すと、次の4点を挙げるができる。

(2) キャリア教育の背景及び要因

ア 社会状況の変化と青少年意識の変化

第一に、キャリア教育の推進を提言した文部科学省の調査研究協力者会議報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』（平成16年）である。同報告書は、キャリア教育が求められる背景として概略次の5点を挙げている。①少子高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず進路選択をめぐる環境が大きく変化したこと。②学校における教育活動がともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になり、十分な取組が行われてこなかったこと。③就職・就業をめぐる環境の激変として、新規学卒者に対する求人が著しく減少し、求職希望と求人希望との不適合が拡大していること。④若者自身の資質等をめぐる課題として、職業観・勤労観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下が見られること。⑤子どもたちの生活・意識の変容として、子どもたちの成長・発達上の課題が複雑化しており、身体的な早熟傾向に比して精神的・社会的自立が遅れる傾向があり、生産活動や社会性等における未熟さが見られること。したがって、我が国は現在、青少年に対する職業意識の涵養及び職業能力の

育成を、小学校段階から意図的・体系的に行わなければならない極めて厳しい状況におかれているのである。このような社会状況の変化と青少年意識の変化が、今日キャリア教育が必要とされている根本的な理由である。

イ 高卒・大卒者における職業意識の希薄化

第二に、文部科学省学校基本調査が示す青少年の職業意識や勤労意識の希薄化である。平成15年度同調査によると、大学を卒業した者の就職率は、55.0%（前年より1.9%減）で、昭和23年度の調査開始以来最低である。大卒就職率の経年変化では、平成3年度の大学卒業者の就職率が81.3%であり、以降減少傾向が続いている。4年制大学だけでなく、大学院、短大、高専卒業者の就職率も、それぞれ前年を下回る傾向が続いている。高等学校卒業者における大学等進学率が高まっているだけに、大学等卒業後の就職率の減少は問題である。こうした傾向は、産業構造の変化や経済成長の不透明化、雇用形態の多様化と流動化、さらには、長引く経済不況等が影響した結果と考えられるが、大学卒業者の内、アルバイト等一時的な仕事に就いた者の総数が4.6%（前年より0.4%増の25,255人）で、過去最高となっていることや早期離職者の増加（新規学卒就職者の3年以内の早期離職者に関しては、中学校卒が68.5%、高校卒が48.3%、短大卒が41.0%、大学卒が34.3%と深刻な状況である（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002/009.htm）などの事実を併せ考えると、背後要因には青少年における職業意識の低下や勤労意識の希薄化があると考えられる。その結果として、フリーターの増加をはじめ、ニート（NEET：Not in Employment, Education or Training の略語で、もともとはイギリスの労働政策の中から生まれた用語。我が国では、厚生労働省によると、平成15年度15～34歳の年齢層に217万人のフリーター、52万人のNEETがいると推計されている。）と呼ばれる学業も就業も研修もしていない若者の増加、また、早期離職、職業観・勤労観の希薄化といった現象が起こっている。こうした現象に対して、学校教育として可能な対応を早急に行っていく必要がある。

ウ 体系的なキャリア教育の必要性

第三に、こうした問題状況に対して、青少年白書（平成15年度版）が指摘するキャリア教育の必要性である。同白書は、今日の青少年労働者に特徴的に見られる四つの問題点を明らかにしている。それは、①高い失業率、②高水準の未就職卒業生数、③早期離職者の増加、④フリーターの増加、である。これらの問題に対して、同白書はキャリア形成が適切に行えるよう職業能力の育成が必要であると指摘している。もはや、青少年における職業意識の低下や勤労意識の希薄化が、看過できない状態になっているのである。さらに同白書によれば、青少年失業状況は、平成14年度平均で、15～19歳が16万人、20～24歳が53万人、25～29歳が56万人であり、しかも、この失業率は、平成2年度以降上昇を続け今日に至っている。こうした状況に対する教育面での対策として、初等中等教育の各学校段階における体系的なキャリア教育の必要性が高まっているのである。つまり、青少年労働者だけでなく、小・中学校をはじめ高等学校の生徒や大学進学希望者を含むすべての生徒に対して、進路及び職業意識の形成を促すキャリア教育が必要になっているのである。現在、小学校段階からの積極的かつ体系的なキャリア教育が必要とされている理由はこのようなどころにある。

エ 進路指導観の転換とキャリア形成指導

第四に、キャリア教育を小学校段階から体系的に行うためには、従来の進路指導観を脱却する新しい指導理念と方法に立つことが必要になることである。そもそも、「小学校段階からの進路指導」という言葉では、小学校における早期の進学指導ないしは受験指導を意味する言葉と受け取られ、誤解が生じかねないからである。しかも、キャリア教育は、次節で詳述するように、就職や進学の指導を直接的に行うことのみを第一義的な目的とするのではなく、生徒の生涯にわた

ってのキャリアの形成とその充実を目的とするものである。今日のような成熟化社会の中では、産業・経済の構造的変化に対応しうる個人のキャリアアップを促すための理念と方法が必要になる。こうしたことから、既に職業意識の高い生徒や進路目的の明確な生徒を含めて、すべての生徒に対して、生涯にわたるキャリアを一層充実させるために、学校の教育課程にキャリア教育を位置付けることが今日必要とされているのである。言い換えれば、学校教育と職業及び社会とを結び付ける生徒の主体的で探究的な学習とそのカリキュラムが必要とされているといえる。

このように、キャリア教育が必要とされる背景を鑑みれば、キャリア教育については、今後、①産業構造の変化と若者の勤労意識の低下問題への対応として、②従来型の進路指導観の転換に立つ新しい進路指導の考え方として、③成熟化社会における個人のキャリアアップの理念と方法として、の三つの方向から、学校教育において重視されていくべきである。

(3) キャリア教育カリキュラムによる新しい能力開発の必要性

以上のような経緯を背景にして、現在、我が国において本格的かつ体系的にキャリア教育が導入されようとしている。今後における就業形態の多様化や産業構造の変化等に適切に対応し、これからの社会を主体的・積極的に生きていくためには、キャリア教育を通じた新しい観点からの能力開発を重視していくことが必要である。その主要な能力の一つとして、アントレプレナーシップ（entrepreneurship：企業家精神）が注目されている。

アントレプレナーシップは、起業家精神という意味であるが、より具体的な活動を意味する場合は起業家活動と訳されることもある。アントレプレナーシップ育成の意義は、職業的・経済的に自立した人間として、チャレンジ精神に溢れ自己の人生と社会をよりよく変革（イノベーション）していく能力を育てることを目指すものである。アントレプレナーシップ育成の目的は、起業家そのものを育てることにあるのではなく、今日の時代が必要とする起業家的精神と能力を有する人材を育てることにある。

アントレプレナーシップは、複合的で応用的な能力であり、その下位概念を構成する能力は、情報収集・分析能力、コミュニケーション能力、創造力、企画・計画力、問題解決能力、プレゼンテーション能力、判断力と決断力、リーダーシップ、チャレンジ精神などである。アントレプレナーシップ育成のねらいは、広く職業能力を高めることを目的とするだけでなく、将来の職業生活において一層主体的・積極的に自己の個性や適性をいかした創造的な人生にし得る能力を育てていくことを目指すものである。

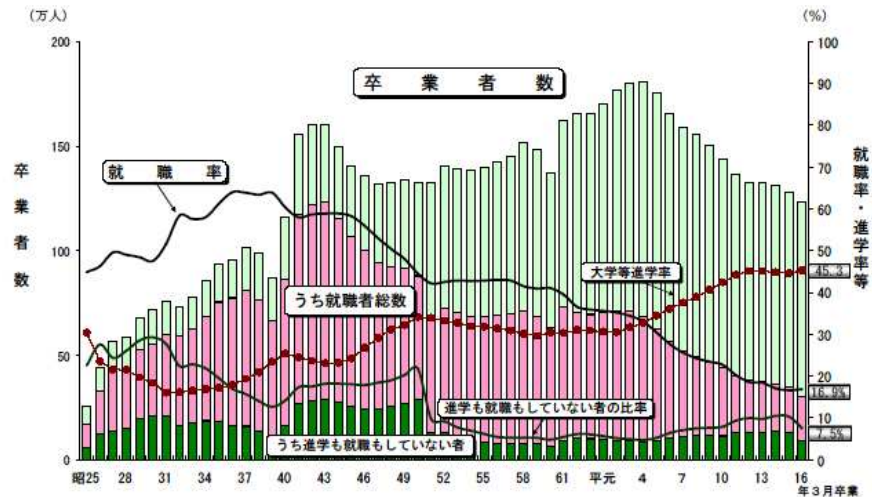
こうした点を踏まえれば、キャリア教育のカリキュラムの中に、アントレプレナーシップの基礎能力の育成に関する内容を取り入れていくことが重要になる。アントレプレナーシップの育成を目指した学習では、参加型のグループ学習が基本となる。例えば、児童・生徒自身が計画するプロジェクト型学習として、商品開発と企画の研究、商品価格とコストに関する教材を用いた学習、校内における模擬株式会社の運営、企業研究や企業広告の作成などである。こうした学習は、地場産業や企業・人材など地域社会のリソースを活用でき、そのため地域と学校とが連携した参加型の学習を創造できるという利点がある。実際、高校生が取材記者となって企業を訪問し、専門部担当者へのインタビューを行い、その結果を記事にまとめ小冊子として発行するという試みが、厚生労働省による若年者地域連携事業の一つとして平成16年度に行われている。

このように、キャリア教育の導入に当たっては、アントレプレナーシップのような現在及び将来の社会において必要とされる能力の育成を積極的かつ意図的にカリキュラム目標と内容に組み入れるよう工夫することが一つの重要なポイントになる。したがって、今後は、旧来の進路指導を新しい能力開発を視野に入れたキャリア教育へと転換していくことが必要である。そのためには、これまでの進路指導を、「望ましい職業観を育成するに相応しいものであったか」、「児童・生徒の新しい能力の育成につながるものであったか」、「それらの能力育成が入学から卒業まで体系的に行われていたか」などの観点から、学校における進路指導体制全体を見直すことが不可欠である。

若者の就職状況とフリーターの増加

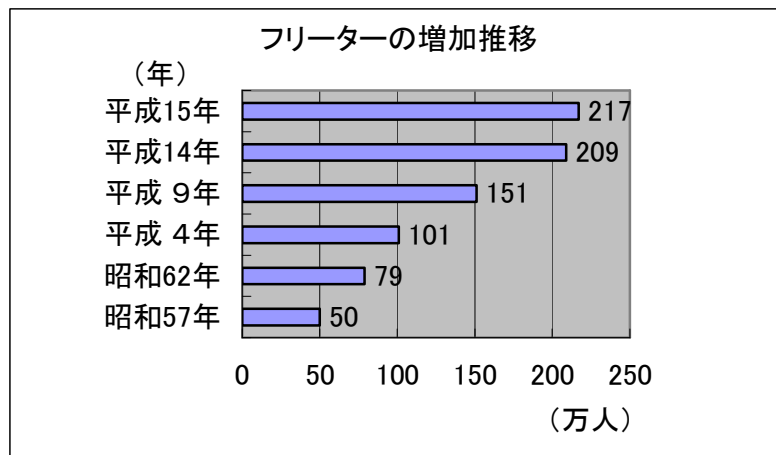
○文部科学省による平成16年度学校基本調査速報の参考図表「卒業生数、就職者数及び就職率等の推移 [高等学校]」

卒業生数、就職者数及び就職率等の推移 [高等学校]



(出典: http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/04073001/pdf/sanzu11.pdf)

○厚生労働省「平成15年版・平成16年版労働経済の分析」に基づくフリーターの増加推移



※「フリーター」とは、15～34歳の者、女性については未婚の者であって、①現在就業している者については勤め先における呼称が「アルバイト」又は「パート」である雇用者（ただし、平成9年までは継続就業年数が1～5年未満の者）、②現在無業の者については家事も通学もしていない状況で「アルバイト・パート」の仕事を希望する者を指している。

3 これまでの進路指導からキャリア教育への転換

クイック・マスター3

従来型の進路指導は、本人の適性と職業の特性との合致点を見つけることに力を注ぐマッチング理論と言われる考え方であった。キャリア教育が従来型の進路指導と根本的に異なるのは、キャリア発達の考え方を基本としていることである。キャリア教育の理念は、発達の観点に立った進路指導であり、選択と適応の連鎖の中で生涯にわたってのキャリア発達とキャリアの充実を目指すものである。キャリア教育の目的としては、将来設計能力を育成することが重要である。そのため、キャリア教育では、児童・生徒のライフスタイルの模索とキャリア設計を目的とした方法、自己の生き方と進路に関する情報収集能力及び意思決定能力の向上を目的とした方法など、従来型の進路指導とは異なる新しい内容と方法の学習が行われる。

(1) 従来型進路指導はマッチング理論

学校の教育課程においてキャリア教育を推進するためには、まず、キャリア教育と従来型の進路指導との違いを理解しておかなければならない。キャリア教育が従来型の進路指導と根本的に異なるのは、キャリア教育がキャリア発達の考え方を基本理念に置いていることである。この違いを理解しないと、キャリア教育は従来型の進路指導の延長ないしは単に幅を広げただけのものにとらえられかねない。

そこでまず、我が国の学校教育で広く行われていた従来型の進路指導について振り返ってみたい。従来型の進路指導は、本人の適性（理科系、文科系、芸術系、性格、総合学力など）と職業の特性（事務系、営業系、技術系、専門職系、研究系など）の合致点を見つけることに力を注ぐものであった。これは、マッチング理論と言われる考え方である。本人の適性と職業の特性とのより良いマッチングが見つければ、本人にとって最適な進路選択が実現できると考えられ、それが進路指導における最大の目的となっていたのである。

しかし、現代社会は変化が激しく、産業構造の急激な変化や技術革新、また、国際情勢の変動等による様々な影響が従来以上に広がってきている。大企業が経営破綻する一方で、ベンチャー企業の躍進など、産業構造の大きな変化が見られる。さらに、個人の人生観・価値観の変化や転職・リストラ・ヘッドハンティング等の新しい現象も一般化してきている。このような社会では、高校卒業時等にマッチしていた進路選択が、生徒の生涯においてマッチしたものとして続くとは限らない。人生の途中で、本人の職業希望が変わることもあれば、職業の内容そのものが大きく変わることが往々にして起こり得る。つまり、マッチング理論だけでは通用しない世の中になってきているのである。このような社会を生き抜くためには、自らの進路を考えながら、人生設計を行っていく幅広い能力（キャリア形成能力）を育成する必要があることになる。

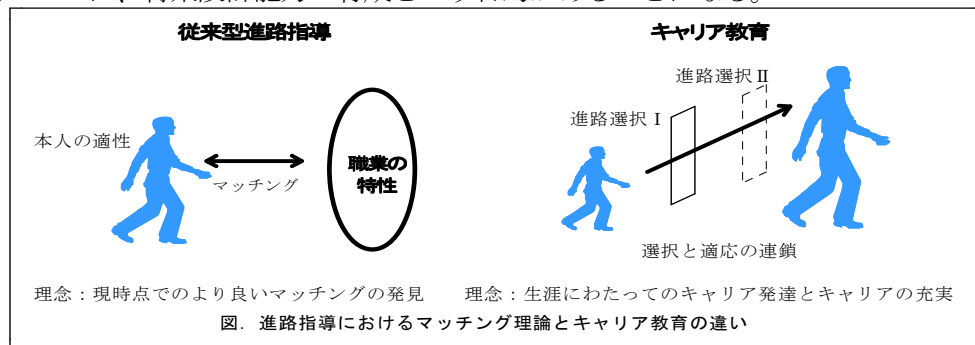
(2) キャリア教育の中心となるキャリア発達の考え方

例えば、高校卒業という人生の節目の時期にマッチした職業や進路を選択すること自体は重要であるが、それだけを目的とした進路指導に頼ることは既に時代にそぐわないことになる。前節等で述べられたことからわかるように、キャリアの概念自体が、人生全般にわたる幅広いものとしてとらえられている。変動する現代社会にあっては、生徒の生涯にわたって主体的な進路選択をさせる能力を養うことが重要になっているのである。

ここで必要とされるのは、キャリア発達という考え方である。これは、進路選択や進路実現、職業意識など進路に関する諸能力は、年齢や成長に応じて発達していくものであり、ある時点で進路目的を達成すればそれでゴールという性格のものではないという考え方である。こうした発達の観点に立った進路指導を行うことがキャリア教育の特徴であり本質であるといえる。

キャリア教育に関しては、このようなことが理解されていないと、単に従来型の進路指導の延長としてしか認識されないことになる。例えば、生徒が年度途中で進路変更を希望することは、従来型の進路指導では、進路選択の失敗と受け取られることになるが、発達の観点に立つキャリア教育では、それは、変化の激しい社会を生きていく中では十分に起こり得ることであり、希望に応じた情報収集とその後の人生設計への見通しこそ重要であることになる。もっとも、マッチング理論に依拠する進路指導が全く不要なのではない。生徒に卒業後の具体的な進路を考えさせたり、実際の進路選択と進路決定を行う場合などには当然必要である。

従来型の進路指導におけるマッチング理論とキャリア教育の違いを分かりやすく示せば、図のようになる。従来型の進路指導の理念が、現時点でのより良いマッチングの発見にあったのに対して、キャリア教育の理念は、発達の観点に立った進路指導であり、選択と適応の連鎖の中で生涯にわたってのキャリア発達とキャリアの充実を目指すものである。つまり、キャリア教育の重要な目的の一つに、将来設計能力の育成という目的があることになる。



(3) キャリア教育の要点と具体例

以上のように、キャリア教育は、就職の斡旋指導や大学進学等の受験指導のみを目的とするものではない。キャリア教育は、生徒の生涯にわたるキャリア形成の能力を身に付けさせるための進路指導である。その要点は、次の5点である。

- ①キャリア発達の考え方を基本にすること。
- ②生徒の年齢や発達段階に応じた職業観を育成すること。
- ③職業や進路に関する情報収集や分析能力を高めること。
- ④職業や進路に関する体験や調査・探究などを通じて実際的な職業観を育成すること。
- ⑤生徒の生涯にわたるキャリア形成の基礎能力を身に付けさせること。

特に、第一のキャリア発達の考え方を基本とすることは、従来型の進路指導と大きく異なる点である。キャリア教育の学習プログラムを工夫するためには、まず、これらの点をおさえておかなければならない。キャリア教育は、いわば、生き生きとした人生を自分自身の力でデザインし切り開く能力を育成することである。それは、自分自身の力で人生の価値を高めることであると言換えることができる。

最後に、キャリア教育で行われる指導の具体例を簡単に示せば次のような方法が挙げられる。(a) 自己のライフスタイルの模索とキャリア設計を目的として、身近な人をインタビューしエピソード分析によってキャリアに関する事例研究を行う方法、(b) 児童・生徒にキャリアノートを渡し、自己の生き方や進路・職業調査をまとめていくことにより職業探索と将来設計能力の向上を目指す方法、(c) 自己の進路と生き方に関する情報収集能力及び意思決定能力の向上を目的として、職業と社会に関するテーマを設定したディベートを行う方法、(d) 社会体験と表現力の育成を目的として、児童・生徒に企業訪問をさせ企業案内や広告の作成に取り組みさせ最終的に冊子にまとめ発表する方法、(e) 職業役割の場面を設定し、児童・生徒が役割に応じたロールプレイを行うことによって職業役割の模擬体験をさせる方法、などである。以上の例は、マッチング理論に基づく従来型の進路指導では殆ど試みられなかった方法であり、児童・生徒の将来設計能力を向上させることを意図したものである。

4 キャリア教育を通して児童・生徒に育みたい力

クイック・マスター4

小学校から発達段階に応じたキャリア教育を展開する上では、この教育活動のねらいや意義を踏まえ、児童・生徒に育みたい職業的（進路）発達、すなわちキャリア発達にかかわる諸能力（キャリア諸能力）の目標を明確にして取り組む必要がある。

キャリア教育で育みたい力については、国立教育政策研究所生徒指導研究センターによる4能力領域の区分（『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』に掲載の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）－職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から」による）が一般的に知られている。具体的には、「人間関係形成能力」・「情報活用能力」・「将来設計能力」・「意思決定能力」の4能力領域である。さらに同センターの区分によれば、4能力領域の下位能力として八つの能力（4領域8能力）が示されている。

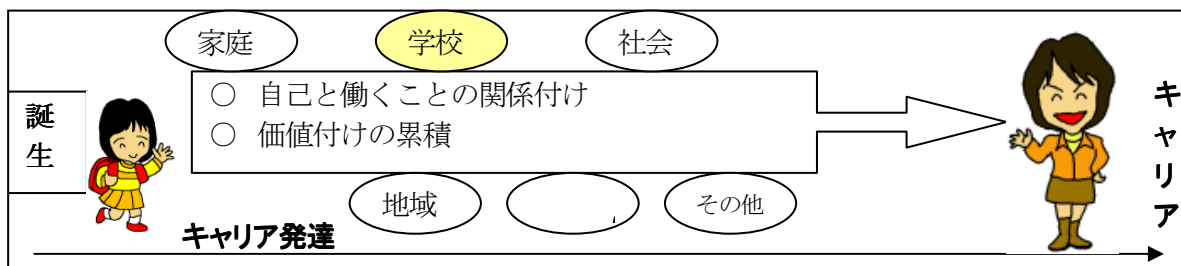
神奈川県立総合教育センターでは、同上の4能力領域及びその下位の8能力を参考に、「人間関係形成能力」の下位能力として区分されていた「自他の理解能力」について検討した結果、この部分を「自己教育能力」と「人間関係能力」の二つに区分し、さらに各々の下位能力領域として前者のもとには「自己理解能力」と「自己表現能力」を、また後者のもとには「他者理解能力」と「コミュニケーション能力」を配置することで、5能力領域及びその下位の10能力（5領域10能力）を小学校から高等学校までの発達段階に応じて系統的に育むキャリア諸能力をマトリクス化して整理した（後掲）。

各学校では、それらキャリア教育で育みたい諸能力例示を参考に、児童・生徒の実態に応じ、育成したい能力目標を明確にした上で、関係のある教科等領域での学習事項を通して、キャリア教育の観点からの実践的な取組に向けて意図的・計画的に推進していく必要がある。

（1）キャリア教育で育みたい能力

キャリア教育は、今日の教育改革の理念である、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせるという時代の要請に応じていく重要な役割と期待を担っている。学校教育では、児童・生徒一人ひとりの「キャリア発達を支援」すること、また「それぞれにふさわしいキャリアを形成していくこと」を目指し、「必要な意欲・態度や能力を育てる教育」の実践に向けて、目標を明確にして取り組む必要がある。

文部科学省の調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』（平成16年1月。以下、『キャリア教育報告書』と略記する。）によれば、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖」であるととらえ、生涯の過程において「自己と働くことの関係付け」や「価値付けの累積」を行っていくことであるとした。小学校からの各学校教育の段階では、児童・生徒の発達に応じて、「自己と働くことの関係付け」や「価値付けの累積」を系統的に行うために、学校ごとに目標を設定し、育みたい能力に応じた指導内容とその実現状況を把握する評価の在り方を検討し、キャリア教育カリキュラムを通して形成していくことが求められる。

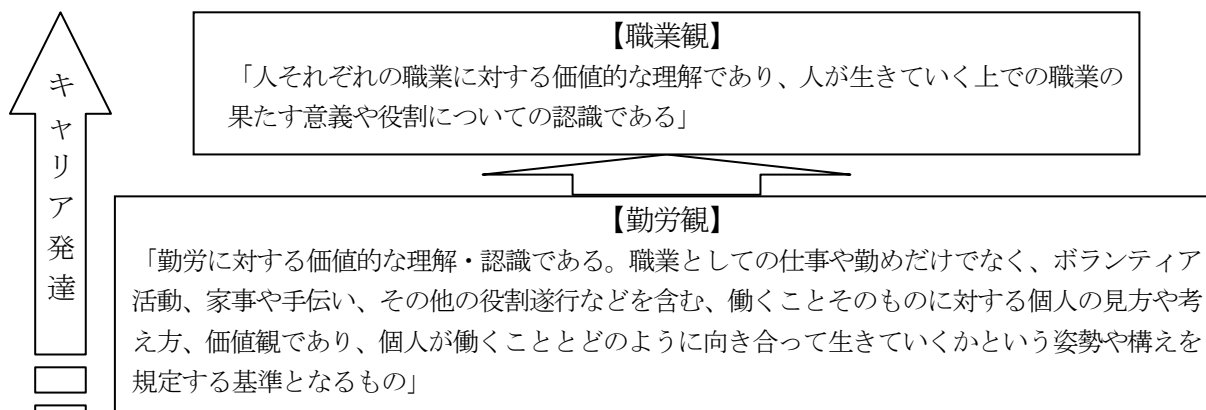


児童・生徒の発達に応じたキャリア発達上の課題については、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』の中で図示された「学校段階別に見た職業的（進路）発達段階、職業的（進路）発達課題」に整理されている。ここでの「職業的（進路）発達」とはすなわち「キャリア発達」のことを指している。小学校段階では、これまで現行の学習指導要領でも進路指導やキャリア教育が位置付けられていないことから、ここに図示された職業的（進路）発達の段階や課題を目安にしてキャリア教育を導入していくことが望まれる。

小学校段階	中学校段階	高等学校段階
＜ 職業的（進路）発達段階 ＞		
進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の 時期	現実的探索・試行と社会的 移行準備の時期
＜ 職業的（進路）発達課題 ＞		
<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的 関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境 への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イ メージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向か って努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有 用感の獲得 ・興味・関心等に基づく職 業観・勤労観の形成 ・進路計画の立案と暫定的 選択 ・生き方や進路に関する現 実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己 受容 ・選択基準としての職業 観・勤労観の確立 ・将来設計の立案と社会 移行の準備 ・進路の現実吟味と試行 的参加

教科等領域といった時間枠の確保がなされていないだけでなく、「進路指導」という機能も明示されていない小学校段階ではあるが、学習指導要領に示された各領域でのねらいを見ると、「生きる態度の形成」（特別活動）・「自己の生き方を考えること」（「総合的な学習の時間」）など、教科等領域での教育活動の中にキャリア教育に関係ある事項やキャリア教育として求めている内容と重複するものが認められる。それらをいかして児童の発達に応じた価値あるふさわしい体験活動等の取組により職業観や勤労観の育成を図り、将来に向けた自立性・社会性の獲得への支援を継続的に行うことが大切である。また、キャリア教育での評価に基づいて個々の未達成の発達課題を次の学校段階において引き続き取り組めるよう、学校のカリキュラムへの位置付けを明確にするとともに、校種間連携や一貫性のある系統的なキャリア教育を、地域性等を考慮して学校間の連携や家庭・地域・企業等との理解や協力を得て推進していくことも必要である（各校種でのキャリア教育の取組については後掲の実践編を参照されたい）。

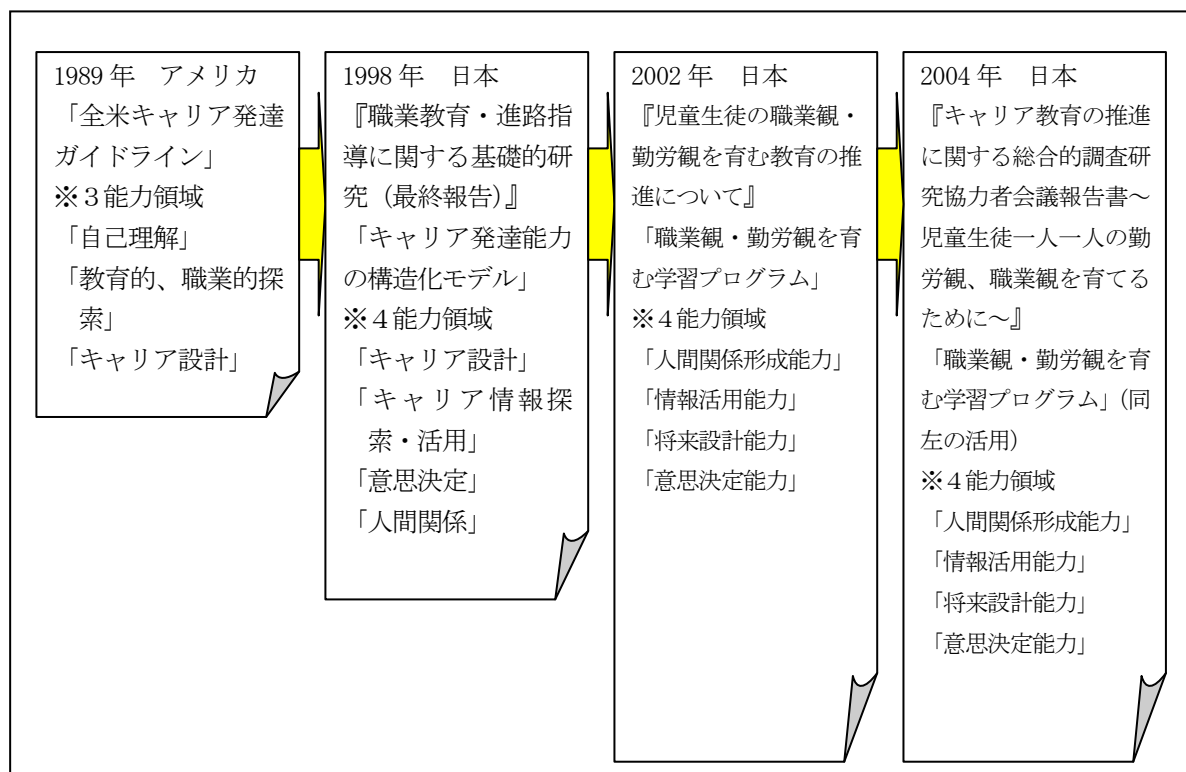
ところで、前掲の図からもわかるように、キャリア発達の上で、小学校から高等学校までにわたって共通している発達に応じて育成したい「職業観」と「勤労観」についても、それぞれのとらえ方や校種での達成目標が異なることから、前掲の『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』に基づいて示すと次のようになる。



『キャリア教育報告書』は、各学校段階で取り組む「キャリア発達」（職業的（進路）発達）にかかわる諸能力について、国立教育政策研究所生徒指導研究センターの調査研究報告書『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』（平成14年11月）で提示された「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）－職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から」（以下、「学習プログラム」と略す）の資料に基づき、「人間関係形成能力」・「情報活用能力」・「将来設計能力」・「意思決定能力」の4能力領域及びその下位の8能力（4領域8能力）を例示として紹介している。同報告書では、この4能力領域の枠組みで形成されたキャリア教育における「学習プログラム」を一つのモデルとして参考にし、各学校が実情に応じた独自の「学習プログラム」の性格を有する枠組みを工夫し、可能な限り客観的に児童・生徒の発達の状況をとらえ、指導に役立てていくことが大切であると指摘している。

そこで、各学校は、校種段階において身に付けることが期待される意欲・態度や能力を具体化しておくことで、キャリア教育における目標について教職員間で共通理解を図るとともに、一方ではそれぞれの発達・成長を如何にとらえ評価するかをも想定した「学習プログラム」を形成して、学校全体で教職員の共通理解を図るとともに、家庭や地域、それに行政機関等の連携・協力あるいは参画・協働をいかした実践的な指導や支援を準備していくことが必要である。

キャリア教育で育みたい能力については、全米職業情報整備委員会による「全米キャリア発達ガイドライン」（1989年）の中で、「自己理解」・「教育的、職業的探索」・「キャリア設計」の3能力領域を設定し、小学校から成人に至る四つの段階で提示したのが端緒的な位置付けといえる。我が国では、こうしたアメリカの動向を受けて、平成8年度・9年度の2カ年にわたり、旧文部省委託研究として職業教育・進路指導研究会がまとめた『職業教育・進路指導に関する基礎的研究（最終報告）』（平成10年）の中で、「キャリア設計」・「キャリア情報探索・活用」・「意思決定」・「人間関係」の4能力領域が設定された。これらは同報告書の中で、「わが国におけるキャリア発達能力の構造化モデル」として示された。その後、最終報告における構造化モデルの成果をいかして、前掲の「学習プログラム」が形成されたが、この時に構造化モデルに示された「キャリア発達」は「職業的（進路）発達」と換言され、さらに『キャリア教育報告書』では再び「キャリア発達」にかかわる4領域8能力として指摘するところとなった。



(2) キャリア発達にかかわる諸能力（キャリア諸能力）の設定

神奈川県立総合教育センターでは、『キャリア教育報告書』等に例示された4領域8能力を参考（p14 参照）に、学校教育でのキャリア発達にかかわる諸能力（以下、キャリア諸能力と称す）について研究した結果、次の5能力領域及びその下位の10能力（5領域10能力）に編成し、カリキュラム開発の基礎的要因となる育みたい能力目標を明確にした。

5領域		領域説明	10能力		能力説明
1	自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	①	自己理解能力	自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力
			②	自己表現能力	適切な自己表現を通して自己実現を図る能力
2	人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	③	他者理解能力	他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
			④	コミュニケーション能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
3	情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	⑤	情報収集・活用能力	進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
			⑥	職業理解能力	様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
4	将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	⑦	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
			⑧	計画実行能力	目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力
5	意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	⑨	選択・決定能力	様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定をし、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力
			⑩	課題解決能力	希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力

本ハンドブックの実践編で紹介する各校種のキャリア教育カリキュラムの例示（後掲）では、

この5領域10能力に基づいて作成したものである。

(3) キャリア発達にかかわる諸能力（キャリア諸能力）の設定と事例

各学校では、キャリア教育のねらいや意義の理解に努めるとともに、具体的な取組として児童・生徒に育みたいキャリア諸能力を明確にし、『キャリア教育報告書』に指摘されている通り、「各学校の実情に応じて学習プログラムの枠組み等を作成し、できるだけ客観的に子どもたちの発達の状況をとらえ、次の指導に役立てていくようにすること」が大切である。そのためには、同報告書の「学習プログラム」や本センターでのキャリア諸能力に関するマトリクスなどを参考に、学校ごとの目標を明確にし、それに応じた計画性と系統性のあるキャリア教育カリキュラムの開発に取り組む必要がある。具体的には、次の2校のキャリア諸能力の設定が参考になる。

キャリア教育の先進校として系統性のあるキャリア教育のモデルを形成している静岡県沼津市立原東小学校では、『キャリア教育報告書』に示す人間関係形成能力・将来設計能力・情報活用能力・意思決定能力の4領域に、その下位に計画力・役割把握力・調査表現能力・コミュニケーション能力・選択力・追求力の6能力を独自に設定している。同校では、それに基づき、低学年から高学年まで、児童の発達に応じた能力目標をマトリクス化し、それに依拠したカリキュラムや単元の開発がなされている。そこで、同校の4領域6能力とそれに基づく低学年の目標を例示として紹介すると次のようである。

学校教育目標	研究主題	つけた い力	キャリア諸能力		自己理解と進路理解の融合、勤労観・職業観の形成
			4領域	6能力	低 学 年
自ら感じ気づき学び考える行動する子	夢をえがき	えがく力	将来設計能力	計画力	①こうしたい、こうやりたいと自分の願いや思いがもてる ②教師と共に「はてな」が作れる ③学習に必要なものがわかり、準備や片付けができる
				役割把握力	④いろいろな係や当番の活動があることを知り、忘れずにやれる ⑤いろいろな役割があることがわかる
			情報活用能力	調査表現能力	①解決するために必要なことを先生や友達・家族などから聞いて調べられる ②調べたりわかったりしたことを書き表せる
	人間関係形成能力	コミュニケーション力		③いっしょに楽しく活動できる ④相手のことを知ろうとする ⑤自分の考えを言ったり、友達の考えを聞いたりできる ⑥マナーを意識できる	
		意思決定能力		選択力	①与えられた選択肢の中から自分で選ぶことができる
				追求力	②いろいろなことに挑戦することができる ③教師といっしょにふりかえりができる

※三村隆男編『図解はじめる小学校キャリア教育』（実業之日本社、平成16年）の51頁参照。

同校では平成14年度より計画的な取組を行い、平成15年度にキャリア教育についての迅速な理解を図る「テキスト1」を作成し、さらに平成16年度からの具体的な指導に向けて「実践のためのテキスト（テキスト2）」を作成するなど、学校としての方向性を明確にして、全教職員でキャリア教育のカリキュラム開発に取り組んでいる。同校の取組については、三村隆男編『図解はじめる小学校キャリア教育』の中で事例紹介されているほか、平成16年12月18日の文部科学省

主催による「平成16年度キャリア教育推進フォーラム（東京会場）」で同校が発表資料として配布した資料が参考になるので紹介しておきたい。

また、平成15年度より文部科学省の研究開発学校として「9年制義務教育学校」をテーマに研究を推進している京都府の京都教育大学附属京都小学校・同中学校では、キャリア教育をコアとする小中一貫のカリキュラム開発に取り組んでいる。この両校でも、『キャリア教育報告書』に示された4領域8能力に加え、次の2領域4能力を新設して特色あるカリキュラムを展開している。

2領域		領域説明	4能力		能力説明
1	自己分析能力	自分自身の個性・能力・性向をよく知り、「自分の得意なこと」「自分のやりたいこと」という問いに、自分なりに答えを出すことができる。	①	自己評価能力	自らの個性・能力・性向や学習の状態・態度などを振り返り、自己を見つめることができる
			②	自己決定能力	自己評価を踏まえた上で将来を見通して、自らに必要な学び（内容・方法）を選択することができる
2	社会参画能力	「働くこと」には、生計の維持だけではなく、市民・職業人として社会に参画し、積極的に社会を支えるという意義があることを理解する。	③	社会参加能力	キャリアを通じて、自分はどうのように現実社会で自己実現していくのか見通しを持つ
			④	社会貢献能力	キャリアを通じて自分はどうのように社会に役立つのか、という問いに答えることができる

※両校編『特色ある学校づくり「新学校構想」その2』（同校、平成16年）の16頁参照。

9年間にわたって両校が目指すキャリア教育とは、「夢や希望を持ち、生涯にわたって自らの進路を主体的に切り拓いていく力」を育成することとある。キャリア形成のための発達課題については、4・3・2制に基づき、1～4年の初等部では学級担任制を基盤とした基礎・基本の徹底を、5～7年の中等部では教科担任制による一人ひとりの学力の定着を、そして8・9年の高等部では興味・関心や能力に応じた選択コース制による個性の伸長をそれぞれ図ることを明示している。両校では、教科・道徳・特別活動・「総合的な学習の時間」の各領域を通して、『キャリア教育報告書』に示された4領域8能力の育成を図るカリキュラムを学校教育の中核に位置付け、新教科として創設した「サイエンス」・「ランゲージ」を通して「自己分析能力」を、さらに新教科「アントレプレナー」の実践を通して公共心や社会奉仕の志を育み、起業家としての精神涵養を目指す教育に取り組み、キャリア教育の観点から「社会参画能力」を育成するといったカリキュラム構造を形成している。両校の取組は、小中一貫のカリキュラム開発としての特性を有しているものの、キャリア教育カリキュラムの開発の考え方や方法など参考になる点が多い。両校では、各教科等領域での学習の独自性を尊重しつつ、キャリア教育の観点から各教科等領域における学習との有機的な関連付けを図りながら、「個々の生徒のキャリア発達（市民・職業人）を共通の目標」にしてカリキュラムづくりに取り組んでいる。両校の実践するキャリア教育の詳細については、平成16年度教育実践研究協議会での『特色ある学校づくり「新学校構想」その2』及び『公開授業 学習指導案集』をはじめ両校の各ホームページを参照されたい。

キャリア教育の第1のステップがねらいや意義などの理論面を学校全体で共通理解を図ることであるならば、第2のステップは、各学校が子どもの発達や実態に即して、学校全体の教育活動と関係付けを図りながらキャリア諸能力を明確にし、学習プログラムのマトリクス形成に取り組むことである。先進校での実践に至るプロセスや具体的な活動等に注目することは、キャリア教育の観点から教科等領域のカリキュラムをとらえ直し、また目指す児童像・生徒像や学校の役割・方向性を再考する上で有効である。

キャリア諸能力に関する校種別マトリクス

		小 学 校			
		低 学 年	中 学 年	高 学 年	
キャリア（職業的・進路的）発達の段階		進路の探索・選択にかかる基礎形成の時期			
○キャリア発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を、 進路・職業の選択能力及び将来の職業人として 必要な資質の形成という側面からとらえたもの		<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 			
キャリア発達にかかわる諸能力（キャリア諸能力）		キャリア（職業的・進路的）発達を促すために 育成することが期待される具体的な能力・態度			
領域	領域説明	能力説明			
自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく	【自己理解能力】 自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力	・自分の好きなもの、大切なものがある	・自分のよいところを見つける	・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する
		【自己表現能力】 適切な自己表現を通して自己実現を図る能力	・自分の考えをみんなの前で話す ・自分の好きなことや嫌いなことをはっきり言う	・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する	・気付いたこと、わかったことや個人・グループでまとめたことを発表する
人間関係能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む	【他者理解能力】 他者の多様な個性を理解し互いに認め合うことを大切に行動していく能力	・友達と仲良く遊び、助け合う ・お世話になった人等に感謝し大切にすること	・友達のよいところを認め、励まし合う ・自分の生活を支えている人に感謝する	・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をすること ・「ありがとう」や「ごめんさい」を言う	・友達の気持ちや考えを理解しようとする ・友達と協力して、学習や活動に取り組む	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動しようとする ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択にいかす	【情報収集・活用能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子がわかり、興味・関心を持つ	・いろいろな職業や生き方があることがわかる ・わからないことを図鑑などで調べたり質問したりする	・身近な産業・職業の様子やその変化がわかる ・自分に必要な情報を探す
		【職業理解能力】 様々な体験等への取組を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組む、それらの大切さがわかる	・係や当番活動に積極的にかかわる ・働くことの楽しさがわかる	・施設・職場見学等を通して、働くことの大切さや苦労がわかる ・学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性がわかる	・互いの役割や役割分担の必要性がわかる ・日常生活や学習と、将来の生き方との関係に気づく	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかる ・仕事における役割の関連性や変化に気づく
		【計画実行能力】 目標とすべき自己の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の行動等で実行していく能力	・作業の準備や片づけをする ・決められた時間やきまりを守るようとする	・将来の夢や希望を持つ ・計画づくりの必要性に気づき、作業の手順がわかる ・学習等の計画を立てる	・将来のことを考える大切さがわかる ・憧れとする職業を持ち、今しなければならぬことを考える
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	【選択・決定能力】 様々な場面で主体的に考えた上で自らにふさわしい選択・決定し、その結果を責任を持って受け入れ、適応・対処できる能力	・してよいことと、してはいけないことがわかる	・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む ・してはいけないことがわかり、自制する	・児童会活動等で自分のやりたい委員会や、やれそうな仕事などを選ぶ ・教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す
		【課題解決能力】 希望する進路の実現に向けて自ら課題を設定し、問題や葛藤を克服しながらその解決に取り組む能力	・自分のことは自分で行おうとする	・自分の仕事に責任を感じ、最後までやり通そうとする ・自分の力で課題を解決しようとする	・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする

※太字は「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す

中 学 校	高 等 学 校
現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての職業観・勤労観の育成 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実味と試行的参加
キャリア（職業的・進路的）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性がわかる 自己の職業的な能力・適性について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ
<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する 自分の考えや意見を筋道立ててわかりやすく説明する 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する 他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する
<ul style="list-style-type: none"> 他者の良さや感情を理解し、尊重する 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響がわかる 自分の悩みを話せる人を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる 互いに支え合いわかり合える友人を得る
<ul style="list-style-type: none"> 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする 新しい環境や人間関係に適応する 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める 新しい環境や人間関係をいかす
<ul style="list-style-type: none"> 産業・経済等の変化にともなう職業や仕事の変化のあらましを理解する 上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略がわかる 生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する 就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる 生涯学習について調べ、その必要性を理解する
<ul style="list-style-type: none"> 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択にいかす 	<ul style="list-style-type: none"> 就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める
<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等がわかる 日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する
<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める 進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがい・やりがいがあり自己をいかせる生き方や進路を現実的に考える 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する 将来設計、進路計画の見直し検討を行い、その実現に取り組む 生涯学習の視野に立って自己の将来を考える
<ul style="list-style-type: none"> 自分の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする 選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任がともなうことなどを理解する 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を決定し、その結果を受け入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な選択肢の中から、自己の意思と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する 選択結果を受容し、決定にともなう責任を果たす
<ul style="list-style-type: none"> 学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面にいかす よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくとする 	<ul style="list-style-type: none"> 将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む 自分をいかし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける 課題解決した内容を自己の生き方にいかす

（国立教育政策研究所生徒指導研究センター『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）』所収の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」を参考に、当センターでの研究事業で検討し、平成15年度長期研修員で神奈川県立秦野高等学校教諭の山本城氏の協力を得て、研究開発課の梶輝行が調整・編集を行い、本資料を作成した。）

5 学校でのキャリア教育カリキュラムの位置付け

クイック・マスター5

キャリア教育は、教科などと同列に新たな教育活動の領域として位置付けられたものではなく、これまでの学校教育で取り組んできた学習や活動を、キャリア教育の観点でとらえ直し、関係する教科等領域でのねらいとキャリア教育でのねらいと対照・複合させて実践するものである。キャリア教育の推進に向けては、まず各学校における教科等領域での学習成果を、働くこと（職業）や生きること（進路）との関連において統合させ、相互に補完し合っていることを認識した上で、子どもたち一人ひとりのキャリア発達を的確に支援することを目的に、各学校段階での発達課題を明確にし、適時性や系統性等に配慮した創意工夫あるカリキュラムを開発して取り組むことが必要である。学校全体でキャリア教育の基本的な方向性や具体的方策等について校内研修・校内研究を通して理解を深め、推進に必要な諸条件や環境の整備に努めていく取組が求められる。それらを通して、各学校では、キャリア教育の観点に立ったカリキュラムを開発し、それに基づく教育活動を展開することで、キャリア教育のねらいの達成に向けて取り組む必要がある。

(1) キャリア教育の基本的な方向性

これまでの中学校や高等学校で行われてきた進路指導の取組が、キャリア教育の中核に位置するものであることは、すでに前述したところである。文部科学省の『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』

(以下、『キャリア教育報告書』と略記する。)にも指摘されている通り、従前の進路指導の取組は、どちらかといえば「出口指導」言い換えれば「進路決定の指導」に偏した、いわば生徒個々の適性と進路や職業・職種との適合、あるいは合致に向けた指導や支援になりがちであった。この点では、高等学校における職業教育を中心とする専門教育にも当てはまるところで、同報告書は、専門的な知識・技能を習得させることのみ重点をおき、生徒のキャリア発達を支援するという視点に立った指導が十分行われてこなかった状況も指摘している。

キャリア教育では、小学校段階から子どもの発達に応じて、職業的（進路）発達すなわちキャリア発達にかかわる諸能力（キャリア諸能力）の育成を、全教育活動に位置付けて実践することにより、次のような基本的な方向性を視野に入れた取組を展開することが期待されている。

- ①「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上
 - 職業や進路などキャリアに関する学習と教科・科目の学習との相互補完性の重視
 - 進路への関心・意欲の高揚と学習の必要性・有用性の認識の向上
 - ②一人ひとりのキャリア発達への支援
 - 子どもたちのキャリア発達の的確な把握
 - キャリア・カウンセリングの機会の確保と質の向上
 - ③社会人・職業人としての資質・能力を高める指導の充実
 - 基礎・基本の学習の充実と徹底を図る学校教育の推進
 - 将来の職業生活を視野に入れた情報活用能力や外国語の運用能力等の専門的な知識・技能を習得する学習の充実
 - ④自立意識の涵養と豊かな人間性の育成
 - 働くことの意義についての総合的な理解の促進
 - 早期からの自立意識の涵養と豊かな人間性の育成
- ※『キャリア教育報告書』及びリーフレット「キャリア教育の推進に向けて」を参照

各校種・各学校においてキャリア教育の導入を円滑に推進していくには、三村隆男氏も『図解はじめる小学校キャリア教育』で指摘するように、新たな領域の創設によって新しい教育活動に取り組むという感覚や見方を捨てることが、最初の段階で重要となる。むしろ、学校の教育課程編成に基づく教科等の学習や活動の指導実践を、キャリア教育の観点でとらえ、見つめ直す機能的な役割を担っている。そうした姿勢や雰囲気を学校全体でつくるには、校内研修を通して全教職員がキャリア教育の考え方や先進校の取組事例からのイメージづくりと基礎的な理解を共有化していくことが必要である。また、導入に向けては、各学校で児童・生徒の実態を的確にとらえ、キャリア教育で育成したい諸能力を明確にし、それに基づくカリキュラムの開発と実践に向けた校内研究の推進が必要不可欠となる。

(2) キャリア教育推進に向けた具体的方策

各学校段階でキャリア教育を進めるに当たっては、これまで述べてきたように、児童・生徒の発達段階や発達課題を踏まえた上で、次のような具体的な方策に取り組んでいく必要がある。

- ①各発達段階に応じた「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラム（キャリア発達にかかわる諸能力を系統的・段階的にマトリクス化したもの）の開発
- ②教育課程への位置付けと計画性・系統性を持たせた展開上の工夫
- ③事前・事後指導の充実・改善を図った体験活動等の活用（ジョブ・シャドウイング、職場体験、インターンシップ、ボランティア活動、地域の職業調べ、上級学校調べ等）
- ④教科等での学習をいかした社会や経済の仕組みについての現実的理解の促進等
- ⑤年齢、立場等を問わない多様で幅広い他者との人間関係の構築
- ※『キャリア教育報告書』及びリーフレット「キャリア教育の推進に向けて」を参照

とりわけ、①の方策は、各学校及び児童・生徒の実態を踏まえて解決すべき諸課題を整理し、学校教育目標に照らしてキャリア教育の観点からとらえ直し、キャリア教育を通して育みたい能力・態度を設定し、全教職員でその内容を共有化し、理解を深めていく工夫が必要である。ここで示した具体的な方策については、実践編で詳しく紹介する。

(3) 学校でのキャリア教育を推進する諸条件・環境の整備

前述のようなキャリア教育推進に向けて、基本的な方向性に基づいて具体的方策に取り組む上では、各学校において推進のための条件整備・環境整備を進めていくことが大切である。

- ①キャリア教育を推進するための学校内の組織、体制づくり
- ②教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成
 - 学校全体でキャリア教育の本質的理解の共有
 - 基本的なキャリア・カウンセリングができるよう研修プログラムの開発・普及
 - キャリア教育の視点に立ったカリキュラム開発能力や地域社会等とのコーディネート能力を身に付けさせるための教員研修の充実
- ③学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり
 - 職場体験、インターンシップ等の受入れ先の確保など、体験活動推進のための学校、地域、企業、関係行政機関等でのシステムづくりや地域の産業界等における人材をキャリア・アドバイザーとして確保・活用するためのシステムづくり
- ④保護者との連携の推進
 - 学校からの保護者への積極的な働きかけと保護者の学校教育への積極的な参画
 - 家庭の役割の自覚
- ⑤関係機関等の連携と社会全体の理解の促進
 - ハローワーク、大学・専門学校等との連携や経済団体、企業等の理解と協力の推進
- ※『キャリア教育報告書』及びリーフレット「キャリア教育の推進に向けて」を参照

(4) キャリア教育カリキュラムの開発

各学校においてキャリア教育の導入と定着を図る上で最も重要なことは、カリキュラムとしての明確な位置付けとそれに基づく実践的な指導と活動の展開にある。

新たな領域として時間の確保がなされていないキャリア教育を、各学校では一体どのようにカリキュラムとして位置付けるかが問題となる。

『キャリア教育報告書』には、キャリア教育推進の方策として、前述の(2)で列記した5項目が指摘されている。その中でも、とりわけ「②教育課程への位置付けと計画性・系統性を持たせた展開上の工夫」を図ることの重要性について、次のように述べている。

各学校が、キャリア発達の支援という視点から自校の教育課程の在り方を点検し改善していくことが極めて重要である。その際、各領域・分野の関連する活動を再検討し、それぞれのねらいや内容等を踏まえつつ相互の有機的な関係付けを図り、子どもたちのキャリア発達を支援する体系的なものとなるよう構成し、それを円滑に遂行できるようにすることが大切である。

すなわち、キャリア(職業的・進路的)発達の支援というキャリア教育の観点から、各学校では、教科等領域や分野における教育活動すべてにわたり、それぞれの目的や内容等を踏まえ、相互に有機的な関連付けが図れる単元(題材・主題)や活動を見だし、カリキュラムとして明確に位置付け、体系化を図り、意図的・計画的・組織的に取り組むことにある。

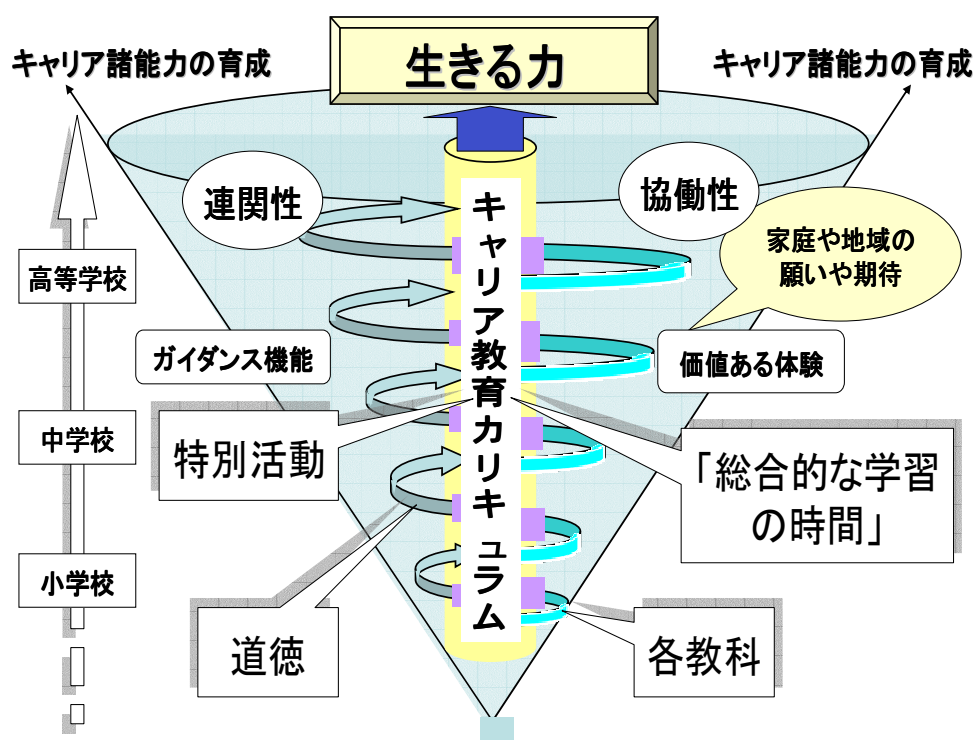
学校教育のすべてのカリキュラムは、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Action)というマネジメント・システムによって運用させている。そのため、キャリア教育に関しても、児童・生徒の発達と実態を的確にとらえた上で、まずキャリア教育計画(全体計画・学年や教科等領域レベルの年間計画・単元計画等)を立案し、計画レベルのカリキュラムを明確化する必要がある。次に、それに基づいて実践的な指導や活動が展開されることになるが、実施に当たっては、キャリア教育の観点で関係付けが図られた教科等領域や分野における当該単元(題材・主題)等での活動を通して、どのようなキャリア発達にかかわる諸能力(キャリア諸能力)を育むかを確認し、相互補完的な在り方を十分認識して取り組むことが重要である。そして実施後には、児童・生徒個々のキャリア発達の具体的な形成状況や変容等の効果を測る評価を行い、計画段階で明示したキャリア教育の目標に照らし、カリキュラムや活動内容が有用なものであったかどうかを判断し、見直しや改善点を見いだしていく作業が必要である。これまで先進校の取組からも指摘がなされているように、キャリア教育の目標は、長いスパンで効果を測る場合に「勤労観を育む」とか「自己の生き方や進路を考えることができる」等の抽象的な目標がなじむのに比して、一年間や学期という短いスパンで効果を測る場合にはキャリア発達上の課題に照らし、「いろいろな職業や生き方があることがわかる」とか「自分に必要な進路情報を探することができる」など、目指す児童・生徒の姿がより具体的に表されることが大切である。この目標に即した指導を実践することで、その過程において評価機能をいかして適切な指導・支援を展開し、また計画した一連の学習活動を終えたところでも、評価機能を活用してキャリア教育の効果を測ることとなる。いわゆる目標と指導と評価の一体化に向けた実践的な取組を重ねることで、キャリア教育としてのカリキュラムが構築される。このことは、従前の「総合的な学習の時間」等でのカリキュラム開発や単元開発にも通じるところであり、つまりキャリア教育の実践に向けた評価をも視野に入れた学校・教職員の取組がカリキュラム開発に関する資質・能力の向上にも連動しているものである。

(5) キャリア教育カリキュラムの構造と開発プロセス

従来の進路指導は、特別活動を中心に取り組みされてきた。今回改訂された現行の学習指導要領では、新設された「総合的な学習の時間」において小学校・中学校編でのねらいの中に「自己の生き方を考えさせることができるようにすること」とあり、また高等学校編でのねらいの中に「自己の在り方生き方を考えさせることができるようにすること」とある。また、「総合的な学習の時間」での学習活動の例示として、「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が明示されている。その他、高等学校においては、「各教科・科目及び単位数等」のところで学校設定教科に

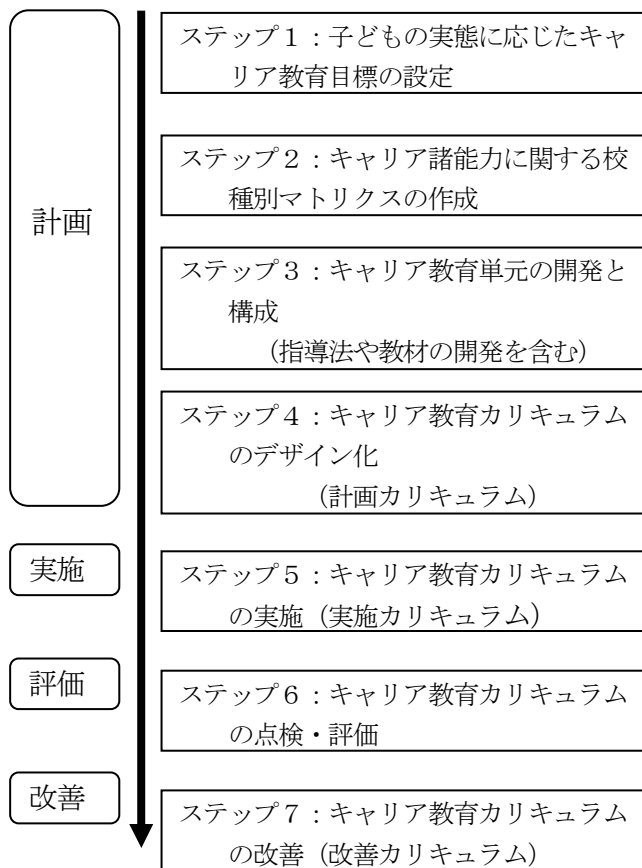
関する科目として「産業社会と人間」を設置できるようになったこと、「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」の中で「現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力」の育成に向けて、「ガイダンスの機能の充実を図ること」が明記されたことの2点を指摘できる。これらはいずれもキャリア教育の推進にとって関連領域の拡充と指導法の充実を意味するものである。とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領に盛り込まれたガイダンス機能に関しては、キャリア教育の指導上極めて重視すべき点であり、教科等で培われた学習に対する関心・意欲・態度や学ぶことの意義等を、自らの生き方や進路と結び付ける、いわゆる「学びと生き方の一体化」を図る教育的指導の実現に向けていかす必要がある。キャリア教育では、以上の領域特性を勘案すると、集団指導を通してキャリア能力の育成を目指す特別活動と、個別指導に重点を置いて取り組まれる「総合的な学習の時間」とを、カリキュラム構造上のコア（核）となるよう工夫・応用することが肝要である。コアを中軸に、各教科や道徳が連関することで、発達段階・学校段階に応じてキャリア能力が積み上げられる形で育成されることを想定すると、それをイメージ化した図のように、カリキュラムタイプはスパイラル・カリキュラム（螺旋型カリキュラム）に相当するものである。

キャリア教育カリキュラムの構造図



構造的には、各領域においてキャリア教育の観点や目標を重視し、それぞれの特性をいかし、系統性や連関性に留意した指導（活動）が組織的に展開され、カリキュラム・マネジメントの実際が機能性を発揮し、効果的な状態にあることが望まれる。キャリア教育の目標や指導内容の点から考えると、特別活動の領域のみ、あるいは「総合的な学習の時間」の領域だけで、目標達成に向けた充実した展開や想定される学習効果を期待することは難しいといえる。キャリア教育の単元やカリキュラムの開発に際しては、各領域の特性を最大限に引き出し、いかすことによってはじめて、カリキュラム化の効果が発揮されるものであるといえる。

そこで、如何にしてカリキュラム開発を進めるかという最も現実的な課題に向き合う必要がある。神奈川県立総合教育センターでの研究事業「キャリア教育カリキュラムの開発に関する研究」に基づき、先進校の取組に関して事例研究を行い、その成果を踏まえて検討・考察を重ねてきた結果、次のような開発プロセスを提示することができる。



カリキュラム開発に際しては、「総合的な学習の時間」の導入時と同様に、ややもするとステップ3から取り組み、十分な目標立てを行わないまま、活動単元の開発に取り組むことがないように留意すべきである。まさに「活動あって学びなし」という状況に陥る危険性が高い。キャリア教育は、前掲の構造図に示したように、家庭や地域の願いを踏まえ、地域を単位に「どのような子どもを育てていくのか」という目標を共有化した上で、学校教育におけるキャリア教育の役割や目標を見だしていくことが大切である。そのことはまた、協働を基調にした価値ある体験等を円滑に推進することにもつながる。そのため、キャリア教育では、地域とどのように向き合えるかが発展上の要因になっているといえる。視点を改めて言えば、キャリア教育を媒介にして、地域に開かれた学校づくりを促進する可能性をも秘めているともいえよう。

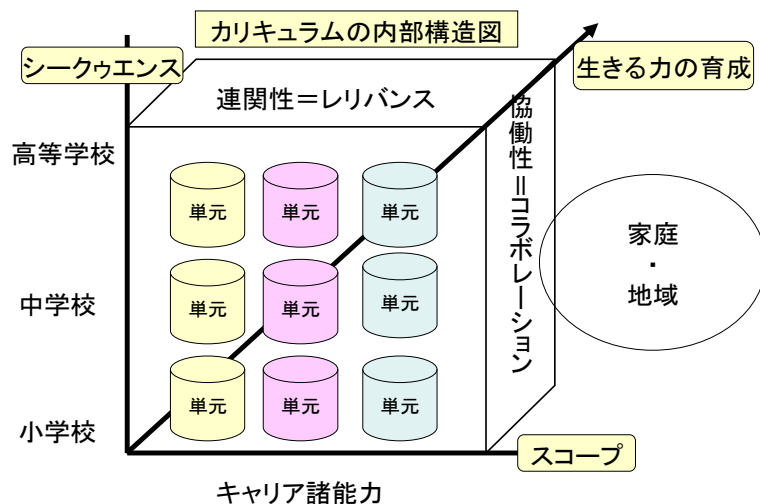
キャリア教育カリキュラムの開発に当たっては、次のカリキュラムの内部構造図に表現したように、キャリア諸能力を育む領域を

スコープに、発達段階・学校段階をシークウエンスとし、各能力を系統的に育成する単元を開発し、順序性を明確にして構成していくとともに、単元間の関連性や単元内の体験活動を価値ある体験にするための協働性の追究という視点に配慮した。

スコープとシークウエンスで形成されたそれぞれの単元では、教科等領域での学習の目標や内容と関連付けが図られたキャリア発達にかかわる諸能力を明確にし、そこでの基礎的・基本的な学力の育成・定着とともに、キャリア教育の観点から意識して指導・支援に取り組む必要がある。各単元では、各教科・科目での学習と職業・進路などキャリアに関する学習とが相互補完的な関係で実践的な指導・支援が展開される。基礎的・基本的な学習を各単元において徹底するとともに、児童・生徒一人ひとりが自らの生き方や進路等と結び付けたり、関係に気付いたりするような指導(活動)上の工夫を図ることが求められる。

キャリア教育が円滑かつ効果的に展開できるかどうかは、ひとえに教科等領域との関連を、計画上そして指導上如何に図っていくかにかかっている。そのことは、すでに前述してきた通りである。各学校では、実践を重ねながら、児童・生徒の実態に応じたキャリア教育のカリキュラムを、教職員全体でデザイン化し、保護者や地域の人々とも共有化していくことが大切であるといえる。

キャリア教育が円滑かつ効果的に展開できるかどうかは、ひとえに教科等領域との関連を、計画上そして指導上如何に図っていくかにかかっている。そのことは、すでに前述してきた通りである。各学校では、実践を重ねながら、児童・生徒の実態に応じたキャリア教育のカリキュラムを、教職員全体でデザイン化し、保護者や地域の人々とも共有化していくことが大切であるといえる。



(書式例示)

本校のキャリア教育で育むキャリア諸能力のマトリクス

〇〇〇学校

キャリア教育テーマ					
キャリア教育の全体目標					
学	年		第〇学年	第〇学年	第〇学年
学年のキャリア教育目標 (キャリア発達課題)					
キャリア諸能力			キャリア発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度		
領域	領域説明	能力説明			
〇〇〇 〇能力		【〇〇〇〇 能力】			
〇〇〇 〇能力		【〇〇〇〇 能力】			
〇〇〇 〇能力		【〇〇〇〇 能力】			
〇〇〇 〇能力		【〇〇〇〇 能力】			
〇〇〇 〇能力		【〇〇〇〇 能力】			

※各学校では、キャリア教育カリキュラムの開発に向けて、上記の書式を活用するなどして、前掲の「キャリア諸能力に関する校種別マトリクス」等を参考に、キャリア教育で育成を目指すキャリア(職業的・進路的)発達にかかわる諸能力(キャリア諸能力)とその具体的な能力・態度をマトリクス化することに努めていく必要がある。

キャリア教育へのアプローチ I での引用・参考文献

1 キャリア教育とは何か

国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年 調査研究報告書『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』

文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』

文部科学省 平成16年 リーフレット「キャリア教育の推進に向けて」

2 いま、なぜキャリア教育か

山崎保寿・黒羽正見 平成16年 『教育課程の理論と実践』 学陽書房

文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』

栃木県立小山南高等学校 昭和55年 「キャリアエデュケーションの導入と実践」 『教育とちぎ』 10月号

文部科学省 平成15年 『平成15年度学校基本調査』

文部科学省 平成15年 『青少年の現状と施策（平成15年版青少年白書）』

3 これまでの進路指導からキャリア教育への転換

山崎保寿 平成15年 「高等学校において学習プログラムをどう工夫するか」 『教職研修』 10月号 教育開発研究所

山崎保寿 平成17年 「キャリア教育推進のための四つの要点」 『現代教育科学』 No. 580 明治図書

4 キャリア教育を通して児童・生徒に育みたい力

職業教育・進路指導研究会 平成10年 『職業教育・進路指導に関する基礎的研究（最終報告）』

国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年 調査研究報告書『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』

文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』

仙崎武編 平成12年 『キャリア教育読本』 教育開発研究所

三村隆男 平成16年 『キャリア教育入門』 実業之日本社

三村隆男 平成16年 『図解はじめる小学校キャリア教育』 実業之日本社

京都教育大学附属京都小学校・同中学校 平成16年 『特色ある学校づくり「新学校構想」その2』

京都教育大学附属京都小学校・同中学校 平成16年 『公開授業 学習指導案集』

5 学校でのキャリア教育カリキュラムの位置付け

文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』

梶輝行 平成16年 「キャリア教育カリキュラムに関する理論的研究」 『神奈川県立総合教育センター研究集録』 第23集

実践編



キャリア教育へのアプローチⅡ

1 キャリア教育のカリキュラム・マネジメント

クイック・マスター1

キャリア教育のカリキュラム・マネジメント（教育課程経営）では、各教科等及び「総合的な学習の時間」との関連付けを図り、学力向上に結び付けて実施することが重要である。そのため、キャリア教育推進組織を設置し、ガイダンス組織との適切な連携を図りつつ、キャリア教育の学習プログラムを計画、実施、評価し、改善していく必要がある。カリキュラム評価に当たっては、①キャリア教育の内容と方法を理解するための校内研修が適切に実施されていたかを評価すること、②体験活動に適切なリフレクション（反省・省察）場面が設定されていたかを評価すること、③キャリア教育が実際に児童・生徒の学力向上に結び付いているかを評価すること、などの観点を設定するよう留意することである。

(1) キャリア教育のカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、開発編成したカリキュラムを実施、評価、改善していく組織的な営みである。各学校では、より効果的なカリキュラムを実現するために、実施中のカリキュラムを評価検討し、改善していかなければならない。カリキュラム・マネジメントの方法をプロセスとして示せば、カリキュラムの開発→編成→計画→実施→評価→改善となる。特に、各教科における基礎・基本の学習と「総合的な学習の時間」における学習内容との融合を図り、児童・生徒の学力を高めていくことが、カリキュラム・マネジメントにおける重要な目標になる。

キャリア教育を充実させるためには、「総合的な学習の時間」だけでなく、家庭科など教科の果たす役割が大きい。各学校レベルにおいて、後述のキャリア教育推進委員会と家庭科が連携し、体験的要素（キャリア教育における体験活動の重視については、鹿嶋研之助「学校教育におけるキャリア教育の進め方」『進路指導』平成16年5月号、p38）と探究的要素を取り入れたカリキュラムの開発が重要である。なお、小学校におけるキャリア教育は、中学校以降における職業的発達の基礎として重要であるが、児童・生徒の発達段階から、小学校→中学校→高等学校と進むにつれて、キャリア教育の内容が自然と多くなっていく。

特に、「総合的な学習の時間」でキャリア教育を実施する場合、キャリア教育と学力向上との関連についても考えなければならない。本来、キャリア教育は、すべての教科に関連するものであり、教科の基礎学力そのものを身に付けさせることがキャリア教育のカリキュラムを開発する場合の重要な要素となる。

(2) キャリア教育推進組織の設置

キャリア教育を推進するに当たっては、教育課程の諸領域にキャリア教育を適切に位置付け、教育課程の全体計画の中で継続的な学習プログラムを展開していくことが重要となる。その際、児童・生徒の発達段階や発達課題を踏まえ、学校の教育計画全体を見通す中でキャリア教育を進めることである。そのためにも、計画性と系統性を持ったキャリア教育の学習プログラムの工夫とそれを計画的に推進するキャリア教育推進委員会などの推進組織が必要となる。

こうした推進組織は、校内の分掌組織として位置付けるとともに、カリキュラム・マネジメントの考え方を基本にして学習プログラムを計画、実施、評価し、改善していくことである。図1は、キャリア教育の学習プログラムを計画性と系統性を持って推進するためのカリキュラム・マネジメントの流れを示したものである。キャリア教育を推進するためには、教育課程の計画、実施、評価の中にキャリア教育の諸要素を位置付けることが何より重要である。

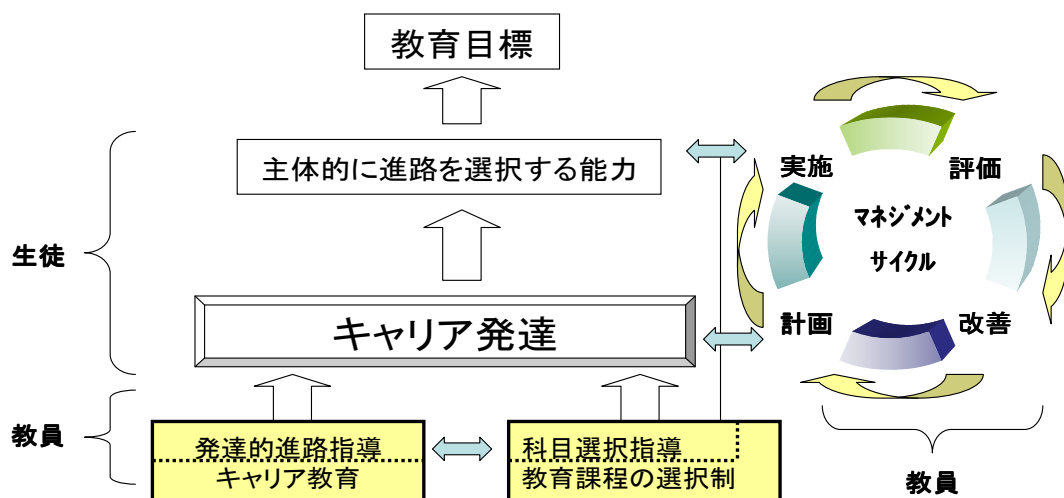


図1. キャリア教育のカリキュラム・マネジメント

(3) キャリア教育推進組織の役割

キャリア教育の学習プログラムを計画的・系統的に進めるためには、学校の分掌組織の中に、キャリア教育推進委員会などの推進組織を位置付けることが必要となる。とりわけ、キャリア教育の推進を側面から援助したり、キャリア・カウンセリングを担当したりするガイダンス組織の設置が重要なポイントとなる。キャリア教育の学習プログラムは、図2に示すような推進組織とガイダンス組織との協働によって進めることが重要である。推進組織は、キャリア教育の全体指導を担当し、年間計画に基づいて生徒全体を指導していくものである。これに対して、ガイダンス組織は、全体指導からはぐれたり、悩みや課題を持った児童・生徒に対して、進路相談などの形で個人指導を担当するものである。ガイダンス組織には、進路相談を専門に行うキャリア・カウンセリング担当を配置することが肝要である。

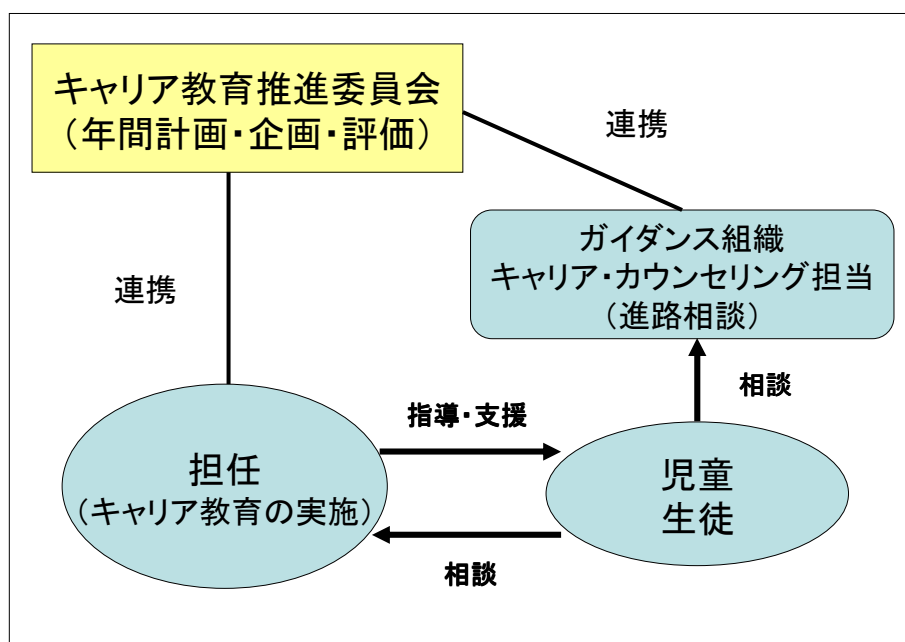


図2. キャリア教育推進組織の関係

キャリア教育のカリキュラム・マネジメントに関する重要点は、キャリア教育の推進組織とキャリア・カウンセリング担当を分掌組織の中に設置し、キャリア教育を組織的・計画的に推進することである。また、家庭科等、教科との連携を図り、体験的要素と探究的要素を取り入れた学習プログラムを実施することである。

(4) カリキュラム評価の観点と留意点

カリキュラム評価に当たっては、キャリア教育の推進と実施に関して、組織、計画、実施状況等の各観点を設定して行うことである。その留意点は、次の3点である。

第一に、組織的観点として、キャリア教育の内容と方法を理解するための校内研修が適切に実施されていたかを評価することである。キャリア教育の推進と浸透には、学校の全体的取り組みが必要であり、それを支える校内研修が不可欠である。

第二に、内容的観点として、体験活動に適切なリフレクション場面が設定されていたかを評価することである。キャリア教育で、体験を主とした学習活動が学習目的に対して有効になるためには、体験に対する振り返りを取り入れることが必要である。つまり、学習の目的に対して、「体験したことはどのような意味を持つのか」、「教科の学習との関連は何か」、「将来の進路を考えるうえでどう役立つのか」などの観点からのリフレクションが適切に設定されていたかを評価することである。

第三に、学力に関する観点として、キャリア教育が実際に児童・生徒の学力向上に結び付いているかを評価することである。キャリア教育の主旨は、児童・生徒のキャリア形成能力を育成することである。同時に、教科の基礎学力も将来の職業選択と職業遂行にとって必要不可欠な要素である。したがって、キャリア教育は、教科の基礎学力の向上をともなってはじめて実効性を持つのであり、学力に関する観点を設定することの重要性がここにある。

(5) 小・中、中・高、高・大の連携と接続が重要

キャリア教育を、児童・生徒における人生の一過性のものとして終わらせてはならない。キャリア教育によって児童・生徒が身に付けた能力は、自己教育力を基本としつつ生涯にわたって継続発展していくべきものである。キャリア教育のカリキュラム・マネジメントを進める場合、小・中、中・高、高・大の連携と接続に配慮することである。そのためには、次の2点が重要になる。

① 発達段階と発達課題を考慮すること

小学校、中学校、高等学校の各学校段階において、児童・生徒の発達段階と発達課題を考慮したカリキュラム内容を編成する。その際、児童・生徒の実態を十分に考慮し、発達段階（学年区分）を横軸に、発達課題（育成能力）を縦軸にしたマトリクス表を作成することである。このマトリクス表は、発達課題（育成能力）を達成させるためのカリキュラムを編成していく場合に、その詳細な内容を決定するための基本表として活用する。

小・中、中・高、高・大の連携と接続は、このようなマトリクス表に基づいて、具体的なカリキュラムを作成して実施を検討することである。今日、児童・生徒の発達段階と発達課題は、時代の変化に応じて様々に変容していることを考慮し、社会の現状と児童・生徒の実態に即したマトリクス表を作成するよう留意しなければならない。

② 一貫的なキャリア教育目標の設定

キャリア教育を有効にするためには、上級学校との連携を考慮した一貫的なキャリア教育目標の設定が重要である。そのためには、まず、小・中及び中・高間でキャリア教育に関する連絡協議会を持ち、前述のマトリクス表を相互交換し、連携カリキュラムの成否を検討していくことである。

また、高・大の連携に関しても、キャリア教育に関する連絡協議会に限らず、高校の研究授業等に大学教員が加わることで一層多面的で現実的な連携を図っていくことである。学校段階の連携を図ることで、カリキュラム・マネジメントを充実・発展させていくことが重要である。

キャリア教育 Q&A 1

「総合的な学習の時間」とキャリア教育との関係は？

Q：「総合的な学習の時間」とキャリア教育との関係をどのように考えたらよいですか。

A：キャリア教育の中核をなす「進路指導」に関して中学校・高等学校の学習指導要領では次のような記述があります。

「生徒が自らの（在り方）生き方を考え主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」（※（ ）内は高等学校、以下同じ）

小学校においては、このような記述はないが「学習指導要領解説」において、進路を考える指導に工夫が必要であるとされ、全教職員が計画的、継続的に指導していく必要性が指摘されています。つまり、キャリア教育は小・中・高を問わず、学校の教育活動全体を通じて行うものであるといえます。また、同時にこれまでの教育をキャリア教育の観点からとらえ直すことも求められています。

しかし、キャリア教育そのものを扱う活動としては、「総合的な学習の時間」と特別活動を中心に行われている場合がほとんどです（小学校、中学校では「道徳」においても扱われる）。但し、「総合的な学習の時間」と特別活動では、そのねらいの違いがあることを認識しておく必要があります。

特別活動の目標は、小学校では次の通りです。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を測るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

さらに中学校・高等学校には、これに「人間としての（在り方）生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことが追加されています。

一方、「総合的な学習の時間」のねらいは、小・中・高とも概ね共通して次の通りです。

- (1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の（在り方）生き方を考えることができるようにすること。
- (3) 教科、道徳及び特別活動（各教科・科目及び特別活動）で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。 ※（ ）内は高等学校

このことから、特別活動においては、集団活動の中で、よりよい進路を考える機会を設け、進路の選択決定を目指すものと考えられます。一方、「総合的な学習の時間」においては、個々の課題解決能力の育成を目指し、自己の（在り方）生き方に関する学習活動と結び付けて展開することが考えられます。このことから、児童・生徒個々の課題として、自らの生き方・進路を考える学習領域であるといえます。学習活動においては特別活動と重なる部分もあるが、活動のねらいの違いは認識して取り組む必要があります。

また、キャリア教育が提唱された背景としては、失業者・フリーターの増加、高い離職率の状況など、変化の激しい社会情勢の中で、一人ひとりが自分の生き方や進路を、自ら選択・決定し、的確に判断して責任ある取組をしていかなければならない状況におかれていることを指摘できます。「総合的な学習の時間」のねらいや趣旨をいかし、特別活動、特に学級活動やホームルーム活動、学校行事との連関を図ることで、6年間あるいは3年間のキャリア教育のカリキュラムを構想する必要があります。

キャリア教育は、学校教育活動全体を通して計画的、組織的に行うものであることから、「総合的な学習の時間」や特別活動のみならず、教科や道徳等との関連付けも図りながら、学校としてのキャリア教育のグランドデザインを描き、教職員が共通の視点にたって、計画的、組織的、段階的に取り組めるような様々な方略・方策を検討して、アプローチしていくことが求められます。

2 キャリア教育計画の立案と実践への準備

クイック・マスター2

キャリア教育計画の立案は、学校としての考え方や目標、そして具体的な取組方法などを明確にする点で、まさにカリキュラム開発の入口としての役割を担うものである。各学校では、キャリア教育が目指す方向性を学校全体で明確にし、意識した取組となるよう立案に向けたプロセス例示を参考に、まずはキャリア教育の構想を計画することが大切である。

また、計画に基づいてキャリア教育の目標を達成する上で、体験活動等の効果的な実践に向けての事前準備に関しても十分取り組み、関係機関との連携・協力を密にしていけることが求められる。

(1) 計画立案に向けたプロセス

キャリア教育のカリキュラムを開発する上で、教育計画の立案は、学校としての目標を設定し、それに即した計画に基づく効果的な教育活動を目指す上で、重要な役割を担っている。キャリア教育では、従前の生き方教育や進路指導を踏まえ、学校での教科をはじめとする教育活動において、児童・生徒の職業的・進路的な発達と向き合える（相互補完の可能な）ところを見いだし、各年度の教育活動全般や児童・生徒の入学から卒業までを視野に入れ、キャリア教育の在り方や方向性を明確にした有機的な計画の立案が必要である。そのプロセスを整理すると次のようなものが例示としてイメージできる。けれども、その前提には、キャリア教育を推進する校内の組織や体制をつくり、学校全体でキャリア教育のとらえ方や考え方について研修を重ね、また先進校の事例研究を通して具体的な取組方法などに関する理解を図るアプローチが大切である。

1 学校としてのキャリア教育の目標設定

- ※ 学校教育目標に照らし、学校や児童・生徒の実態や状況に応じて適切なキャリア教育の目標を設定する。その際、児童・生徒のキャリア（職業的・進路的）発達の実態から諸課題を整理し、それら課題の達成を想定した目指す児童像・生徒像の具体を目標として表現するよう取り組む。

2 キャリア教育で育みたい諸能力の設定（マトリクス作成）

- ※ 文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』（以下、『キャリア教育報告書』と略記する。）に示された学習プログラムの枠組みをはじめ、神奈川県立総合教育センター「キャリア諸能力に関する校種別マトリクス（参考例示）」や先進校の事例を参考に、能力領域を縦軸に、学年等の系統的段階を横軸にとった表で整理し、クロスする枠内に具体的な発達の姿や在り方を明示し、マトリクス化に取り組む。

3 キャリア教育の観点から学校での教育活動の整理

- ※ 教科・学年・進路指導部等を中心に、まず特別活動や「総合的な学習の時間」、次に教科・道徳等にもわたって、これまでの教育活動をキャリア教育の観点からとらえ、考えることを通して、相互に関係する学習事項・単元等を整理する。
- ※ キャリア教育の観点から整理できた教育活動について、各学年あるいは教科等領域の指導計画の中に位置付けを図り、児童・生徒の成長・発達を支援する立場からの取組を推進する。

4 キャリア教育計画の作成

※ キャリア教育の観点で相互補完性のある教育活動を見だし、キャリア教育計画として位置付け、入学から卒業までの全体計画や年間計画等を作成する。

5 学校のグランドデザインへのキャリア教育の位置付けと方向性の確認

※ 学校教育全体の基本構想計画を明示する学校のグランドデザインにキャリア教育の目標等を位置付けることで、児童・生徒や教職員をはじめ、保護者や地域住民等に向けて、学校の目指す学校像や児童像・生徒像をわかりやすく紹介し、学校の内外の理解並びに連携・協力に向けた取組を行う。

(2) キャリア教育計画の具体的な立案に向けて

① 各学校段階でのキャリア教育目標の設定

児童・生徒の発達に即して、各学校段階では、これまで刊行された『進路指導の手引』（文部省）や『キャリア教育報告書』等に示されたキャリア（職業的・進路的）発達上の目標や課題を参考に、実態や課題を明確にして、各学校でのキャリア教育目標を適正に設定していく必要がある。

校 種	『キャリア教育報告書』		『進路指導の手引』等に見る目標
	発達段階	発達課題	
小 学 校	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	①共感的な児童理解を深め、児童一人ひとりが自己実現を図れるようにする。 ②成就感・達成感を味わわせ、学校生活への意欲の向上を図るとともに、進級していくことへの喜びをもたせる。 ③将来に対する夢や希望をもち、目標に向かって努力する態度を身に付けさせる。 ④児童の長所や特性をいかし、個性の伸長を図る。 ※仙崎武編『入門進路指導・相談』（福村出版、平成13年）p141
中 学 校	現実的探索と暫定的選択の時期	<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	第1学年 自己をよく理解し、将来の進路についての関心を高め、進んで自己の進路を計画しようとする態度を養う。 第2学年 自己理解を深め、上級学校や職業などに関する進路情報を理解し、一層明確な進路の希望や計画を立てようとする態度を養う。 第3学年 自己の特性や希望する進路の情報を確かめて、自分の希望や計画を吟味して自分にふさわしい職業や学校など選択するとともに、その進路において適応し、自己を実現しようとする態度を養う。 ※文部省『中学校・高等学校進路指導の手引—中学校学級担任編（改訂版）』（文部省、平成6年）p60

<p>高等学校</p>	<p>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての職業観・勤労観の確立 ・将来設計の立案と社会移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加 	<p>高等学校全日制普通科の事例</p> <p>第1学年</p> <p>中学校における進路の学習の成果を省み、改めて将来の進路についての関心を高め、自己の能力・適性等の理解を深めるとともに、将来の希望の明確化に努め、適切な進路の計画を立てる。</p> <p>第2学年</p> <p>自己理解を更に深め、産業及び職業の世界や上級学校に関する進路情報を検討し活用して、進路の希望や計画を再吟味するとともに、その実現に努める態度を確立する。</p> <p>第3学年</p> <p>自己の個性と希望する進路について、一層これを深く吟味し、自分にふさわしい進路を選択・決定するとともに、卒業後の生活への適応や、将来の生活における自己実現に必要な能力や態度を身に付ける。</p> <p>※文部省『中学校・高等学校進路指導の手引―高等学校ホームルーム担任編―』（文部省、昭和58年）p44―45</p>
-------------	----------------------------	--	--

② キャリア諸能力のマトリクス化

学校全体としてのキャリア教育目標の設定を踏まえて、系統性のあるキャリア発達にかかわる諸能力（キャリア諸能力）を明確にしていくための検討作業が必要である。すでに本冊子の理論編（「4 キャリア教育を通して児童・生徒に育みたい力」参照）で述べたように、各学校の実態やキャリア発達の課題の解決に向けて、キャリア諸能力として身に付けさせたい児童像や生徒像を想定した達成状況をマトリクス化し、学校全体で共有化していくことが求められる。マトリクスの枠組み例を示すと次のようになる。

領域		領域説明	能力		能力説明	小学校高学年
1	自己教育能力	自己分析と自己理解によって内的な深化を図るとともに、適切な自己表現を通して自己を教育し、成長させていく。	①	自己理解能力	自己の適性に目を向けながら、自己分析と自己理解を通して内的な深化を図る能力	・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。
			②	自己表現能力	適切な自己表現を通して自己実現を図る能力	・気付いたこと、わかったことや個人・グループでまとめたことを発表する。

※神奈川県立総合教育センター「キャリア諸能力に関する校種別マトリクス(参考例示)」より。

③ キャリア教育計画の作成

キャリア教育の目標や諸能力の設定を終えた後、具体的な計画の立案に入るが、ここで大切なのは、編成された教育課程や学校行事等の計画表に照らし、学校での教育活動全体から、キャリア教育の観点で、相互に関係する学習事項・単元・題材等を整理していく段階が重要である。それは、すでに述べてきたように、キャリア教育が新たな教育活動の領域として設定されたものではなく、生徒指導や進路指導と同様に一つの機能としての役割を担っていて、また時間の確保がなされていないことから、たとえば他の教科等領域の時間枠から一定の時間を捻出して取り組むというものでもない。この点については、『キャリア教育報告書』にも述べられ

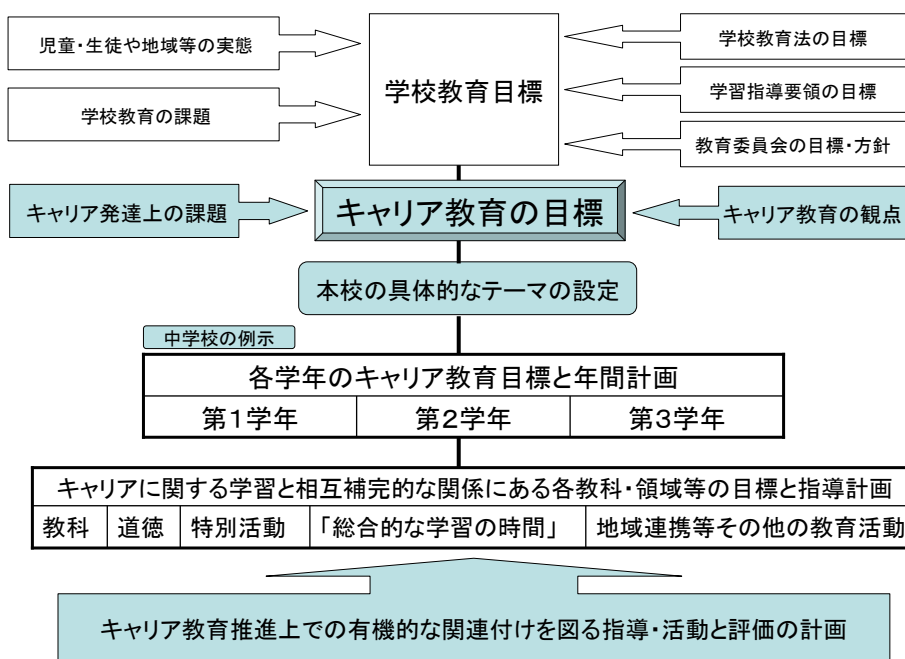
ているように、教職員が十分意識して、各学校で行われている教科等領域の学習成果を「生きること」や「働くこと」との関連において統合させたり、発達段階に応じて一人ひとりのキャリア発達を支援する取組を実践し、推進していく必要がある。実際、各学校で現在取り組まれている教育活動の内容には、特別活動や「総合的な学習の時間」をはじめ、キャリア教育に関連する事項がかなりある。確かに、小学校の学習指導要領は、中学校や高等学校とは異なり、進路指導に特化した内容は見られないが、すべての教育活動を通して取り組む生き方の指導や職業観・勤労観の育成等にかかわる内容は、同報告書でも指摘しているように充実している。

そのため、各学校においては、キャリア教育に関する内容・事項とかかわりのある教科等領域の枠組みを十分活用し、指導・支援を実践する「場」や「機会」の確保をはじめ、活動相互の関係性や系統性に留意し、実践される個々の教育活動が児童・生徒のキャリア発達に如何なる役割を果たすのかを明らかにして、発達段階に応じた創意工夫ある教育活動となるよう展開していくことが求められる。学校教育の全体をキャリア教育の観点からとらえ直し、すべての教育活動がキャリア発達への支援という視点を明確に意識して展開されることで、これまでの進路指導より広範な活動が期待できる。また、キャリア教育を推進することは、小学校段階から、発達に応じて社会の仕組みや、自己と社会との関係を理解できるようにするとともに、将来の精神的・経済的な自立を促す体験活動等の取組を通して、児童・生徒の社会人・職業人としての豊かな人間性を育むことでもある。

『キャリア教育報告書』には、「働くこと」への関心・意欲の高揚に向けたキャリアに関する学習が教科・科目の学習や主体的に学ぼうとする意欲の向上に結び付き、教科・科目の学習がキャリアに関する学習への関心や意欲につながるという、相互補完的な関係にあることをしっかりと理解しておく必要がある」と述べていることを踏まえ、具体的な取組方法が次のように指摘されている。

キャリア教育を進めるには、児童・生徒の発達段階や発達課題を踏まえるとともに、学校の教育計画の全体を見通す中で、キャリア教育の全体計画やそれを具体化した指導計画を作成する必要がある。 ※『キャリア教育報告書』 p21

ここで述べられているキャリア教育の「全体計画」と「指導計画」の作成に当たっては、次のようなグランドデザインを参考にして、各学校の実態を踏まえて取り組まれることが望まれる。



学校教育の中でのキャリア教育の実際は、図示したように「キャリアに関する学習と相互補完的な関係にある各教科・領域等の目標と指導計画」の立案によって、その具体がうかがい知れ、教科等の関係付けが図られた教育活動の過程で意識的に取り組まれることにある。そこで、関係付けが図られた教育活動を学年ごとに、あるいは教科・科目やその他の領域での年間計画や単元（題材・主題）計画の中に、相互補完が想定されるキャリア諸能力等の目標を明示することで、キャリア教育の観点を意識した指導実践のイメージをふくらませていくことが求められる。先進校の取組を参考に、キャリア教育のカリキュラム開発を推進する設計シート及び全体計画・単元計画のそれぞれの書式を示すと次のようになる。

キャリア教育のカリキュラム開発に向けた設計シート

項目	ポイント	自校の現状	対応策
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領及びキャリア教育の報告書等にあるねらいに即している ○ 学校教育目標に即している。 ○ 想定する内容・指導・評価等に応じたキャリア教育の目標となっている。 ○ 学校全体のカリキュラム目標に即している。 		
育みたい 資質・能 力・態度 の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア教育のねらいや趣旨を踏まえた育みたいキャリア諸能力が明確になっている。 ○ 自己の在り方生き方、職業観・勤労観の育成等育みたいが明確になっている。 ○ 児童・生徒の実態を踏まえ、保護者や地域住民等の期待する育みたい力になっている。 ○ 育みたい力が児童・生徒のみならず、教職員や保護者等の共通理解が図られている。 		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標に照らし、学校の特色ある教育活動を踏まえた学習内容になっている。 ○ 生徒や保護者、地域の人々の興味・関心や思いを踏まえた学習内容になっている。 ○ 体験活動が学習内容として位置づいている。 ○ 問題解決的な学習を学習内容として位置付けている。 ○ 学校の全体計画、各学年の年間指導計画等において、育みたい力が系統的に学べる単元構成になっている。 ○ 教科等領域との関連が学習内容・指導計画に図られている。 ○ 学校・学年としての学習テーマが学習内容に即して設定されている。 		
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職場体験、インターンシップ、ジョブ・シャドウイングなど価値ある体験活動が意図的・計画的・組織的に行われている。 ○ 自己の生き方に関する問題解決的な学習の基本的な進め方が明確に計画されている。 ○ 児童・生徒の主体的な学習になっている。 ○ 個人やグループ学習等が目標や内容等に照らして適切に行われている。 ○ 学習活動を展開する上での環境整備や外部機関等との連携が図られている。 		
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ すべての教職員が学習について共通理解が図られている。 ○ 指導上必要な指導・支援の知識やスキルが校内研修会等を通して教員に身に付いている。 ○ 児童・生徒の自己評価力が育まれる評価上の工夫がなされている。 ○ 児童・生徒の学習や活動の状況について適切に見とれ、指導にいかせる評価計画や評価方法が形成されている。 ○ 教科等領域との関連が相互に図れるよう意識的に取り組んでいる。 ○ 学校間連携や家庭・地域社会等との連携・協力による指導を行っている。 ○ 児童・生徒の学習成果や学校としての教育効果を外部等へも説明を行い、情報提供できる工夫をしている。 		
時間確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的な学習や活動が展開できるよう学校全体で時間割を工夫している。 ○ 目標・内容等に照らして適切な時間配分による体験活動等が計画されている。 		
カリキュラム・ マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラム開発の知識やスキルが、学校として適切な教職員を確保している。 ○ カリキュラム全体をはじめ、単元等の開発について、計画・実践・評価・改善のマネジメント・サイクルに基づく組織が形成されている。 		

キャリア教育の年間計画の書式（例示）

キャリア教育目標	○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
学 年	第1学年				
学年のキャリア目標	○・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
学 期	展開時間数	教科等領域名	単元名等	主な学習内容	育みたいキャリア諸能力
キャリア教育の評価	年間の指導や活動を通して、児童・生徒個々のキャリア発達の状況が、継続的・統合的にとらえられ、評価できるよう、自己評価シートやポートフォリオの活用を工夫する。				

事前に作成したキャリア諸能力のマトリクスに基づいて記載

キャリア教育の単元計画の書式A（例示）

書式Aは、各学校での教科・科目やその他の領域で、学習目標や学習内容等と相互補完的な関係付けが図れる単元（題材・主題）にキャリア諸能力等の目標を明示して指導計画を立案する場合の例として示した。

- 単元名
「・・・・・・・・」（○学年）
- 単元目標

本単元での目標	キャリア教育の視点からの目標
1	人間関係能力（コミュニケーション能力） 友達と協力して、学習や活動に取り組む（略）
2	
(略)	

3 単元計画

次程	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一次 (○時間 扱い)	単元「・・・」 ・学習内容	・	人間関係能力（コミュニケーション能力） ○友達と協力して、学習や活動に取り組む (略)	学習観察 活動ノート

各学校で設定したキャリア諸能力のマトリクスに基づいて、単元の学習活動にふさわしい（相互補完）育成したい能力を明示する。

※ 単元に応じた評価規準や観点別評価の進め方及び総括の方法等については、この欄後に各学校で工夫して表記することが望まれる。

4 キャリア教育における具体的評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体的評価項目
人間関係能力 (コミュニケーション能力)	○友達と協力して、学習や活動に取り組む (略)

※キャリア教育の評価では、児童・生徒一人ひとりのキャリア発達の状況を的確にとらえられるよう、ポートフォリオ等を活用しながら、単元での教科等学習の実現状況や達成状況がわかる評価の取組と一体化して、継続的・統合的に自己の発達を評価できるシステムの形成を工夫することが求められる。

キャリア教育の単元計画の書式B（例示）

書式Bは、学校全体及び各学年でのキャリア目標を踏まえ、各学年段階での目標に照らして、当該学年全体の年間指導計画において、同時期に展開が予定されている教科等領域の学習目標や学習内容等と相互補完的な関係付けが図れる箇所を、キャリア教育という枠組みでとらえ、単元あるいは内容のまとまりとして設定し、それに応じたキャリア諸能力等の目標を明示し、キャリア教育の観点からの指導計画を立案する場合の例として示した。

- 1 キャリア教育の単元（内容のまとまり）名
「・・・・・・・・」(○学年)
- 2 キャリア教育の目標

本単元（内容のまとまり）での目標	キャリア教育の観点からの目標
(教科) ○ (特別活動) ○ (「総合的な学習の時間」) ○ (略)	将来設計能力(計画実行能力) 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する (略)

3 単元計画

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一次 (○時間扱い)	教科 ○○	単元「・・・・」 ・学習内容	・	将来設計能力(計画実行能力) ○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する(略)	学習観察 活動ノート
	特別活動				

各学校で設定したキャリア諸能力のマトリクスに基づいて、単元の学習活動にふさわしい(相互補完)育成したい能力を明示する。

4 キャリア教育における具体的評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体的評価項目
将来設計能力(計画実行能力)	○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する(略)

(3) 実践に向けた事前の準備

上記の5段階により、キャリア教育計画の立案に向けて取り組む際には、児童・生徒の発達に即した系統性のあるキャリア教育を実践・展開する観点から、各学校で目標や計画に応じた事前の準備を通して、次の点も視野に入れて進めていくことが望まれる。

- ① 小・中や中・高といった学校間の連携・協力の観点からのカリキュラム開発と実践上の工夫
- ② キャリア発達の視点に立った教科等指導の充実
- ③ キャリア教育の推進に向けて各学校にふさわしい特色あるカリキュラムの形成
- ④ 事前・事後の指導や支援を計画に位置付けた体験活動等の充実
- ⑤ 児童・生徒の成長・発達を学校・家庭・地域が一体となって取り組むための保護者等への働きかけ
- ⑥ キャリア教育の効果的な推進を図るためのハローワークや企業、大学・専門学校等の上級学校との連携と社会全体での理解の促進

キャリア教育 Q&A 2

高等学校でのキャリア教育への取組方法は？

Q：高等学校ではどのようにキャリア教育に取り組めばよいですか。

A：キャリア発達は、生涯発達の観点からとらえられます。したがって、周囲からの働きかけがなければ発達は望めず、同時に、発達段階に応じた対応が必要となります。また、文部科学省のキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議が「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」において、小学校、中学校、高等学校の学習プログラムを提示していることは、キャリア教育が小学校、中学校、高等学校 12 年間の連続した系統的・継続的な学習活動であることを示しています。

そこで、高等学校においては、小学校、中学校での実践を把握し、それを発展させるようなカリキュラムを計画し、実施する必要があります。同時に、キャリア教育が高等学校で終わるわけではないことから、上級学校や企業でのキャリア教育の実態を把握しながら、各校の実態に応じたキャリア教育の取り組みが望まれるといえます。

しかし、小学校、中学校とは異なり、高等学校の学習指導要領では「産業社会と人間」を学校設定教科とすること、さらに、「総合的な学習の時間」の例示の一つとして、高等学校にのみ「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」が明示されています。

また、「就業体験などの社会体験」といった文言が高等学校の場合のみ明確に記載されていることから、小学校、中学校以上に、高等学校においては、キャリア教育の観点から、啓発的な体験活動を取り入れた教育活動の展開が計画・実施していくことが求められています。

このことは、高等学校卒業後の進路が小学校、中学校と比べ多岐にわたること、高卒就職者の離職率の高さ、職業観・勤労観の未成熟さ等の理由が考えられますが、これまであまりにも出口指導に偏ってきた進路指導が、激変する社会に対応できなくなってきたことも背景として存在するといえます。これまでの進路指導の見直しを図るとともに、キャリア教育の観点で教科指導をも含めた学校教育全体をとらえ直し、学校の機能的、質的な改善への期待があります。

学習指導要領における特別活動の記載は、これまで別項目であった「学業生活の充実」と「将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること」が一つになったことから、学習の意義と将来の進路選択を結び付けて考えることの重要性をとらえたものとして注目できます。

キャリア教育の具体的な取り組みとしては、ワークシートを用いた進路学習、実際に様々な体験を行う啓発的な体験活動、学年全体あるいは進路別のガイダンス、個の援助としてのキャリア・カウンセリング等があげられます。進路学習では「進路適性の理解」「進路情報の理解と活用」「望ましい職業観・勤労観の育成」「将来の生活設計」「主体的な進路の選択決定」「進路先への適応」「学ぶことの意義と理解」が学習項目として指摘できます。啓発的な体験学習としては、ジョブ・シャドウイング、インターンシップ、ボランティア活動、上級学校見学、模擬授業の受講等があげられるが、学校行事や部活動、各教科においても啓発的な体験活動は実施できます。キャリア・カウンセリングには、児童・生徒の理解、相談のための機会の設定、相談の知識とスキルの3要件が必要となります。

キャリア教育はゼロからスタートするのではなく、これまでの実践を振り返り、再吟味し、有効な取組をいかし継続するとともに、課題であるところは見直し改善を図り、また新たな取組をも徐々に加えることで、高等学校のキャリア教育を構築していく必要があるといえます。

3 キャリア教育における進路学習

クイック・マスター3

児童・生徒の主体性を重視して自らの在り方生き方を考えられるよう、「総合的な学習の時間」や特別活動、道徳で展開することを、意図的・計画的にプランニングされた学習活動が「進路学習」である。キャリア教育における進路学習としては次の七つの分野が考えられている。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| (1) 進路適性の理解 | (5) 主体的な進路の選択決定 |
| (2) 進路情報の活用 | (6) 学ぶことの意義の理解 |
| (3) 望ましい職業観・勤労観の形成 | (7) 進路先への適応 |
| (4) 将来設計 | |

(1) 進路学習の基礎

ア 進路学習の役割

進路学習は、主に学級活動（ホームルーム活動）や学校行事、「総合的な学習の時間」、それに小学校、中学校では道徳の時間も含め、生徒の進路発達を促すことを目的に行われる教育活動である。また、教科指導の中においても児童・生徒のキャリア（職業的・進路的）発達を促す活動として取り入れることができる。

進路学習において、児童・生徒は自らの在り方生き方を考え、必要な情報を活用し、自らの進路を選択する能力や態度を身に付けていく。よい学校に入り、よい会社に就職すれば一生安泰と考えられた時代が過ぎ去り、人生において、幾度か自らの生き方の選択を迫られる可能性のある時代においては、自らの在り方生き方を考え、必要な情報を活用し、自らの進路を選択するスキルを身に付けることは大切なことである。同時に、進路学習においては、グループワーク等の多様な活動を取り入れることで、コミュニケーション能力の育成などが期待できる。児童・生徒一人ひとりが人生の中で様々な進路の問題に直面した時に、対応し、解決できる力を付けるのがキャリア教育であり、進路学習はその中核として重要な役割を果たす教育活動である。

イ 進路学習の効果

進路学習を通じて期待される主な効果としては、次のようなことが考えられる。

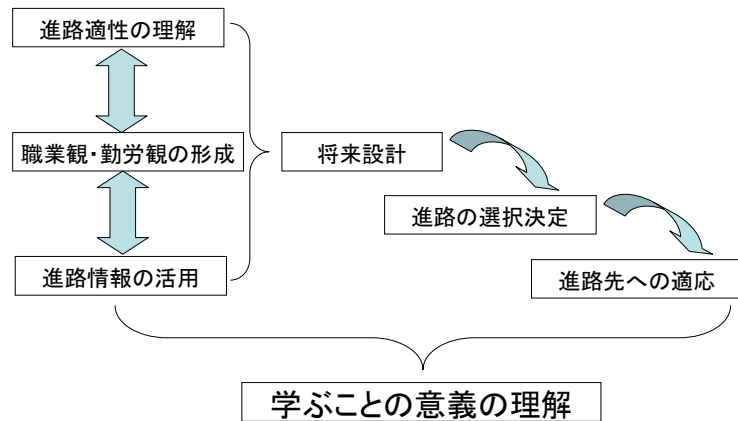
- ①児童・生徒が自己理解を通じて、自己肯定感を得ることができる。
- ②児童・生徒が自己の在り方生き方を考えることにより、肯定的な将来への展望が描ける。
- ③児童・生徒が将来を考えることにより、現在の学校生活に意義を見いだせる。
- ④児童・生徒間のコミュニケーションが活発化し、協力して活動に取り組むクラス等が形成できる。
- ⑤児童・生徒がそれぞれの個性を認め合う人間関係が形成できる。
- ⑥教職員の教育観や進路指導に対する考えが、望ましい方向に変化する。

ウ 進路学習の七つの分野

進路学習には次の七つの分野が考えられている。

- | | |
|-----------------|--------------|
| ①進路適性の理解 | ⑤主体的な進路の選択決定 |
| ②進路情報の活用 | ⑥学ぶことの意義の理解 |
| ③望ましい職業観・勤労観の形成 | ⑦進路先への適応 |
| ④将来設計 | |

これらの七つの分野は、並列的な関係にあるのではなく、次のような構成をなしている。



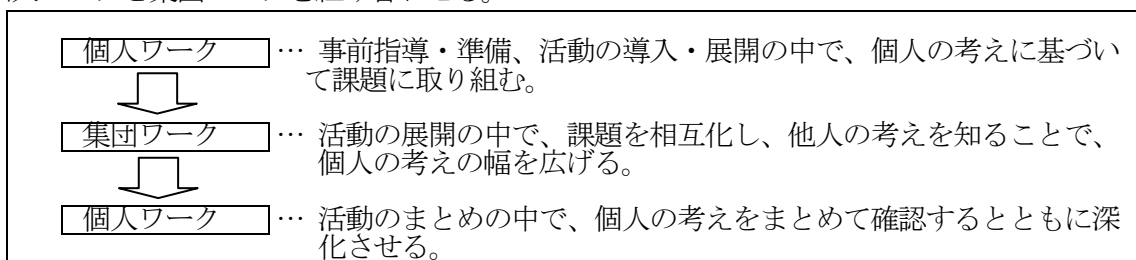
自己の進路適性を理解し、進路情報を収集し理解することによって、職業観・勤労観といった価値観が形成される。価値観が形成されるにつれて、進路情報を活用する姿勢が高まり、そのことによりさらに進路適性の理解が進み、価値観の形成が促進される。その循環の中から将来の自分を描き、設計することができる。その上で将来設計にあった教科・科目や自らの進路を選択決定し、その進路先へ適応することを考えることになる。

こうした流れの中で、各教科・科目の学習が、将来の生活や日々の生活にどのように役立ち、必要であるかに気付かせる。学ぶことの意義を理解することで、それに基づき、さらに自己の将来について考えさせるという循環が進路学習で行われることになる。

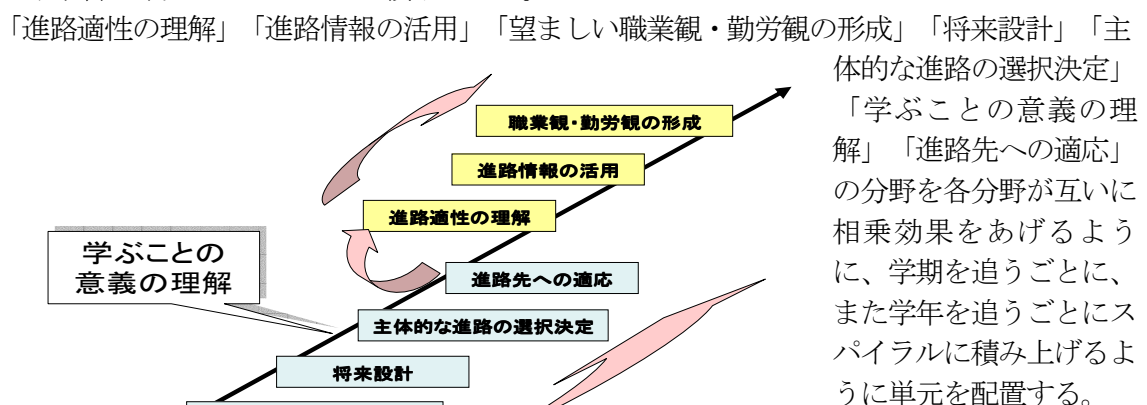
エ 進路学習の単元構成

進路学習の単元を構成する上では、次のことに配慮することが必要である。

①個人ワークと集団ワークを組み合わせる。



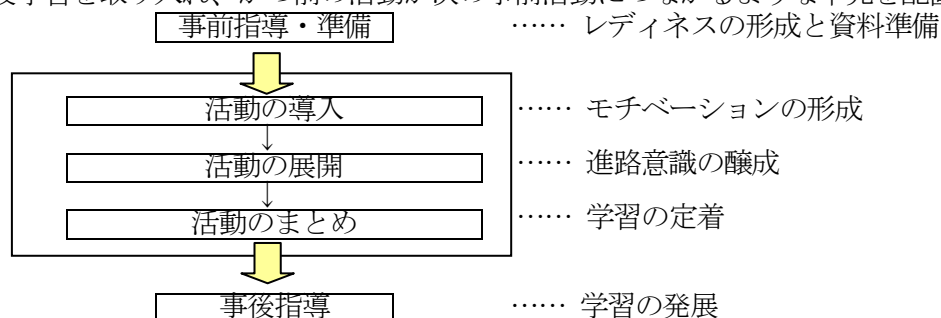
②進路学習の単元をスパイラルに積み重ねる。



③事前学習と事後学習を入れる。

進路学習活動や啓発的体験活動が単独の孤立した活動となることがないように、事前学習と

事後学習を取り入れ、かつ前の活動が次の事前活動につながるような単元を配置する。



④ ポジティブシンキングを基本にする。

自己の将来を考える際には、自己肯定感を得ることが必要である。自分がここにいていい、このクラスにいていいという感覚の上に、将来設計が可能となる。そのためには、自己を肯定的にとらえるような指導案を作成することが求められる。具体的には後掲の例示紹介が参考になる。

⑤ 「総合的な学習の時間」と「特別活動」の区別をする。

キャリア教育においては、「総合的な学習の時間」と「特別活動」は、その内容において重なる部分もあるが、「総合的な学習の時間」においては、課題発見・解決能力の育成や、学び方やものの見方・考え方を身に付け、問題解決に取り組む姿勢を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることがねらいである。そのため、「総合的な学習の時間」においては「考える」・「探究する」活動や課題の発見・解決、体験的側面の強い活動を行い、それ以外の活動及び実際の進路の選択決定にかかわる活動は特別活動で行うように配置する必要がある。

(2) 進路適性の理解

ア 進路適性の理解

進路適性の理解は進路学習の第一歩である。高校生においては最も多い悩み事のうちに進路に関することが大きなウェイトを占めているが、その場合、自らの進路適性の理解が不足している場合の多いことがうかがわれる。そのことから、自分自身の能力、興味・関心、性格や適性を知ることが大切になる。自己の能力や適性の理解を深め、性格や興味・関心、適性に応じた進路選択を行うことができるようになることが、望ましい姿といえる。

イ 進路適性理解の方法

進路適性の理解の方法は、主に四つの方法があるが、児童・生徒の発達段階に応じて、段階的に内容を高めていくのが効果的である。

- ① 自らの興味・関心、長所・短所、得意・不得意などを、自ら考えてまとめる。
- ② 他人と比較してみて、自らの適性、能力などを理解し、まとめる。
- ③ 保護者や教職員に尋ねたり、友人からの相互評価によって自己理解を深める。
- ④ 標準化された性格・適性検査を受検し、その結果から客観的に自己理解に取り組む。

また、進路適性の理解を深めていくと、現実の自分との葛藤から悩みが生じるようになる。その葛藤や不安を取り除くためには、他者の助言や支援も必要である。

ウ 適性検査

現在では多くの適性検査が作られているが、比較的良好に用いられる検査には次のものがある。

① KN式クレペリン作業性格検査

一定の負荷を与えた一連の作業を行うことによってできあがる作業曲線から、被検者の性格を判断する検査。

② エゴグラム

人間の自我状態を五つの領域（CP、NP、A、FC、AC）に分け、それぞれがどの

程度の強さをもっているかをグラフ化する検査。

③VRT（職業レディネス検査）

パーソナリティと環境を六つの領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）に分け、どの領域に興味が強いかを検査する。またDPT職業分類基準に基づいて職業指向性も検査するもの。

④GATB（厚生労働省一般職業適性検査）

仕事を行う能力を九つに分類（知的、言語、数理、書記、空間判断、形態知覚、運動供応、指器用、腕器用）し、備え持つ能力（適性能）の面から適性職業群を判断する検査。ただし、安易な適性検査の利用は逆効果を招きかねず、適性検査を実施する際には次のような注意が必要である。

- 教職員が検査について十分理解し、どの検査をいつ実施するのが有効かつ適切かを考えて実施する。
- 事前学習と事後のフォロー学習をどのように行うかを考え、計画的に実施する。
- 適性検査は児童・生徒の一側面を測定したもので、その結果がすべてではないことを理解させる。
- 適性検査の結果が、科学的な根拠をもった情報データであることを理解させる。
- 適性検査をきっかけにキャリア・カウンセリングを行うようにする。

(3) 進路情報の活用

ア 進路情報の活用

進路環境が大きく変わる中で、進路情報を収集し、理解し、活用できる力がこれまで以上に求められている。インターネットが普及し、紙媒体だけでなく多くの情報を処理し、どれが重要であるかを見極め、位置付けができるような情報リテラシーを身に付けるような働きかけや、職場体験や上級学校訪問等の体験的な学習から情報を収集する活動も求められる。

イ 進路情報の活用方法

進路情報として収集する主な内容として、次のようなものがある。

- | | | |
|------------------|-------------|-----------------|
| ①身近な職業 | ⑤産業の動向と今後 | ⑨具体的な就職先・進学先の情報 |
| ②職業の内容や特色 | ⑥上級学校の種類や制度 | ⑩卒業生からの情報 |
| ③それぞれの職業に就くための方法 | ⑦上級学校の内容や特色 | ⑪受験制度と準備に必要な情報 |
| ④職業と資格・免許、その取得方法 | ⑧上級学校卒業後の進路 | |

各学校により進路情報は多岐にわたると思われるが、こうした進路情報はワークシートなどを活用して整理させるようにするとよい。さらに、ポートフォリオを作成させ、整理された進路資料や情報をいかに活用するか、適時・適切に助言することが効果的である。

進路情報については、すべての教職員が共有し、理解に努める必要があるが、あらゆる情報を一人の指導担当者がすべて持つことは不可能である。外部から入る情報が多く、時には生徒や保護者からもたらされる情報もあることから、組織的に資料や情報を整理・管理し、活用しやすい環境づくりを追求していくことが大切である。中学校や高等学校では従前の進路指導部が中心となり、また小学校においてはキャリア教育推進担当が中心となって、児童・生徒のみならず、教職員の求めに応じて資料や情報が提供できるよう収集に努める必要がある。

児童・生徒に進路資料や情報を活用する力を身に付けさせる際に、留意すべき点としては次のようなことがあげられる。

- ①誤った情報や情報源を伝えない。
- ②児童・生徒個々の発達段階に応じて、適切な情報の収集・整理について助言をする。
- ③進路適性の理解の単元と連動するような単元配置を工夫する。
- ④進路情報を収集・整理させるだけでなく、それを活用できる能力が身に付くよう配慮する。

(4) 望ましい職業観・勤労観の形成

ア 望ましい職業観・勤労観の形成

平成14年、国立教育政策研究所から出された『児童・生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』では、職業観は「人それぞれの職業に対する価値的な理解であり、人が生きていく上での職業に果たす意義や役割についての認識」とあり、勤労観は「勤労に対する価値的理解である。職業としての仕事や勤めだけではなく、ボランティア活動、家事や手伝い、その他の役割遂行などを含む、働くことそのものに対する個人の見方や考え方、価値観」としている。端的に言えば、勤労観は日常生活の中での役割に対する価値観であり、職業観は職業そのものに対する価値観である（三村隆男『キャリア教育入門』p65）。

ここでの「望ましい」とは、一人ひとりにとって望ましいということであり、すなわち望ましい職業観・勤労観の形成とは、職業や日常生活での役割を通して、よりよい自己実現を図っていこうとする姿勢を形成していくということである。

イ 望ましい職業観・勤労観の形成の方法

進路適性の理解と進路情報の活用は職業観・勤労観といった価値観に影響を与える。自己の進路適性を理解し、進路情報を収集し理解することによって、価値観が形成される。価値観が形成されるにつれて、進路情報を活用する姿勢が高まり、そのことによりさらに進路適性の理解が進み、価値観の形成が促進される。

また、小学校においては、遊びの中での役割、当番、係活動、児童会活動、クラブ活動、学芸会、清掃活動など、さらに中学校・高等学校では委員会活動、生徒会活動、部活動、文化祭等の学校行事での役割を果たすことなどのほか、家庭や地域での取組などが、望ましい職業観・勤労観の形成に資するものである。

さらに、進路学習としては次のような活動が指摘できる。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ①職業の三要素について考える。 | ⑤職場見学、ジョブ・シャドウイングを実施する。 |
| ②自分の人生で大切なものを考える。 | ⑥職場実習、インターンシップを実施する。 |
| ③社会人から話を聴く。 | ⑦ボランティア活動、自然体験活動を行う。 |
| ④職業インタビューを行う。 | |

(5) 将来設計

ア 将来設計

進路適性の理解、進路情報の活用や望ましい職業観・勤労観の形成のもとに、将来の生活設計を描いていく。職業における自己実現の計画を立てるキャリアプランと、職業生活だけでなく、自己の望む生き方を考えるライフプランを立てていく。この時、幅の狭い将来設計を行うのではなく、できるだけ幅広く、夢のある将来設計を考えさせることが望ましい。同時に、そのために現在、何をなすべきかを考えさせることも求められる。

イ 将来設計の方法

将来設計の単元では、すぐ目の目標から、かなり先の将来像を設定することが考えられる。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ①各学年での目標を立てる。 | ④どのような職業に就き、如何なる職業生活を |
| ②自分史等の作成を通して自己を振り返る。 | 送るのかについて計画を立てる。 |
| ③自分の人生を考え、ライフプランを立てる。 | ⑤将来の夢の実現のための計画を立てる。 |

(6) 主体的な進路の選択決定

ア 主体的な進路の選択決定

「進路適性の理解」「進路情報の活用」「望ましい職業観・勤労観の形成」「将来設計」が集約されて、進路先の選択決定に入る。これは卒業後の進路選択だけでなく、教科・科目の選択にもかかわっている。ここでの指導上の留意点は、目先の進路先の選択ではなく、生涯にわたって進路を選択していくスキルを身に付けさせることである。

しかしながら、ただ一つの進路を選択することは、他の可能性を捨てることになる。ガイス

バーズは論文「キャリア・ガイダンス」で、「改善され拡大されたチャンス」が児童・生徒にとって必要であると述べている。つまり、進路の選択決定においては、一つに絞り込むことなく、いくつかの選択肢を残し、その中で優先順位を付けておくような姿勢が必要である（三村隆男『キャリア教育入門』p131-133）。複数の選択肢を比較検討し、優先順位を付ける選択を目的とした情報を収集することで、進路に関する理解が拡大し深まる。エリクソンは、他の選択肢との比較が不十分なため、目指す進路について理解が不十分であることを「早期完了」として警告している。

少なくとも、小学校、中学校、そして高等学校の一年次までは進路選択の範囲を広げるような学習活動が望まれる。その上で、高等学校の2年次以降、ある程度の絞り込みが段階的に必要になってくるものといえよう。

イ 主体的な進路の選択決定の方法

主体的な進路の選択決定に関しては、主に次のようなことが考えられる。

- ①進路の選択決定についての方法やプロセスを身に付ける。
- ②進路の選択決定に必要な視点や条件を理解し、自己の適性に合うかどうかを考える。
- ③複数の進路先について比較検討し、自分にとって望ましい進路を考える。
- ④いくつかの進路希望先を決定する。

(7) 学ぶことの意義の理解

ア 学ぶことの意義の理解

中学校、高等学校では「ガイダンスの機能の充実」と深い関連を持つが、現在学んでいることが、進路とどうかかわりを持つのかを考えることである。さらに、将来を考えた上でどのような教科・科目の選択をすべきかを考え、教科・科目の選択後には、今学ぶことが自分の将来にどのようにつながるのかも考えるのが、ここでの教育活動のねらいである。

イ 学ぶことの意義の理解の方法

学ぶことの意義の理解に関しては、進路学習では新しい分野であるが、次のような活動が考えられる。

- ①上級学校の模擬授業を受講する。
- ②上級学校生にインタビューし、グループで考えをまとめる。
- ③ジョブ・シャドウイング等での体験をいかし、社会人に密着し、学校での学びがどう役立っているかまとめる。

(8) 進路先の適応

ア 進路先への適応

進路先への適応に関する学習には、これからの進路を考え、それに適応しようとする方法等を学ぶものと、実際に進路先に適応しているかどうか検討し、考えていく方法等を学ぶものの2点が考えられる。離職率の高さだけでなく、学校不適応を考えたとき、卒業生の現況報告を収集し、いかすことで、進路先へ適応しようとする態度を育成することが大切である。

イ 進路先への適応の方法

進路先への適応を考える学習活動として、主なものとしては次のことが考えられる。

- ①進路先での様子を先輩や知人に聞き、予想される課題を考える。
- ②進路先での課題に対応する方策を考える
- ③進路先での新たな目標を設定する。

また、卒業生が進路先に適応しているかどうかは、卒業生のみならず、在校生への大切な情報となり、進路指導の評価とも関連してくる。この際、大切なことは、卒業生に対するキャリア教育が適切であり、満足度が高いかどうかである。そのためにはアンケート調査を行い卒業生の声を知る必要がある。そして、こうした卒業生が講演をしてくれたり、文書にして在校生にエールを送ってくれたりすることで在校生の意識を高めることができる。

4 キャリア教育における啓発的な体験活動

クイック・マスター4

啓発的な体験活動とは、児童・生徒が様々な体験を通じて自己の能力・適性を確かめたり、具体的な進路情報を得て、自らの在り方生き方を考えるための体験である。体験活動により、児童・生徒の漠然とした進路意識により具体性を与えるものといえる。

体験活動は単なる体験で終わらせてしまうと、児童・生徒の進路意識に深く働きかけることはできない。事前学習、事後学習を行い、他の教育活動と関連付けて実施することで、より高い効果が期待できる。啓発的な体験活動として代表的なものは次のような活動があげられる。

- (1) 職場体験
- (2) ジョブ・シャドウイング
- (3) インターンシップ

しかし、啓発的な体験活動は特別に設定するだけでなく日常の学校生活の中においても行うことができる。生徒会活動、委員会活動、学級（ホームルーム）での係活動、クラブ活動等も啓発的な体験の機会である。

(1) キャリア教育における啓発的な体験活動

ア 啓発的な体験学習の意義

キャリア教育においては、児童・生徒の自己理解や進路情報を理解することが大切である。しかし、これらは間接的であり、抽象的なものになりがちであり、これらの理解に具体性をもたせるものとして実施されるのが啓発的な体験活動である。啓発的な体験活動は「児童・生徒がいろいろな経験を通して、自己の適性や興味などを確かめたり、具体的な進路情報に役立つ諸経験の総称」（『高等学校進路指導資料第2分冊』p60）とされている。

児童・生徒は啓発的な体験活動を通して、具体的な情報を収集し、望ましい生き方を学んだりすることで、自らの進路選択にいかしていくのである。また、自分とは異なる他者に接することで、自己の価値観を振り返ることができ、同時にコミュニケーション能力を身に付けることができる。

児童・生徒は、学校生活や日常生活において様々な体験をしている。そうした体験がキャリア教育における啓発的な体験として意識化されていないことが多い。学校での取組は、児童・生徒にこうした体験の意義に気付かせるとともに、教育活動の中で、意図的に校内・校外での体験活動の機会をつくり、計画的で系統的なものとしての啓発的な体験活動を行う必要がある。

イ 啓発的な体験活動の内容

啓発的な体験活動としては、各種の学校行事をはじめ、職業インタビュー、社会人講話、上級学校見学、体験入学、職場見学、職場体験、ジョブ・シャドウイング、インターンシップ、ボランティア活動、手話講習会等がある。また、日常的な係活動や清掃活動、児童会・生徒会活動、委員会活動において役割を果たすことや、クラブ活動等においても啓発的な体験活動が行われているといえる。代表的な活動としては、職場実習やジョブ・シャドウイング、それにインターンシップの三つを指摘できる。

- ①職場体験：中学校や高等学校で行われる職場での実習体験。1日で行われることが多いが、兵庫県が平成10年より始めた「トライやるウィーク」では中学校2年生が1週間にわたり職場体験を実施し、成果を残している。
- ②ジョブ・シャドウイング：中学校・高等学校で行われる職場での実習体験。1日、職場を職業人と一緒に影（シャドウ）のように周り、知見を広める。
- ③インターンシップ：高等学校で行われる職場での実習体験。本来は数週間にわたるものを

さしているが、実際には1週間前後の短期間で実施されることが多い。

ウ 啓発的な体験活動の留意点

啓発的な体験活動は、児童・生徒の自己理解や情報理解に具体性を与えるものである。したがって、体験活動が単なる体験で終わるのではなく、体験を通して自己理解や情報理解が自己の中で深化し、価値観が形成されるようなアプローチが求められる。児童・生徒が五感を通して獲得する行為である体験を通して、それが個々の中で経験として働くことや自己の将来に対するものの見方や考え方が形成され、身に付くものである。校内・校外の一つの行事として体験活動を実施する場合には、特にイベント化しないように留意しておく必要がある。そのための留意点として次のようなことがあげられる。

①体験活動の目的を明確にする。

計画を立案する際には、児童・生徒に何を獲得させるか、目的を明確にする必要がある。また、一連の指導内容と乖離しないように、系統性のある計画が求められる。担当する教職員間で目的についてよく理解し合い、意思統一を図っておくことも必要である。

②どのような組織単位で行うか明確にする。

全校単位か、学年単位か、クラス単位で実施するのかを考えることである。情報の共有という点では組織単位は大きい方がよいが、臨機応変に対応できる点では小集団も考えられる。

③事前学習と事後学習を行う。

一過性的なイベントとならないようにするためには最も必要なことである。体験活動にかかわる学習を事前に行い、事後に体験を通してどれだけ深化したのか変容等の状況をチェックさせる。その事後学習が、次の体験学習の事前学習になるような計画の立案が望ましい。

(2) 啓発的な体験活動の主な支援組織

啓発的な体験活動を実施する際に、外部の教育力を借りることは有効である。職場体験等では、体験先の開拓が課題であり、日頃から地域との連携を図っていく必要がある。また、体験活動を支援してくれる方々を、登録しておくなどの方策をシステム化している学校もある。

公的な機関で、啓発的な体験活動を支援している主なものとしては次のものがある。

ア 文部科学省

「総合的な学習の時間」を支えるため、行政や関係団体などが体験学習プログラムを提供している。文部科学省のホームページから内容を把握できる。

イ 神奈川県教育庁高校教育課

①インターンシップの受け入れ

県立高校生を対象に出張授業、ジョブ・シャドウイング、インターンシップ等を実施。教員対象にも研修や相談活動を行っている。

②起業家教育モデル授業

起業家マインドを輩出するためのモデル授業を実施している。

ウ ハローワーク

事前・事後学習を含め3日間程度の職場実習が行われる。

エ 雇用・能力開発機構都道府県センター

「仕事ふれあい活動支援員」を配置し、職場見学やインターンシップを支援している。

オ かながわ若者就職支援センター

出張授業、職場見学会、インターンシップ、保護者への講演を支援している。

カ 神奈川県専修学校各種学校協会

夏期休業を利用し、専門学校において、「仕事のまなび場」として職業教育に役立つ体験学習を行っている。

キ 神奈川県司法書士協会

社会生活に必要な法律知識について、講話を実施している。

5 キャリア教育におけるガイダンスと カウンセリングの機能

クイック・マスター5

キャリア教育において、キャリア・ガイダンスとキャリア・カウンセリングは一体のものと考えられている。両者とも目指すところは、児童・生徒一人ひとりが在り方生き方を考え、将来を設計していくことにある。しかし、実際の活動においては、違いがある。キャリア・ガイダンスが全体に対する働きかけであるのに対し、キャリア・カウンセリングは個に対する働きかけといえる。

キャリア・カウンセリングは、治療的なカウンセリングとは異なり、児童・生徒の望ましい発達を援助するためのカウンセリングである。しかし、カウンセリングである以上、一定の知識と技能を身に付けておくことが望まれる。

(1) キャリア・ガイダンスとキャリア・カウンセリング

進路指導は「個の指導に始まり個の指導に終わる」といわれるように、児童・生徒への個別の指導・支援は極めて大切なものである。その個への支援の代表的なものがキャリア・カウンセリングといえる。したがって、キャリア教育において、キャリア・カウンセリングは中核的な教育活動といえる。けれども、キャリア教育では「自己教育能力」「人間関係能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の育成を目指しており、キャリア・カウンセリングだけではこれらの諸能力の育成は難しい。個に対するだけでなく、進路適性の理解や進路情報の理解等のためには、全体に対する指導・支援も必要である。こうした役割を担うものがキャリア・ガイダンスである。そのため、キャリア・ガイダンスとキャリア・カウンセリングは、一体のものと考えられる。端的に言えば、全体に対する指導・支援としてのキャリア・ガイダンス、個に対する指導・支援としてのキャリア・カウンセリングといえる。キャリア教育の先進国であるアメリカにおいては、キャリア・カウンセリングは、キャリア教育全体を実現するための一つの方法として位置付けられている。

(2) キャリア・ガイダンス

ア ガイダンスの機能の充実

中学校、高等学校の学習指導要領には総則と特別活動の中に「ガイダンスの機能の充実」が明示されている。高等学校の「総則」においては「学校の教育活動全体を通じて、個々の生徒の特性等の的確な把握に努め、その伸長を図ること。また、生徒が適切な各教科・科目や類型を選択し学校やホームルームでの生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、ガイダンス機能の充実を図ること」とされている。また「特別活動」においては「学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するようなホームルーム活動等の指導を工夫すること」とされている。

小学校においては「特別活動」において「学級活動において、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること」とあり、発達段階に応じたガイダンスの機能の充実が小学校段階から図られるようになったといえる。

ガイダンスには、様々なガイダンスが考えられる。入学前のガイダンスや図書館利用のガイダンスもガイダンスである。しかし、ここでいわれているガイダンスとは児童・生徒の「適応」と「選択」のためのガイダンスである。この背景には、選択幅の拡大、進路先の多様化、学校

への不適応児童・生徒の増加が考えられる。つまり、ガイダンスの機能の充実とは、児童・生徒の人間関係の形成を含めた、よりよい適応や選択に関する態度、能力の育成のための指導・支援の機能を充実させることである。具体的には、次のような内容といえる。

- ① 適切な各教科・科目や類型を選択するため、教科・科目等の選択の指導・支援に当たってのガイダンス機能の充実。
- ② 現在の生き方及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成するため、進路の選択などの指導・支援に当たってのガイダンス機能の充実。
- ③ 学校や学級、ホームルームでの生活によりよく適応するため、学校生活への適応及び人間関係の形成の指導・支援に当たってのガイダンス機能の充実。

イ キャリア・ガイダンスの一側面

個に対するキャリア・カウンセリングに対し、全体に対する指導・支援を行うキャリア・ガイダンスは、ガイダンスの機能の充実の面からだけでなく、すべての児童・生徒が同じ情報や体験を共有するという極めて重要な側面を有している。

「個の指導に始まり個の指導に終わる」にしても、その間、児童・生徒は自己を見つめ、情報を収集し、将来像を描くことになる。その上で個々のレベルでの選択決定を行うわけであるが、そのためには、指導担当者側からの働きかけや情報の提供、啓発的な体験活動の場の設定が必要である。そして、そうした働きかけや体験が、共有されることで、児童・生徒の中には相乗効果が生じる。また、他の児童・生徒の考えを知ることにより、さらに深く自分自身を考えるきっかけを作ることができるのである。そうしたことを通して、児童・生徒が成長することで、キャリア・カウンセリングの機能もいきてくるのである。

(3) キャリア・カウンセリング

ア 開発的カウンセリングと治療的カウンセリング

カウンセリングと聞くと、心に病を持った人々を対象に、その原因を探り、取り除くことと思われがちである。こうしたカウンセリングは治療的カウンセリング、あるいはセラピーと呼ばれるものである。これに対し、キャリア・カウンセリングは、現在から未来に目を向け、将来のよりよい自己の在り方や生き方を考える支援を行うもので、開発的カウンセリングといえる。児童・生徒が自ら選択し、進路先に適応する力を伸長するものといえる。

キャリア・ガイダンスにおいては、発達段階に応じて進路情報や体験の機会を与えていく。その際、そうした情報や機会から児童・生徒が何を考えるかを、指導担当者は考えに入れておく必要があり、その考えを意識化するものがキャリア・ガイダンスである。しかし、現実には自らの希望が必ずしも達成できるわけではない。希望と現実の葛藤にどう折り合いを付けるか。ここに個別の相談の必要性が出てくる。自己理解を促し、進路情報を与えるといったことだけでは、この問題は解決しない。最後には一人ひとりへの個別の指導・支援が必要となる。これがキャリア・カウンセリングといえる。

イ 学校におけるキャリア・カウンセリングの特徴

中学校、高等学校の学習指導要領には特別活動において「教育相談（進路相談を含む）についても生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること」とされている。しかし、これまでの進路相談は、卒業後の進路の選択決定のために行われている場合が多かったといえる。こうした進路相談とは異なり、キャリア・カウンセリングでは、あくまで児童・生徒の自己実現のための開発的なカウンセリングを目指す必要があるといえる。

学校におけるキャリア・カウンセリングは、児童・生徒と教職員が日常的に接触しているという点で、ハローワーク等におけるキャリア・カウンセリングとは性格を異にしている。日常的な人間関係をもとに行われるという点から、児童・生徒と教職員の人間関係を上手に構築し、児童・生徒が自らの考えを表現できる雰囲気づくりや、日頃から児童理解や生徒理解に努めておく必要がある。

また、ハローワーク等においてはカウンセリングは短期間で終了するが、学校においてはそれよりも長期間にわたる。したがって、年間計画の中で相談活動を系統的に実施することが可能である。自己の適性の理解、進路情報の理解を図り、啓発的な体験活動を織り込む中で、それらの活動と関連させた定期的なキャリア・カウンセリングを配置することが可能である。同時に、定期的なカウンセリングをきっかけにして、個別に必要な児童・生徒とのカウンセリングを行うようにし、キャリア・カウンセリングの機会を多くしていくことができる。

一方で、治療的カウンセリングが数年間に及ぶことがあることに比べると、学校におけるキャリア・カウンセリングは在学期間に限られる。学級担任・ホームルーム担任として接するとすれば、1年間という期間に限られる。そのため、教職員間における児童・生徒の情報の共有と引継が必要である。学年会で児童・生徒の情報を交換したり、部活動顧問や養護教諭から情報を集めることを日常的に行っていくことが求められる。

学校におけるキャリア・カウンセリングは、日常的な学校生活を基盤として成り立つことから、キャリア・カウンセリングにおいて、まず求められるものは学校適応への指導・支援である。キャリア・カウンセリングは、現在から未来に目を向け、将来のよりよい自己の在り方や生き方を考える支援を行うものであるが、学校への適応なくして未来は考えられない。自分はこの学校、このクラスにあっていいんだという気持ちを児童・生徒に持たせることが必要である。そのためには、最初のカウンセリングは非常に大切であるといえる。同時に、未来を考えるためには自己を尊重する気持ちが大切である。自分自身を否定的にとらえたり、マイナスのイメージを抱いていたなら、未来を描くことはできない。自分は将来に夢を持っていいんだという自己肯定感を得させるような児童・生徒との対応を心掛ける必要があるといえる。

学校におけるキャリア・カウンセリングのもう一つの特徴は、保護者とのキャリア・カウンセリングである。従来、保護者面談や三者面談と呼ばれてきたが、保護者が進路選択を行った時期と現在では、進路環境が大きく変化している。そうしたギャップを埋めるために、保護者へのガイダンスと個別のカウンセリングが重要になってきている。現在の進路環境を伝えるとともに、家庭環境や保護者の考え、不安を受け止め、児童・生徒の主体的な進路選択を支えることができるような対応が求められている。ただ、保護者との相談を行う際には、必ず児童・生徒にその旨を前もって伝えておく必要がある。

ウ キャリア・カウンセリングの方法

カウンセリングは言葉を使った支援活動である。言葉を使って児童・生徒の気持ちを表現し、言葉を使って支援する。そのために、カウンセラーにはコミュニケーション能力、柔軟性、判断能力が求められる。キャリア・カウンセリングにおいても同様である。同時に、カウンセリングの技術も利用することができる。カウンセリングの技術には「自己表現を助ける技術」「自己理解を深化させる技術」「意志決定を促進する技術」があるといわれ、主な技術としては次のようなものがある。

受 容：相手の考えや感情を受け入れること。カウンセリングを行う際の基本的態度である。

「そう」「わかるよ」と述べ、肯定的にうなづくなどする。

傾 聴：相手が述べることを注意して聴くこと。相手の目を見て、姿勢を相手の方に傾ける。

再 述：相手が述べたことを繰り返す。

言い換え：相手の発言や考えを自分自身の言葉に置き換える。

要 約：相手の発言の中で重要な点を要約する。

解 釈：相手の発言や行動の意味を推測する。「あなたが述べたことについて、私が理解したのはこうなだけけれど、正しいかな？」

明確化：相手の考えや感情をより明確にする。「あなたはどのように述べましたが、どういう意味かな？」

感情の反射：相手が直接表現しない感情に注意を払う。「あなたはせっかく一生懸命にやったのに報われなかったと思っているのかな？」

沈黙：相手が沈黙すること。自分の考えをまとめている時間。沈黙は恐れず「時間を使っていいですよ。急ぐ必要はありません」と言葉をかける。

閉じた質問：「はい」「いいえ」で答えられるような質問。

オープンな質問：「何を」「どうして」「なぜ」「どのように」といった質問。

一般的リード：別の観点から考えさせる開放的な質問。「希望する学校に合格するために何をしてきましたか？」

さぐり：大まかな質問で進路への考え方・取組について心を開いてから、より多くの情報を得たり、ポイントを絞ること。「そのことについてもっと話してくれないかな？」

対決：相手の言動の不一致や矛盾点を指摘する。相手の視点と違う視点を持てるようにする。情報提供：進路や生き方に関する情報を提供する。

再保証：相手を励まし、行動をおこさせるようにもっていく。「あなたはできると思いますよ」

強化：自信を得させ、後押しをする。「そうですね。あなたの考えに賛成です」

こうした技術を使いながら、相手を受容し、共感的な態度でカウンセリングを進めていくことになる。

また、キャリア・カウンセリングには、非指示的カウンセリングと指示的カウンセリングを繰り返す循環的な方法が望ましいと言われている。

- ①「進路をどう考えているの?」「どんな生き方をしたいの?」といった質問をし、児童・生徒の考えや思いを受容的に聴く。(非指示的)
 - ②児童・生徒の考えを深めるために課題を設定し、行動させる。(指示的)
 - ③自己受容と洞察のため、行動の結果や感情を受容的に聴く。(非指示的)
 - ④現実吟味のため、適性検査、職業解説パンフレット、学業成績などによる事実に関するデータを調べさせる。(指示的)
 - ⑤現実吟味によって生じた感情を受容的に聴き、望ましい態度や感情を形成できるようにする。(非指示的)
 - ⑥意思決定を支援するための可能な行動を非指示的に考えさせる。
- たとえば、美容師を希望する児童・生徒の場合、次のような対応が考えられる。
- 動機を語らせ、自己像を自由に語らせる。
 - 美容室を見学に行かせる。
 - 見学後の感想を聴く。
 - 資格の取り方、適性等について調べさせる。
 - 将来のこと、美容師になるための技術習得の苦労等について考えさせる。
 - 具体的な行動に移るよう励ます。

カウンセリングを行うには、児童・生徒が安心して話せるよう、プライバシーが守られる場所が必要である。その上で、まず始めに相手との信頼関係を築くことが大切である。学校でのキャリア・カウンセリングでは、普段の学校生活の中で、十分に信頼関係を築くことができる。カウンセリングを始める前には、相談したいことを前もってまとめさせておくと、スムーズに相談活動が進む。また、児童・生徒の日頃の言動に注意したり、他の教職員と情報交換をし、個々の児童・生徒の情報を集めておく必要がある。

次に大切なことは、共感的態度で児童・生徒の話を受容的に傾聴することである。折角、相談の機会を設けても、説諭や単なる励ましに終わっては、児童・生徒は自己を表現することをしないし、問題も解決しない。児童・生徒の話を受容的に傾聴する中で、問題点を探り、解決のための計画を立て、具体的な行動をとるよう促していくことが大切である。カウンセリングの技術は研修等で身に付ける必要があるが、共感的な態度や受容的な傾聴は、教職員が日頃の業務の中で意識して身に付けていくことのできるものといえる。

また、カウンセリングが終了した時には、終わってどうだったか児童・生徒に聞くことが大事である。児童・生徒の自己理解や教職員側の児童理解・生徒理解につながるものである。同

時に、カウンセリングの内容については記録を残し、次回のカウンセリングに利用するなど、今後の課題を考える材料にするとよいと思われる。

カウンセリングで話した内容は秘密にするのが原則だが、児童・生徒の抱える問題によっては、一人の担当者だけで解決できない場合もある。そうした場合には、他の教職員に応援を依頼したり、外部の機関に依頼することも必要である。その際には該当する児童・生徒に了解を取っておくことが望まれる。また、他の教職員が担当した方が望ましいと考えられる場合には、そちらに相談に行くように伝えることがある。こうした時には「いつでも相談にのるよ」といった一言を付け加えておかないと、児童・生徒の信頼を損なったり、課題を解決できない状況で放置されたという意識を抱く危険性もあるので注意が必要である。

保健室は児童・生徒が心を開いて自分の気持ちや思い等を話す場所にもなっている。その中には進路の悩みも多いことから、養護教諭との情報交換が極めて有効である。養護教諭との会話の中から、児童・生徒が抱える進路課題の解決策が生まれることがある。同じように、今後はスクールカウンセラーとの連携も模索していく必要があると思われる。

なお、学校でのキャリア・カウンセリングへの対応に向けて、文部科学省が開発した「教員研修プログラム(例)」が『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』に掲載されているので、紹介する。

「キャリア・カウンセリング研修(基礎)」

1 目的

子どもたちが、自己の可能性や適性についての自覚を深め、自らの意志と責任で進路を選択できるようにすることは極めて重要である。今、学校においては、そのためのきめ細かな指導・援助を、一人一人に適切に行うことが求められている。

このため、教員一人一人が、キャリア教育の概念及びキャリア発達のための諸能力を理解し、児童生徒や保護者等とのコミュニケーションのスキル(技能や能力)等、カウンセリングの基礎的な能力・態度・技能を習得するための研修を実施する。

2 対象

各都道府県・政令指定都市等教育委員会指導主事
小・中・高等学校教員(原則として教員歴5年以上が望ましい。)

3 研修時間

15時間～20時間

4 研修内容

(1) キャリア教育の基礎となる知識

- ①キャリア教育についての理解 ②児童生徒の心理的・社会的発達についての理解
- ③児童生徒の生きる社会環境についての理解

(2) 実践方法に関する知識

- ④児童生徒を理解することの意味と方法 ⑤職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方

(3) カウンセリングの基礎の習得

- ⑥コミュニケーションのための基礎的能力と態度の習得
- ⑦カウンセリングについての基礎的理解とカウンセリングプロセスの理解
- ⑧多様な相談場面の理解

5 研修計画例(3日間)

第1日

	「講義・演習」題目		目 的
1	講義	「キャリア・カウンセリング研修」の意義と参加の心構え	キャリア・カウンセリングとその研修の意義を理解することにより、参加者の研修への意識を高める。
2	講義	キャリア教育についての理解	キャリア教育の概念について理解するとともに、キャリア発達の中核となる能力につ

	演習		いての理解を深め、日常生活での活動とつなげることができるようにする。
3	演習	コミュニケーションスキルの基礎Ⅰ (2の講義内容を材料として)	言語的コミュニケーションの基礎である「話す能力」の体系的な実習を通して、その意味を理解するとともに、キャリア教育におけるその意味の理解を深める。
4	講義 演習	児童生徒の心理的・社会的発達 の理解	児童生徒の心理的・社会的発達について学び、小・中・高等学校段階における児童生徒理解と、それをキャリア教育の実践に生かすことができるようにする。
5	演習	コミュニケーションスキルの基礎Ⅱ (4の講義内容を材料として)	コミュニケーションの基礎である「話す能力」と「聞く能力」を体験し、それぞれの機能の意味を理解する。同時に児童生徒の指導におけるそれらの意味の理解を深める。

第2日

		「講義・演習」題目	目 的
6	講義 演習	児童生徒の生きる社会環境(職業や産業)についての理解	高等学校卒業者等の進路の現状とそれらを取り巻く社会の環境の変化について理解するとともに、職業生活にかかわる制度や法規について理解する。
7	講義 演習	職業にかかわる体験的活動の意義と生かし方	職業にかかわる体験的活動の意義を理解するとともに、その活動と事前事後の取組を通してキャリア・カウンセリングの実際を学ぶ。
8	講義 演習	児童生徒を理解することの意味と方法	キャリア教育、キャリア・カウンセリングにおける児童生徒理解の意味と方法について理解する。

第3日

		「講義・演習」題目	目 的
9	演習	コミュニケーションスキルの向上	カウンセリングの基礎であるコミュニケーションの能力を向上させるため、これまでの演習で学んだ「話す能力」と「聞く能力」に加え、「観察する能力」の大切さを体験的に習得する。
10	講義 演習	キャリア・カウンセリングについての理解	キャリア・カウンセリングについて、正確な知識を習得し、教員としてカウンセリング能力の必要性とその意義について理解を深める。
11	演習	カウンセリングプロセス―相談関係づくりの大切さを知る―	カウンセリングにおいてはプロセス(過程)が重要である。ロールプレイングやビデオ教材を通して、面接を実施する際の相談関係づくりの大切さとその方法等について体験的に理解する。
12	講義	多様な相談場面の理解と研修のまとめ	学校で行われる面接相談場面におけるカウンセリングの基本的スキルの応用について理解を深める。さらに、それぞれの面接の特徴を理解し、実践上の留意すべき事項を理解する。

「キャリア・カウンセリング研修(専門)」

1 目的

今、学校においては、キャリア・カウンセリングの専門性を身に付け、キャリア教育を推進するための中心的な役割を果たす教員が求められている。

このため、カウンセリングの技法、キャリア発達、職業や産業社会等に関する専門的な知識や技能、また、カリキュラム開発、コーディネート、コミュニケーション、マネジメント能力等、この中核となる教員が身に付けておくべき能力・態度・技能を習得するための研修を実施する。

2 対象

各都道府県・政令指定都市等教育委員会指導主事、小・中・高等学校教員で、「キャリア・カウンセリング研修(基礎)」を修了した者。

なお、教員にあつては、進路指導主事等主任歴1年以上の経験を有することが望ましい。

3 研修時間

15時間～20時間

4 研修内容

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| (1)プログラム開発・運営能力の向上 | (2)キャリア・カウンセリング能力の向上 |
| (3)コンサルテーションについての理解と基礎能力の向上 | (4)コーディネーションについての理解と基礎能力の向上 |
| (5)インストラクションについての基礎能力の向上 | |

5 研修計画例(3日間)

第1日

		「講義・演習」題目	目 的
1	講義	研修の趣旨と参加者の課題	本研修の趣旨を理解するとともに、各学校のキャリア教育の中核となる参加者の課題意識の顕在化を図り、研修効果を高める。
2	演習	コミュニケーションスキルの基礎の復習	キャリア・カウンセリング研修(基礎)で習得したコミュニケーションスキルの基礎の復習と、指導者としてコミュニケーションスキルの研修を行うときの留意事項を学習する。
3	演習 講義	グループダイナミクス(集団における力学)の基本	ガイダンス活動や教育活動の多くは、小集団を通して行われる。そこで、集団で行うことのメリットとデメリット、及び集団の効果を高めるためのポイントを実践的に理解するとともに、集団活動と個別対応との組み合わせの意味を理解する。
4	演習	プログラム開発・運営能力 I —プログラム開発能力の向上—	キャリア教育のプログラムを開発し、相互に評価しあう実習を通して、校内においてキャリア教育を推進していくために必要とする、コンサルタント、コーディネーターとしての役割を体得する。各校種ごとに小グループに分かれ、各自開発してきたプログラムを提案し、評価しあう。

第2日

		「講義・演習」題目	目 的
5	演習 講義	プログラム開発・運営能力 II —プログラム開発・評価能力の向上—	4の演習で開発したプログラムを評価しあうことにより、プログラムの開発・運営・評価の各能力を高めていく。さらに、各校種におけるプログラムの理解を通し、各発達段階における諸能力の育成の重要性を理解する。
6	演習 講義	インストラクション能力の向上 —キャリア教育についての理解の深化—	キャリア・カウンセリング研修(基礎)等での指導者としてキャリア教育の意義や考え方を踏まえた指導内容・方法等の計画を立案・実施し、受講者に応じて効果的かつ明確に教授(インストラクション)する能力を育成する。
7	演習	ヘルピングスキルの向上 —職業・進路情報の活用—	職業・進路情報を活用することにより、カウンセリングの重要な部分である、課題の明確化と対応の過程に焦点を当て、ヘルピングスキル(援助する技能や能力)を向上させる。

第3日

		「講義・演習」題目	目 的
8	演習 講義	カウンセリングプロセスの基本の実践	カウンセリングを実践するための知識やスキル、及びそれらに内在する倫理について、ビデオや逐語録等を使ってその基本を習得する。
9	演習 講義	ケーススタディの基本	カウンセリング能力を向上させるための方法としてのケーススタディ(事例研究)の意義、利点、効果的な生かし方、ケース会議の持ち方と留意点について理解を深め、指導する能力を身に付ける。
10	講義	ポートフォリオの活用	ポートフォリオは、児童生徒の諸能力・態度・技能の習得の履歴を把握し、児童生徒のキャリア発達を評価するものであること、そして、その活用によって児童生徒自身に自己の能力等やキャリア発達を自覚させ、自己の成長に気付かせ、将来への目標を持たせることができることを理解する。
11	講義	コンサルテーション能力の基本	キャリア教育の中核を担う教員には、個々の生徒への援助のみならず、その生徒の指導・援助にかかわる担任、保護者等に対しても援助する能力が求められる。この活動を「コンサルテーション」と呼ぶ。その留意点を理解するとともにコンサルテーションの基本能力を習得する。
12	演習	コーディネーション能力の向上	学校等においては、組織内(例:校務分掌同士等)や組織外(例:求人先事業所、ハローワーク等)の活動や関係を目的に沿って効果的に働くよう調整(コーディネート)することが求められる。この活動を「コーディネーション」と呼ぶ。このコーディネーションの基本・留意点を理解するとともにコーディネーションの基本能力を習得する。

キャリア教育 Q&A 3

望ましい職業観・勤労観についてどのようにとらえたらよいですか？

Q：キャリア教育において、望ましい職業観・勤労観を育むことがねらいとされていますが、どのようにとらえたらよいですか。

A：「望ましい職業観・勤労観」については、国立教育政策研究所生徒指導研究センターによる調査研究報告書『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』（平成14年）の中で詳しく紹介されています。平成4年に文部省刊行の『中学校・高等学校進路指導資料 第1分冊 個性を生かす進路指導をめざして—生き方の探求と自己実現への道程—』の中で「望ましい職業観の形成」の解説がなされ（p34-35）、前掲の報告書はそれを踏まえての考察です。そこで、まず、キャリア教育のキーワードでもある職業観と勤労観について、説明していくことにします。それについては、先の報告書（p20）に、次のように説明されています。

○職業観とは？

「人それぞれの職業に対する価値的な理解であり、人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識である。「職業観」は、人が職業そして職業を通じて生き方を選択するに当たっての基準となり、また、選択した職業によりよく適応するための基盤ともなるべきものである。」

○勤労観とは？

「勤労に対する価値的な理解・認識である。職業としての仕事や勤めだけでなく、ボランティア活動、家事や手伝い、その他の役割遂行などを含む、働くことそのものに対する個人の見方や考え方、価値観であり、個人が働くこととどのように向き合って生きていくかという姿勢や構えを規定する基準となるものである。」

職業観・勤労観の育成に当たっては、個々の自分なりの職業観・勤労観という多様性を大切にしながらも、共通する土台として、「望ましい」を備えたものを目指すことが求められると指摘しています。「望ましい」の要件として、次の点（p22-23）を理解して育む必要があります。

〈基本的な理解・認識面〉

- ① 職業には貴賤がないこと
- ② 職務遂行には規範の遵守や責任が伴うこと
- ③ どのような職業であれ、職業には生計を維持するだけではなく、それを通して自己の能力・適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たすという意義があること

〈情意・態度面〉

- ① 一人ひとりが自己及びその個性をかけがえのない価値あるものであるとする自覚
- ② 自己と働くこと及びその関係についての総合的な検討を通じた、職業・勤労に対する自分なりの構え
- ③ 将来の夢や希望の実現を目指して取り組もうとする意欲的な態度

三村隆男氏は、職業観が職業そのものに対する価値観であり、また勤労観が日常生活の中でその役割に対する価値観であると適切にとらえています（『キャリア教育入門』p65）。小学校から学級活動等での係活動等を通して、また家庭での日常的な役割や家の手伝いを通して勤労観を育み、それを基盤に、発達段階に応じて職業調べ、職業インタビュー、ジョブ・シャドウイング等の体験により、職業観の形成へとバランスよく結び付けていくことが望まれます。

6 キャリア教育推進に向けての指導体制

クイック・マスター6

キャリア教育というこれまで馴染みのない言葉が使われたことで、教育現場に多少の混乱が予想される。そうした事態を避けるためには、キャリア教育の目標をしっかりと設定し、指導体制を築き上げる必要がある。

キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」である。学校教育目標を押さえながら、各学校でキャリア教育の目標を設定することが必要である。

また、キャリア教育が、教育課程の中に位置付けられ、全教職員の共通理解と、協力が得られる体制づくりが求められる。中学校、高等学校では進路指導がキャリア教育の核となることから、進路指導部の体制を確立し、さらに、管理職をはじめ各分掌・各学年等の代表からなるキャリア教育推進のための委員会を設置し、全校の教育活動全体を通して、キャリア教育を推進していく指導体制が必要である。小学校においては進路指導部が設置されていないことから、委員会組織で取り組むことがより効果的である。

(1) キャリア教育の目標設定

文部科学省の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」によると、キャリア教育は、キャリアの概念に基づき「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえられている。

一方で、各学校には学校教育目標があることから、キャリア教育の概念を押さえながら、各校におけるキャリア教育の目標を設定することが求められる。学校教育目標のもとに、各年度の目標が設定されるが、キャリア教育の中核を担う進路指導部は、各校のキャリア教育の全体目標を設定するとともに、それぞれの学習活動や進路行事の個別目標を設定しておく必要がある。

個別目標は大きく分けて、児童・生徒に直接働きかけるために必要な個々の計画、教職員の活動のために必要な計画、外部に働きかけるために必要な計画に大別できる。

そして、年度末に各目標に対する評価を行うことになるが、その際に最も重要なことは「個々のキャリア教育活動が児童生徒の変容にどのように関わったか」（三村隆男『キャリア教育入門』p.144）であり、評価と表裏一体の関係にある目標設定においても、同様の視点で設定する必要がある。また、目標は実行可能な目標であることはもちろん、抽象的なものでなく、たとえば「卒業後の進路や職業・産業について多面的・多角的に情報を集め検討させる」「将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組ませる」など、個々の活動の中で具体的にどのような変容を児童・生徒にもたらそうとするのかといった視点で設定することが望まれる。

その上で、全教職員に自校のキャリア教育の目標を周知することが求められる。小学校の学習指導要領に「各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設ける工夫をすること」、中学校、高等学校では「生徒が自己の（在り方）生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこと」（※（ ）内は高等学校以下同じ）とされ、キャリア教育の中核である進路指導が学校の教育活動全体の中で行われることが求められている。キャリア教育の経験がないことから、キャリア教育に対して不安を感じる教職員も存在することから、校内研修会等を設定して、児童・生徒がこれからの社会を生きていく上で、学校教育の中で自己の（在り方）生き方を考える学習活動が必要であることを認識し合い、キャリア教育の目標を理解していく必要がある。また、キャリア教育の実践を通して、それぞれの活動ごとに、アンケート等により児

童・生徒の反応や意見をうかがい、全教職員で受容し、考えていくことも有効な手立てである。

(2) 運営に当たっての配慮事項

キャリア教育の中核を担う進路指導の運営に当たっての配慮事項として、次のことがあげられる(仙崎武他『進路指導論』p66)。

- ア 進路指導の諸活動について、全教職員が共通理解を持ち、互いに協力してよりよい成果をあげることができるようにすること。
- イ 教職員の進路指導に関する興味・関心や能力、経験などが十分にいかされるようにすること。
- ウ 全教職員が進路指導に関する役割・任務を明確に自覚し、責任を持って職務の遂行ができるようにすること。
- エ 進路指導に関する施設・設備を整備するとともに、全教職員によって活用され、また、すべての生徒が十分に利用できるようにすること。
- オ 進路指導のための時間を確保し、指導計画に基づき、十分な指導がなされるようにすること。
- カ 生徒の主体的な進路選択能力を育成するために、十分な資料整備を行い、活用を図ること。
- キ 進路指導の予算の確保と運用の適切化を図ること。
- ク 進路指導の諸活動に対して常に評価を行い、その改善・充実を図ること。
- ケ 教職員の共通理解・協力体制の確立と指導力の向上を図るため常に研修に努めること。
- コ 進路指導は、対外的な関係が極めて深いので、生徒の家庭や上級学校、事業所、職業安定所、その他関係機関・団体等との密接な連絡を保って運営できるようにすること。

これらの配慮事項は、進路指導に限らず、キャリア教育全般についても当てはまるものである。以上の視点から、キャリア教育をとらえていくことが必要である。

(3) 組織改善の観点

進路指導の組織改善の観点として、次のような指摘がなされている(仙崎武他『進路指導論』p59)。

- ア 組織体制が学校の実情に即して編成され、機能的に作用しているか
- イ 教育課程の中に進路指導が正しく位置付けられているか
- ウ 組織体制が学校全体の教育活動や他の分掌との連携がはかられるようになっているか
- エ 進路指導主事を始め、関係教師の特性が十分発揮できる組織体制になっているか
- オ 計画の立案やその展開に当たり、組織体制が効果的に機能できるように配慮されているか
- カ 各学級・各ホームルームでの進路学習が組織的に進められようになっているか
- キ 全教職員の共通理解・協力体制が得られる組織体制になっているか
- ク 保護者の理解と協力を働きかけるような組織体制になっているか

こうした指摘は、現在においても組織改善の観点としての意味を有している。今後、キャリア教育を推進していく中で、組織体制をチェックする視点になるといえる。

(4) キャリア教育の指導体制

ア 進路指導部の充実

進路指導がキャリア教育の中核をなすことを考えると、まず進路指導部自体の指導体制を確立しておく必要がある。進路指導の体制についてはこれまで四つの体制が指摘されてきている。

- ①進路指導部は設置されず、各担任に任せられている指導体制。
- ②各学年単位で指導し、学年主任に任せられている指導体制。
- ③進路指導部が設置され、進路指導部が中心になって進める指導体制。
- ④進路指導部以外に、全校的な進路指導委員会が設置され、全校的基盤で指導する指導体制。

①の指導体制は今日ではあまり見られない。中学校では多くの場合、②の指導体制が一般的であるといえる。この体制は、学年団としてのまとまりがあるが、学年間の格差が大きい。また、高等学校においては、③の指導体制をとることが多い。進路指導部が中心となり、組織的な対応が可能であるが、これまでは出口指導に偏することが多く、全教職員の共通理解を得るのに苦労することも多かったといえる。④の指導体制は先進的な中学校、高等学校で見られる体制である。小学校ではほとんど進路指導部はおかれていない。

進路指導部の指導体制を充実することは、キャリア教育を充実させる上で、必要不可欠なことである。卒業年次のことのみにかかわるのではなく、長期的なキャリア教育の目標を考え、そのための活動内容を設定し、教職員の役割分担を明確にしておく必要がある。また、分掌会議を通じて、進路指導部内の共通理解をはかり、全員で進路指導に当たる体制を築くことが大切である。もっとも分掌会議が頻繁には開けない状況もあることから、それぞれの活動の担当者と進路指導部担当の間で、原案を前もって作成してから分掌会議を行うなど効率的な会議運営の工夫をすることも考えられる。そして、進路指導部の体制が一定のレベルで確立したならば、それが引き継がれていくように、進路指導部の担当者には後継者の養成といった重要な課題も課せられる。

進路指導部の活動内容は、学校の実態によりそれぞれ違いがあると思われるが、実際の進路指導部の活動内容として次に一例をあげておく。

<p>ア 企画・渉外係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画の作成、予算案の作成 ・進路説明会、各種ガイダンス、模擬授業等の企画・運営 ・保護者説明会、講演会の企画と運営 ・進路指導部内の連絡・調整 ・関係書類の保管 ・進路指導の評価 ・関係諸機関との連携 	<p>・進路学習のための資料収集と提供</p> <p>ウ 情報処理係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書の作成 ・合否状況の把握 ・諸調査の企画・実施 ・各種調査依頼対応 <p>エ 進路情報係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の収集・整備 ・生徒、保護者、教職員への情報提供 <p>オ 進路相談係</p>	<p>・進路相談の企画・実施</p> <p>カ 進学指導係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試対応 ・大学入試センター試験対応 ・模擬面接の企画・運営 ・模擬試験（進学）の企画・運営 ・夏期講習の企画・運営 <p>キ 就職指導係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職・公務員希望者の対応
<p>イ 進路学習係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路学習の計画立案 		

イ キャリア教育推進のための委員会設置

キャリア教育の中核である進路指導部の体制を確立した上で求められるものは、学校全体としてキャリア教育を実施していくための体制づくりである。キャリア教育は、新たな教育領域を導入するのではなく、これまでの教育をキャリア教育という視点から見直し、改善していくとするダイナミックな考えであり、その結果当然のことながら、学校の教育活動全体を通じて行われることを考えると、全校的なキャリア教育推進のための委員会を設置する事が望まれる。進路指導の取組が、キャリア教育の中核をなすものであることは、すでに何度も指摘されているが、この取組を全校的なものにする必要があると同時に、「総合的な学習の時間」や学級活動・ホームルーム活動、学校行事、各教科での指導、道徳の時間（小・中学校）を、キャリア教育の観点から有機的に結び付け、児童・生徒に「生きる力」を身に付けさせるためにも全校的な取組にする必要がある。

高等学校においては、進路指導部に所属する任期は数年である。中学校においては任期は1年の場合が多い。こうした短い任期が進路指導の継続と発展にとっての課題になってきたことも考慮し、任期を長期化させることも求められる。その一方で、学校全体のキャリア教育のための委員会を設置することで、一貫した方針のもとに、キャリア教育が推進される可能性がある。小学校においては、進路指導部がないことから、委員会組織でキャリア教育に取り組むことの効果があり、そのことは先進校の取組からもうかがい知れる。

キャリア教育推進のための委員会は、具体的には、管理職、各分掌・各学年の代表、教科等の代表や「総合的な学習の時間」担当者の代表等から構成し、学校全体としてキャリア教育を推進していくための方策について意見交換等を行い、推進の中心組織とする。進路指導部が学校全体としてのキャリア教育への方向性と具体的な方策を説明し、意見交換をしながら、共通理解を得ると同時に、具体的な方策をよりよいものにつくりあげていく。また、他の分掌や学年、教科代表、「総合的な学習の時間」代表から、それぞれの立場で、キャリア教育の観点から何を実施しているのかを伝え合い、他の活動とどのように結び付くのか、意見を交換しながら、より有機的に結び付くように時期を変更したり、内容を変更、あるいは新規の活動の立ち上げ等を行うことで、学校全体としての取組としていくことが期待できる。また、この委員会で得た情報は、各分掌、各学年、各教科会、「総合的な学習の時間」担当者に伝え、情報を共有するとともに、共通理解を図っていく。こうしたことにより、キャリア教育に対する理解も深まり、スムーズな運営が期待できるといえる。同時に、より内容の充実したキャリア教育が実現するものと思われる。

また、進路情報の整備や、キャリア教育での情報の収集先として、図書館は重要な存在である。図書館の協力を得て、学校の全体計画に基づき、必要な進路関係の図書や雑誌を配架するなどして、キャリア学習単元の充実した展開をサポートする教育環境の整備にも努める必要がある。

ウ 児童・生徒によるキャリア教育推進のための委員会設置

教職員によるキャリア教育推進のための委員会だけでなく、児童・生徒による委員会の設置が考えられる。学校によっては、進路委員会や進路係がおかれているところもあるが、これらを母体にしてもよいと思われる。

「総合的な学習の時間」や学級活動（ホームルーム活動）、学校行事での進路学習や啓発的な体験活動の際に、企画を教職員とともに行い、児童・生徒の考えを活動に反映させたり、実際の活動の場面で、リーダーとして、他の児童・生徒に活動内容の説明を行うといったことが考えられる。また、外部講師を依頼する際に、校内の案内を行うようなことも考えられる。さらには、各クラスから進路に関する質問を集め、自ら調査し、委員会新聞の形でフィードバックすることなども考えられる。

こうした活動は、委員となった児童・生徒にとって、大切な経験となり、自らの進路意識を高め、「生きる力」の育成に大いに役立つことになるといえる。同時に、こうした児童・生徒の活動を見ることで、周りの児童・生徒にもよい影響を与えることができる。

エ キャリアセンターの整備

キャリアセンターは、学校内においてキャリア教育の中心となる重要な施設である。キャリアセンターに十分なスペースと資料・情報を収める必要がある。ここには教職員が執務するスペース、児童・生徒が資料や情報を閲覧するスペース、相談のためのスペースが必要である。

閲覧のためのスペースでは、各種の進路情報に関する図書や情報誌、上級学校案内、シラバス、求人票、会社案内等の情報を整備し、更新するのはもちろんであるが、検索用のコンピュータ、ビデオ等も設置しておくことも必要である。また、進路学習が行えるよう1クラス分の児童・生徒が入れるだけのスペースと座席を確保することも望まれる。

教職員の執務スペースは、担当が資料を整理したり、外部の講師等に対応する場所である。資料毎のボックスを用意しておくこと、閲覧スペースに配架する前、各種の資料が整理しやすい。コンピュータやコピー機の設置も便利性を考えると、計画的に整備したいところである。また、数名の教職員が一定の時間常駐し、児童・生徒からの質問や相談に応じられる体制をつくっておくことも大切である。

相談のスペースは、仕切を設けるか別室にし、相談しやすい雰囲気を形成しておくことが望まれる。また、キャリアセンター自体を常に明るく保つことで、児童・生徒にとって利用しやすい雰囲気になるよう工夫していく必要がある。

7 キャリア教育の評価

クイック・マスター7

キャリア教育の評価とは、各学校が児童・生徒の実態に基づいて立案した全体計画や指導計画、その実施の過程状況、事後の達成状況、成果などを、キャリア教育の目標や指導上の留意事項等に照らして的確にとらえ、吟味し、価値判断を行い、全体の振り返りを通して、次年度に向けて改善・充実を図る重要な機能である。

キャリア教育の評価は、評価対象から考えると、①児童・生徒個々の学習者側の評価と②学校・教職員側の評価の二つに大別できる。また、計画・指導等の取組内容ごとの評価機能面から考えると、①指導計画レベルでの評価、②実施状況レベルでの評価、③児童・生徒のキャリア発達レベルでの評価、それに④校内組織・指導体制レベルでの評価に分けられる。

それぞれの観点から、キャリア教育がねらいや目標に即した実践が行われているかを的確に評価するとともに、指導の改善やカリキュラムの点検や見直し、改善等に有効に評価がいかせるよう意識して取り組むことが望まれる。

(1) キャリア教育の評価の在り方

キャリア教育の評価には、児童・生徒の発達に応じて、各学校が計画したカリキュラムに基づいて実践した活動等から、キャリア発達の実現状況を的確にとらえ、どのような能力や態度が身に付いたか、また児童・生徒個々の評価を踏まえて、その学習の内容や指導・支援の方法が適切であったかなどについて、学習効果と指導状況の両面から振り返り、点検・分析する機能がある。

また、次年度の活動に評価をいかす点では、年間計画の立案前に、前年度の指導内容・方法等を振り返り、点検することで、明確になった改善点を次年度に反映できるよう心掛け、カリキュラムのマネジメント・サイクルにおける評価(Check)→改善(Action)→計画(Plan)の一連の接続を念頭においた取組を目指す必要がある。

評価は、キャリア教育の活動における指導と支援の実践に、確実にいかされて真価を発揮するものである。それとともに、指導と支援の実現状況が、想定した児童像・生徒像と乖離していたり、結び付きが不明確である場合には、目標設定の在り方に課題を見いだす機能としても、評価は重要な役割を担っている。

(2) 評価を進める上での留意点

各学校でのキャリア教育の取組が計画に基づく実施の過程状況や事後状況を的確にとらえるものにするためには、評価の時期・場面・方法等を予め計画・準備しておく必要がある。キャリア教育における評価の特徴は、キャリア発達上の諸課題が個々のレベルでどの程度達成されたかを見取り、変容の状況をとらえるという点で、学期ごと、体験活動の実施後、年度末等、比較的長いスパンで評価の機会を設け、児童・生徒の内面の変化をもうかがい知れるような評価データを獲得していくことが望まれる。その蓄積により、全体的な学習効果の実態も把握できるものといえる。『キャリア教育報告書』には、児童・生徒のキャリア発達を的確に把握する上での評価の留意点として、次のような指摘がある。

子どもたち自身が自らを適切に評価しながら自己理解を深めていくのを支援することが重要である。そのために、自己評価カードを工夫したり、様々な活動を自己管理できるポートフォリオなどを活用しながら、継続的・統合的に自己の発達を評価できるような体制が重要である ※『キャリア教育報告書』 p18—19

次に、キャリア教育における評価の観点については、主に神谷孝男氏の整理を参考に紹介する。

(3) 指導計画レベルでの評価の観点

ア 全体計画についての評価

- 各学校での全体としてのキャリア教育の目標が、中央教育審議会の「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の答申（平成 11 年）や文部科学省の「児童・生徒の職業観・労働観を育む教育の推進について」（平成 16 年）等のねらいや趣旨等を踏まえ、適切に設定されているか。
- キャリア教育の目標を達成するための全体計画が、校内のキャリア教育推進担当者等を中心に、地域や学校の実態や児童・生徒のキャリア発達の状況を的確にとらえて、自校にふさわしいものとなるよう工夫して立案・作成されているか。

イ 特別活動での学級活動・ホームルーム活動における指導計画についての評価

- 特別活動での学級活動・ホームルーム活動での「希望や目標をもって生きる態度の形成」（小学校）、「将来の生き方と進路」（中・高等学校）、すなわちキャリアに関する指導計画が、各学年での目標に照らして適切な活動内容（題材等）を精選して立案し、作成されているか。
- 学級担任・ホームルーム担任が、学級・ホームルームの実態や児童・生徒のキャリア発達の実態を的確にとらえ、年間指導計画や 1 単位時間の指導計画を適切に立案・作成しているか。
- キャリア発達の課題や系統性を踏まえた指導内容が順序よく編成されているか。
- 授業時間数が指導内容に応じて適切に確保されているか。

ウ キャリア・カウンセリングの実実施計画についての評価

- すべての児童（主として高学年段階）・生徒を対象に、定期的実施するキャリア・カウンセリングの計画が、学級活動・ホームルーム活動で「希望や目標をもって生きる態度の形成」（小学校）、「将来の生き方と進路」（中・高等学校）に関する指導との関連のもとで、児童・生徒のキャリア発達の実態やキャリア教育過程などを考慮して立案・作成されているか。

エ 学校行事の「勤労生産・奉仕的行事」における啓発的な体験活動の実実施計画についての評価

- 学校行事の「勤労生産・奉仕的行事」において、「勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を涵養する体験」（小学校）、「勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる啓発的な体験」（中学校）、そして「勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」などの実施計画が、地域の実情や学校及び児童・生徒の実態などを考慮し、適切に立案・作成されているか。
- 家庭や地域の人々に、勤労に関する体験的な活動の重要性などを理解してもらうための機会や場を設けた実施計画が作成されているか。

オ 「総合的な学習の時間」における「自己の生き方（在り方—高等学校）を考える学習」や「体験的な学習」の年間指導計画についての評価

- キャリア教育の目標や「生き方（在り方）」の指導としての進路指導の目標を達成するために、ふさわしい学習内容を吟味・精選した「総合的な学習の時間」の年間指導計画が、学校の創意工夫をいかして立案・作成されているか。

カ 小・中学校での「道徳の時間」における「豊かな体験を通して児童・生徒の内面に根ざした道徳性の育成」の年間指導計画についての評価

- 道徳教育の目標や「豊かな体験を通して児童・生徒の内面に根ざした道徳性の育成」に向けて、ふさわしい学習内容を吟味・精選した「道徳の時間」の年間指導計画が、学校の創意工夫をいかして立案・作成されているか。

(4) 実施状況レベルでの評価の観点

ア 特別活動での学級活動・ホームルーム活動における指導過程についての評価

- 特別活動での学級活動・ホームルーム活動での「希望や目標をもって生きる態度の形成」(小学校)、「将来の生き方と進路」(中・高等学校)、すなわちキャリアに関する指導計画に基づき、活動内容(題材等)のねらいや本時の指導目標を達成するのにふさわしい資料等を活用し、指導方法等を工夫して、1単位時間の指導を行っているか。

イ キャリア・カウンセリングの実施状況についての評価

- 定期的なキャリア・カウンセリングのねらいや目的などを十分理解し、信頼に満ち、暖かく自由な雰囲気が持てる関係を形成し、児童・生徒の意見や希望をよく聞き、受容的・理解的な態度、誠実な態度で相談活動を展開できているか。

ウ 学校行事の「勤労生産・奉仕的行事」における啓発的な体験活動の実施状況についての評価

- 学校行事の「勤労生産・奉仕的行事」において、「勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動など社会奉仕の精神を涵養する体験」(小学校)、「勤労との尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる啓発的な体験」(中学校)、そして「勤労との尊さや創造することの喜びを体得し、職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験」などの活動が、家庭や地域の人々の理解と協力のもとで、計画的に実施されているか。

エ 「総合的な学習の時間」における「自己の生き方(在り方—高等学校)を考える学習」や「体験的な学習」の実施状況についての評価

- キャリア教育の目標や「生き方(在り方)」の指導としての進路指導の目標を達成するために、「総合的な学習の時間」の学習活動が、学校の創意工夫をいかし、家庭や地域の人々の協力を得ながら、計画的に実施されているか。

オ 小・中学校での「道徳の時間」における「豊かな体験を通して児童・生徒の内面に根ざした道徳性の育成」に向けた学習活動の実施状況についての評価

- 道徳教育の目標や「豊かな体験を通して児童・生徒の内面に根ざした道徳性の育成」に向けて、「道徳の時間」の学習活動が、学校の創意工夫をいかし、計画的に実施されているか。

カ 卒業生に対する追指導の実施状況についての評価

- 多様な進路状況の中で、中途退学やフリーターの増加や新規学校卒業者の早期職場離脱などの問題が深刻化している状況を踏まえ、卒業生に対する追指導が適切に行われているか。

(5) 児童・生徒のキャリア発達レベルでの評価の観点

ア キャリア教育、キャリア・ガイダンス、キャリア・カウンセリング等の成果についての評価

- キャリア教育の目標や活動のねらいがどの程度達成されたか。
- 各学級・各ホームルームの児童・生徒はどのようなキャリア発達や発達のな変化(変容)を遂げたか。

イ 児童・生徒のキャリア発達についての評価

- 自分の将来の生活や人生、人間としての在り方や生き方に興味を持っているか。
- 自分の将来の生活や人生、人間としての在り方や生き方を自分なりに考えているか。
- 自分の将来の生活や人生に対して夢や希望を持っているか。
- 自分の将来の生活や人生に対する夢や希望を実現するためのキャリア・プランニング(進路設計・将来設計・人生設計)が立てられているか。

- 自分の将来の生活や人生に対する夢や希望の実現に向けて、主体的・意欲的に生きようとしているか。
- 職業の意義や勤労の尊さを理解し、将来の職業生活や働くことに対して、関心や意欲を持っているか。
- 興味や関心を抱く職業や事業所等についての見学や調査・研究、勤労にかかわる体験的な学習を通して、望ましい職業観や勤労観を形成するとともに、職業に対する基礎的な知識や技能を身に付けているか。
- 職業や上級学校等を適切に選択する方法やプロセス、そして資料や情報の収集といか仕方について理解しているか。
- 自己の能力・適性等や個性について理解しようとしているか。
- 自分という人間について客観的にとらえ、多面的に考えることを通して、自己理解の重要性に気付いているか。
- 自己の職業や進路に関する考えや意見を適切に表現したり、伝え合うことができるか。
- 他者の考えや意見を理解し、尊重するとともに、相互にわかり合い、認め合うことの大切さを理解しているか。
- 自己の思いや意見を他者に適切に伝え、他者の意思等を的確に理解できるコミュニケーション能力が身に付いているか。
- 集団の中で自分の役割や責任を理解し、人間関係の大切さに気づき、いかそうとしているか。
- 学ぶことや働くことの意義や役割を、様々な活動や職場体験等を通して理解しているか。
- 自己の個性や適性の理解と職業・進路に関する知識・情報の理解とに基づいて、自己をいかせる職業や進路を自ら選択できる意欲、能力や態度が身に付いているか。
- 自己をいかせる職業に就くまでのプロセスを検討し、適切な進路計画が立案できるか。
- 進路計画を立案する過程で、上級学校への進学の意味を理解するとともに、高等学校や大学、専修学校等の教育内容や学校生活、卒業後の進路状況などについて理解しようとしているか。
- 自己の個性の理解と上級学校等に関する知識・情報の理解とに基づいて、自己をいかせる学校選択を自ら行えるか。
- 将来の職業や進路に関する夢や希望を抱いて、その実現に向けて主体的・意欲的に取り組み、生きようとしているか。
- 自己の進路希望や目標の達成に向けて、自覚と責任を持って取り組もうとしているか。

ここでは、児童・生徒のキャリア発達を想定した評価の観点のうち、神奈川県立総合教育センター「キャリア諸能力に関する校種別マトリクス」（5領域10能力）に基づき、主要なものを参考となるよう列記した。各学校では、実態に応じて作成したキャリア教育の目標や育みたい諸能力に基づき、児童・生徒の育ちの姿を明確にして、評価の観点を設定しておく必要がある。

(6) 校内組織・指導体制レベルでの評価の観点

- キャリア教育を推進する上での校内組織が、学校の規模や教職員の構成などを考慮し、適切に設置されているか。
- キャリア教育に関する校内研修会が場や機会を設定し、計画的に運営されているか。
- 校内研修・研究を通して、全教職員がキャリア教育に関する理解を深め、学校内外との連携・協働に基づく推進が図れる指導体制を確立しているか。

キャリア教育の評価は、あらゆる教育的な評価と共通するように、この教育活動を通して、児童・生徒に何を育み、具体的にどのような能力を身に付けようとしているのかを、学校・教職員が共通で認識し、明確な観点を持って実践し、また改善を図る指標として、重要な機能である。

情報編



8 キャリア教育カリキュラムの例示紹介

クイック・マスター8

各学校がキャリア教育のねらいや観点等を踏まえて、児童・生徒一人ひとりに応じたキャリア（職業的・進路的）発達を促す実践的な取組を目指すには、学校全体で意図的、計画的、組織的な指導や支援を図るためのカリキュラムを開発する必要がある。

教科等領域など学校での教育活動全体を視野に入れたキャリア教育のカリキュラム開発に向けては、各学校段階でのキャリア発達の課題を踏まえ、モデルとなる例示を参考にして、児童・生徒の実態や地域の特性を考慮し、各学校が創意工夫をいかした全体計画や単元レベルでの指導計画を作成し、実践することが求められる。

文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』には、「キャリア教育を推進するための条件整備」の一つとして、「学校のカリキュラム開発能力の向上」が指摘されている。「総合的な学習の時間」の創設以来、各学校では児童・生徒の実態に応じて、学習のねらいや趣旨を踏まえ、目標や内容からカリキュラムを開発してきた。その経験をいかし、キャリア教育の観点で学校全体の教育活動を包括するカリキュラムづくりにチャレンジすることが望まれる。

そこで、小学校から高等学校までの各学校段階におけるキャリア教育カリキュラムの特徴を説明し、各学校での取組の参考となる全体計画及び単元計画等を例示として紹介する。

なお、すべての例示は、神奈川県立総合教育センター「キャリア諸能力に関する校種別マトリクス」（p16-17 参照）の5領域10能力の学習プログラムに基づいて開発したものである。

〈各学校段階のキャリア教育カリキュラムの例示紹介一覧〉

小学校キャリア教育カリキュラム

- 小学校におけるキャリア教育の展開
- 例示1：小学校キャリア教育カリキュラムの全体計画
- 例示2：複数の教科等領域の学習内容を横断的・総合的にいかしたキャリア教育の単元計画
- 例示3：道徳の時間をいかしたキャリア教育の指導計画
- 例示4：教科の学習内容をいかしたキャリア教育の単元計画

中学校キャリア教育カリキュラム

- 中学校におけるキャリア教育の展開について
- 例示1：中学校（二学期制）キャリア教育カリキュラムの単元計画
- 例示2：中学校（二学期制）1年生「職業調べ」の単元をいかしたキャリア教育の指導計画
- 例示3：中学校（三学期制）キャリア教育カリキュラムの単元計画
- 例示4：中学校（三学期制）2年生「職業体験」の単元をいかしたキャリア教育の指導計画

高等学校キャリア教育カリキュラム

- 高等学校におけるキャリア教育の展開について
- 例示1：高等学校における「総合的な学習の時間」と特別活動を核としたキャリア教育の全体計画と進路適性の理解に関する指導計画
- 例示2：高等学校1年生「ジョブ・シャドウイング」の単元計画
- 例示3：教科「福祉」をいかしたキャリア教育の単元計画
- 例示4：高大連携を展望したキャリア教育の指導計画

小学校におけるキャリア教育の展開

(1) 小学校におけるキャリア教育

小学校段階は、児童一人ひとりが自分自身の将来に「夢を抱く」・「目標を見つける」・「希望を持つ」・「様々な生き方について知る」など、未来に向けて力強く歩み出す、まさにキャリア教育の第一ステージである。また、小・中・高と一貫したキャリア教育を展開する上で、最初に位置する大切な段階でもある。今日では、小学校卒業時になると、中学校への進学をめぐり、学校選択制を導入する地域での中学校選択や中高一貫校への希望など、児童・保護者が多様な進路選択に直面している状況がある。それらを勘案すると、学校全体でキャリア教育の観点から教育活動を見直し、児童一人ひとりに適切な進路への対応や手立てがとれるような改善を図っていく必要があるといえる。教科等指導において個に応じた確かな学力の定着に向けた6年間の取組は、児童理解を基本に、児童一人ひとりの個性をどのようにいかすか、個々に応じた進路について適切な支援を施せるかという、生きる力の育成へと結び付ける大きな目標達成を目指したものである。また、学びと生き方の接続・一体化という視点から、小学校段階から意図的・計画的に実践され、中学校・高等学校のキャリア教育へと受け継がれることが、望ましい職業観・勤労観の育成に向けたキャリア発達を促す根本的な在り方といえる。

実際、小学校段階では、キャリア発達上「進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期」という段階にあるため、日頃の学校生活の中で、子どもたちが学級内で取り組んでいる当番や係活動、さらには児童会活動等を通して、集団の中で自己の役割や人とのかかわり方などを学びながら、組織づくりや仕事分担の方法、その具体的な取組方など、実践に向き合うことで生活上の諸課題の解決を図り、キャリア教育が求める諸能力を育成していくことにある。

そこで、小学校でのこれまでの教科、特別活動、道徳、「総合的な学習の時間」の4領域での取組を、キャリア教育の観点でとらえ直すことで、それらの領域の中で発達段階に応じた進路や生き方にかかわる諸能力の育成と関連付けが図れる学習内容を見出し、ねらいを確認することで、キャリア教育のカリキュラムとして開発していくことが求められる。

小学校段階でのキャリア教育が目指す発達課題には、次の四つの観点が指摘されている。

- ① 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- ② 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- ③ 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- ④ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」より)

これらの課題は、職業的・進路的な発達にかかわるキャリア教育で育成される諸能力を整理した上で、実際には、学習指導要領に示された4領域のねらい、内容、配慮事項のうちで、キャリア教育に関係する事項と結び付け、教科等領域での実践指導を通して、併せてキャリア教育での発達課題の達成をも目指していくものである。このことから、キャリア教育カリキュラムは、キャリア発達にかかわる育みたい諸能力に即した学習事項を整理し、内容のまとまりをつくり、学年ごとに系統性のあるキャリア教育の単元を構成するとともに、各単元でのねらいを明確にして実践的で効果的な指導や評価が図れるものとして開発される必要がある。


学習指導要領に示された内容で、キャリア教育と関係のある事項を、4領域ごとに整理したものが、次の表である。

特 【学級活動】

別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理などの活動 ・希望や目標をもって生きる態度の形成、基本的な生活習慣の形成、望ましい人間関係の育成、心身ともに健康で安全な生活態度の形成などの活動 <p>【児童会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実と向上のための協力などの活動 <p>【学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤労生産・奉仕的行事における勤労・生産体験やボランティア活動など
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの大切さを知り、進んで働くこと ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをすること
総合学的な時間	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えること ・ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動などの体験的な学習
各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や家庭科における家庭での仕事の理解と役割分担に関する学習 ・社会科における地域の人々の生産や販売、我が国の産業について調査・見学や資料を活用した調べ学習など ・学習課題や活動の選択、自らの将来について考えたりする機会の設定

(文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』より)

小学校段階におけるキャリア教育の内容・方法、それに重視される体験活動をまとめると次のようになる(仙崎武編『キャリア教育読本』p27-28参照)。

内容・方法	重視される体験活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科等での学習を通して、学校を取りまく地域の産業や職業についての基礎的な知識を獲得させるとともに、産業・職業と毎日の生活とのかかわりについて考えさせる。 ○ 道徳での学習を通して、身近な大人の働く姿に接することなどを体験することで、働くことの意義や大切さ、尊さなどに気付かせる。 ○ 学級での係活動を通して、当番活動との違いを自覚させ、自らの学級での役割や友達と一緒に協力して取り組む意欲や態度を育てるとともに、楽しい学級づくりに向けた自主的な活動を促し、人の役に立っているという自己有用感にも気付かせる。 ○ 学校や家庭・地域での学習や体験活動などで、その一員としての役割を果たすことにより、自分自身の良さや得意な分野に気づき、また毎日の生活の場面で自分をいかそうとする意欲・態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域にある職場の見学や保護者あるいは身近な大人の働く姿に接する体験活動(ジョブ・シャドウイング)を展開する。 ○ 学校や家庭・地域における様々な場面で、係活動などを通して役割を体験させる。 

キャリア教育は、普段の学校での学習や生活の中で、生きる力の育成に向けた生き方についての実践的な教育活動である。小学校1年生の段階から、自分の良さに気付かせたり、自分の将来について夢や希望を抱かせるなどの進路指導的な取組は、適切な児童理解を図るとともに、そして今日求められているキャリア教育を導入する上で、大切なアプローチである。

例示1：小学校キャリア教育カリキュラムの全体計画

本例示は、児童の発達を踏まえ、低・中・高の三つの学年のまとまりの中でそれぞれのキャリア教育の目標を定めるとともに、小学校6年間の教科等領域の学習事項について、キャリア教育の観点との関連付けが図れるものを検討した。その結果、キャリア教育として内容のまとまりを形成し、関連付けが図れた学習事項を単元として包括し、5領域10能力の学習プログラムに基づく系統性のあるキャリア教育カリキュラムを開発したもので、次に示すのがその全体計画である。

○ キャリア教育で育む諸能力（5領域10能力）

自己教育能力	自己理解能力	①
	自己表現能力	②
人間関係能力	他者理解能力	③
	コミュニケーション能力	④
情報活用能力	情報収集・活用能力	⑤
	職業理解能力	⑥
将来設計能力	役割把握・認識能力	⑦
	計画実行能力	⑧
意思決定能力	選択・決定能力	⑨
	課題解決能力	⑩

○ キャリア教育カリキュラム（例示案）

※表中の能力欄は上記の表に対応し、領域欄の数字は配当時間数を示す。

校種	小学校								
目標	1 様々な体験学習や人との出会いなどを通して、自分の好きなもの、興味のあるものを探がしながら、自分を見つめる。 2 グループ活動をはじめ、集団の中で努力したり協力したりすることにより、自他ともにいかされている共同のすばらしさを体感する。 3 職業や「働くこと」について、体験学習などをいかして自ら考える。								
学年	1・2年（低学年）			3・4年（中学年）			5・6年（高学年）		
テーマ	自分や友だちを好きになろう			わたしたちのまちを見直そう			広い世界に目を向けよう		
学年目標	初めての体験や創意工夫した活動、他者とのふれあいを通して、好きなことを見つけたり、新しい力を身に付けていく。			自分のまちを再確認して、まちで暮らす人々や働く人々の姿から、いろいろな仕事をしていることや働くことの大切さに気付く。			国内、世界に視野を広げて、みんなが互いにかかわり合い、影響し合っていることに気づき、新しい世界を広げていこうとする。		
過程	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域
学年と単元構成	みんななかよし（1年）（11時間） 1年生になったよ ・自己紹介ゲーム ・生活のルールを知ろう 「たのしいがっこう」 「チャイムがなりました」 2年生と学校たんけん	②④ ⑨	生活 2 道徳 2	大好きわたしたちのまち（3年）（26時間） レッツゴーまちたんけん ・屋上から見たまち ・私のお気に入りの場所の紹介 ・まちたんけん ・発見、まちのいいところ ・くわしく調べたいところを決める	②④ ⑤⑩	社会 9	食料生産を支える人たち（5年）（33時間） 稲作にはげむ人々 ・米について調べる ・お米ができるまで ・農業の人々の仕事と工夫・苦勞 稲作りをしよう ・米についてくわしく調べる ・田植えから収穫まで（観察しながら育てる）	⑤⑦ ⑤⑥ ⑩	社会 8 総合 23

過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
学 年 と 単 元 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校たんけんの準備 ・学校たんけん たんけんしたよみつけたよ <ul style="list-style-type: none"> ・たんけんで見つけたことを文字や絵で表現する ・発表の練習 ・発表会 がっこうたんけんで <ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった2年生へのお礼のお手紙 	④⑧	生活 3	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで調べに行く計画を立てる ・たんけんたい出発人とともに生きる ・礼儀について考える レッツゴーまちたんけん <ul style="list-style-type: none"> ・たんけんたい出発 ・まちたんけんの発表会 ・発表準備 ・発表会 お礼のお手紙を書こう	④ ④⑤ ②④ ⑤⑩ ⑧	総合 7 道徳 1 総合 9	収穫を祝おう <ul style="list-style-type: none"> ・米を使った調理を行い、食べる 工業生産を支える人々(5年) (15時間) 自動車作りにはげむ人々 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車工場の様子 ・自動車が出るまで ・働く人々の仕事と工夫・苦勞 ・部品はどこから ・工場の役わり 	④	家庭 2
	だいすきだよ (1年) (12時間) うちでこんなことしたよ <ul style="list-style-type: none"> ・家族でした楽しかったことなどの紹介 ・自分にもできる家での仕事調べ しごめいじんだよ <ul style="list-style-type: none"> ・家での仕事調べで発見したことを紹介 ・仕事について友だちに紹介する準備 ・紹介する もっとできるかな <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができそうな仕事や活動を決める ・自分でやった仕事や活動の報告会 	①⑤ ②⑤ ①② ⑦	生活 2 生活 4 生活 3	まちのお店ではたらく人々(3年) (29時間) お店を調べに行こう <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの見学計画 ・スーパーの見学 ・調べたことをまとめる まちではたらく人々 <ul style="list-style-type: none"> ・調べたい店の見学課題を決める ・お店の見学計画 ・お店の見学 わたしたちにもできる <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの大切さを知り、進んで働こうとする気持ち育てる 	④⑤ ⑧ ③⑥ ④⑦ ②③ ②③ ④⑥	社会 7 総合 7 道徳 1	自動車工場の見学 <ul style="list-style-type: none"> ・見学計画 ・見学 ・まとめ これからの自動車を考えよう 働くってどういうこと? <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知り、役に立とうとする 	⑥⑦ ⑩ ⑦	総合 5 社会 3 道徳 1
	きょうから2年生 (2年) (11時間) 1年生と学校たんけん <ul style="list-style-type: none"> ・たんけん活動計画 ・紙芝居で説明 ・たんけん活動 ・まとめ だってお兄ちゃんだもん <ul style="list-style-type: none"> ・家族に対して感謝し、役に立とうとする 1年生へプレゼント	④⑩ ③ ④⑩	生活 8 道徳 1 図工 2	お店調べの発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・発表会準備 ・発表会 お礼のお手紙を書こう 係の仕事を見直そう 地域の中でもできること	②④ ⑤⑩ ⑤ ④⑩	総合 12 特活 2	世界に広く目を向けて (6年) (31時間) 身の回りの外国について調べてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習の計画 ・調べ活動とまとめ (夏休み中の課題) レポート発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・発表会 ゲストティーチャーに学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・外国で育ったお友達 ・日本で働く外国の方 ・英語にチャレンジ ・平和な世界を 研究を深めよう <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習 ・情報交換 ・研究のまとめ ・研究発表会 	⑤⑩ ②③	社会 2 総合 29
	友だちの輪を広げよう (2年) (30時間) つくろうあそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの計画 ・自分達で作れるおもちゃを考える ・おもちゃを作って、遊ぶ ・みんなにも遊んでもらうお店を考える ・お店の準備 ・お店を開く 郵便局をひらこう <ul style="list-style-type: none"> ・手紙をもらった時の気持ちを考える 	④⑧ ⑩ ⑤⑦ ⑧	生活 18 国語 2	まちの安全・健康な暮らしを守る人々 (4年) (27時間) 消防施設を調べよう <ul style="list-style-type: none"> ・消防施設の役割 ・学校の消防施設を調べる ・まちの消防施設を調べる 消防署を見学しよう <ul style="list-style-type: none"> ・消防署の仕事 ・見学計画 ・見学 ごみを調べよう <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの出すごみ ・ごみのゆくえ ・ごみをへらすには ごみを資源に <ul style="list-style-type: none"> ・清掃工場の仕事 ・見学計画 ・見学 ・見学のまとめ 安全で健康なまちづくり	④⑩ ⑤⑥ ②⑤ ⑤⑥	社会 6 総合 5 社会 6 総合 10	未来にはばたこう (6年) (28時間) 自分への手紙 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性や長所を知り、よりよく伸ばそうとする 自分の成長をふりかえろう <ul style="list-style-type: none"> ・6年間を振り返り作文を書く 先輩に学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の話 ・中学校生徒会の学校説明会 ・中学校訪問 	①⑩ ①⑧ ⑤⑧	道徳 1 総合 7

過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
学年と単元構成	<ul style="list-style-type: none"> 正しい手紙の書き方を知る 郵便局の仕事 郵便局をひらく計画 郵便局の準備 郵便局をひらく(休み時間) まとめ 家族やお世話になった人に手紙を出そう 	⑤⑦ ⑧	生活 9	くりを考えよう ⑦			感謝の気持ちを届けよう <ul style="list-style-type: none"> 学校の清掃 会食会 	④	道徳 1
	<ul style="list-style-type: none"> 雨の日のそくたつ 自分たちのために働いてくれている人々に感謝する 	③⑤	道徳 1	十才を祝おう (4年) (15時間) 成長を思い起こそう <ul style="list-style-type: none"> 自分の歴史をふりかえり、今の自分を見つめる これからの私 <ul style="list-style-type: none"> じぶんの夢や望みについて考える 二分の一人成人式の計画を立てよう <ul style="list-style-type: none"> 式の内容を決め、係分担を行う スピーチをするテーマを決める 	①③ ⑧ ④⑧	国語 15	学習のまとめをしよう <ul style="list-style-type: none"> 今までがんばったことをふりかえり、自分が発表することを決める 発表会の準備を行う 発表会 卒業式で自分を表現しよう <ul style="list-style-type: none"> 心を合わせて歌う 自分の思いを発表する ぼくの進む道 <ul style="list-style-type: none"> 将来に対する希望や夢を持ち、努力する 	①⑩ ②⑩ ②⑩	家庭 3 総合 15 道徳 1
構成	楽しかったよ2年生 (2年) (11時間) わたしのアルバムをつくらう <ul style="list-style-type: none"> うちの人に話を聞く 今までをふりかえって成長の様子を書く 将来の夢を書く アルバムを作る 見せ合う 	②③	生活 9	二分の一人成人式の準備をしよう <ul style="list-style-type: none"> スピーチの原稿作り スピーチの練習 式の準備 二分の一人成人式をしよう ④⑧	①② ④				
	赤ちゃんが生まれるまで 作品アルバム作り ぼく <ul style="list-style-type: none"> 生命を大切にしようとする 	③ ⑩ ①③	体育 1 図工 2 道徳 1						

例示2：複数の教科等領域の学習内容を横断的・総合的にいかした

キャリア教育の単元計画

本単元は、3年生の社会科でまちたんけんを行い、自然や施設の様子、まちで生活する人々の様子などをとらえた後、さらに「総合的な学習の時間」で、発展的に地域を調べていく学習例示である。

ここでは、児童の興味・関心に基づき、自分たちのまちを詳しく調べることにより、地域を見つめながら働く人や仕事と向き合い、自分たちの暮らしを見つめ直すことができると考えた。調べる活動や体験活動などを通して、多くの人々とふれあい、様々な発見や気づきがあると同時に、人々の願いや苦勞、働くことの喜びややりがいを感じ取ることができる。活動の後、自分たちが調べたことをまとめ、発表会を行う。地域に出かけ、調べ、まとめて発表するという学習の流れは、キャリア教育の「職業に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用する」という情報収集・活用能力を培うのに適している。そして、発表会でそれぞれの情報交換をすることは、児童一人ひとりが、いろいろな職業や生き方があることに気づき、地域への関心を深め、地域の一員として自分はこれからどのようにしてこのまちで生きていくのかと、「自己の進路や生き方を考えていく能力」を養うよい機会になるといえる。

本単元では、調べたい場所や調べたいことについて、自分の考えをしっかりと持ち、グループの

友だちと協力して、計画に基づく調べ学習を行い、取り組んだ内容をまとめ、発表する活動を通して、キャリア教育にかかる4領域5能力を育てることができると考えた。

小学校キャリア教育カリキュラム（3年生の単元例示）

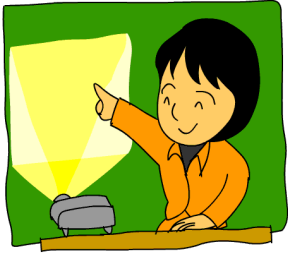
- 1 キャリア教育の単元名
「大好きわたしたちのまち」（3年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
<p>(社会科)</p> <p>○自分たちの地域の特色ある地形・土地利用、主な公共施設、交通の様子などを調べる活動を通して、地域のくらしが、自然環境や社会環境と深く関わりを持っていることをとらえさせ、地域の一員としての自覚を持つようにする。</p> <p>(道徳)</p> <p>○礼儀の大切さを知り、だれに対してもまごころをもって接する。</p> <p>(「総合的な学習の時間」)</p> <p>○自分の住んでいるまちに興味を持ち、友だちと協力しながら、進んで調べることができる。</p> <p>○自分の住んでいるまちの良さに気づき、愛着を持つことができる。</p>	<p>自己教育能力</p> <p>○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力)</p> <p>人間関係能力</p> <p>○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)</p> <p>○思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動する。(コミュニケーション能力)</p> <p>○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力)</p> <p>情報活用能力</p> <p>○いろいろな職業や生き方があることがわかる。(情報収集・活用能力)</p> <p>意思決定能力</p> <p>○自分の力で課題を解決しようと努力する。(課題解決能力)</p>

3 キャリア教育の単元計画

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一次(14時間扱い)	社会	<p>「レッツゴーまちたんけん」</p> <p>・屋上からまちを見下ろし、おおよそのまちの様子をつかむ。</p> <p>・自分が気に入っている場所を紹介しあう。</p> <p>・みんなでまちたんけん</p>	<p>・高いところからという日頃とは違った視点でまちを見させ、自分のまちに興味を持たせる。</p> <p>・安全に気を付けるよう注意を促す。</p> <p>・今までの自分の生活を思い起こさせる。</p> <p>・事前に見てくる</p>	<p>自己教育能力</p> <p>○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力)</p> <p>人間関係能力</p> <p>○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)</p> <p>情報活用能力</p> <p>○いろいろな職業や生き方があることがわかる。(情報収集・活用能力)</p>	<p>学習観察 活動ノート</p> <p>記録カード 学習観察 行動観察</p>

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
		<p>に出かけ、まちの様子などを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たんけんして気付いたことなどをまとめ、発表しあう。 ・くわしく調べたいところを決める。 ・グループで調べる計画を立てる。 	<p>視点についてはっきりさせ、町の様子や暮らしている人々の姿をとらえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の様子のとらえから、気付いたこと、調べたいことを記録させ、問題意識を持たせる。 ・一人ひとりに興味・関心を持った課題を見つけさせる。 ・同じような興味・関心を持ったもの同士でグループを作り、調べたいことを話し合わせる ・一人ひとりの思いを大切にしながら話し合うように助言する。 	<p>キャリア教育で育む諸能力</p> <p>意思決定能力</p> <p>○自分の力で課題を解決しようと努力する。(課題解決能力)</p>	<p>記録カード 学習観察</p> <p>記録ノート 学習観察</p> <p>計画表 学習観察</p>
第二次 (1時間扱い)	道徳	<p>「人とともに生きる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『心のノート』p38-41を使い、礼儀について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学時のあいさつやインタビューの仕方を練習し、人と接する時の礼儀やマナーを考えさせる。 	<p>人間関係能力</p> <p>○思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動する。(コミュニケーション能力)</p>	学習観察 心のノート
第三次 (2時間扱い)	総合	<p>「レッツゴーまちたんけん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して、たんけんに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの人々とのふれ合いを大切にしながら、自分達が立てた課題を解決できるように、事前指導でめあてを押さえさせる。 	<p>人間関係能力</p> <p>○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)</p> <p>情報活用能力</p> <p>○いろいろな職業や生き方がわかる。(情報収集・活用能力)</p>	学習観察 記録ノート
第四次 (8)	総合	<p>「まちたんけんの発表会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたことをまと 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の学習「知 	<p>人間関係能力</p> <p>○友達と協力して、</p>	

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
時間 扱い)		め、グループで発表の仕方を考え、準備を行う。 ・発表会を行う。	らせたいことをわかりやすく書こう」を参考にとらえさせる。 ・わかりやすく伝えるための表現方法や工夫の仕方を助言する。 ・他のグループの発表を聞いて、まちなや人々の様子がとらえられるようにする。 ・質問や感想が述べられるようなプリントを用意し、表現させる。	学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力) 意思決定能力 ○自分の力で課題を解決しようと努力する。(課題解決能力) 自己教育能力 ○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力) 情報活用能力 ○いろいろな職業や生き方がわかる。(情報収集・活用能力)	作文 学習観察 学習観察 感想記録 プリント
第五 次 (1 時間 扱い)	総合	「お礼の手紙をかこう」 ・たんけんでお世話になった人々に感謝の気持ちを手紙で表す。	・自分の気持ちが伝わるように、自分の言葉で表現させる。	人間関係能力 ○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力)	手紙

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力 人間関係能力	○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力) ○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力) ○思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動する。(コミュニケーション能力)
情報活用能力	○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力) ○いろいろな職業や生き方がわかる。(情報収集・活用能力)
意思決定能力	○自分の力で課題を解決しようと努力する。(課題解決能力)

例示3：道徳の時間をいかしたキャリア教育の指導計画

本指導計画は、3年生の単元「まちのお店ではたらく人々」において、社会科・特別活動・「総合的な学習の時間」の各領域を連関させていかし、お店を調べ、地域で働く人々について見学等の活動を通して、学級での係の仕事を見直したり、地域での生活をよりよいものにするを考えさせる中で、道徳の時間を活用し、主題「わたしたちにもできる」(資料として文部省『道徳教育推進指導資料』所収「小さなげき場」を活用)の学習を行い、働くことの大切さを知り、進ん

で働こうとする気持ちを育てることをねらいにした展開を学習例示したものである。

この時間では、資料を通して、これまでの経験をもとに働くことについて自ら考え、多くの人々とかかわりあっていることや自分のしていることが他者のために役立っていることを、グループでの話し合い活動等を通して気付くことをねらうとともに、キャリア発達にかかわる5領域5能力の育成を目指した。

小学校キャリア教育カリキュラム（3年生の単元例示）

- 1 キャリア教育の単元名
「まちのお店ではたらく人々」（3年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
<p>(社会科) ○地域の生産や販売に関する仕事について見学したり調査したりする調べ学習を通して、仕事の特色や携わっている人々の工夫を理解し、それらが自分たちの生活を支えていることと関連付けて考える力を育てる。</p> <p>(道徳) ○働くことの大切さを知り、進んで働こうとする気持ちを育てる。</p> <p>(特別活動) ○係活動やボランティア活動等を通して、勤労の価値や必要性を体得できるようにするとともに、進んで他に奉仕しようとする態度を育てる。</p> <p>(「総合的な学習の時間」) ○生活を支えている地域の産業や販売、それに携わる人々について関心を持ち、自分の将来の夢（職業）と関連付けて考えることができるようにする。</p>	<p>自己教育能力 ○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力)</p> <p>人間関係能力 ○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力)</p> <p>情報活用能力 ○いろいろな職業や生き方があることがわかる。(情報収集・活用能力) ○係や当番活動に積極的にかかわる。(職業理解能力)</p> <p>将来設計能力 ○日常の生活や学習と、将来の生き方との関係に気付く。(役割把握・認識能力) ○将来の夢や希望を持つ。(計画実行能力)</p> <p>意思決定能力 ○自分の仕事に責任を感じ、最後までやり通そうとする。(課題解決能力) ○自分の力で課題を解決しようと努力する。(課題解決能力)</p>

3 キャリア教育の単元計画

教科	道徳	特別活動	「総合的な学習の時間」
○社会科 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚を持つようにする。	○主として集団や社会とのかかわりに関すること。	○学級活動 学級や学校の生活の充実と向上に関すること。 ○学校行事 勤労生産・奉仕的行事。	○学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

- 4 キャリア教育を踏まえた道徳の展開
○主題名 「わたしたちにもできる」

- ねらい 働くことの大切さを知り、進んで働こうとする気持ちを育てる。4－(2)
 ○資料名 「小さなげき場」 (平成6年3月 文部省 道徳教育推進指導資料)
 ○展開例

過程	学習活動	指導と支援	『心のノート』活用例及び各領域との関連	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	○学校での係活動や家庭でのお手伝いなどの経験をもとに、そのときの気持ちについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に働くということについて考える時間を設定する。 ・大変だったことや喜ばれたことなど、感想や考えたことなどを発表しやすいよう具体的な場面を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や特別活動の時間に、『心のノート』p70を活用し、問題意識を持たせたり、p71の挿絵を参考にして自分のしている係活動等の勤労の価値に気付かせたりする。 	キャリア教育で育む諸能力 自己教育能力 ○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力)	学習観察
展開	○資料「小さなげき場」を読んで話し合う。 ○おじさんは、運転手の仕事のほかにどうして働くのでしょうか。 ○おじさんの悩みを知った二人はどんなことを思いましたか。 ○指人形の練習をしているときの二人はどんな様子だったでしょう。 ○「吉四六さん」の指人形劇を終えた時の二人はどんな気持ちだったでしょう。 ○働くとはどういうことか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動をしている身近な方の例をあげながら、おじさんの気持ちを考えられるようにする。 ・おじさんを助けたいという気持ちや練習の大変さなどをおさえながら、劇を終えた時の二人の気持ちを考えられるようにする。 ・働くことはいろいろな人々とかかわり合っていることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や「総合的な学習の時間」の地域学習と関連させる。 ・p70・71の挿絵を参考にして自分のしている係活動等の勤労の価値に気付かせる。 ※『心のノート』をこの時点で活用することも考えられる。 	情報活用能力 ○いろいろな職業や生き方がわかる。(情報収集・活用能力) 人間関係能力 ○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力) 将来設計能力 ○日常の生活や学習と、将来の生き方との関係に気付く。(役割把握・認識能力)	学習観察 活動ノート
まとめ	○他学年の児童や保護者、又は地域の方からの感謝の手紙を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしていることが役立っていることに気付かせる。 ・手紙は事前に依頼し、協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後日p72・73に記入する時間を設定し、日常生活との関連を図るとともに、児童の変容をとらえる資料としても活用する。 	意思決定能力 ○自分の仕事に責任を感じ、最後までやり通そうとする。(課題解決能力)	学習観察

5 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 (自己表現能力)
人間関係能力	○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力)
情報活用能力	○いろいろな職業や生き方がることがわかる。 (情報収集・活用能力)
将来設計能力	○日常の生活や学習と、将来の生き方との関係に気付く。 (役割把握・認識能力)
意思決定能力	○自分の仕事に責任を感じ、最後までやり通そうとする。 (課題解決能力)

例示4：教科の学習内容をいかしたキャリア教育の単元計画

本単元は、4年生の国語科「十才を祝おう」の単元をいかして、成人式の半分である「二分の一成人式」を行うことで、自分のこれまでの生き方や今後の生き方を見つめ、考えるという学習例示である。道徳や「総合的な学習の時間」などとの関係付けも図れるが、教科の学習内容に基づくキャリア教育カリキュラムの単元計画の例示とした。この単元での教科国語の学習目標に照らし、キャリア発達にかかわる自己教育能力、人間関係能力、将来設計能力の3能力領域の育成を意識して取り組むことを重視した。

まず、自分が生きてきた10年間の出来事や成長の様子を周囲の人々から聞き、自分の成長過程を振り返り、実感する。10年の歩みのすばらしさなどを、児童一人ひとりが心から感じ取り、「自分の生活を支えてくれている人に感謝の気持ちを持つ」指導や支援により、他者理解能力の育成を想定した。次に、今の自分をよく見つめ、将来の自分についての夢や希望を持って意識的に考え、スピーチという形で表現し合うことにした。このことは、日々の生活とこれからの自分の生き方を関連付けるよいきっかけとなり、よりよく生きようとする意欲につながり、キャリア発達にかかわる計画実行能力が培われると考えた。自分の意思表示の場を「二分の一成人式」として設定することで、児童がより目的意識と意欲を抱いてこれからの生活を送っていくものと考えた。


さらに、一つの行事を自分たちの手で作り出すという体験は、この時期の児童の人間関係を豊かにする上で有意義でもあり、コミュニケーション能力の育成が図られるものと考えた。

小学校キャリア教育カリキュラム（4年生の単元例示）

- 1 キャリア教育の単元名
「十才を祝おう」（4年生）

- 2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
(国語) ○10才を祝う発表会の計画を話し合い、実行する。 ○発表会で、自分の思いや願いを込めたスピーチをする。	自己教育能力 ○自分のよいところを見つける。 (自己理解能力) ○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力) 人間関係能力

	<p>○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力)</p> <p>○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)</p> <p>○友達の気持ちや考えを理解しようとする。(コミュニケーション能力)</p> <p>将来設計能力</p> <p>○将来の夢や希望を持つ。(計画実行能力)</p> <p>○計画づくりの必要性に気付き、作業の手順がわかる。(計画実行能力)</p>
---	---

3 キャリア教育の単元計画

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一 次(2 時間 扱い)	国語	<p>「成長を思い起こそう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の歴史を振り返り、成長の様子を表にまとめる。 家族や自らの成長にとってお世話になった人などに聞き取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読ませた後、10年間の重みや成長できたことのすばらしさを実感できるように、時間の流れ、人とのかかわり、能力の進歩などいろいろの側面から振り返えらせる。 聞き取り調査に当たっては、家庭環境などに配慮し、個別の指導を心掛ける。 	<p>自己教育能力</p> <p>○自分のよいところを見つける。(自己理解能力)</p> <p>人間関係能力</p> <p>○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力)</p>	学習観察 記録プリント
第二 次(2 時間 扱い)	国語	<p>「これからの私」</p> <ul style="list-style-type: none"> これからの自分について考え、夢や望みを所定のカードに表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 所定のカードの表面に文章表記させ、裏面にはイラスト等を描かせて関心を高める。 	<p>将来設計能力</p> <p>○将来の夢や希望を持つ。(計画実行能力)</p>	学習観察 記録ノート カード
第三 次(4 時間 扱い)	国語	<p>「二分の一の成人式の計画を立てよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方など式の内容を話し合い決める。 必要な係を決め仕事を分担する。 スピーチのテーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が目的意識と意欲が待てるように生き生きと話し合いに参加できるようにする。 自分の思いを無理なく表現できるようなテーマ決定を促す。 	<p>将来設計能力</p> <p>○計画づくりの必要性に気付き、作業の手順がわかる。(計画実行能力)</p> <p>人間関係能力</p> <p>○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)</p>	学習観察 学習観察 計画表 学習観察
第四 次(5 時間)	国語	<p>「二分の一成人式の準備をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなに伝えたい 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に伝わるよう 	<p>自己教育能力</p> <p>○自分のよいところを見つける。(自己</p>	スピーチ

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
扱 い)		ことを考え、スピーチの原稿を作る。 ・スピーチの練習をする。 ・係ごとに必要な物を作り、式の準備をする。	に、また時間内に発表できるように構成を工夫させる。 ・友だち同士聞き合いながら練習させる。 ・一人ひとり主体的に準備していくよう机間指導・支援に取り組む。	理解能力) ○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力) 人間関係能力 ○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)	原稿 学習観察 学習観察 学習観察
第 五 次 (2 時 間 扱 い)	国語	「二分の一成人式をしよう」 ・式を行い、お互いの成長を祝う。	・発表者の思いが伝わり、理解できるよう、雰囲気など場づくりに配慮する。 ・式を振り返り、これからの生き方を考えさせる。	将来設計能力 ○将来の夢や希望を持つ。(計画実行能力) 人間関係能力 ○友達の気持ちや考えを理解しようとする。(コミュニケーション能力)	学習観察 ふりかえりシート

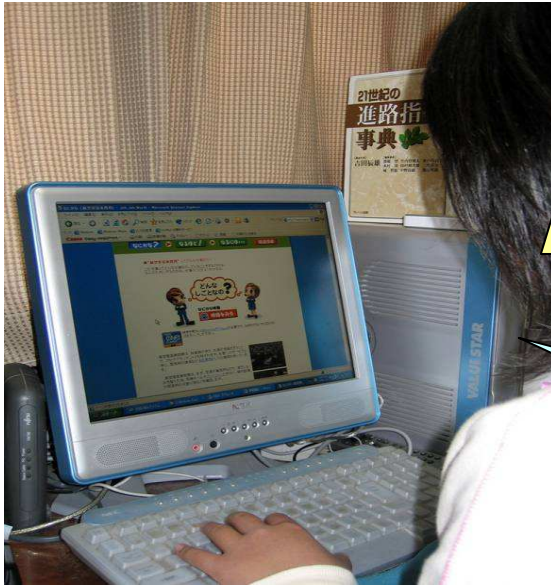
4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○自分のよいところを見つける。(自己理解能力) ○自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。(自己表現能力)
人間関係能力	○自分の生活を支えている人に感謝する。(他者理解能力) ○友達と協力して、学習や活動に取り組む。(コミュニケーション能力)
将来設計能力	○友達の気持ちや考えを理解しようとする。(コミュニケーション能力) ○将来の夢や希望を持つ。(計画実行能力) ○計画づくりの必要性に気付き、作業の手順がわかる。(計画実行能力)

小学校段階では、日々の学校や学級での生活の中で、キャリア発達を促す諸活動が多く見いだせる。児童が公平に分担された仕事を順番等に従って必ず取り組む当番活動、自分たちの学級をよりよく楽しくするための児童の自主的な活動である係活動、そして全校規模での児童の自発的・自治的な取組である児童会活動など、それぞれどのような役割や意義を担っているのかを再確認して、学級のみならず、学校・学年のレベルでキャリア教育の観点からとらえなおし、キャリア発達上の達成目標を明確にし、意識した取組を展開することは、キャリア教育の導入にとって、「できるところから始める」という大事なステップであるといえる。

(参考) 小学校キャリア教育の指導資料

小学6年生の「私のなりたい仕事調べ」



厚生労働省の「私のしごと館」などを活用し、将来の仕事について興味・関心を持ち、調べ方を知るのがこの時間のめあてです。

私は、「総合的な学習の時間」で、自分が将来なりたいスキューバダイビングの仕事について、コンピュータ教室でインターネットを活用して調べています。

○調べてわかったこと、考えたことなどを、次のワークシートを使ってまとめます。

「私のなりたい仕事調べ」

調べた仕事は ○○○○

【選んだわけは？】

調べてわかったこと、考えたことをまとめてみよう！

6年__組 名前_____

【その仕事についての未来の自分の絵】

(○○年後の私)

中学校におけるキャリア教育の展開

(1) 中学校におけるキャリア教育

中学校段階は、これまでの進路指導の取組をキャリア教育の観点で見直し、キャリア発達上「現実的探索と暫定的選択の時期」という発達段階にあることを的確にとらえ、小学校からの系統性と高等学校への接続性を念頭においたキャリア教育カリキュラムの開発に取り組む必要がある。中学校3年間は、生徒にとって、現在及び将来における自分の生き方について、客観的に考える時期である。そのため、中学校では、校内及び校外における様々な教育活動を通して、生徒が自己理解を深め、好ましい人間関係づくりを学び、自ら課題を解決する力を育むなど、「生きる力」の育成が重要といえる。

学びと生き方の接続・一体化は、小学校段階での取組をいかし、高等学校のキャリア教育へも受け継がれるよう、職場体験といった価値ある体験活動等を通して、望ましい職業観・勤労観の育成に向けたキャリア発達を促すとともに、学習の意義や学ぶことの大切さに気付かせ、主体的に考えさせることを目指すものである。

中学校段階でのキャリア教育が目指す発達課題には、次の四つの観点が指摘されている。

- ① 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- ② 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成
- ③ 進路計画の立案と暫定的選択
- ④ 生き方や進路に関する現実的探索

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」より)

小学校段階と同様に、これらの発達課題は、職業的・進路的な発達にかかわるキャリア教育で育成される諸能力を整理した上で、実際には、学習指導要領に示された教科、特別活動、道徳、「総合的な学習の時間」の4領域のねらい、内容、配慮事項のうちで、キャリア教育に関係する事項と結び付け、教科等領域での実践指導を通して、併せてキャリア教育での発達課題の達成をも目指していくものである。

中学校の学習指導要領「総則」には、指導計画の作成等にかかわる「配慮すべき事項」として、学校のすべての教育活動を通して、計画的・組織的な進路指導に取り組むことに加え、「ガイダンスの機能の充実を図ること」が新たに示された。中学校では、特別活動の目標である「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを目指しながら、これまで小学校段階を通して抱えてきた将来の夢や希望を実現するための進路選択と、自己理解や教科等の学習を通して抱えてきた興味・関心に基づく進路選択との双方から、学びと生き方とを関連付け、一体化を図る取組から、生徒自身がなぜ学ぶのか、どのように生きるかなどの課題探究に向けた活動を意図的に組んでいく必要がある。

学習指導要領に示された内容で、キャリア教育と関係のある事項を、4領域ごとに整理したものが、次の表である。

	【学級活動】
特別活動	・学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理などの活動
	・個人及び社会の一員としての在り方に関すること 青年期の不安や悩みとその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会の一員としての自覚と責任(社会生活における役割の自覚と自己責任)、男女相互の理解と協力、望ましい人間

	<p>関係の確立、ボランティア活動の意義の理解など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学業生活の充実及び将来の生き方と進路の適切な選択に関すること ・学ぶことの意義の理解、自主的な学習態度の形成、選択教科等の適切な選択、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計など <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実・改善向上を図る活動やボランティア活動など <p>【学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤労生産・奉仕的行事における職業や進路にかかわる啓発的な体験やボランティア活動など
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めること ・勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めること
総合学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えること ・ボランティア活動などの社会体験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習
各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の技術・家庭科、社会科の公民的分野や選択教科における関連分野での学習 ・中学校の保健体育科、国語科、外国語科における学習
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活への適応と選択教科や進路の選択にかかるガイダンスの機能の充実

(文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』より)

中学校段階におけるキャリア教育の内容・方法、それに重視される体験活動をまとめると次のようになる(仙崎武編『キャリア教育読本』p27-28参照)。

内容・方法	重視される体験活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校を取りまく地域の産業や職業について、将来の生き方や進路にかかわる学習や体験活動などを通して知識・理解を獲得させるとともに、人の生き方や進路の多様性や様々な選択の可能性に気付かせる。 ○ 特別活動や道徳の時間での勤労や奉仕の学習や体験活動を通して、働くことや奉仕することの意義や役割を理解させ、主体的に取り組む意欲や態度を培うとともに、地域の異世代の人々に接することでコミュニケーション能力を養う。 ○ 自分の良さや得意分野を考え理解させ、現在そして将来の学校生活や職業生活にそれをいかし、伸長しようとする意欲や態度を培うとともに、上級学校に進んで学ぶ意義や目的を考えさせる。 ○ 技術・家庭科の学習を通して、生活にかかわる知識や技能を習得させ、それを毎日の生活の場面で積極的にいかそうとする能力や態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や地域の人々の協力を得て、生き方・進路にかかわる体験活動を展開し、実りある体験となるよう1週間程度の職業現場等でのジョブ・シャドウイングや職業体験等を実施する。 ○ 地域の諸活動に積極的に参加させ、地域の一員としての自覚と役割を果たすことの大切さを考えさせるとともに、地域の異世代の人々との交流を体験させる。

例示1：中学校（二学期制）キャリア教育カリキュラムの単元計画

本例示は、二学期制によるカリキュラム・マネジメントに基づく中学校において、道徳・特別活動・「総合的な学習の時間」の3領域によるキャリア教育の展開を示した単元計画である。これまでの進路指導をいかして、中学校段階での生徒の発達に応じた職業観や勤労観の育成に向けた取組を、各学年で一つの単元としてまとまりをつくり、系統的にキャリア発達の諸課題について向き合い、作業的・体験的な活動を通して考えさせる学習の展開を重視したものである。

○ キャリア教育で育む諸能力（5領域10能力）

自己教育能力	自己理解能力	①
	自己表現能力	②
人間関係能力	他者理解能力	③
	コミュニケーション能力	④
情報活用能力	情報収集・活用能力	⑤
	職業理解能力	⑥
将来設計能力	役割把握・認識能力	⑦
	計画実行能力	⑧
意思決定能力	選択・決定能力	⑨
	課題解決能力	⑩

○ キャリア教育カリキュラム（例示案）

※表中の能力欄は上記の表に対応し、領域欄の数字は配当時間数を示す。

校種	中学校								
目標	キャリア教育の観点に基づき、自己や他者への理解を深め、様々な作業的・体験的な活動を通して、職業観や勤労観を育み、自己にふさわしい進路を探究する能力や態度を育成する。								
学年	1年			2年			3年		
単元	職業調べ			職業体験			進路学習		
学年目標	職業に対する関心を高め、様々な職業とその内容について調べ理解するとともに、将来の自分が就きたいと思う職業を選択した経緯や理由を考える。			職業体験での学習活動により、他者とのかかわりを通して自己の特性を理解するとともに、職業や勤労の意義や価値を考える。			自己の特性や希望する進路について調べ、情報を集めることで、自分に適する職業や学校などを選択するとともに、その進路に適応し、自らを向上しようとする意欲や態度を育む。		
過程	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域
学期と単元構成	【前期】（0時間） 【後期】（17時間） 勤労と奉仕の精神	⑥⑦	道徳 1	【前期】（0時間） 【後期】（20時間） 個性の伸長・向上心 勤労と奉仕の精神	①② ⑥⑦	道徳 2	【前期】（14時間） 個性の伸長・向上心	①②	道徳 1
	職業調べガイダンス1 ・職業調べの方法や意義について理解する	①③	特活 1	職業体験ガイダンス ・職業体験の方法や意義について理解する	①③	特活 1	進路学習ガイダンス ・高校調べや進路学習全般、予定について理解する	③⑤	特活 1
	職業調べ1 ・インターネット、図書館などで様々な職業について調べる	⑤⑥ ⑦⑧	総合 3	礼儀	②④	道徳 1	高校調べ ・パンフレットやインターネットなどで、様々な高校について調べる	⑤⑥	総合 4
	個性の伸長・向上心	①②	道徳 1	職業体験 ・職業体験を行う ・お礼の手紙を書く	①④ ⑤⑥ ②⑧	総合 10	礼儀	②④	道徳 1
	職業調べガイダンス2 ・職業講演会の内容や意義について理解し、希望する講演を選択する	③⑤	特活 1	体験学習のまとめ ・職業体験のまとめを行う	⑨⑩	特活 3			

過程	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域
学 期 と 単 元 構 成	職業講演会 ・様々な職業の方を外部講師として招き、話を聞く	⑤⑥	総合 3	体験学習発表会 ・体験学習の成果を発表する	②④	総合 3	高校見学（適宜） ・学校見学、説明会、体験入学などを利用して、高校見学を行う	⑤⑧	
	礼儀	②④	道徳 1				体験学習のまとめ ・見学や体験学習のまとめを行う	⑤⑩	特活 3
	職業調べ2 （冬季休業中の課題学習） ・身近な職場や職業について調べる	⑤					体験学習発表会 ・見学や体験学習の成果を発表する	②④	総合 3
	調べ学習のまとめ ・調べ学習のまとめを行う	②⑩	特活 3				勤労と奉仕の精神	⑤⑦	道徳 1
	調べ学習発表会 ・調べ学習の成果を発表する	②④	総合 3				【後期】（4時間） 高校説明会 ・近隣にある高校の先生方を招き、各高校の特色について、話を聞く	⑤⑧ ⑨	総合 4

例示2：中学校（二学期制）1年生「職業調べ」の単元をいかした キャリア教育の指導計画

本指導計画は、前掲の単元計画の中で、中学校1年生の後期で展開する「職業調べ」の単元のうち、「職業調べ1」及び「職業調べ2」の指導計画について紹介したものである。

第1時	勤労と奉仕の精神（道） 勤労が人間生活を成立させる基本的条件であることについて考える。
第2時	職業調べガイダンス1（特） 職業調べの方法や意義について理解する。
第3～5時	職業調べ1（総） インターネット、図書館などで様々な職業について調べる。
第6時	個性の伸長・向上心（道） 自分自身のよさや個性を見出していくことが大切であることを考える。
第7時	職業調べガイダンス2（特） 職業講演会の内容や意義について理解し、希望する講演を選択する。
第8～10時	職業講演会（総） 様々な職業の方を外部講師として招き、話を聞く。
第11時	礼儀（道） 時と場に応じた言葉遣い・態度や動作について考える。
冬季休業中の課題学習	職業調べ2 身近な職場や職業について調べる。
第12～14時	調べ学習のまとめ（特） 調べ学習のまとめを行う。
第15～17時	調べ学習発表会（総） 調べ学習の成果を発表する。

※表中の略記（特）：特別活動（道）：道徳（総）：「総合的な学習の時間」

この指導単元では、①様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自らの生き方を考える態度を育てること、②生き方や進路に関する情報を収集・整理し、活用する能力を培うこと、③将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する態度を育成することの三つをねらいとして設定した。

まず、学習のねらいを深化・補充・統合させるために、特別活動や「総合的な学習の時間」の学習内容と関連付けて、道徳の内容項目「1- (5) 個性の伸長・向上心」「2- (1) 礼儀」「4- (5) 勤労と奉仕の精神」をその前後の時間で扱うように位置付けた。つまり、道徳で学んだ内容が特別活動や「総合的な学習の時間」に、また、特別活動や「総合的な学習の時間」で学んだ内容が道徳にいかされるように、互いにフィードバックできるようにした。

さらに、調べ学習または体験学習を核として位置付け、特別活動・道徳・「総合的な学習の時間」が一つのパックとなるように配列した。

次に、1学年では地域在住の社会人による職業講演会、2学年では地域の事業所における職業体験、3学年では近隣にある高等学校（公立・私立）の先生方による説明会を通して、地域教育力の活用を促進する手立てとした。これは、学校と地域、そして中学校と高等学校との連携を図る一つの方法と考えられる。

そして、各学年を通じて、まとめとして実施する学習発表会が、特別活動・道徳・「総合的な学習の時間」を通して、調べ学習や体験学習で学んだことを互いに表現し合い、自己を見つめることによって、「生きる力」を共に育む場となるように設定した。

中学校キャリア教育カリキュラム（1年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名 「職業調べ1」（1年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
「総合的な学習の時間」 ○様々な職業について関心・意欲をもって取り組むことができる。 ○職業について様々な調べ方を身に付ける。 ○自己にふさわしい職業について探究し、自己の生き方を考える。	情報活用能力 ○生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 （情報収集・活用能力） ○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。（職業理解能力） 将来設計能力 ○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。（役割把握・認識能力） ○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 （計画実行能力）

3 キャリア教育の指導計画

過程	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	○学習内容とねらいを知る。 ○どのような要素を重視して、職業を選択する	・職業を選ぶ基準には、どのような項目があるか、考えられる	情報活用能力 ○生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理	学習観察

過程	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	か、考えを発表し合う。	ようにする。	し活用する。 (情報収集・活用能力)	
展開	<p>○配布された「ワークシート」全体について、記入等作成の方法を理解する。</p> <p>○インターネット、図書館などを利用して、様々な職業について調べる。</p> <p>※様々なリサーチ・サイトの活用 〔職業ガイダンス〕</p> <p>・簡単な適性診断テスト ↓ 職業の紹介 〔職業について調べてみよう〕</p> <p>・この職業の紹介 ・職業に就くためには ・資格について 〔職業インタビュー〕</p> <p>○「ワークシート」に記入する。</p>	<p>・自分の適性や興味に合う職業を探し出せるようにする。</p> <p>・社会には、様々な職業があることを理解できるようにする。</p> <p>・調べた職業の社会的役割を考慮することができるように、調査方法などのアドバイスをする。</p> <p>・仕事の喜びや生きがいとしての職業観を感じ取ることができるように配慮する。</p>	<p>将来設計能力</p> <p>○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。(計画実行能力)</p> <p>将来設計能力</p> <p>○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。(役割把握・認識能力)</p>	学習観察 ワークシート
まとめ	<p>○「ワークシート」に自分の考えや感想などを記入する。</p> <p>○次時の予定を知る。</p>	<p>・職業と自分との関係に気づき、自分も将来、職業人になることを認識させる。</p>	<p>情報活用能力</p> <p>○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 (職業理解能力)</p>	学習観察 ワークシート

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
情報活用能力	<p>○生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。(情報収集・活用能力)</p> <p>○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。(職業理解能力)</p>
将来設計能力	<p>○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。(役割把握・認識能力)</p> <p>○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。(計画実行能力)</p>

(資料) 「職業調べ1」ワークシート

1年 組 番 氏名

1. 職種名

--

2. 勤務時間

--

3. おもな仕事の内容（やりがいのある点、苦しい点なども調べよう）

--

4. この職業に就くためには、どんな条件や資格が必要ですか。また、どんな人がこの職業にふさわしいですか。考えられる適性を書きましょう。

[資格や条件]	[適性]
---------	------

5. この職業に就くためには、中学校を卒業してから、どんな進路選びが必要ですか。その道筋を調べましょう。

中学校 卒業	⇒	⇒ 職業名
-----------	---	-------

6. 今回、職業調べをして、改めて自分を見つめ直すと、どんな進路の選択が考えられますか。また、そのためには、これから、どんな努力をしていこうと思いますか。

[進路の選択]
[これからの努力点]
[感想]

中学校キャリア教育カリキュラム（1年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名
「職業調べ2」（1年生）

2 キャリア教育の目標

冬季休業中の課題学習の目標	キャリア教育の視点からの目標
(冬季休業中の課題学習) ○働いている人への取材を通して、職業についての理解を深める。 ○自己の職業や進路への関心・意欲を高める。	自己教育能力 ○自己の職業的な能力・適性について考える。 (自己理解能力) 人間関係能力 ○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。(コミュニケーション能力) 将来設計能力 ○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 (計画実行能力)

3 キャリア教育の指導計画

過程	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入 ※ 休業前	○学習内容とねらいを確認する。 ○「ワークシート」の配布を受ける。 ○取材の方法と注意事項を理解する。	・注意事項を十分に理解させる。	将来設計能力 ○将来の夢や職業に思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。(計画実行能力)	学習観察
展開 ※ 冬季休業中	○「ワークシート」の質問項目に沿って、身近で働いている人への取材を行う。 ○「ワークシート」に取材の結果を記入する。 ○取材を通じて、「働くこと」について考える。	・各自で質問項目を追加してもよいことをアドバイスする。 ・働いている人への礼儀や配慮について理解できるよう指導する。 ・勤労の意義や働く人々の様々な思いを理解できるようにする。	人間関係能力 ○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。(コミュニケーション能力)	ワークシート
まとめ	○「振り返りシート」の配布を受ける。 ○「振り返りシート」に記入し、自己評価を行	・学習の取り組みを振り返り、中学卒業後の進路や職業への関心や	自己教育能力 ○自己の職業的な能力・適性について考える。 (自己理解能力)	学習観察 振り返りシート



過程	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
※ 休業後	う。 ○次時の予定を知る。	意欲を高められるようにする。		

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○自己の職業的な能力・適性について考える。 (自己理解能力)
人間関係能力	○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 (コミュニケーション能力)
将来設計能力	○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 (計画実行能力)

(資料) 「職業調べ2」ワークシート

1年 組 番 氏名 _____

お話をして下さった方	私の	年齢	歳	性別	男 ・ 女
取材の方法	・話をうかがった ・実際に仕事を見学した	取材の場所			
職 種 名		勤務場所			
具体的な仕事の内容	勤務時間 時 分～ 時 分				
その職業を選んだ理由					
その職業に必要な資格及び条件					
その職業に向いている性格や能力					

<p>その仕事をしていて、楽しいことや生きがいを感じる こと、又はうれしなと思うとき</p>	
<p>その仕事をしていて、つらいこと苦しいことそして嫌だなと思うとき</p>	
<p>これからの夢や抱負</p>	
<p>中学生のころ考えていた進路と今の職業</p>	<p>・望んだとおりの進路である。 ・望んだ進路と違う〔希望していたのは〕</p>
<p>これから進路を考える中学生にメッセージ</p>	

（資料）「職業調べ2」振り返りシート

「働くこと」を学ぼう

中学校3年間を通して、自分自身の特性や将来を見通して、進路選択をする力を身に付けるために、1年生では、冬休みの課題として、「働くこと」とは、どういうことなのかを、実際に働く人に取材してもらいました。さて、今回の学習は、あなたにとって、どうでしたか。

【自己評価】あてはまる番号に○をつけましょう。

○働く人への取材は

- 1 よくできた 2 だいたいできた 3 あまりできなかった

○取材した人の仕事の内容については

- 1 よく理解できた 2 だいたい理解できた 3 よく理解できなかった

○取材を通じて

- 1 とても勉強になった 2 勉強になった 3 あまり勉強にならなかった

○取材を終えて、自分の将来の進路について

- 1 考えるようになった 2 少しは考えるようになった 3 あまり考えられない

○中学卒業後の進路について

- 1 高校または専門学校へ進学したい 2 就職したい 3 まだ決めていない

○就きたいと思う職業は

- 1 現在ある 職業名 ()
2 以前 (小学生のころ) はあった 職業名 ()
3 現在のところない

【感想】

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

1年 () 組 () 番 氏名 ()

例示3：中学校（三学期制）キャリア教育カリキュラムの単元計画

本例示は、三学期制によるカリキュラム・マネジメントに基づく中学校において、道徳・特別活動・「総合的な学習の時間」の3領域によるキャリア教育の展開を示した単元計画である。

これまで特別活動を中心に行われてきた「進路学習」は、道徳、「総合的な学習の時間」といった他の教育活動とは別に、独立した形で実践されてきた。中学校では一般的に、校内における分掌もそれぞれ独立しており、互いに連携しながら学習計画を立案し、実践されてはこなかった。

そこで、広く個人の「生き方」を考えるキャリア教育という視点から道徳、特別活動、「総合的な学習の時間」の関連性のある取組を考え、キャリア教育のカリキュラムを開発した。

まず、道徳では、その内容項目の中で、特にキャリア教育に関係があると思われるものを、特別活動や「総合的な学習の時間」の取組の前後におき、それぞれ相互に関連するよう設定した。

特別活動や「総合的な学習の時間」における活動に対し、事前の心構えや事後の振り返りなどの時間として、道徳の時間が確保できれば効果的な学習が期待できる。

思春期に当たる中学生にとっては、他の人を思いやり、自己を見つめられる道徳の時間はとても重要であり、将来社会人として生きていくための基盤になると考えられる。

次に、「総合的な学習の時間」では、3年間を通した課題解決型の学習の中で、(1)情報収集・活用能力、(2)職業理解能力、(3)課題設定能力、(4)計画実行能力、(5)選択・決定能力、(6)課題解決能力、(7)コミュニケーション能力を育成できるよう計画した。

学年により課題は異なるが、個人で課題解決型の学習を3年間繰り返すことで、課題を解決する実践力を育成することができ、その活動すべてがキャリア教育につながるものであると考える。

特別活動では、1年生の時に職業調べ、職場体験、2年生の時は職業体験を取り入れた進路授業を行い、将来の生き方について段階を追って体験学習ができるように計画した。

また、1年生の最後に「将来の夢と希望」の学習の中で進路設計を行い、2年生の最後で「進路設計の再確認」をすることにより具体的な進路の見通しを持ち、3年生では自分にあった進路先を決定していけるよう、前年度の取組を踏まえた学習の展開が望ましい。

○ キャリア教育で育む諸能力（5領域10能力）

自己教育能力	自己理解能力	①
	自己表現能力	②
人間関係能力	他者理解能力	③
	コミュニケーション能力	④
情報活用能力	情報収集・活用能力	⑤
	職業理解能力	⑥
将来設計能力	役割把握・認識能力	⑦
	計画実行能力	⑧
意思決定能力	選択・決定能力	⑨
	課題解決能力	⑩

○ キャリア教育カリキュラム（例示案）

※表中の能力欄は上記の表に対応し、領域欄の数字は配当時間数を示す。

校種	中学校		
目標	キャリア教育の観点に基づき、自己理解を深め、望ましい職業観や勤労観を育み、自立した人間として生きていく力を育成するとともに、体験活動等を通して将来の進路を探究し、適する職業や進路を選択する能力や態度を育成する。		
学年	1年	2年	3年
単元	職業調べ	職業体験	進路学習
学年目標	自己をよく理解するとともに、職業や進路に対する課題を自ら設定し、職場体験を通して解決に向けて取り組み、自らの職業観・勤労観の育成を図る。	職業体験により、様々な人との交流によって、自己の特性と職業に対する適性等について考え、働くことの意義や自己の役割を考える。	自らにふさわしい職業や学校などを選択するとともに、それを学ぶ意義と結び付けて考え、主体的に自らの進路を開拓していこうとする意欲や態度を育む。

過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
学期 と 単 元 構 成	1年生 (94時間)			2年生 (114時間)			3年生 (92時間)		
	【1学期】(25時間)			【1学期】(26時間)			【1学期】(26時間)		
	礼儀	②③	道徳	集団生活の向上	①②	道徳	人生を切り開く	①②	道徳
	適切な言動		2	思いやりの心	③④	2	個性の伸長		2
	総合的な学習ガイダンス	⑤	総合	総合的な学習ガイダンス	⑤	総合	1年間の予定	⑤⑦	特活
	課題解決型の学習形態や意義について学習する	②④		課題解決型の学習形態や意義について確認する		2	進路に対する心構えをし、卒業後の生活設計を考える		1
	正義	①③	道徳	自己理解	①③	特活	総合的な学習ガイダンス	⑤	総合
	公正・公平		2	友人、先生、親から見た自分を知る		1	課題解決型の学習形態や意義について確認する		2
	課題との出会い	⑤⑥	総合	個性の伸長	①②	道徳	進路決定について	⑦⑨	特活
	体験活動、講演会、学習会を通し課題設定のきっかけとする		17	強い意志		2	入試選抜方法を知り、希望調査を行う		1
	より良い社会の実現	②③	道徳	課題との出会い	⑤⑥	総合	強い意志	①②	道徳
	思いやりの心	①②	2	体験活動、講演会、学習会を通し課題設定のきっかけとする		17	課題との出会い	⑤⑥	総合
	【2学期】(60時間)			自主・自立	①②	道徳	体験活動、講演会、学習会を通し課題設定のきっかけとする		17
	課題設定	⑨	総合	よりよい社会の実現	①③	2	人類の幸福	①③	道徳
	疑問・興味から、自分なりの課題を設定する		10	【2学期】(60時間)			夏休みの進路計画	⑦⑧	特活
	自主・自立	①②	道徳	課題設定	⑨	総合	体験入学・情報収集の方法を知る		1
	豊かな心		2	疑問・興味から、自分なりの課題を設定する		10	【2学期】(60時間)		
	課題追究活動	⑤⑥	総合	公正・公平	②③	道徳	進路選択に向けて	⑦⑧	特活
	自分の課題を解決するために、書籍調べ、インタビュー、体験活動など計画に沿って実施する	⑧	20	礼儀	②③	2	入試までの学習計画、面接方法、出願から入学手続きまで確認する		1
進路学習の意義	⑨⑩		課題追究活動	⑤⑥	総合	人間のすばらしさ	①③	道徳	
将来の夢や希望を考える事で、将来の進路について関心を高める		1	自分の課題を解決するために、書籍調べ、インタビュー体験活動など計画に沿って活動する	⑧	20	課題設定	⑨	総合	
権利義務	①③	道徳	人類の幸福	②③	道徳	疑問・興味から、自分なりの課題を設定する		10	
社会の秩序と規律		2	勤労・公共の福祉		2	礼儀	①②	道徳	
自己理解と適性	⑦⑨	特活	望ましい職業観の形成	⑥⑦	特活	課題追究活動	⑥⑧	⑥⑧	
自分の性格・行動などの特徴を客観的に理解する		2	自分にとって職業とは何かを考える		1	自分の課題を解決するために、書籍	⑨⑩	⑨⑩	
自分をよりいかにすることができる仕事は何か考える			上級学校調べ	⑤⑦	特活				
総合まとめ	⑩	総合	上級学校の特徴と選抜制度を知る	⑨	1				
			理想の実現	①②	道徳				
					1				

過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
学期と単元構成	集めた情報から自分の考えをまとめる		14	総合まとめ	⑩	総合	調べ、インタビュー、体験活動など計画に沿って活動する		
	総合発表	②③	総合	集めた情報から自分の考えをまとめる		14			
	自分の考えを発表し、友達の発表を聞く	④	7	総合発表	②③	総合	勤労・奉仕の精神	①②	道徳
	いろいろな職業調べ	⑤	特活	自分の考えを発表し、友達の発表を聞く	④	7	責任ある態度	①③	2
	身近な人の職業調査をもとに職業の種類と資格、労働の意味を理解する		1	生きる喜び			進路決定について	⑦⑧	特活
	労働の意味	①⑤	特活	郷土愛	①②	道徳	進路決定について確認を行い、希望調査をする	⑨	1
	職業調べの資料を基に、これからの自分の在り方について考える		1	【3学期】(28時間)		2	充実した生き方	①②	道徳
	【3学期】(9時間)			職業体験ガイダンス	⑤	特活	総合まとめ	⑩	総合
	勤労、社会への奉仕	①③	道徳	I 職種とそれに就くための道筋を知る		1	集めた情報から自分の考えをまとめる		14
	職場体験ガイダンス	⑥⑦	特活	勤労・公共の福祉 I	②③	道徳	総合発表	②④	総合
	職場体験の意義を知る。希望する職場を提出する	⑨	1	職業体験ガイダンス		1	自分の考えを発表し、友だちの発表を聞く		7
	職場体験	④⑥	特活	II 職業体験の方法や意義について理解し、希望する職場を提出する	⑥⑦	特活	面接準備	②④	特活
	実際に働く現場を見学し、勤労の意義を知る		3	III 事業所への連絡の仕方、質問事項の検討、訪問時の注意等の確認をする	⑨	3	面接の受け方を学習する		1
	職場体験のまとめ・お礼状	②④	特活	IV 当日の時間、持ち物、交通手段の再確認をする	⑤⑥		冬休みの進路計画	⑤⑨	特活
	振り返りを行い、働く意義を考える		1	職業体験学習	④⑥	特活	情報収集の方法、事前見学について知る		1
	将来の夢と希望	①⑦	特活	職業体験を行い、勤労の意義を知る	⑧⑩	18	【3学期】(6時間)		
自分の将来を考え、将来について関心を高める	⑨	1	職業体験のまとめ・お礼状	②④	総合	生きる喜び	①②	道徳	
理想の実現	①②	道徳	振り返りを行い、働く意義を考える		3	出願について	②⑧	特活	
役割と責任の自覚		2	個人新聞を作成し掲示発表する			出願事前指導、面接作文等の入試準備を行う		1	
			勤労・公共の福祉 II	②③	道徳	入試事前準備	⑧⑩	特活	
			進路設計の再確認	⑦⑨	特活	入試の準備を行う		1	
			自分の進路についての見通しを持つ		1	進路先に向けて	⑨⑩	特活	
						卒業後の生活に目標を持つ		1	
						理想の実現	①②	道徳	
						誇りある生き方		2	

例示4：中学校（三学期制）2年生「職業体験」の単元をいかした

キャリア教育カリキュラムの指導計画

本指導計画は、前掲の単元計画の中で、中学校2年生「職業体験」の3学期で展開する「職業体験学習」の単元のうち、単元全体の指導計画について紹介したものである。1年生での「職場体験」を通じた経験を踏まえ、自ら選択した仕事に就き、体験的な活動を展開することで、職業観から勤労観への育成に向け、個々のキャリア発達課題の達成を図る啓発的な体験活動を想定した単元である。これまでの進路指導や職場体験学習等のカリキュラム経験をいかし、キャリア教育の観点からとらえ直し、一過性的な活動とならないよう、事前・事後の指導の目的や内容を明確にし、生徒にとって実りある価値ある体験となるよう、単元構成等を調整・改善する必要がある。

第1時	職業体験ガイダンスⅠ（特） 様々な職業があること理解し、その職に就くためのプロセスを知る。
第2時	勤労・公共の福祉（道）※考えよう「働く」ということ1（体験前学習） 「働くこと」が自己、そして社会にとってどのような意義があるか考える。
第3時	職業体験ガイダンスⅡ（特） 職業体験の方法やその意義を理解し、希望する職場を選択する。
第4時	職業体験ガイダンスⅢ（特） 選択した職場の事務所との連絡の取り方や訪問に向けて準備をする。
第5時	職業体験ガイダンスⅣ（特） 職業体験の事前ガイダンスを通して必要な事項を再確認する。
第6～23時	職業体験学習（総） 職業体験を実施し、自ら勤労の意義を考え、理解する。
第24～26時	職業体験のまとめ・お礼状（総） 体験を振り返り、働くことの意義を考え、個人新聞にまとめて発表する。
第27時	勤労・公共の福祉（道）※考えよう「働く」ということ2（体験後学習） 体験を通して、「働くこと」への考え方に変容があったか考える。

※表中の略記（特）：特別活動（道）：道徳（総）：「総合的な学習の時間」

中学校キャリア教育カリキュラム（2年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名
「職業体験」（2年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
（特別活動） ○様々な職業及び職業生活について理解するとともに、将来、職業人、社会人として社会に関わり、生きがいのある人生を築こうとする意欲、態度を持つことができる。	自己教育能力 ○自分の役割やその進め方、より良い集団生活のための役割分担やその方法がわかる。 （自己理解能力） ○学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面にかす。（自己表現能力）
（道徳） ○勤労の尊さや意義を理解する。 ○より良く生きるための目標を持つことの大切さを知る。	人間関係能力 ○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。（コミュニケーション能力）
（「総合的な学習の時間」）	情報活用能力

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
<p>○自らの課題を設定できる。</p> <p>○意欲的に課題追究活動に取り組むことができる。</p> <p>○体験活動や追究活動でいろいろな人とかかわることができる。</p> <div data-bbox="240 461 772 1106" style="text-align: center;"> </div>	<p>○上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略がわかる。(情報収集・活用能力)</p> <p>○必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、掲示、発表、発信する。(情報収集・活用能力)</p> <p>○体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる。(職業理解能力)</p> <p>○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。(職業理解能力)</p> <p>将来設計能力</p> <p>○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。(役割把握・認識能力)</p> <p>○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。(計画実行能力)</p> <p>意思決定能力</p> <p>○自分の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。(選択・決定能力)</p> <p>○よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する。(課題解決能力)</p> <p>○課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。(課題解決能力)</p>

3 キャリア教育の単元計画

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一 次(5 時間 扱い) 事前 の展 開	特別 活動	<p>「職業体験ガイド ンスⅠ」</p> <p>・様々な職業があり、その職に就くためにはそれぞれ異なる道筋があることを知る。</p>	<p>・社会には、多くの職種があることを理解させるようにする。</p> <p>・神奈川県教育委員会『わたくしたちの生活と進路』を活用し、職に就く過程をとらえさせる。</p>	<p>情報活用能力</p> <p>○上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や必要な学習歴の概略がわかる。(情報収集・活用能力)</p> <p>情報活用能力</p> <p>○将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。(職業理解能力)</p>	学習観察 記録用紙

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一 次(5 時間 扱い) 事前 の展 開	道徳	「考えよう「働く」 ということ」 ・心のノートやビ デオを視聴しな がら「働く」と はどういうこと なのか考える。	・学校や家庭での 役割分担の経験 や働く人々の姿 からとらえ、考 えさせる。 ・『心のノート』 p98-101 を活用 する。	将来設計能力 ○様々な職業の社会的役割 や意義を理解し、自己の生 き方を考える。(役割把 握・認識能力)	記録用紙
	活動	「職業体験ガイダ ンスⅡ」 ・職業体験の意義 を知り、自分の 興味・関心のあ るもの、また現 在の自分にあっ ていると思われる 職業を選択する。	・職業体験の目的 をしっかりとつ よう工夫する。 ・自分がなぜその 職業を選んだの かを明確にし、 自己選択・自己 決定の重要性を 理解させる。	将来設計能力 ○将来の夢や職業を思い描 き、自分にふさわしい職業 や仕事への関心・意欲を高 める。(計画実行能力) 意思決定能力 ○自分の個性や興味・関心等 に基づいて、よりよい選択 をしようとする。(選択・ 決定能力)	記録用特 別紙
	特別 活動	「職業体験ガイダ ンスⅢ」 ・事業所への連絡 の仕方、質問事 項の検討、職業 についての下調 べ、訪問時の注 意等の確認をす る。	・他者に自分の思 いを上手く伝え られるよう考え させる。 ・体験活動に向け ての留意点をし っかり理解させ る。	意思決定能力 ○課題に積極的に取り組み、 主体的に解決していこう とする。(課題解決能力)	学習観察 記録用紙
	特別 活動	「職業体験ガイダ ンスⅣ」 ・当日の時間、持 ち物、交通手段 の再確認をす る。また、仕事 場である事を意 識し、相手の迷 惑にならないよ う、学習の目的 を再確認する。	・職業体験の計画 を再確認させ る。 ・職業体験の意義 や活動の目的を 再度確認させ、 意欲を高める。	意思決定能力 ○課題に積極的に取り組み、 主体的に解決していこう とする。(課題解決能力)	学習観察 記録用紙

次程	領域	学習活動	指導と支援	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第二次(18時間扱い)	総合的な学習の時間	「職業体験活動」 ・職場の人とかかわりながら職業に対する理解を深め、働くことの意義や社会的な役割を知る。	・体験活動や他者とのかかわりを通して、自らの職業観・勤労観について考えさせる。	人間関係能力 ○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。(コミュニケーション能力) 情報活用能力 ○体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる。(職業理解能力)	学習観察 記録用紙
第三次(4時間扱い)事後の展開	総合的な学習の時間	「職業体験活動の振り返り」 ・活動を振り返り、自己評価をして感想を書く。また、お世話になった職場の方宛にお礼状を書く。	・人とかかわりや体験を通じた職業観、働くことの意義等を記録用紙を用いてまとめるよう取り組ませる。	自己教育能力 ○学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面にかす。(自己表現能力)	記録用紙
	総合的な学習の時間	「個人新聞作成」 ・体験を通してわかったこと、感じたことを新聞にまとめて掲示・発表する。	・記録を参考にして、自らの体験活動を振り返らせる。 ・自らの職業体験について自己評価させる。	情報活用能力 ○必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、掲示・発表・発信する。(情報収集・活用能力)	個人新聞
	道徳	「考えてみよう「働く」ということ」 ・資料を読みながら、現実を見つめ目標を持って生きることの大切さを考える。	・自己の体験とオーバーラップさせて、働くことや人とかかわりの大切さを考えさせる。 ・『心のノート』を活用する。	自己教育能力 ○自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等がわかる。(自己理解能力) 意思決定能力 ○よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくこと大切さを理解する。(課題解決能力)	記録用紙

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○自分の役割やその進め方、よりよい集団生活のための役割分担やその方法等がわかる。(自己理解能力) ○学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面にかす。(自己表現能力)

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
人間関係能力	○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 (コミュニケーション能力)
情報活用能力	○上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略がわかる。(情報収集・活用能力) ○必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、掲示、発表、発信する。(情報収集・活用能力) ○体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる。(職業理解能力)
将来設計能力	○将来の職業生活と関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。(職業理解能力) ○様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。(役割把握・認識能力) ○将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。(計画実行能力)
意思決定能力	○自分の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。(選択・決定能力) ○よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する。(課題解決能力) ○課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。(課題解決能力)

中学校3年間の単元構成(前掲参考)において、この2年生での職業体験学習の取組は、1年生の職場体験学習での学習経験を踏まえ、系統的な単元の接続を図ったものである。各学校では、右下に掲載したような学習のしおりや手引きを工夫し、生徒の主体的な活動をサポートする資料を、これまでの実践の蓄積から、それぞれ特色ある編集・作成を行っている。

この指導計画では、1年生での経験がどれだけいかせるか、また生徒個々のキャリア発達上の課題を見だし、それぞれに応じた学習目標を明確にして取り組めるかが、指導上特に留意すべき点であるといえる。



〈書店での値札付けと商品整理の仕事に取り組む生徒〉

平成〇〇年度

第 2 学 年

職 業 体 験 学 習

〇〇市立〇〇中学校

2年 組 番氏名

(資料) 「職業体験学習」の資料

職業体験学習のしおり

- 1 目的 様々な職場で、自ら職業体験学習を通して、働くことの大切さや意義を知る。また、職業や働くことへの興味・関心と理解を深め、自己の将来の進路設計に役立てるとともに、職業観や勤労観の育成に向けて個々のキャリア発達を目指す。
- 2 期 日 事前訪問 平成〇〇年〇月〇〇日 (〇曜日) 〇〇時～〇〇時
体験学習 平成〇〇年〇月〇〇日 (〇曜日) ～〇〇日 (〇曜日) の〇日間
- 3 持ち物 職業体験学習ノート、メモ帳、筆記用具、交通費、昼食、その他に各事業所から指定があった持ち物
- 4 服装 各事業所の指定に従って適切な服装
- 5 事前訪問時・体験時の諸注意
 - (1) 服装や身なりに気を配る
 - 体験学習では、職場での仕事の一部を体験する事を目的としています。特に接客を伴う職場を体験する場合は、十分に気を配りましょう。
 - (2) 話をしっかりと聞き、言葉づかいは、ていねいにはっきりとを心がける
 - 返事、あいさつなどは、どの職場でも大変重視されています。訪問時、終了時、アドバイスや指導をいただいた時は、きちんと挨拶や返事をしましょう。
 - 指示されたことには、笑顔で誠実に対応しましょう。
 - 事業者の方の指示がよくわからない時は、きちんと確認し、トラブルや事故を起こさないよう心がけましょう。
 - (3) 体験中の私語や身勝手な行動をしない
 - 職場で働いている方々の姿勢や態度から、働くことの意義を考えましょう。
 - 働く人々と直接にかかわることで、自らの仕事に対する意欲・態度を考えましょう。
 - (4) 職場の雰囲気を感じる
 - 職場の雰囲気を早く感じ取れるよう努力し、有意義な体験学習にしよう。
 - (5) 休憩の時や帰宅後に記録をとる
 - 体験学習後に、振り返りやその後の個人新聞の作成等に記録をいかします。メモをとることを心がけましょう。
- 6 学校との連絡
 - ① 欠席する場合には、朝7：30までに学校に保護者を通して連絡する
〇〇〇中学校 (担当〇〇) 電話〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
 - ② 朝の集合場所で欠席する生徒がいたら、代表者が学校へ電話連絡する
 - ③ 体験終了後 (事業所の退所後)、代表者が学校へ電話連絡する

事前訪問について

職業体験学習の前に、事業所を訪問し、事前のオリエンテーションがあります。この機会を活用して、事業所の担当者の方から仕事内容や注意点などを聞き、体験学習に備えます。

事前訪問日は、〇月〇〇日（〇曜日）の〇〇時～〇〇時を予定していますので、同一の事業所で体験する生徒同士で事前に相談し、前もって事業所に電話連絡した上で訪問します。

I 事業所への電話について	
電話をする際の準備・心得	<ul style="list-style-type: none">○ 電話をする前に用件を整理する○ 事業所の方への対応などマナーや適切な表現に努める○ 名前や用件などしっかり伝えられるよう心がける○ わからない点、確認したい点はくりかえして聞く○ メモを取りながら聞く
電話内容	<ol style="list-style-type: none">① 挨拶の後、学校名と名前を告げる② 職業体験学習の件で電話したことを伝える③ 担当の方につないでもらう④ 体験学習の事前訪問の日時を調整する⑤ 事業所の都合で日程調整がつかない場合、改めて電話することを伝える
II 事業所への事前訪問	
訪問時の心得と注意点	<ul style="list-style-type: none">○ 事業所の方への対応などマナーや適切な表現に努める○ 同一事業所で体験する生徒同士いっしょにうかがう○ わからない点、確認したい点はくりかえして聞く○ メモをとりながら聞く○ 体験の目的を各自で伝える○ 当日の日程等について最終確認をして終わる○ 訪問終了後、代表者は、学校に電話する○ 訪問を終えたら、メモをとった内容を参考にして、自宅で「職業体験確認事項」を作成する。

事業者の方への質問内容

1 この仕事を選んだ理由をお聞かせください？
2 仕事をする上で、心がけていることは何ですか？
3 仕事をしていて苦勞することはどのようなことですか？
4 仕事をしていて、よかった、うれしかったと感じたのはどのような時ですか？
5 この職業の社会における役割は何だと思えますか？
6 この仕事につくまで、どのような進路を歩んできましたか？ また、いつ決めましたか？
7 この仕事には、どのようなタイプの人に向いていると思えますか？
8 「働くこと」の意義についてお聞かせください？

職 業 体 験 確 認 事 項

事業所名			
事業所住所			事業所電話番号 — —
生徒代表者			事業所担当者
職業体験 メンバー	2年 組 氏名		2年 組 氏名
	2年 組 氏名		2年 組 氏名
活動時間	○月○日（○曜日）（ ）～（ ）		
集 合	集合時間		集合場所
	交通手段		費用
活動内容			
服 装			
持ち物			
昼食の有無			
事前訪問の有無			
(日時)			
体験中の 一日の流れ	午前		午後
	7:00		17:00
その他			

職業体験学習の振り返りシート

(1) 今回の活動を振り返り、5段階で評価してみましょう。

5 よくできた		4 できた	3 ふつう	2 できなかった	1 まったくできなかった			
	評価項目		評価状況			キャリア教育の観点		
1	積極的に職業体験に参加できましたか		5	4	3	2	1	人間関係能力 ○他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。(コミュニケーション能力)
2	職場の人の話をしっかりと聞くことができましたか		5	4	3	2	1	
3	職場の人々に自分の思いなどを伝えることができましたか		5	4	3	2	1	
4	多くの職場の人々とふれあうことができましたか		5	4	3	2	1	
5	自分から進んで仕事に取り組みましたか		5	4	3	2	1	情報活用能力 ○体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる。(職業理解能力)
6	仕事を通して職場の人々の仕事や働くことへの思いを理解できましたか		5	4	3	2	1	
7	「働く」ことについて考えることができましたか		5	4	3	2	1	
8	職業体験に楽しく取り組むことができましたか		5	4	3	2	1	

(2) もっとも感動したことは何ですか。

(3) もっともつらかったことは何ですか。

(4) 今回の職業体験を通して、「働く」ことについてどのように考えましたか。

(5) 今回の職業体験で、自信が持てたところ、自分を再発見したところがありますか。

(6) その他、全体を通しての感想をまとめましょう。

2年 組 番 氏名 _____

高等学校におけるキャリア教育の展開

(1) 高等学校におけるキャリア教育

高等学校段階は、小学校・中学校におけるキャリア教育の実践を踏まえて、個性に応じて多様化し、分化する進路について、自己の適切な理解を目指し、人としての一生を視野に入れた将来設計や働くことの意識並びに自己と社会とのかかわり等を、価値ある体験活動を通して考えさせるとともに、自己の進路実現に向けて適切な指導・支援を施していく時期にある。

高等学校におけるキャリア教育では、「現実的探索・試行と社会的移行準備の時期」というキャリア発達の段階を考慮し、次の4点の発達課題の達成を目指すことが求められる。

- ① 自己理解の深化と自己受容
 - ② 選択基準としての職業観・勤労観の確立
 - ③ 将来設計の立案と社会的移行の準備
 - ④ 進路の現実吟味と試行的参加
- (国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」より)

小学校・中学校の段階と同様に、これらの発達課題は、職業的・進路的な発達にかかわるキャリア教育で育成される諸能力を整理した上で、実際には、学習指導要領に示された教科、特別活動、「総合的な学習の時間」の3領域のねらい、内容、配慮事項のうちで、キャリア教育に関係する事項と結び付け、教科等領域での実践指導を通して、併せてキャリア教育での発達課題の達成をも目指していくものである。

高等学校の学習指導要領「総則」には、指導計画の作成等にかかわる「配慮すべき事項」として、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校のすべての教育活動を通して計画的・組織的な進路指導に取り組むことに加え、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、「ガイダンスの機能の充実を図ること」が新たに示された。高等学校では、特別活動の目標である「人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」こと、「総合的な学習の時間」のねらいに掲げられた「自己の在り方生き方を考えることができるようにすること」を目指しながら、学びと生き方とを関連付け、一体化を図る取組から、生徒自身がなぜ学ぶのか、どのように生きるかなどの課題探究に向けた活動を意図的に組んでいく必要がある。

学習指導要領に示された内容で、キャリア教育と関係のある事項を、3領域ごとに整理したものが、次の表である。

特別活動	<p>【ホームルーム活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや仕事の分担処理などの活動 ・個人及び社会の一員としての生き方に関すること <ul style="list-style-type: none"> 青年期の悩みや課題とその解決、自己及び他者の個性の理解と尊重、社会生活における役割の自覚と自己責任、男女相互の理解と協力、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、ボランティア活動の意義の理解、国際理解と国際交流など ・学業生活の充実及び将来の生き方と進路の適切な選択決定に関すること <ul style="list-style-type: none"> 学ぶことの意義の理解、主体的な学習態度の確立、教科・科目の適切な選択、進路適性の理解と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の確立、主体的な進路の選択決定と将来設計など <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の充実・改善向上を図る活動やボランティア活動など
------	--

	【学校行事】 ・職業観の形成や進路の選択決定に資する体験やボランティア活動など
総合学的な時間	・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えること ・生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化、総合化を図る学習 ・自己の在り方生き方や進路について考察する学習 ・ボランティア活動、就業体験などの社会体験、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習
各教科	・高等学校の保健体育科、国語科、外国語科、高等学校の公民科における学習 ・高等学校の職業に関する各教科・科目における実習をはじめとした学習 ・高等学校における「産業社会と人間」などの学校設定教科・科目での学習
その他	・集団生活への適応と教科・科目や進路の選択にかかるガイダンスの機能の充実 ・高等学校普通科、専門学科におけるコースや類型及び選択科目の設置、総合学科における系列の提示と多様な選択科目の設置など

(文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』より)

高等学校段階におけるキャリア教育の内容・方法、それに重視される体験活動をまとめると次のようになる(仙崎武編『キャリア教育読本』p27-28 参照)。

内容・方法	重視される体験活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己の個性について理解を深めるとともに、様々な職業や生き方があることを、自己の生き方や進路と結び付けて考えさせる。 ○ 自己の個性をいかす生き方や進路を選択しようとする意欲・態度を培い、選択する能力を育成する。 ○ ジョブ・シャドウイングやインターンシップ等の体験活動を通して、職業観や勤労観を確立するとともに、積極的に社会にかかわろうとする意欲・態度、それにコミュニケーション能力を育む。 ○ 自己の進路希望に応じて、教科・科目等の学習内容を選択させ、職業に関する専門的な知識や技能を習得させるとともに、上級学校に進学して学ぶ意欲や目的等について考え理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 希望する職業についてジョブ・シャドウイング等の体験活動を実施する。 ○ 生き方や進路にかかわる体験活動や教科・科目の学習として、短期間のインターンシップ等の就業体験の機会を設定する。 ○ 地域の諸活動に積極的に参加する機会を設け、自己の取組が地域を支えたり、地域にいかされる実感を味わわせる。

高等学校では、生徒一人ひとりが個性に応じた生き方・進路に対応できる諸能力を身に付けることにある。高等学校学習指導要領には、中学校と同様に、新たに進路学習にガイダンス機能をいかした情報の伝達や進路に関する説明等を充実させていくことが求められている。生徒の進路目標は、個性に応じて多様であるとともに、社会の動向等にも影響を受けながら分化・複雑化している状況にある。これまでの進路指導の在り方を、キャリア教育の観点から新たにとらえ直し、就職・進学の前段階として、発達段階を踏まえて、自己理解の深化、進路課題の設定と解決、将来の経済的・精神的な自立を目指す職業に対する意識付け、そして自らの学習と生き方・進路との接続・一体化を図り、学習の意義を考える機会などを、系統的に段階的に実践できるよう総合的な計画のもとに取り組むことが期待される。

(2) 総合学科におけるキャリア・ガイダンスと教科指導との連携

高等学校でのキャリア教育を推進する上で、総合学科における入学時の原則履修科目である「産

業社会と人間」を核とする実践的な取組については、文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』（以下、『キャリア教育報告書』と略記する。）の中で、次のように紹介されている。

「産業社会と人間」は、就業体験や企業見学などの体験活動、社会人や地域の人々の講話、調査研究、発表、討論などを通して、産業社会の実際について学習するとともに、自己の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、何故、何のために学ぶのか、そのためにどの科目を選ぶべきかなどについて、生徒に考えさせる科目である。この科目の履修を通して、生徒の学習に向かう姿勢や態度、目的意識や進路意識が大きく向上していることが数多く報告されており、教科・科目の領域で展開するキャリア教育の実りある実践として特筆に値するものである。今後、普通科等での設置を一層進めていくことや、この科目での取組を参考として、総合的な学習の時間の内容を構築していくことなどについて、各学校が積極的に検討し計画していくことを求めたい。 ※『キャリア教育報告書』p23

総合学科は、生徒の個性化・多様化に対応した高等学校教育の一層の推進を図るため、普通科・専門学科に並ぶ新たな学科として創設された経緯からもわかるように、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視していることや、生徒の個性をいかした主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視していることなどを教育の特色としている。それを象徴しているのが、同学科の原則履修科目である「産業社会と人間」である。

総合学科でのキャリア教育の推進は、「産業社会と人間」の学習内容と特別活動におけるガイダンス機能をいかし、それらを教科等領域と有機的に関連させたカリキュラムの全体構造に、如何にキャリア発達にかかわる諸能力育成上の諸課題と関連付けを図り、意識して取り組むかがポイントといえる。また、生徒個々に応じたキャリア発達への支援にきめ細かく対応していく上では、カリキュラムに連動して、キャリア・カウンセリングの充実に努めていく必要がある。

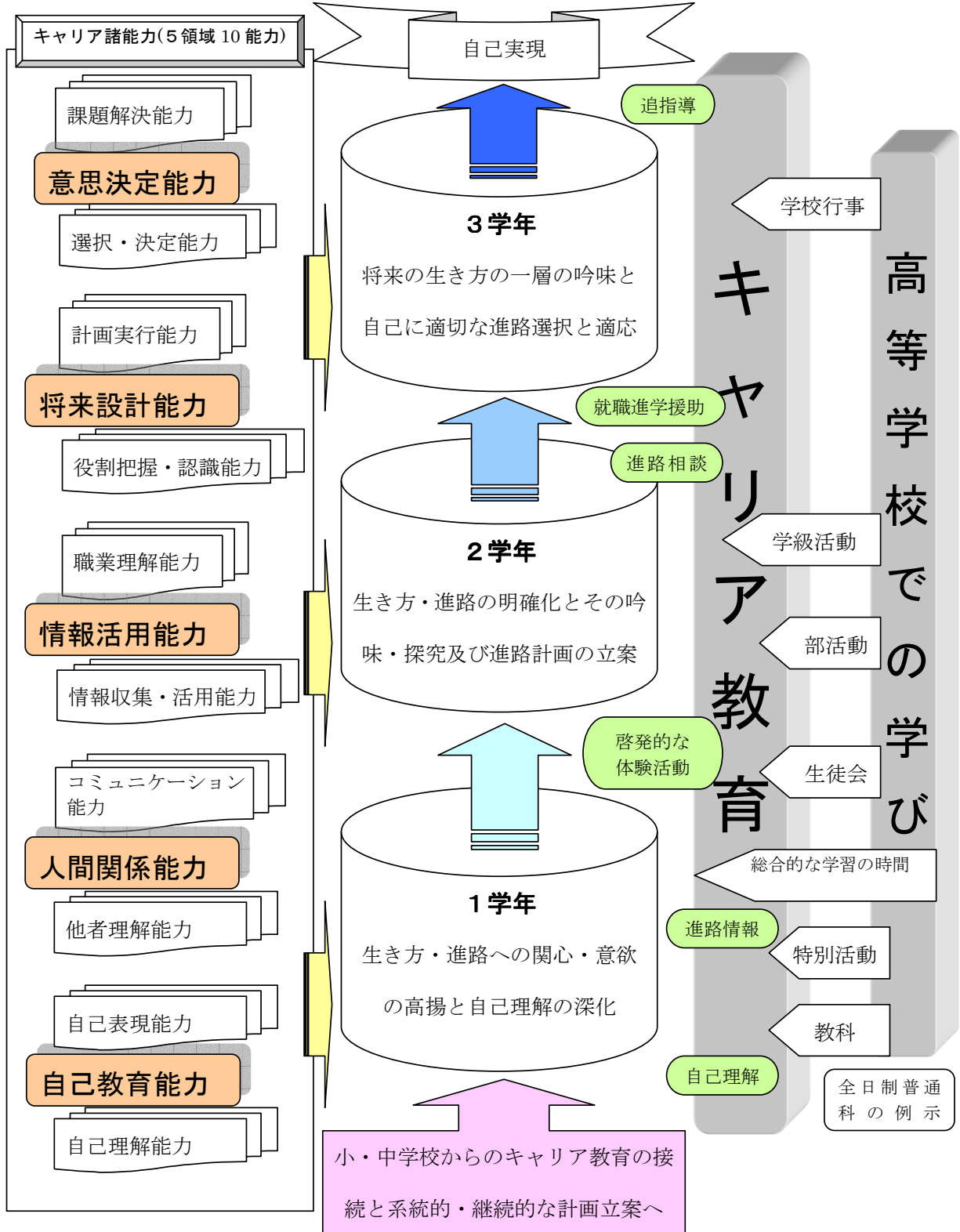
また、総合学科でのキャリア教育への取組において、「総合的な学習の時間」が、「産業社会と人間」や特別活動とどのようにリンクしているのか、それらの展開の中で教科学習がどのように位置付けられ、内容面での関係付けが図られているかに留意することが大事である。「総合的な学習の時間」として確保された時間を有効に活用していくには、「産業社会と人間」と特別活動との3領域を関連させ、生徒のライフサイクルを前提とした履修計画を想定し、達成目標に照らして系統的に内容を構成し、積み上げていけるようなスパイラルなカリキュラム構造が考えられる。

（3）これまでの進路学習・進路指導をいかしたキャリア教育の展開に向けて

高等学校では、学校・生徒の実態に応じて、キャリア発達への適切な指導・支援を行う上で、これまでの経験をいかして進路学習、啓発的体験、進路相談の三つの場面をバランスよく、かつ効果的に配置した単元開発を行い、カリキュラムとして構成することが求められる。とりわけ、啓発的体験は、生徒がジョブ・シャドウイングやインターンシップなどの体験学習を通して、ものの見方や考え方が形成される、すなわち「経験」となる大事な行為である。生徒の多様化が進む中で体験学習への取組に躊躇する向きも見られるが、発達上の諸課題を解決する上で体験学習は様々な教育的効果が期待されていることから、事前・事後の学習を明確に位置付け、一過性に終わらない価値ある取組となるよう周到な準備と計画が望まれる。この他、進路相談の面では今後、キャリア・カウンセリングの知識とスキルの獲得が、各学校での新たな取組課題といえる。

高等学校における今日の教育課程編成の状況からは、生徒の個性化・多様化に対応して、これまで以上に、生徒の興味・関心や進路等に応じて履修できる選択科目の幅が広がっていることがうかがえる。生徒が2年次以降、自らの生き方・進路に応じた教科・科目を選択して学習していく上では、1年次の前半から系統的で段階的なキャリア教育の実践が必要である。このことは、総合学科や単位制の高等学校に限らず、共通している課題であるといえる。キャリア教育の観点から、学校全体のカリキュラム・マネジメントの在り方を見直し、あるいは改善を図ることで、学習と生き方・進路の接続や一体化に向けた指導・支援が充実していくことが望まれる。

高等学校におけるキャリア教育のグランドデザイン



例示 1 : 高等学校における「総合的な学習の時間」と特別活動とを核としたキャリア教育カリキュラムの全体計画と進路適性の理解に関する指導計画

本例示は、小学校・中学校でのキャリア発達の状況を踏まえながら、高等学校における「総合的な学習の時間」と特別活動との2領域を核としたキャリア教育の展開を目指したカリキュラムの全体計画である。学年ごとにキャリア教育の目標を定め、2領域の学習事項について、キャリア教育の観点との関連付けが図れるものを想定した。ここに示す「総合的な学習の時間」と特別活動を連携させた3年間のキャリア教育の全体計画は、2年次以降、「総合的な学習の時間」においてキャリア教育を扱わない場合、特別活動において考慮すべき内容についても工夫・配慮して作成を試みた。なお、学習指導要領の特別活動には、ホームルーム活動だけでなく、学校行事も含まれ、その中で勤労生産・奉仕的な活動が明示されていることから、学校行事における活動も含めて計画を立案した。時間数については、各学年とも「総合的な学習の時間」は36時間を配置している。また学校行事は必要に応じて時間を設定している。

上記のことを踏まえ、これまでの進路学習の実績をいかし、キャリア教育としての内容のまとまりを形成し、関連付けが図れた学習事項を単元として包括し、5領域10能力の学習プログラムに基づく系統性のあるキャリア教育カリキュラムを開発した。次に示すのが、全日制普通科を想定した全体計画である。

○ キャリア教育で育む諸能力（5領域10能力）

自己教育能力	自己理解能力	①
	自己表現能力	②
人間関係能力	他者理解能力	③
	コミュニケーション能力	④
情報活用能力	情報収集・活用能力	⑤
	職業理解能力	⑥
将来設計能力	役割把握・認識能力	⑦
	計画実行能力	⑧
意思決定能力	選択・決定能力	⑨
	課題解決能力	⑩

○ キャリア教育カリキュラム（例示案） ※学年ごとに作成

※表中の能力欄は上記の表に対応し、領域欄の数字は配当時間数を示す。

〈1年生〉注：特活の*は学校行事を示す。

校種	高等学校								
学年	1年								
目標	キャリア教育の観点に基づき、中学校でのキャリア発達の状況や進路学習の成果を省み、いかして、改めて自己理解を深め、将来の希望を明確にするため進路課題の解決に取り組む。								
学期	1学期			2学期			3学期		
過程	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域	単元名（時間）	能力	領域
単元構成	フレッシュマンキャンプ（10時間） ・研修オリエンテーション ・構成的エンカウンター ・「総合的な学習の時間」ガイダンス	①②	特活 10	自分を知るⅠ(2) (5時間) ・自分史の作成 (作成方法を知る) (自分史分析シート記入)	①②	特活 2	課題研究（9時間） ・課題研究 (課題研究個人指導) (中間発表)	①②	総合 7
		③ ④⑤ ⑩			③④			④⑤ ⑥⑦ ⑧⑩	

学期	1 学期			2 学期			3 学期		
過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
単 元 構 成	・学校オリエンテーション ・学習体験 ・自己紹介 ・ゲーム「月で迷った」 ・教科オリエンテーション ・作業体験 ・まとめ 自分を知る I (1) (2 時間)			・レディネス検査 (ジョハリの窓記入) (レディネス検査受検) (プロフィールの作成) 情報の理解と活用 II (2) (9 時間)	①② ③	総合 3	(課題研究個人指導) (クラス発表) ・課題研究発表 (学年発表) 価値観の形成 I (3) (1時間)		
	・自分カードの作成 ・自分の特徴を考える 学ぶことの意義と理解 I (1) (1 時間)	①②	特活 2	・上級学校調べ I (文字媒体) (インターネット等で上級学校を調べる) (発表する)	④⑤ ⑥⑩	総合 3	・地域人講話 (地域の人の話を聴く)	④⑩ ①③ ⑤⑥ ⑦	特活 2* 特活 1
	・高校生活での学習方法を考える(学習計画を立てる) 情報の理解と活用 I (1) (13 時間)	⑦⑧	特活 1	・総合大学 (全体会) (学問別にわかれ講義を受ける)	①⑤ ⑥⑦	総合 3	・職業選択シュミレーション (職業選択の方法を考える) 学ぶことの意義と理解 I (2) (1 時間)	⑤⑦ ⑧	特活 1
	・進路先の種類を知る (卒業後の進路先を知る) ・進路情報校内探索 (進路情報のある場所を知る) (校内探索をする)	⑤	特活 1	・学部学科調べ (文字媒体) (インターネット等で学部学科を調べる) (発表する) 将来設計・進路選択 I (2) (2 時間)	④⑤ ⑥⑩	総合 3	・学習と実生活の関連を考える (私の一日ワークシート)	⑦⑧	特活 1
	・職業調べ I (文字媒体、OHBY インターネット 等で職業を調べる)	④ ⑤ ⑩	総合 2	・科目選択を考える I (科目選択の説明を聴く) (将来と科目選択を関連付けて考える)	④⑤ ⑥⑩	総合 3			
	・職業インタビュー (社会のマナーについて学ぶ) (インタビュー先 選定とアポイントメント) (取材をする) (発表準備) (発表・まとめ) (礼状を書く)	⑤ ⑥ ⑩	総合 2	価値観の形成 I (2) (1 時間)	④⑤ ⑥⑩	総合 3			
	情報の理解と活用 II (1) (1時間) ・教育実習生講話	③ ④ ⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩	総合 8	・社会人講話 (社会人の話を聴く) 将来設計・進路選択 I (3) (1 時間)	⑤⑦ ⑧⑨ ⑩	特活 2			
				・将来の夢や希望を考える (将来の夢や希望を記入する)	①③ ⑤⑥ ⑦	総合 1			
					⑦⑧	特活 1			

学期	1 学期			2 学期			3 学期		
過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
単元構成	(教育実習生のお話を聴く)	①③ ⑤⑥ ⑦	特活 1	課題研究 (2時間) ・ 課題研究 (課題研究の方法・情報源、研究のまとめ方・発表方法等を知る) (課題研究テーマ指導)	①② ⑤⑧ ⑩	総合 2			
	情報の理解と活用 I (2) (2時間) ・ 職業別ガイダンス (職業別にわかれ実習を行う)	①④ ⑤⑥	総合 2						
	価値観の形成 I (1) (1時間) ・ 働く目的を考える (なぜ働くのか考える)	①② ⑦⑧	特活 1						
	将来設計・進路選択 I (1) (1時間) ・ 30年後の私 (30年後の将来像を描く)	①② ⑦⑧	特活 1						

〈2年生〉注：特活の＊は学校行事を示す。

校種	高等学校												
学年	2 年												
目標	キャリア教育の観点に基づき、自己理解を一層深め、職業の世界や上級学校に関する進路情報を検討し活用して、進路の希望や将来設計を再考察し、その実現に努める意欲や態度の向上を図る。												
学期	1 学期			2 学期			3 学期						
過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域				
単元構成	学ぶことの意義と理解 II (1) (2 時間) ・ 高校生活の充実を考える (1年次の振り返りと2年次の目標設定) ・ 学習計画の作成 (学習計画を立てる) (「総合的な学習の時間」の概要を知る) 自分を知る II (1) (3 時間) ・ 個性について考える	②⑦ ⑧	特活 1	情報の理解と活用 III (2) (2 時間) ・ オープンキャンパス参加 (発表する)	④⑤ ⑥⑩	総合 2	価値観の形成 II (3) (1 時間) ・ 保護者講話 (保護者の話を聴く)	①③ ⑤⑥ ⑦	特活 1				
				自分を知る II (2) (3 時間) ・ 進路適性検査 (自己・他者の評価を知る) (進路適性検査受検) (自己の適性について考える)			①② ③			総合 3	学ぶことの意義と理解 II (2) (2 時間) ・ 進路と今の学習の関連を考える (これからの進路選択に必要な学習を考える)	⑦⑧	特活 2
				情報の理解と活用 III (3) (5 時間) ・ 先輩のお話を聴く (卒業後6～7年の			①③ ⑤⑥			特活 1	将来設計・進路選択 II (3) (9 時間) ・ ライフプランを立てる II (先輩のライフプランを読む)	①② ④⑦ ⑧⑩	総合 7

学期	1 学期			2 学期			3 学期		
過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
単 元 構 成	(個性について考 える)			卒業生の話(聴 く)	⑦		(ライフプラン作 文)		
	・自分を振り返る (私シートに記入 する)	①② ③④	特活 2	・分野別ガイダンス (分野別にわかれ、 話を聴く)	①⑤ ⑥ ⑦	総合 2	(作文入力)		
	(お互いに模擬面 接を行う)			・大学人講演会 (大学の先生の話 を聴く)	①③ ⑤⑥ ⑦⑧	総合 2	(ライフプラン読 書会)		
	インターンシップ (34 時間)			将来設計・進路選択Ⅱ (1) (2 時間)			(クラス発表)		
	・ガイダンス (インターンシッ プについて理解 する)	⑤⑥	総合 3	・科目選択を考えるⅡ (科目選択の説明を 聴く)	⑤⑦ ⑧⑨ ⑩	特活 2	・ライフプラン発表 (ライフプラン学 年発表)	④⑩	特活 2 *
	(インターンシッ プ先を決める)			(将来と科目選択を 関連付け、履修計 画を立てる)					
	(マナーについて 学ぶ)			価値観の形成Ⅱ (2) (1 時間)					
	・職業調べⅡ (インターンシッ プ先を調べる)	⑤⑥ ⑩	総合 1	・職業生活と生き方を 考える (職業と生き方で重 視するものを考 える)	①② ⑦⑧	特活 1			
	・インターンシップ (直前指導)	①② ③④	総合 1	将来設計・進路選択Ⅱ (2) (2 時間)					
	(インターンシッ プ)	⑤⑥ ⑦⑩	特活 24	・ライフプランを立て るⅠ (これまでの生き方 を振り返る)	①② ⑦⑧	特活 2			
	(礼状を書く)		総合 1	(ライフプランを立 てる)					
	・インターンシップ 発表 (発表準備)	④⑩	総合 4	ディベート (10 時間)					
	(発表・まとめ)			・ディベート (ディベートについ て理解する)	③④ ⑤⑩	総合 6			
	価値観の形成Ⅱ (1) (1 時間)			(役割を決め、作戦 会議を行う)					
	・価値観を知る (ダイヤモンドラ ンキングで自分 の価値観につい て考える)	①② ③④ ⑦⑧	特活 1	(ディベートを行 う)					
	情報の理解と活用Ⅲ (1) (4 時間)			(役割を決め、作戦 会議を行う)					
・上級学校調べⅡ (文字媒体、イン ターネット等で 見学する上級学	④⑤ ⑥⑩	総合 2	・ディベート発表 (クラス対抗ディベ ート大会)	③④ ⑤⑩	特活 4 *				

校を調べる) ・オープンキャンパス参加 (オープンキャンパスに参加する)	④⑤ ⑥⑩	総合 2						
--	----------	---------	--	--	--	--	--	--

〈3年生〉注：特活の＊は学校行事を示す。

校種	高等学校								
学年	3年								
目標	キャリア教育の観点に基づき、自己の個性と将来の生き方・進路について一層深く考察し、自分にふさわしい進路の選択・決定を行うとともに、卒業後の生活への適応や将来設計に向けた自己実現を図る上で必要な諸能力や態度を身に付ける。								
学期	1学期			2学期			3学期		
過程	単元名(時間)	能力	領域	単元名(時間)	能力	領域	単元名(時間)	能力	領域
単 元 構 成	学ぶことの意義と理解Ⅲ (2時間)			情報の理解と活用Ⅳ (2時間)			進路先での適応 (2時間)		
	・高校生活の完成を目指す (2年次の振り返りと3年次の目標設定)	②⑦ ⑧	特活 1	・卒業生講演会 (3月卒業の卒業生の話を聴く)	①③ ⑤⑥ ⑦	特活 1	・進路先での適応を考える (進路先で起こりうる問題への対処法を考える)	⑤⑨ ⑩	特活 2
	・進路計画の作成 (進路実現のための計画を立てる)	⑦⑧	特活 1	キャリアセンター見学 (10時間)			将来設計・進路選択Ⅲ (3時間)		
	・ガイダンス (キャリアセンター見学について理解する) (見学先を決める) (マナーについて学ぶ)	⑦⑧	特活 1	・キャリアセンター見学 (上級学校のキャリアセンターを見学する)	⑤⑥ ⑩	総合 3	・10年後の自分へ (10年後の自分に作文を書く)	①② ⑦⑧	特活 1
	自分を知るⅢ (5時間)			・キャリアセンター見学 (発表準備) (発表する)	④⑤ ⑥⑦ ⑩	総合 4	キャリア学習まとめ (7時間)		
	・職業適性検査 (将来の職業を考える) (職業適性検査受検) (適性について考える)	①② ③⑤	総合 4	・キャリアセンター見学発表 (発表準備) (発表する)	④⑤ ⑥⑦ ⑩	総合 4	・キャリア学習まとめ (これまで学んできたことを振り返る) (レポート作成) (冊子の作成)	①② ④ ⑤⑥ ⑦ ⑧⑨ ⑩	総合 7
	・適性について知る (適性シートに記入する)	①②	特活 1	将来設計・進路選択Ⅲ (2時間)					
	上級学校体験 (14時間)			・新たな進路に向けて (新しい学生生活のプランニング)	④⑩	総合 3			
	・上級学校調べⅢ (文字媒体、インターネット等で志望する上級学校を調べる)	⑤⑥ ⑩	総合 2	・進路の再確認	①② ⑦⑧ ⑩ ①②	特活 1 特活			

学期	1 学期			2 学期			3 学期		
過程	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域	単元名 (時間)	能力	領域
単 元 構 成	(会議を行う) ・上級学校体験ガイ ダンス (上級学校体験に ついて理解する) (体験先を決める) ・上級学校体験 (上級学校で授業 を受ける) ・上級学校体験発表 (発表準備) (発表する)	⑤⑦	総合 2	(進路の再確認を し、変更があれば 変更先を考える) 価値観の形成Ⅲ(2) (1時間) ・職業選択のあり方を 考える (自分にあった職 業選択を考える)	⑦⑧ ⑩	1			
	情報の理解と活用Ⅳ (1) (1時間) ・進路講演会 (予備校から話を 聴く)	① ④ ⑤ ⑥ ⑦	特活 6*	将来設計・進路選択Ⅲ (2) (2時間) ・キャリアプランを立 てる (キャリアプラン を立てる) ・進路を選択するⅡ (志望校を決定す る)	①② ⑦⑧ ⑩	特活 1			
	価値観の形成Ⅲ(1) (2時間) ・フリーターについて 考える (ビデオを視聴) (フリーターにつ いて考える)	① ③ ⑤⑥ ⑦	特活 1	情報の理解と活用Ⅳ (3) (4時間) ・労働法・社会保障を 学ぶ (労働法・社会保 障の知識を得る) ・雇用環境を知る (現在の雇用環境 の知識を得る) ・学ぶ制度と機会を知 る (生涯学習の機会 の知識を得る) ・生涯の支出を考える (生涯にわたる支 出を算出する)	①② ⑦⑧ ⑩ ①② ⑤⑦ ⑧⑩ ⑤	特活 1 1			
	将来設計・進路選択Ⅲ (1) (2時間) ・進学準備をする (選択条件を確認 する) (志望校を調査し、 比較検討する)	④⑩	総合 4		①② ⑦⑧ ⑩ ①② ⑤⑦ ⑧⑩ ⑤	特活 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			

この全体計画の立案に当たっては、キャリア教育の六つの領域である(1)個人資料の理解(自己理解)、(2)進路情報の理解、(3)啓発的体験、(4)進路相談、(5)進路の選択・決定の援助、(6)進路先へ適応力と、キャリア教育の三つの場面である(1)進路学習、(2)啓発的体験、(3)進路相談とを連関させて単元開発を行い、さらに各単元の内容に応じて、キャリア発達にかかわる5領域10能力の育成を系統的、組織的、段階的に行えるよう留意した。

また、「総合的な学習の時間」と特別活動の2領域を核としたキャリア教育カリキュラムでは、次の3点に配慮して取り組んだ。

(1) スパイラルな積み重ね

「進路適性の理解」「進路情報の理解と活用」「望ましい職業観の形成」「将来の生活の設計」「適切な進路の選択決定」「学ぶことの意義と理解」「進路先への適応」の分野を各分野が互い

に相乗効果をあげるように、学期を追うごとに、また学年を追うごとにスパイラルに積み上げるようなカリキュラムとして開発した。

(2) 事前学習と事後学習

進路学習活動や啓発的体験活動が一過性的な活動にならないよう、事前学習と事後学習を取り入れ、さらに前の活動が次の事前活動につながるような単元配置を心掛けた。

(3) 「総合的な学習の時間」と特別活動

キャリア教育においては「総合的な学習の時間」と特別活動は、その内容において重なる部分もあるが、「総合的な学習の時間」においては、課題発見・解決能力の育成や、学び方やものの考え方を身に付け、問題解決に取り組む姿勢を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることがねらいである。そのため、「総合的な学習の時間」においては「考える」活動や課題の発見・解決、体験的側面の強い活動を行い、それ以外の活動及び実際の進路の選択決定にかかわる活動は特別活動で実践するように工夫した。

全体計画で構成されている学年ごとの単元内容を整理すると次のようになる。

1 学年	2 学年	3 学年
① フレッシュマンキャンプ	① 学ぶことの意義と理解Ⅱ(1)	① 学ぶことの意義と理解Ⅲ
② 自分を知るⅠ(1)	② 自分を知るⅡ(1)	② 自分を知るⅢ
③ 学ぶことの意義と理解Ⅰ(1)	③ インターンシップ	③ 上級学校体験
④ 情報の理解と活用Ⅰ(1)	④ 価値観の形成Ⅱ(1)	④ 情報の理解と活用Ⅳ(1)
⑤ 情報の理解と活用Ⅱ(1)	⑤ 情報の理解と活用Ⅲ(1)	⑤ 価値観の形成Ⅲ(1)
⑥ 情報の理解と活用Ⅰ(2)	⑥ 情報の理解と活用Ⅲ(2)	⑥ 将来設計・進路選択Ⅲ(1)
⑦ 価値観の形成Ⅰ(1)	⑦ 自分を知るⅡ(2)	⑦ 情報の理解と活用Ⅳ(2)
⑧ 将来設計・進路選択Ⅰ(1)	⑧ 情報の理解と活用Ⅲ(3)	⑧ キャリアセンター見学
⑨ 自分を知るⅠ(2)	⑨ 将来設計・進路選択Ⅱ(1)	⑨ 将来設計・進路選択Ⅲ(2)
⑩ 情報の理解と活用Ⅱ(2)	⑩ 価値観の形成Ⅱ(2)	⑩ 価値観の形成Ⅲ(2)
⑪ 価値観の形成Ⅰ(2)	⑪ 将来設計・進路選択Ⅱ(2)	⑪ 将来設計・進路選択Ⅲ(3)
⑫ 将来設計・進路選択Ⅰ(3)	⑫ ディベート	⑫ 情報の理解と活用Ⅳ(3)
⑬ 課題研究	⑬ 価値観の形成Ⅱ(3)	⑬ 進路先での対応
⑭ 価値観の形成Ⅰ(3)	⑭ 学ぶことの意義と理解Ⅱ(2)	⑭ 将来設計・進路選択Ⅲ(3)
⑮ 学ぶことの意義と理解Ⅰ(2)	⑮ 将来設計・進路選択Ⅱ(3)	⑮ キャリア学習のまとめ

それでは次に、「進路適性の理解に関する指導計画」として、各学年での取組事例を各1例紹介していくことにする。

高等学校キャリア教育カリキュラム（1年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名

「フレッシュマンキャンプ」（1年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
(特別活動) ○入学当初に、互いに自己紹介することを通して、自己について考えるとともに、他者の良い点を見つける。 ○学校生活への適応に向けて、新たな人間関係を自ら形成していく。	自己教育能力 ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。(自己表現能力) 人間関係能力 ○互いに支え合いわかり合える友人を得る。(他者理解能力)


	○新しい環境や人間関係をいかす。(コミュニケーション能力)
--	-------------------------------

3 キャリア教育の指導計画

〈事前準備・事前学習〉

- ①「自己紹介をしましょうシート」「自己紹介を聴いてカード」「振り返りシート」の印刷・準備をする。※後掲の各資料を参照
- ②生徒に自己紹介の内容を予め考えておくよう指示する。

単元「フレッシュマンキャンプ」の「自己紹介」の指導計画（1単元時間）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	<p>○本時の学習のねらいを確認する。 〈学習のねらい〉：お互いに自己紹介することで、自己を考えると同時に、他者の良い点を見付ける。</p> <p>○「自己紹介を聴いてカード」の記入方法を確認する。 〈カードの記入方法〉：60の言葉のリストから、ふさわしいものを五つ選んで記入し、エールを一言書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動の目的を理解させる。 ・自己理解とともに、他者理解の必要性に気付かせる。 ・誹謗中傷するような内容を記入しないように注意する。 	<p>自己教育能力</p> <p>○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。(自己表現能力)</p> <p>人間関係能力</p> <p>○互いに支え合いわかり合える友人を得る。(他者理解能力)</p> <p>○新しい環境や人間関係をいかす。(コミュニケーション能力)</p>	学習観察
展開	<p>○自己紹介をする。 〈自己紹介方法〉：氏名、出身地、出身中学、趣味、スポーツ、抱負等を含め、一人1分で自己紹介をする。</p> <p>○一人終わるごとに、「自己紹介を聴いてカード」に記入する。</p> <p>○全員終了したら、「自己紹介を聴いてカード」を本人に渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話をきちんと聴き、カードに記入するよう指示する。 ・カード記入の状況を見て、間をおいて次の自己紹介をさせるよう留意する。 ・机上に氏名を書いた紙を貼らせ、そこにカードをおかせる。 		学習観察
まとめ	<p>○「振り返りシート」に記入する。</p> <p>○まとめの話を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長所と短所は表裏一体であることを知らせる。 		学習観察 振り返りシート

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
め		・自己理解と他者理解の必要性にふれる。		

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。(自己表現能力)
人間関係能力	○互いに支え合いわかり合える友人を得る。(他者理解能力) ○新しい環境や人間関係をいかす。(コミュニケーション能力)

(資料) 「自己紹介」の資料

自己紹介をしましょうシート (事前学習としてこのシートを活用する)

自己紹介をしましょうシート

クラス	番号	氏名
-----	----	----

【 mission 1 】

- (1) 一人1分で自己紹介をしましょう。
- (2) 自己紹介をしている人から受ける印象を下の60の言葉から五つ選び、「自己紹介を聞いてカード」に記入しましょう。また、エールを一言書きましょう。

1. 指導力がある	2. 協調的	3. 慎重
4. 大胆	5. 几帳面	6. 我慢強い
7. 賢明	8. 物知り	9. 奉仕的
10. 自主的	11. 世話好き	12. 約束を守る
13. 理性的	14. 陽気	15. 活発
16. 真面目	17. 穏やか	18. 親切
19. 冷静	20. 社交的	21. 頼りになる
22. 信念がある	23. アイディアが豊富	24. 進歩的
25. 落ち着きがある	26. 粘り強い	27. 健康的
28. エネルギーが豊富	29. ユーモアがある	30. チャレンジ精神がある
31. 公平	32. 優しい	33. 堅実
34. 集中力がある	35. 心が広い	36. 親しみやすい
37. さっぱりしている	38. 積極的	39. 素直
40. 気取らない	41. しっかりしている	42. 責任感がある
43. 礼儀正しい	44. 正直	45. 個性的
46. 説得力がある	47. 頼りになる	48. 努力家
49. 一生懸命	50. 思いやりがある	51. 温かい
52. 感受性が豊か	53. 決断力がある	54. 気配りができる
55. ひかえめ	56. 存在感がある	57. 思慮深い
58. 哲学的	59. 好奇心が旺盛	60. 適応力がある

【 mission 2 】

○ 「自己紹介を聴いてカード」を自己紹介した人に渡しましょう。

自己紹介を聴いてカード（導入時にこのカードの記入方法を説明する）

自己紹介を聴いてカード

自己紹介者氏名（	）
自己紹介者氏名（	）
年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5

振り返りシート（活動のまとめとしてこのシートを活用する）

振り返りシート

○ 今回の活動を振り返り、5段階で評価してみましょう。

	5 よくできた	4 できた	3 ふつう	2 できなかった	1 まったくできなかった	
	評 価 項 目		評 価 状 況			キャリア教育の観点
1	今回の活動は楽しくできましたか		5 4 3 2 1			自己教育能力 ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。 （自己表現能力） 人間関係能力 ○互いに支え合いわかり合える友人を得る。（他者理解能力） ○新しい環境や人間関係をいかす。（コミュニケーション能力）
2	上手に自分を表現できましたか		5 4 3 2 1			
3	この活動を通して、自分について考えることができましたか		5 4 3 2 1			
4	他者の話をよく聴き、理解することができましたか		5 4 3 2 1			
5	「自己紹介を聴いてカード」への記入が上手にできましたか		5 4 3 2 1			
6	この活動を通して、他者について新たな気付きや理解の深まりを感じることができましたか		5 4 3 2 1			

感 想 ・ 気付いたこと

担当者コメント

クラス	番号	氏名	
-----	----	----	--

高等学校キャリア教育カリキュラム（2年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名
「自分を知るⅡ」（2年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
（特別活動） ○「私シート」の作成を通して、これまでの自己を振り返る。 ○他者の発表を聴くことで、他者の理解に努める。	自己教育能力 ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。（自己表現能力） 人間関係能力 ○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。（他者理解能力） ○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）

3 キャリア教育の指導計画

〈事前準備・事前学習〉

- ①「チェックシート」「私シート」「質問シート」「評価シート」「振り返りシート1」「振り返りシート2」を印刷・準備をする。
- ②4人一組の活動グループを形成する。
- ③生徒に「チェックシート」を予め記入してくるよう指示する。

単元「自分を知るⅡ」の「自分を振り返る」の指導計画（2単元時間のうちの1時間目）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	○本時のねらいと展開方法を確認する。 〈学習のねらい〉：「私シート」を作成することで、これまでの自己を振り返り、他者の発表を聴くことで他者を理解する。 ○あらかじめ決められたグループに分かれ着席する。 ○「チェックシート」を出す。	・本時の目標を理解させ、自己理解の必要性を伝える。	自己教育能力 ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。（自己表現能力） 人間関係能力 ○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。（他者理解能力） ○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）	学習観察
展開	○「私シート」の配布を受ける。	・自分を見つめながら記入するよ		学習観察

展 開	<p>○「チェックシート」を参考に「私シート」に記入する。 〈記入方法〉：「チェックシート」だけでなく、自己の考えを記入しても良い。</p> <p>○グループ内で一人ひとり「私シート」を読上げる。</p> <p>○グループ内で話し合う。 〈話し合い〉：「私シート」を作成して見て感じたこと等を話し合う。</p>	<p>う指導する。</p> <p>・人が読み上げている時の自分の姿勢や態度に注意を払うよう指示する。</p>	
ま と め	<p>○「振り返りシート1」に記入する。</p> <p>○「振り返りシート1」を回収する。</p> <p>○まとめの話をお聴く。</p>	<p>・今回のねらいをもう一度確認する。</p> <p>・話し合いの後、「私シート」の内容を変更する場合には、次回までに提出するよう連絡する。</p>	学習観察 振り返りシート

単元「自分を知るⅡ」の「自分を振り返る」の指導計画（2単元時間のうちの2時間目）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導 入	<p>○本時のねらいと展開方法を確認する。 〈学習のねらい〉：「私シート」を作成することで、これまでの自己を振り返り、他者の発表をお聴くことで他者を理解する。</p> <p>○予め決められたグループに分かれ着席する。</p> <p>○「私シート」を出す。</p>	<p>・前回に引き続き、自己理解の必要性を伝える。</p> <p>・本時では、特に、発表することで自己を表現する大切さについても伝える。</p>	<p>自己教育能力</p> <p>○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。（自己表現能力）</p> <p>人間関係能力</p> <p>○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。（他者理解能力）</p> <p>○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）</p>	学習観察
	○面接ゲームを行う。	・実際の面接と同		学習観察

展 開	<p>〈面接ゲーム〉</p> <p>①グループ内で面接官3名と受験者1名を決める。</p> <p>②グループ毎に「質問シート」の配布を受ける。</p> <p>③面接官は質問シートの中から質問を10選び、質問する。受験者は「私シート」を参考にこたえる。</p> <p>④面接官と他のメンバーは聴きながら、「評価シート」に記入する。</p> <p>⑤役割をかえ、③④を繰り返す。</p> <p>⑥全員終了した後に、「評価シート」をそれぞれ切り離し、本人に渡す。</p>	<p>様に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に「評価シート」の記入が行えるよう指導 ・支援をする。 ・お互いに見えなかった部分について印象を出し合うよう指示する。 ・自分を見つめながら、記入するように伝える。 		
ま と め	<p>○「振り返りシート2」に記入する。</p> <p>○「振り返りシート2」を回収する。</p> <p>○「私シート」を回収する。</p> <p>○まとめの話聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のねらいをもう一度確認する。 		<p>学習観察 振り返り シート 私シート</p>

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。(自己表現能力)
人間関係能力	<p>○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。(他者理解能力)</p> <p>○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。(コミュニケーション能力)</p>

〈事後指導・事後活動〉

- ①「私シート」を印刷し冊子を作成する。
- ②「振り返りシート2」にコメントを記入し返却する。

(資料) 「自分を振り返る」の資料

チェックシート (事前学習としてこのシートを活用する)

チェックシート

【 mission 1 】

○ 自分自身を振り返り、次の各設問にこたえてみましょう。

記入日	年	月	日	年	組	番	氏名	
1 自分の長所を三つあげてください								
①			②			③		
2 自分は一言でいうとどんな人間ですか								
3 友人を見ていて、自分には無いと感じるのはどのようなところですか								
4 友人を見ていて、自分にも似ている所があると感じるのはどのようなところですか								
5 自分の現在の興味・関心は何ですか (その理由もこたえてください)								
6 自分の得意な教科は何ですか (その理由もこたえてください)								
7 自分がこの高校を選んだ理由は何ですか								
8 これまでの高校生活で得たものは何ですか (それでどのようなことがわかりましたか)								
9 あなたが大切にしていることは何ですか (その理由もこたえてください)								
10 一生懸命に取り組んでいることは何ですか								
11 自分はどのような分野に向いていると思いますか (その理由もこたえてください)								
12 自分はどのような時に自らの適性を感じたり、確認することができますか								
13 自分は事務的な仕事、人と接する仕事、物を扱う仕事のどれに向いていると思いますか								
14 自分の適性をいかせる進路としてどのようなものがあると思いますか								

- 1 5 小さい頃の夢は何でしたか（その理由もこたえてください）
- 1 6 現在の将来に対する夢や抱負は何ですか（その理由もこたえてください）
- 1 7 将来はどのような職業に就きたいですか
- 1 8 将来の夢の実現のために、今何を心掛けていますか
- 1 9 将来の夢の実現のために、これからどのように取り組む必要があると思いますか
- 2 0 自分の将来について保護者はどのような期待をしていると思いますか

「私シート」（導入時にこのカードの記入方法等を説明する）

「私シート」

クラス		番号		氏名	
-----	--	----	--	----	--

【 mission 2 】

- チェックシートを参考に、自分自身を振り返りながら、空欄にあなたが考えていることを記入していきましょう。

私がこの高校を選んだのは_____の頃です。その理由は_____
です。選ぶときには_____とよく相談しました。

そして、この学校に入学し、これまでの高校生活で得たものは_____
です。そのことで私は_____ということが
わかりました。

現在一生懸命取り組んでいることは_____
です。

私がいつも大切にしていることは_____
です。なぜかというと_____だからです。

私の長所は_____などところで
すが、一言で言うと私は_____な人間だと思
います。

自分と友人と比較して感じることは_____
です。

私は以前は_____に興味・関心がありましたが、今は（も）_____
に興味・関心があります。なぜかというと_____
だからです。

私の好きな科目は_____です。それは_____
だからです。

私の適性は_____の分野にあると思います。なぜかというと_____
だからです。この方面に適性があるなど感じるのは_____

な時です。

私は、事務的な仕事、人と接する仕事、物を扱う仕事の中では_____に向いていると思います。

こうした私の適性がいかせる進路としては_____が考えられると思っています。

私の小さい頃の夢は_____でした。
それは_____

だからでした。

現在の私の将来の夢は_____です。なぜかという_____だからです。そう考えるようになったのは_____の頃からです。

現在、夢を実現させるために心がけていることは_____
といったことです。私の夢に対して保護者は_____
と言っています。

これから自分の夢を実現させるために努力しなければならないことは_____
だと思います。

質問シート（このシートはグループ活動による面接ゲームで活用する）

質問シート

【 mission 3 】

- 次の質問項目から 10 個の質問を選び、受験者に質問をして下さい。但し、☆のついた質問は必ず質問すること。

- | | |
|------|---|
| 1 | 自分の長所を二つあげてください |
| 2 | 自分は一言でいうとどんな人間ですか |
| 3 | 友人を見ていて、自分には無いと感じるのはどのようなところですか |
| 4 | 友人を見ていて、自分にも似ている所があると感じるのはどのようなところですか |
| 5 | 自分の現在の興味・関心は何ですか（その理由もこたえてください） |
| 6 | 自分の得意な教科は何ですか（その理由もこたえてください） |
| 7 | 自分がこの高校を選んだ理由は何ですか |
| ☆ 8 | これまでの高校生活で得たものは何ですか（それでどのようなことがわかりましたか） |
| ☆ 9 | あなたが大切にしていることは何ですか（その理由もこたえてください） |
| 10 | 一生懸命に取り組んでいることは何ですか |
| ☆ 11 | 自分はどのような分野に向いていると思いますか（その理由もこたえてください） |
| 12 | 自分はどのような時に自らの適性を感じたり、確認することができますか |
| 13 | 自分は事務的な仕事、人と接する仕事、物を扱う仕事のどれに向いていると思いますか |
| 14 | 自分の適性をいかせる進路としてどのようなものがあると思いますか |
| 15 | 小さい頃の夢は何でしたか（その理由もこたえてください） |
| ☆ 16 | 現在の将来に対する夢や抱負は何ですか（その理由もこたえてください） |
| 17 | 将来はどのような職業に就きたいですか |
| ☆ 18 | 将来の夢の実現のために、今何を心掛けていますか |
| 19 | 将来の夢の実現のために、これからどのように取り組む必要があると思いますか |
| 20 | 自分の将来について保護者はどのような期待をしていると思いますか |

評価シート（面接ゲームの際に受験者以外のグループメンバーがこのシートに記入する）

評価シート

【 mission 4 】

- (1) グループの他のメンバーの面接の様子を見て、感じたことを記入してみましょう。
 (2) 評価は（ 3：よくできました 2：できました 1：見直しが必要です ）を○で囲みましょう。

受験者氏名（ ）

記入日	年 月 日	年 組 番	氏 名			
1	受験者の特徴がよく出ていましたか？			3	2	1
2	相手に伝わるような言葉遣いで話をしていましたか？			3	2	1
3	自分の考えが適切に表現されていましたか？			3	2	1
4	前向きに将来のことを考えていることが伝わってきましたか？			3	2	1
5	しっかりと自分を見つめていることが伝わってきましたか？			3	2	1
6	受験者の将来の夢に対してアドバイスを一言					
7	受験者に激励のメッセージを一言					

振り返りシート1（2単元時間のうちの1時間目に活動のまとめとしてこのシートを活用する）

振り返りシート1

○ 今回の活動を振り返り、5段階で評価してみましょう。

5 よくできた		4 できた	3 ふつう	2 できなかった	1 まったくできなかった		
	評 価 項 目	評 価 状 況					キャリア教育の観点
1	今回の活動は楽しくできましたか	5	4	3	2	1	自己教育能力 ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。（自己表現能力） 人間関係能力 ○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。（他者理解能力） ○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）
2	「私シート」で自分をよく表現できましたか	5	4	3	2	1	
3	発表が上手にできましたか	5	4	3	2	1	
4	自分はどのような人間か振り返ることができましたか	5	4	3	2	1	
5	進路適性への理解が進みましたか	5	4	3	2	1	
6	自分自身の将来について考えることができましたか	5	4	3	2	1	
7	他者の発表を聞いて感想を述べることができましたか	5	4	3	2	1	
8	積極的に活動に参加できましたか	5	4	3	2	1	

--	--	--	--

感想・気付いたこと

担当者コメント

クラス	番号	氏名	
-----	----	----	--

振り返りシート2（2単元時間のうちの2時間目に活動のまとめとしてこのシートを活用する）

振り返りシート2

○ 今回の活動を振り返り、5段階で評価してみましょう。

5 よくできた		4 できた		3 ふつう		2 できなかった		1 まったくできなかった			
	評価項目	評価状況					キャリア教育の観点				
1	今回の活動は楽しくできましたか	5	4	3	2	1	自己教育能力 ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的、効果的に説明する。（自己表現能力） 人間関係能力 ○他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。（他者理解能力） ○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）				
2	面接で上手に自分を表現できましたか	5	4	3	2	1					
3	自分はどうような人間か振り返ることができましたか	5	4	3	2	1					
4	進路適性への理解が進みましたか	5	4	3	2	1					
5	自分自身の将来について考えることができましたか	5	4	3	2	1					
6	面接者として上手に質問することができましたか	5	4	3	2	1					
7	他者の面接状況を適切に評価できましたか	5	4	3	2	1					
8	積極的に活動に参加できましたか	5	4	3	2	1					

感想・気付いたこと

担当者コメント

クラス	番号	氏名	
-----	----	----	--

高等学校キャリア教育カリキュラム（3年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名
「自分を知るⅢ」（3年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
<p>（特別活動）</p> <p>○客観的に自己の適性を知るとともに、総合的に理解することに努める。</p> <p>○自分の考え、他者の意見、適性検査の結果からジョハリの窓を作成し、総合的に自己の適性を考える。</p>	<p>自己教育能力</p> <p>○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。（自己理解能力）</p> <p>人間関係能力</p> <p>○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）</p> <p>情報活用能力</p> <p>○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。（情報収集・活用能力）</p>

3 キャリア教育の指導計画

〈事前準備・事前学習〉

- ①「ワークシート1」「ワークシート2」「ワークシート3」「振り返りシート」「適性職業群一覧表」を印刷・準備をする（「ワークシート2」は人数分×3）。
- ②職業適性検査を用意し、実施方法、採点方法等を確認する。
- ③4人一組のグループを形成する。

単元「自分を知るⅢ」の「職業適性検査」の指導計画（2単元時間のうちの1時間目）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	<p>○本時の学習のねらいを確認する。</p> <p>〈学習のねらい〉：職業適性検査を受検し、客観的な目で適性を知ると同時に、総合的に自己の適性を理解する。</p>	<p>・職業適性を知ることが職業選択の一つの要素となること、自分の考え、他者の意見、検査結果を総合的に考える必要性を伝える。</p>	<p>自己教育能力</p> <p>○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。（自己理解能力）</p> <p>人間関係能力</p> <p>○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）</p>	学習観察
展開	<p>○「ワークシート1」「ワークシート2」「適性職業群一覧表」の配布を受ける。</p> <p>○「ワークシート1」の作業を行う。</p>	<p>・適性職業群一覧をよく読むように伝える。あるいは、教員が読み上げて説明する。</p>	<p>情報活用能力</p> <p>○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。</p>	学習観察

展 開	<p>〈ワークシート1〉</p> <p>①これまでの憧れの職業を記入する。</p> <p>②適性職業群一覧表から、自分に向いていると思う職業を記入する。</p> <p>○4人一組のグループを作る。</p> <p>○「ワークシート2」の作業を行う。</p> <p>〈ワークシート2〉</p> <p>①各人の「ワークシート2」を分配しその人に向くと思われる職業を記入し、本人に返す。</p> <p>②結果をもとに感想を話し合う。</p>		(情報収集・活用能力)	
ま と め	○まとめの話を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・適性は多方面から見ていくことが大切であることを伝える。 ・次回「ワークシート1」「ワークシート2」を持参するよう伝える。 		学習観察 振り返りシート

単元「自分を知るⅢ」の「職業適性検査」の指導計画（2単元時間のうちの2時間目）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導 入	○本時の学習のねらいを確認する。 〈学習のねらい〉：職業適性検査を受検し、客観的な目で適性を知ると同時に、総合的に自己の適性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業適性は、自分の考え、他者の意見、検査結果を総合的に考える必要性を再度伝える。 	<p>自己教育能力</p> <p>○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。（自己理解能力）</p> <p>人間関係能力</p> <p>○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力）</p>	学習観察
展 開	○検査結果をもとにプロフィールを作成す	<ul style="list-style-type: none"> ・検査結果は科学的根拠に基づ 		学習観察

展 開	<p>る。</p> <p>○「ワークシート3」の配布を受け、指示に従い記入する。</p> <p>〈ワークシート3〉</p> <p>①「ワークシート1」「ワークシート2」「職業適性検査プロフィール」を参考にジョハリの窓に取り組む。</p> <p>○「ワークシート3」の結果から職業適性について考える。</p>	<p>くものであること、また結果は適性のすべてではなく一部を示したものであることを明確に伝える。</p> <p>・総合的に職業適性を考えるよう伝える。</p>	<p>情報活用能力</p> <p>○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。</p> <p>(情報収集・活用能力)</p>	
ま と め	<p>○振り返りシートに記入する。</p> <p>○まとめの話を聴く。</p>	<p>・今回のねらいをもう一度確認する。</p> <p>・振り返りシートを回収する。</p>		学習観察 振り返り シート

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
自己教育能力	○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。(自己理解能力)
人間関係能力	○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。(コミュニケーション能力)
情報活用能力	○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。(情報収集・活用能力)

〈事後指導・事後活動〉

- ①振り返りシートに、コメントを記入して返却する。
- ②進路相談を行う。

(資料) 「職業適性検査」の資料

ワークシート1 (事前学習及び2 単元時間のうちの1 時間目の導入でこのシートを活用する)

ワークシート1

【 mission 1 】

○ ワークシートの質問にこたえましょう。

1 自分がこれまでに就きたいと思った職業は何ですか？

小学校入学前	
小学校時代	
中学校時代	
高校入学後	

2 自分の周囲にあこがれる職業に就いている人がいますか？ それはどんな職業ですか？

--

3 自分自身で向いていると思う職業を、適性職業群一覧から三つ選び、記入しましょう。
その時、必要とされる能力 (G、V、N...) と職業例、選んだ理由も記入しましょう。

職業適性群	能力	職業例	理由

ワークシート2（本時の展開で、グループメンバーに適する職業をこのシートに記入し、該当者にわたす。2 単元時間のうちの1 時間目にこのシートを活用する）

ワークシート2

【 mission 2 】

- このワークシートの持ち主に、最も適する職業だと自分が思う職業を、適性職業群一覧から三つ選び記入してください。その時、必要とされる能力（G、V、N....）と職業例、選んだ理由も記入してください。

年 組	氏 名	
-----	-----	--

職業適性群	能 力	職 業 例	理 由

記入者（ ）

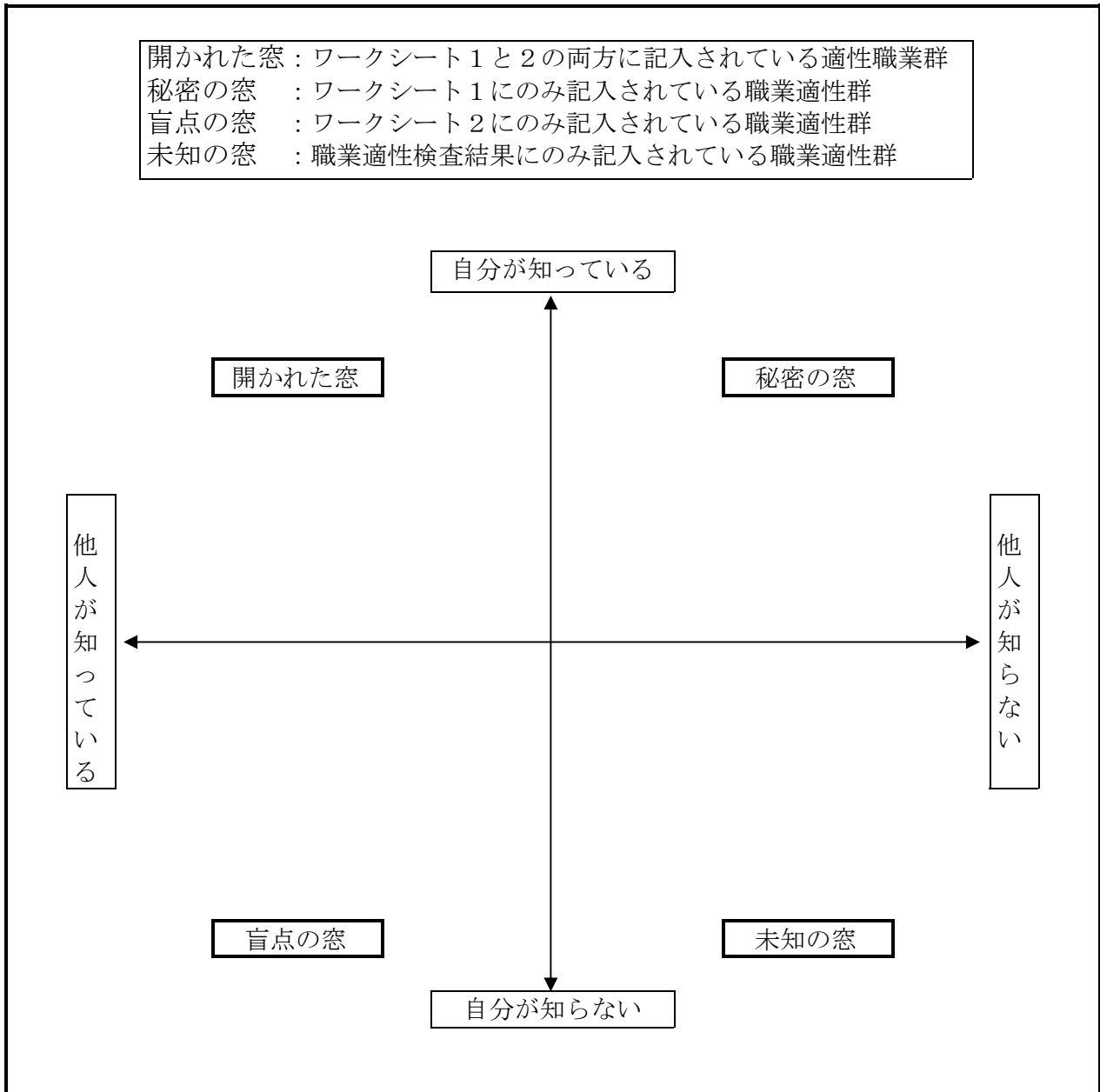
注：自分の名前を書いた後、グループ内の3人に配ること。

ワークシート3（2単元時間のうちの2時間目にこのシートを活用する）

ワークシート3

【 mission 3 】

- 「ワークシート1」及び3人からもらった「ワークシート2（3枚）」「職業適性検査プロフィール」を用意しましょう。次に、シート中に示した要領にしたがい、職業適性群と必要な能力を、四つの窓にそれぞれ記入しましょう。



振り返りシート（2 単元時間のうちの 2 時間目にこのシートを活用する）

振り返りシート

○ 今回の活動を振り返り、5 段階で評価してみましょう。

5 よくできた		4 できた		3 ふつう		2 できなかった		1 まったくできなかった		
	評価項目	評価状況					キャリア教育の観点			
1	今回の活動は楽しくできましたか	5	4	3	2	1	自己教育能力 ○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 （自己理解能力） 人間関係能力 ○自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意思等を的確に理解する。（コミュニケーション能力） 情報活用能力 ○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 （情報収集・活用能力）			
2	いろいろな職業があることを理解できましたか	5	4	3	2	1				
3	積極的に自分に適する職業を考えることができましたか	5	4	3	2	1				
4	友達に適する職業を親身になって考えることができましたか	5	4	3	2	1				
5	グループでの話し合いを活発に行うことができましたか	5	4	3	2	1				
6	職業適性検査の役割や内容を理解し適切に受検できましたか	5	4	3	2	1				
7	自分の適する方向を理解できましたか	5	4	3	2	1				
8	積極的に活動に参加できましたか	5	4	3	2	1				

今回の活動を通じ、職業や適性について考えたことは何ですか

自分に適した職業はどのようなものだと思いますか

担当者コメント

クラス	番号	氏名
-----	----	----

例示2：高等学校1年生「ジョブ・シャドウイング」の単元計画

本単元計画は、高等学校1年生での職業調べ・職業理解に関する単元の中で展開を想定した「ジョブ・シャドウイング」について紹介したものである。

ジョブ・シャドウイング(Job shadowing)は、1日あるいは半日、ある特定の勤労者に影(Shadow)のように付いて回り、その人の働く姿の全体を見つめ、職業観や勤労観の育成を図る体験活動の一つの在り方である。この活動は、インターンシップの一部あるいはその前段としての動機付けを図る取組として注目を集めている。インターンシップが就業体験として実務的な経験を積むのに対して、ジョブ・シャドウイングは働く社会人の観察を通して、体験的に職業や「働くこと」を考え、また学校での学習がやがて社会人として生きていく上で必要な知識や技能を獲得していることに気付くことをねらいとしている。学校でのキャリア教育の推進にとって、ジョブ・シャドウイングはインターンシップとともに、学校での学習と職業との結び付きを考え、望ましい職業観・勤労観の育成に向けて、自らの生き方・進路について理解を深める価値ある体験として期待されている。

第1時	ガイダンス(特) ジョブ・シャドウイングを体験する意義や具体的な取組を理解する。
第2時	活動計画の立案(特) ジョブ・シャドウイングの体験先のプログラムに従い、自分の目的を設定し、資料やインターネットを活用して仕事内容を調べ、計画を立てる。
第3～4時	講演会「会社での一日」(総) 講演内容から、社員の一日の取組を知り、また社会人としての生き方について考える。
第5～7時	事前体験研修(特) ジョブ・シャドウイングの事前体験研修を通して、準備を進める。
第8～13時	体験ジョブ・シャドウイング(総) 1日ジョブ・シャドウイングの体験を行う。
第14～15時	体験学習後の記録の整理(総) 体験を振り返りながら、体験内容や考えことなどを整理する。
第16～17時	体験学習発表会の準備(総) 体験内容を各自でプレゼンテーションできるように準備する。
第18～21時	体験学習発表会(総) 半日日程で、グループ別に発表し合い、体験から得たことを考える。
第22時	活動全体を振り返って(総) 活動全体を振り返り、これからどのように体験をいかすか個々に考える。

※表中の略記 (特):特別活動 (道):道徳 (総):「総合的な学習の時間」

この単元では、①ジョブ・シャドウイングの体験を通して、産業・職業の動向等について理解を深めること、②体験を通して、自己の特性、進路等についての理解を深めること、③自らの進路意識を高め、学習と仕事とのつながりについて考えることの三つをねらいとして設定した。

実施時期は1年生の後半である1月末から2月上旬にかけてを想定した。その理由は、4月以来取り組んできた自己理解や職業調べなどの活動を通じた職業理解などを行ったあとの位置付けから、またこれから2年生に向けてより深く自己の特性や生き方・進路について探究していく上での位置付けという前後の系統性を考慮した点にある。

実際の取組は、特別活動と「総合的な学習の時間」との関連付けを図った単元での展開を想定した。キャリア教育の観点からは、情報活用能力と将来設計能力の二つのキャリア発達にかかわる能力育成を目指し、意識して取り組むことを考えた。

ジョブ・シャドウイングの実施に向けては、受け入れ先の企業等との関係・調整を図るなど、体験に向けた周到な準備が必要である。今日では、学校と企業とを仲介する業者も現れている。

高等学校キャリア教育カリキュラム（1年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名

「ジョブ・シャドウイング」（1年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
<p>（特別活動）</p> <p>○ホームルーム活動等でのガイダンスの機能をいかし、生徒の自主的、実践的な活動を助長する。</p> <p>（「総合的な学習の時間」）</p> <p>○ジョブ・シャドウイングを体験することで、自己の在り方生き方について考える。</p> <p>○体験を通して考えたことや学んだことなどをまとめ、発表する。</p>	<p>情報活用能力</p> <p>○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。（情報収集・活用能力）</p> <p>○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。（職業理解能力）</p> <p>将来設計能力</p> <p>○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。（役割把握・認識能力）</p> <p>○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。（計画実行能力）</p>

3 キャリア教育の単元計画

次程	領域	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一 次(7 時間 扱い) 事前 の展 開	特別 活動	<p>○ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョブ・シャドウイングについて理解する。 ・実際の場面についてのビデオ教材を見せて具体について理解を深める。 <p>○活動計画の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験先を選び、資料等に基づいて活動計画を立てる。 ・必要な情報をインターネット等を活用して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブ・シャドウイングの意義や役割を、実際の場面を例示するなどして、理解させる。 ・自分の希望する体験先を予め配布した資料に基づいて選ばせ、意欲を高める。 ・活動計画の作成に当たってはきめ細かな指導・支援を行う。 	<p>情報活用能力</p> <p>○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。（情報収集・活用能力）</p> <p>○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。（職業理解能力）</p> <p>将来設計能力</p> <p>○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。（役割把握・認識能力）</p> <p>○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。（計画実行能力）</p>	学習観察 活動計画

次程	領域	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一 次(7 時間 扱い) 事前 の展 開	特別 活動	<p>○講演会「会社での一日」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演内容から、ジョブ・シャドウイングの目的を、各自でもう一度考えるとともに、体験に向けて参考にする。 <p>○事前体験研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に講演者に関しては取組の趣旨を説明し、生徒の意欲の喚起と体験上の留意点、不安面の解決に向けた内容で依頼する。 ・同一体験場所ごとのグループで活動し、事前に連絡をとり、事前体験研修を受けるよう指導する。 	<p>情報活用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 (情報収集・活用能力) ○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。(職業理解能力) <p>将来設計能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。(役割把握・認識能力) ○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。(計画実行能力) 	<p>学習観察 講演記録 事前体験 研修記録</p>
第二 次(6 時間 扱い)	総合 的な 学習 の時 間	<p>○体験ジョブ・シャドウイング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が選択した場所で一日体験を行う。 ・体験終了後、グループの代表が学校に連絡する。 ・体験記録を自宅で作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画に従って体験を行い、指導担当者は分担して企業を訪問し、取組を観察する。 ・生徒からの連絡完了後、指導担当者が企業へ電話連絡を入れる。 		<p>活動観察 体験記録</p>

第三次(9時間扱い)事後の展開	総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○体験学習後の記録の整理 ○体験学習発表会の準備 ○体験学習発表会 ○活動全体を振り返って 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録等をもとに体験学習の発表をグループ別に準備する。 ・活動全体を振り返り、もう一度学習のねらいを確認する。 		学習観察振り返りシート
-----------------	-----------	--	--	--	-------------

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。(情報収集・活用能力)
将来設計能力	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。(職業理解能力) ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。(役割把握・認識能力) ○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。(計画実行能力)

(資料)「ジョブ・シャドウイング」の資料

ジョブ・シャドウイング体験記録

○この用紙は、体験終了後に、自宅で体験中の記録を整理した上で記入します。

体験先		体験者 ___組 氏名_____
ジョブ・シャドウイングした企業人の職務概要		*グループ代表者 ___組 氏名_____
時程	仕事の経過	仕事中に気付いたこと・考えたこと

企業人の働く姿・業務内容等を通して、産業や職業について知り得たこと・考えたこと
今回の体験を通して、自己の特性、生き方・進路について考えたこと
ジョブ・シャドウイングを体験した感想

例示3：教科「福祉」をいかしたキャリア教育の単元計画

本単元計画は、近年、多くの高等学校で取り入れる傾向にある教科「福祉」に関して、キャリア教育の観点からどのように関係付けを図り、展開することができるかを、社会福祉施設等での実習に注目して例示の紹介を試みたものである。普通科の高等学校では、多くの場合「社会福祉基礎」を位置付け、展開している。高等学校学習指導要領解説（福祉編）の各科目の中の「社会福祉基礎」の部分には、「特定の分野に偏ることなく社会福祉全体をとらえられるように、社会福祉施設を見学する機会を設けるなど実習・調査・研究等を多く組み入れ、生徒が福祉を体験的に学習できるよう配慮する」とある。すなわち、専門学科の高等学校や専門コースを設置する高等学校に位置付けられている「社会福祉実習」のみならず、普通科での「社会福祉基礎」においても社会福祉施設等での実習が想定されるので、単元計画を立案した。その際、5領域10能力の学習プログラムに基づき、実習単元の目標・内容に即してキャリア教育で育む諸能力を設定し、系統性のあるキャリア教育カリキュラムの開発に努めた。

○ キャリア教育で育む諸能力（5領域10能力）

自己教育能力	自己理解能力	①
	自己表現能力	②
人間関係能力	他者理解能力	③
	コミュニケーション能力	④
情報活用能力	情報収集・活用能力	⑤
	職業理解能力	⑥
将来設計能力	役割把握・認識能力	⑦
	計画実行能力	⑧
意思決定能力	選択・決定能力	⑨
	課題解決能力	⑩

○ キャリア教育カリキュラム（例示案）

※表中の能力欄は上記の表に対応し、領域欄の数字は配当時間数を示す。

校種	高等学校
学年	3年
科目	社会福祉実習
単元	社会福祉施設等体験実習 (福祉系の進路について考えると共に、実現方法や課題について学ぶ。)
学習目標	○将来の進路や興味・関心をもとに実習先を選択させる。 ○施設関係者等から専門的な立場での講話に基づいて仕事内容を把握させ、進路の実現

	<p>方法や実習時の注意点について学ばせる。</p> <p>○各施設での事前指導から体験実習の心構えや注意点などを確認させ、課題を持って取り組ませる。</p> <p>○体験実習を通して施設の役割や職員の方の仕事内容及び利用者等に対する心配りなどを学ばせる。</p> <p>○各施設関係の就職を希望している生徒には将来のための第一歩に位置付け、進路設計を立て直す機会とさせる。</p> <p>○進路希望が未定の生徒には進路を考えるよい機会とさせる。</p> <p>○体験したことをレポートにまとめることで、学んだことや疑問に思ったことなどを確認させる。</p>		
過程	学 習 内 容	能力	領域
単 元 構 成	<p>○保育所体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先の決定 ・講演会「保育士と保育園について」 ・事前指導 ・体験実習 ・レポート作成 	<p>⑨</p> <p>①⑤</p> <p>①⑤</p> <p>①④⑥</p> <p>②⑧⑩</p>	<p>教科 福祉 21</p>
	<p>○通所介護（デイサービス）施設等体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先の決定 ・講演会「デイサービスと実習の心構えについて」 ・事前指導 ・体験実習 ・レポート作成 	<p>⑨</p> <p>①⑤</p> <p>①⑤</p> <p>①④⑥</p> <p>②⑧⑩</p>	<p>教科 福祉 21</p>
	<p>○介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）・看護（病院）体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先の決定 ・講演会「特別養護老人ホームと実習の心構えについて」 ・事前指導 ・体験実習 ・レポート作成 	<p>⑨</p> <p>①⑤</p> <p>①⑤</p> <p>①④⑥</p> <p>②⑧⑩</p>	<p>教科 福祉 21</p>
	<p>○地域作業所（小規模作業所）等体験実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先の決定 ・講演会「地域作業所（小規模作業所）等と実習の心構えについて」 ・事前指導 ・体験実習 ・レポート作成 	<p>⑨</p> <p>①⑤</p> <p>①⑤</p> <p>①④⑥</p> <p>②⑧⑩</p>	<p>教科 福祉 21</p>

高等学校キャリア教育カリキュラム（3年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名

「社会福祉施設等体験実習」（3年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
<p>（教科）</p> <p>○福祉に関する体験的な学習を通して、総合的</p>	<p>自己教育能力</p> <p>○自己の職業的な能力・適性を理解し、それ</p>

な知識と可能な技術を習得し、社会福祉の向上を図る実践的な能力と態度を育む。

- 社会福祉サービス利用者や関係職員との直接的なかかわりを通して、理論として学んだ知識と技術を統合し、実践の場で活用することにより、主体的に学習する態度を身に付けると共に、課題解決能力を形成する。
- 多様な社会福祉施設等での実習を行うことにより、社会福祉を広い視野で捉えられるようにする。
- 生徒の意欲が社会福祉サービス利用者の生活に大きく影響することを実感し、人間的成長につなげる。
- 社会福祉サービス利用者の基本的人権の尊重や守秘義務、プライバシーの保護等に配慮するなど職業観や倫理観等、専門職としての基本姿勢を培う。
- 実習終了後、総合的に自己評価する機会を設定し、成就感を持つとともに、今後の学習意欲を高める。



を受け入れて伸ばそうとすることができる。(自己理解能力)

- 選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つことができる。(自己理解能力)
- 自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。(自己表現能力)
- 他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的・効果的に説明する。(自己表現能力)

人間関係能力

- 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。(コミュニケーション能力)
- 新しい環境や人間関係をいかす。(コミュニケーション能力)

情報活用能力

- 卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。(情報収集・活用能力)
- 就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。(情報収集・活用能力)
- 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる。(情報収集・活用能力)
- 就業等の社会参加等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。(職業理解能力)
- 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。(職業理解能力)
- 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。(職業理解能力)

将来設計能力

- 生きがい・やりがいがあり自己をいかせる生き方や進路を現実的に考える。(計画実行能力)
- 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。(計画実行能力)
- 将来設計、進路計画の見直し検討を行い、その実現に取り組む。(計画実行能力)


3 キャリア教育の単元計画

単元「社会福祉施設等体験実習」の「保育所体験実習」の計画（21 単元時間）

次程	領域	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第一 次（5 時間 扱い）	福祉	<p>「事前指導」</p> <p>○意義・目的の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決能力を形成し、主体的に学習する態度を身に付ける。 職業観・勤労観を育む。 園児や保護者に関する守秘義務、プライバシーの保護に配慮する。 <p>○実習先決定</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い、意見を出し合って決定する。 <p>○講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所の社会的意義、保育士の仕事内容、進路実現の方法や実習の心構えについて知る。 各施設で概要、時間、必要事項、心構え等について説明を受ける。 希望担当クラス等及び自分なりの課題について語る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に施設に依頼する。 事前指導に関する打ち合わせを行う。 生徒への説明の手順を確認する。 場所や規模や特色等を考慮して決定する。 男女バランス、人数制約など、詳細な情報の提供を心掛ける。 事前に講演者に依頼し、打ち合わせをする。 話しをうかがうポイントや事前に考えておくことを指示する。 	<p>自己教育能力</p> <p>○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。（自己理解能力）</p> <p>○選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。（自己理解能力）</p> <p>情報活用能力</p> <p>○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。（情報収集・活用能力）</p> <p>○就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。（情報収集・活用能力）</p> <p>○職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる。（情報収集・活用能力）</p>	<p>学習観察</p> <p>講演者・施設側意見（講演者との事後打ち合わせ・施設側との打ち合わせ等）</p> <p>自己評価（レポート・発表会等）</p>

次程	領域	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第二次(12時間扱い)	福祉	<p>「体験実習の実際」</p> <p>○声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児にはゆっくり・優しく ・幼児には明るく・元気よくを心掛ける。 <p>○登園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに（保護者にも）「おはよう」の声かけをする。 <p>○おやつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備や配膳を手伝い、一緒に食べる。 <p>○排泄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着脱、おむつ交換の手伝いをする。 <p>○遊び、クラス保育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び相手になる。 ・一緒に遊び、片付ける。 ・先生の指示に従い準備や援助をする。 <p>○食事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備や、片付けを手伝う。 ・準備や配膳を手伝い、一緒に食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当年齢によって指導・支援の内容に違いがあることを確認させる。 ・笑顔で接するよう指導する。 ・安全には十分に配慮させる。 ・わからないことは自分で判断せず、保育士に聞くように指示する。 ・手洗いやエプロン着用など衛生面に配慮するよう指示する。 	<p>自己教育能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。（自己表現能力） ○選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。（自己表現能力） <p>人間関係能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。（コミュニケーション能力） ○新しい環境や人間関係をいかす。（コミュニケーション能力） <p>情報活用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就業等の社会参加等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。（職業理解能力） ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。（職業理解能力） ○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。（職業理解能力） 	<p>学習観察（巡回訪問等）</p> <p>施設側意見（巡回訪問・事後挨拶等）</p> <p>自己評価（レポート・発表会等）</p>



次程	領域	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
第二次(12時間扱い)	福祉	<p>○昼寝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備を手伝い、声をかけたり、身体をなでたり、軽くやさしくたたいてあげる。 ・側について寝かせる。 ・布団をしまいのを手伝う。 <p>○降園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の整理整頓を手伝う。 <p>挨拶をして見送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者には「おかえりなさい」などの挨拶をする。 			<p>学習観察 (巡回訪問等)</p> <p>施設側意見 (巡回訪問・事後挨拶等)</p> <p>自己評価 (レポート・発表会等)</p>
第三次(4時間扱い)	福祉	<p>「事後指導」</p> <p>○反省・記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の実習における感想や反省、課題及びその解決方法等についてレポートを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の報告を発表会等の形式で開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が個々にコンピューター室等を活用して、作成するため、設定や規定枚数など予め準備しておく。 ・作成に関する説明をする。 ・報告や発表会では、情報を共有することの大切さを理解させる。 	<p>自己教育能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。(自己表現能力) ○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的・効果的に説明する。(自己表現能力) <p>将来設計能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生きがい・やりがいがあり自己をいかせる生き方や進路を現実的に考える。(計画実行能力) ○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。(計画実行能力) ○将来設計、進路計画の見直し検討を行い、その実現に取り組む。(計画実行能力) 	<p>自己評価 ・振り返り (レポート・発表会等)</p> <p>他者の意見 (発表会等)</p>

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
○自己教育能力	○自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとすることができる。(自己理解能力)
	○選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つことができる。(自己理解能力)
	○自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。(自己表現能力)
	○他者を説得する等のために、自分の考えや意見を論理的・効果的に説明する。(自己表現能力)
○人間関係能力	○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。(コミュニケーション能力)
	○新しい環境や人間関係をいかす。 (コミュニケーション能力)
○情報活用能力	○卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。(情報収集・活用能力)
	○就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。(情報収集・活用能力)
	○職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などがわかる。 (情報収集・活用能力)
	○就業等の社会参加等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。(職業理解能力)
	○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。(職業理解能力)
	○多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。(職業理解能力)
将来設計能力	○生きがい・やりがいがあり自己をいかせる生き方や進路を現実的に考える。(計画実行能力)
	○職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。(計画実行能力)
	○将来設計、進路計画の見直し検討を行い、その実現に取り組む。(計画実行能力)

〈社会福祉施設等体験実習の概要について〉

ここで紹介した社会福祉施設等体験実習では3年次において年間4施設でそれぞれ2日間ずつの実習を想定したが、1施設でも、1日でもまた他学年でも可能である。

各実習は、実習先の決定・講演会・事前指導・体験実習・レポート作成等を一つの流れとして構成してある。まずは、体験実習以外について説明する。

実習先は、保育所等・通所介護（デイサービス）施設等・特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）等・地域作業所（小規模作業所）等の4施設を考えた。実習の施設数については、キャリア諸能力の育成のためにも、また施設側の対応上もなるべく少人数がよく、2～3人から多くとも4人までが適切と思われる。例えば、40人規模では10以上の施設に依頼するということになる。依頼

時期については、前年度中又は半年前までに行うことが一般的であるが、遅くとも3ヶ月前には依頼しておく必要がある。特に、特別養護老人ホームでの体験実習は、専門学校生や訪問介護員等の実習で受け入れが困難な現状があるので調整に留意する必要がある。依頼は電話等の連絡後、実際に各施設を訪問して行う。その際、生徒に育ませたい能力を説明し、施設側にも了解を願う。記載した表には多くの諸能力をあげたが、施設側との打ち合わせの時には、特に育成したいと思うものを焦点化しておくことも必要である。実習先の決定については、生徒に、各施設の内容・特徴・規模など、詳細な情報を提供し、自主的に決定できるように工夫する。このことは、個々のキャリア諸能力の育成にとって重要な役割を果たすものとする。

講演会は、実習に先立ち全員を対象に行うことを想定したもので、講演者についてはなるべく実習先の施設の方に依頼することが望ましい。その理由としては、施設との打ち合わせの時に依頼した、育成したい能力に関連した講演を期待できること、また同時に実習中の注意点などについても理解を深めることができるからである。

最後に事後指導であるが、まずは各自レポートを作成し、体験実習で得たことや、課題などについて適切な振り返りをさせる。このこともキャリア諸能力の育成につながるものになると考える。また、次の段階では、発表会を行うことで、他者の体験を聞いたり、意見交換を行うことを通して、より理解を深めさせる。この活動で、情報の共有が可能となり、体験していないことについても疑似体験ができるようになり、さらには新たな気付きや発見にもつながると考える。

〈保育実習の例示について〉

(1) 事前指導

施設への依頼については、他の社会福祉施設等に比べ、時期や人数等の点で比較的要望に応じてくれる傾向にあるが、公的な行政機関の窓口や私立の関係機関等との連携・協力を密にして、実習受け入れ先の施設等の調整を進めていくことが大切である。調整後は、受け入れ先の施設に指導担当者が訪問して打ち合わせを行い、学校側の学習の目的を明確にするとともに、施設側の要望等実習に向けた細部の打合せも実習前の段取りとして重要である。

(2) 保育所実習

実習の仕方には、数時間の見学体験から一週間以上にわたるものなど多様であるが、ここでは普通科の高等学校におけるカリキュラム運用の面を考慮して、二日間のものを想定した。今回は、初日で一日の流れを理解し、二日目には園児の名前や性格などの理解に努め、適切な対応を心掛けることで、より充実した実習を行うことを考えた。

実習中は、指導担当者が分担して巡回訪問を行うが、複数箇所に施設が及ぶ状況も十分配慮し、組織的に連携・協力して行えるよう工夫をしていく必要がある。巡回訪問は、まず生徒の様子を把握すること、そして必要に応じて指導・支援等を行うことを目的とする。また、受け入れ施設側との連絡や実習上での問題点などをうかがう機会としても大切な活動である。そして、教科での取組から、学習活動の評価という点でも、施設側の意見として生徒の取組状況等の情報を得る必要がある。

(3) 事後指導

レポート作成では、感想や反省をまとめるとともに、キャリア諸能力の育成にかかる自己振り返りにもきちんとした対応をさせることが指導上必要であるといえる。そのためには、課題やその解決に向けた方法や取組などを記入するよう支援することも大切である。この事後の活動を通して、自己表現能力と関係付けて、生徒の取組を評価していくことが求められる。

発表会は、自分の思いなどを他者に伝え、また他者の発表や意見を聞くなどを通して、情報の共有化の大切さに気付き、理解を深める点で重要である。また、他者との交流を通して、人間関係能力の育成に努めるよう指導上の工夫を図っていくことが必要である。

また単元終了後には、指導担当者が各施設を訪問し、生徒の達成状況を報告するとともに、次年

度の受け入れなどの依頼をも行い、体験実習の意義や効果について意見交換しておくことも大切である。

(4) キャリア発達にかかわる育みたい諸能力

ここでは、体験実習という学習の特性から、次の二つの能力を育みたいと考えた。

第一には、自己教育能力の中の自己理解能力である。他の社会福祉関係施設等で実習を行う場合にも当てはまる場所であるが、この場合には、将来保育士や幼稚園教諭等に興味や関心のある生徒が、自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとするきっかけになるとともに、自分の価値観の形成や望ましい職業観・勤労観の育成に向けて期待するものである。

また、進路について悩んでいたり未定の生徒についても、この体験を通して、自己の職業的な能力・適性を理解することにより、進路を考えるよい機会ともさせたい。

第二には、情報活用能力の中の職業理解能力である。この体験実習を単なる体験に終わらせることなく、探索的・試行的なものとして取り組ませる必要がある。そのためには生徒が個々に目的を持って、主体的に実習に取り組むよう適切に指導・支援していく必要がある。

(5) 教科「福祉」のすべての科目におけるキャリア諸能力の育成に向けて

教科「福祉」への取組が専門学科や専門コースを設置する高等学校のみならず、普通科の高等学校においてもカリキュラムに位置付けられ、様々な実践への広がりを見せている。福祉を学ぶ生徒が、自己の適性をはじめ、自らの生き方・進路を考えていく上で、学んだ知識や身に付けた技能を体験学習を通して確認し、活用できる力として自信を付ける活動の時間と場づくりは、学びと生き方の接続・一体化を図る上で重要である。各学校では、キャリア教育の観点を踏まえ、創意工夫あるカリキュラムを実践することで、福祉の心を生徒に育む指導・支援の在り方を一層追究していく必要がある。

例示 4：高大連携を展望したキャリア教育の指導計画

(1) 大学におけるキャリア教育

これまで日本の大学は、職業に直結する教育や専門性を高める教育を行うことは少なく、学生は正社員として一括採用されることによって企業に就職した後、社内教育によって一から育てられてきたという状況があった。しかし、長引く不況の中で、企業には社内教育に十分な投資をする余裕がなくなってきた。コアとなる人材は、従来通り潜在能力が高い人材を採用し、社内で教育するにしても、それ以外の人材は即戦力を求めるようになり、大学の就職に向けての体制にも変化が生じてきている。

私立大学を中心に、就職部をキャリアセンターに衣替えするところが増えている。これまでの就職部が就職活動を支援したのに対し、キャリアセンターは1年生から将来の職業、生き方を考える支援を行う。3年生以上での即席的な指導が通用しなくなり、もっと根本的な指導が求められてきたという事情が背景にあると思われる。自己理解のための適性検査、社会人の講話、資格取得支援、キャリアを学ぶ科目の設置、キャリアそのものをテーマとする学部の新設と急速に大学におけるキャリア教育は変貌を遂げている。

現在のところ、大学における「キャリア教育」は次の四つのタイプに分けられる。

①就職部（キャリアセンター）主導のキャリア教育

就職部（キャリアセンター）が最終学年での就職指導だけでなく、1年次からの意識付けを行っている。全学生が対象であるが、選択するものとして位置付けられている。

②必修科目としてのキャリア教育

カリキュラムの中にキャリアに関する科目を設定する場合である。必修科目として設定している大学は、まだ少数である。

③選択科目としてのキャリア教育

カリキュラムの中に選択科目として設定している場合である。

④学部としてのキャリア教育

キャリアそのものを学ぶ学部を設立する場合である。今後、漸増すると思われる。

(2) 高大連携を取り入れたキャリア教育

高等学校におけるキャリア教育が、それ自体で終わることなく、大学のキャリア教育にもつながっていくことを考え合わせると、キャリア教育における高大連携は極めて大きな意味を持つといえる。高大の連携を考える上では、高等学校と大学のキャリア教育をスムーズに連携させるためには高等学校ではどのようなキャリア教育を行うのかといった課題がある。また同時に、高等学校において、大学と連携し、大学の教育力を取り入れたキャリア教育をどのように行うかといった課題も存在する。

ア 高等学校におけるキャリア教育の在り方

1年次からのキャリア教育に取り組む大学から、3年次からの就職支援を主な活動とする大学まで、また就職部やキャリアセンターが中心となっている大学から、講義科目のなかにキャリア関連科目を設置する大学までであるが、学生への支援プログラムが格段に充実してきていることは確かである。

多くの大学のキャリア教育を概観してみると、必修科目としてキャリア関連科目をおいている大学は限られ、選択科目としての設置や希望者対象の講座設置が主流となっている。運営母体は就職部やキャリアセンターが主体となっていることが多いようである。また、大学におけるキャリア教育は職業観・勤労観の育成にかなりの比重をおいていることがうかがえる。就職を前提としている以上、大学におけるキャリア教育が職業観・勤労観の育成に重点がおかれるのは当然であるといえる。

高等学校のキャリア教育と大学のキャリア教育のつながりを考えた場合、大学でのキャリア教育が職業観・勤労観の育成を主眼としていることは十分考慮に入れておく必要がある。キャリア発達には成長にともなった発達段階がある。スーパー(Super. D. E.)によれば、高校生の時期は探索段階の暫定期から移行期に該当する。つまり、欲求、興味、能力、価値観、雇用機会のすべてが考慮され、暫定的な選択がなされ、それが空想や討論、仕事の中で試みられ、そのための準備が行われる時期である。そうしたことを考え合わせると、進学を主とした場合の高等学校においては、大学のように職業観・勤労観の育成にあまりに傾いたキャリア教育は必ずしも適切とは思われない。もちろんすべての大学生がキャリア教育を受けるわけではない現実や、将来の在り方生き方を考える姿勢を育成する必要性を考えると、職業観・勤労観の育成をないがしろにすることはできない。

高等学校においては「自己の適性の理解」「進路情報の理解と活用」「職業観・勤労観の育成」「将来の生活設計」「進路先の選択決定」「学ぶことの意義の理解」「進路先への適応」の分野をバランスよく、かつスパイラルな形で取り入れ、キャリア教育のカリキュラムを開発することが適切と思われる。その際に、啓発的体験やキャリア・カウンセリングを随時取り込み、「自己教育能力」「人間関係能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」を育成することが求められるといえる。キャリア発達において探索段階の暫定期から移行期にある高校生の時期にバランスの取れた、そして螺旋状の積み上げ型のキャリア教育を受けておくことによって、その後

の大学での職業観・勤労観の育成を主としたキャリア教育に十分対応でき、深まりが生まれるものと思われる。

人の生き方は人により様々であり、主体的にその人が自らの人生を歩んでいくのに必要な能力や姿勢を育てることがキャリア教育である。人が社会につながっていくためには働くことが必要である。しかし、働くことのみが人の人生ではない。一方、人が人生で果たす役割は多彩である。親として、子として、家庭人として、地域人として、趣味人として等々、様々な役割が自分らしい生き方につながるものであり、こうした役割の総体が「人が生きる」ということである。

職業観・勤労観の育成は極めて重要であるが、自己の適性の理解や進路情報の理解等が前提となり、それらと有機的に結び付いて初めてその人の職業観や勤労観が幹の太いものになるといえる。

イ 大学の教育力を取り入れたキャリア教育

「在り方生き方」を考えることが重要性を増す中で、学力向上だけではなく、大学とはどのような場所か、大学で何をするのか、学部でどのようなことを学ぶのか、どのような特徴を持った大学なのかといったことを体験的に知ることの重要性が増している。真の大学の姿を知り、また学びを学ぶことで、進路選択に対する意識の高揚が図られ、自らの適性を考え、より深い進路設計がなされる。また、モチベーションが高まり、学習意欲の喚起にもつながる。高等学校が大学と連携を持ち、大学が持っている教育力の活用を図ることは、この点で極めて有効である。また、キャリア教育において、高大連携は、生徒が情報を収集し、情報を理解し活用するといった側面や、自らの適性や将来の姿を考える機会として果たす役割が大きいと思われる。

大学の教育力を取り入れた高大連携の視点から考えた場合、まず考えられるのは、高校生による大学講義の聴講と大学教員による出張講義である。

i 大学講義の聴講

個々の高等学校と個々の大学が連携し、高校生が大学の授業を聴講できる形態と、複数の高等学校と複数の大学が連携する形態が考えられる。後者の例としては、神奈川県立高等学校進路指導協議会と首都圏西部大学単位互換協定会の連携がある。

大学講義の聴講を、高等学校における単位として認定するかどうかは、各高等学校で異なる。単位認定する場合は、出席が3分の2以上であること、レポートが満足いくものであることを条件とする場合が多い。認定の単位数は、半期科目は1単位、通年科目は2単位を認定することが多い。

大学の講義を聴講した生徒の反応は、概して良好である。大学講義の聴講を実施している高等学校の生徒のアンケートによると、「聴講することで教養や知識が身についた」「将来の生活設計の役にたった」「学部学科の理解に役だった」「大学に対する見方が変わった」等の項目では高い値を示している。一方「大学進学後の不安が減ったと思うか」「進路を考える上での情報が得られたか」については低い値を示しているが、全体的には、高校卒業後の進路を考える上で望ましい結果を示していると思われる。

ii 出張講義

大学から教員を招き、様々な学問分野についての講義を設定するものである。いくつかの学問分野について希望者を対象にして行う場合と、多くの学問分野を用意し、全員を対象に実施する場合が考えられる。進路情報の共有という点や、相乗効果を考えると後者の方がより効果があると考えられる。

出張講義を実施する上での一連の流れは次の通りである。

- a 生徒に聴講を希望する学問分野の希望を取る。
- b 希望者が極端に少ない分野を除き、開設する学問分野を決定する。
- c 大学に出張講義の依頼文を出したのち、電話で講師派遣の依頼をする。
- d 学問分野ごとに教室を配当し、担当教員を分野ごとに2名配置する。
- e 大学側から派遣講師の連絡を受け、一覧表を作成する。
- f 再度、生徒に聴講を希望する学問分野の希望を取る。
- g 学問分野ごとに聴講する生徒名簿を作成する。
- h 当日は分野ごとに配置された教員の1人が出席をとり、1名が講師を誘導する。
- i 講義には教員も参加して受講する。
- j 後日、大学側には礼状とともに、生徒の感想を送付する。

また、出張講義では業者に依頼するする場合もあるが、高等学校が直接交渉する場合の方がはるかに大学側の意気込みが違う。直接大学と交渉することが、出張講義を成功させるための一つの方策といえる。

出張講義は、高校生がわずかな間でも大学の授業の雰囲気や、学びの内容を知ること、学びの情報を収集すると同時に、自己に向けた学びを考える機会となり、自らの将来を考えるきっかけとなる。また一方では、大学の教員が高校生を知り、高校生の可能性のある能力を知る機会でもある。生徒の感想を後日送付するのもそのためである。高校生の知を求める姿勢を大学側が知り、大学入学後の教育にいかすことができればお互いの教育の質の向上につながるものと思われる。

出張講義を実施した高等学校のアンケート結果から、その効果がうかがい知ることができ

る。
 なお、回答の1は「全くそうではない」2は「そうではない」3は「どちらともいえない」4は「そう思う」5は「大変そう思う」を示している。

1 意欲的に話を聴くことができましたか

	1	2	3	4	5
合計(名)	1	16	51	150	207
比率(%)	0.2	3.8	12.0	35.3	48.7

4 高大の「学び」の違いがわかりましたか

	1	2	3	4	5
合計(名)	6	22	107	171	120
比率(%)	1.4	5.2	25.1	40.1	28.2

2 自分に向いている学問がわかりましたか

	1	2	3	4	5
合計(名)	7	48	190	135	44
比率(%)	1.7	11.3	44.8	31.8	10.4

5 今やるべきことがわかりましたか

	1	2	3	4	5
合計(名)	13	48	169	127	63
比率(%)	3.1	11.4	40.2	30.2	15.0

3 内容について理解しようとしていましたか

	1	2	3	4	5
合計(名)	3	7	82	169	168
比率(%)	0.7	1.6	19.1	39.4	39.2

ウ 大学の教育力を取り入れたその他のキャリア教育

大学の講義聴講や出張講義だけでなく、その他にも大学の教育力を利用したキャリア教育は考えられる。

① 系統別ガイダンス

看護医療系や保育福祉系の系統別のガイダンスで、大学の先生に講師をお願いすることが考えられる。

② 保護者対象講演会

全国高等学校PTA連合会とリクルートが共同で実施した「高校生と保護者の意識調査」によれば、生徒の84%が保護者と進路について話していると回答し、76%が保護者に進路選択にかかわってほしいと回答している。つまり、生徒に対する働きかけだけではなく、保護者に対しても働きかけが必要であることを示す数値と考えることができる。大学の教育力を活用し、保護者にも講演等への参加を依頼し、保護者を巻き込んだキャリア教育を、今後は一層考える必要がある。

③ 大学内に高校生向けの講義設置

年間を通じた講義の設置も考えられるが、夏期休業期間中に設置された高校生向けの講義を高校生が受講する形態が自然である。

④ 高等学校内に大学の教員による講義の設置

カリキュラムの中に学校設定科目として設定し、大学教員が通年あるいは半期授業をする場合や、一定期間の集中講義として実施する場合、スポット的な完結の授業として1回あるいは数回実施する場合は考えられる。この場合、大学の教員と高等学校の教員のティーム・ティーチング、高等学校の教員と大学生、大学院生とのティーム・ティーチングもあり得る。

⑤ 「総合的な学習の時間」での大学教育力の利用

「総合的な学習の時間」において「課題研究」を行う高等学校は多いと思われる。「課題研究」の際に大学の教員から指導を受けたり、研究室を訪問することが考えられる。高等学校の教員の指導だけでなく、違った側面から学問をとらえることができる。また、研究調査の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法を指導してもらうことも可能である。

⑥ キャリアセンター見学 ※後掲の指導資料を参照

就職部からの転換を含め、キャリアセンターを設置する大学が増えてきている。こうした施設を見学し、大学におけるキャリア開発プログラムの一部を体験することが考えられる。

(3) 高大連携を展望したキャリア教育の在り方

国際化・情報化の急速な進展と社会や経済の情勢の変化が激しい中で、これまで企業人を支えていた終身雇用制、年功序列は大きく揺らぎ、人々の価値観も多様化するところとなった。こうした時代の中で、一人ひとりが自立し、主体的に自らの進路を選択して生きていくには、キャリア教育で期待されている諸能力を身に付けることが大切である。

平成15年度から実施された学習指導要領は、これまでのカリキュラム観からの転換を図っている。カリキュラム観は大きく分ければ、古代ギリシャ以来の教科中心カリキュラムとデューイ以来の経験カリキュラムの二つに分けられる。今回、「総合的な学習の時間」の創設が象徴しているように、学習指導要領には二つのカリキュラム観が併存し、カリキュラムのハイブリット化の指向が

うかがえる。今日の学校におけるカリキュラムには、児童・生徒が教科学習等で吸収した様々な知識を、「総合的な学習の時間」などでの学習活動を通していかに活用できるかが求められているといえる。現在、各学校で特色あるカリキュラムづくりが進められているが、「総合的な学習の時間」のカリキュラム開発を通して獲得した知識とスキルが大きな原動力になっていることも否めないところである。

各学校でキャリア教育を推進する上でも、やはりカリキュラムを開発して学校教育全体に位置付けて取り組むことが必要である。キャリア教育自体は、生徒に「生きる力」の芽を植え付けるものとして求められている。同時に、学校教育の中では、今なぜ学ぶのか、今学んでいることが自らの将来とどうかかわりを持つのかを体得し、学ぶことの意義を見いだすことが求められている。各学校では、現状の課題を明確にし共有化することで、キャリア教育に向き合っていくことが大事である。導入に向けては、全校的な組織で取り組む指導體制の構築やキャリア・カウンセラーの配置など、カリキュラムを実際に運用する上での機能や環境の整備に取り組む必要がある。

「キャリア教育」は卒業時の出口指導とは異なり、キャリア発達の考えに基づいて、発達段階に応じた働きかけを前提としている。つまり「キャリア」を人間の「発達」としてとらえているのである。発達のためには3年間を見通した年間指導計画を立てることが必要である。特に、「総合的な学習の時間」、特別活動、各教科など学校の教育活動全体を体系的、系統的に構造化した「キャリア教育」のモデルを設計することが求められる。同時に、地域や公的機関、保護者との連携をはかり、インターンシップ等の啓発的な体験、法律知識等の会得、生涯学習の機会を設定するとともに、小学校、中学校と情報交換をおこない「キャリア教育」の内容に連続性を持たせるような工夫も必要である。キャリア教育が学校段階の接続や系統を重視してキャリア教育を推進する上では、高等学校における大学との連携は大切な方策としてとらえることができる。

資料1：神奈川県内の公立高等学校で、平成16年度から新たに大学、高等専門学校又は専修学校等における学修の単位認定の実施を予定している学校一覧

※文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況」（平成16年9月）より

- 1 大井高校と小澤高等看護学院との間で実施。
- 2 相原高校と桜美林大学との間で実施。
- 3 金沢総合高校と関東学院大学、横浜国立大学との間で実施。
- 4 茅ヶ崎北陵高校と文教大学、文教大学短期大学部との間で実施。
- 5 海老名高校と専修大学との間で実施。
- 6 山北高校と関東学院大学との間で実施。
- 7 百合丘高校と専修大学との間で実施。
- 8 高浜高校と神奈川社会福祉専門学校との間で実施。
- 9 麻生総合高校と桜美林大学、国士舘大学との間で実施。
- 10 三浦臨海高校と関東学院大学との間で実施。
- 11 藤沢総合高校と首都圏西部大学単位互換協会との間で実施。
- 12 瀬谷西高校と首都圏西部大学単位互換協会との間で実施。

資料 2 : 神奈川県内の公立高等学校で、平成 15 年度に大学、高等専門学校又は専修学校等に
おける学修の単位認定を実施している学校一覧

※文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況」（平成 16 年 9 月）より

- 1 神奈川県総合高校と横浜国立大学、洗足学園大学、中央大学、国学院大学との間で実施。
- 2 横浜翠嵐高校と横浜国立大学、早稲田大学との間で実施。
- 3 麻溝台高校と北里大学、和泉短期大学との間で実施。
- 4 三崎高校と関東学院大学との間で実施。
- 5 湘南台高校と横浜国立大学、文教大学、東海大学との間で実施。
- 6 茅ヶ崎高校と文教大学、文教大学短期大学部との間で実施。
- 7 初声高校と首都圏西部大学単位互換協会、関東学院大学との間で実施。
- 8 伊勢原高校と湘北短期大学との間で実施。
- 9 東金沢高校と関東学院大学、岩崎学園情報科学専門学校、聖ヶ丘教育福祉専門学校との間で実施。
- 10 弥栄東高校と女子美術大学、和泉短期大学、桜美林大学、首都圏西部大学単位互換協会、北里大学との間で実施。
- 11 弥栄西高校と和泉短期大学、北里大学との間で実施。
- 12 秦野南が丘高校と湘北短期大学との間で実施。
- 13 鶴嶺高校と横浜国立大学、文教大学、東京工業大学との間で実施。
- 14 長後高校と首都圏西部大学単位互換協会との間で実施。
- 15 岩戸高校と関東学院大学との間で実施。
- 16 相模原工業技術高校と首都圏西部大学単位互換協会、神奈川工科大学との間で実施。
- 17 相模原総合高校と桜美林大学との間で実施。
- 18 富岡高校と関東学院大学との間で実施。
- 19 藤沢北高校と首都圏西部大学単位互換協会との間で実施。
- 20 藤沢高校と文教大学、文教大学短期大学部、湘北短期大学、岩崎学園情報科学専門学校との間で実施。
- 21 舞岡高校と横浜国立大学との間で実施。
- 22 橋本高校と桜美林大学との間で実施。
- 23 足柄高校と湘北短期大学との間で実施。
- 24 相模田名高校と桜美林大学との間で実施。
- 25 寒川高校と文教大学、文教大学短期大学部との間で実施。
- 26 生田東高校と専修大学、桜美林大学との間で実施。
- 27 希望ヶ丘高校と慶応大学、横浜国立大学との間で実施。
- 28 岡津高校と関東学院大学との間で実施。
- 29 横浜桜陽高校と文教大学、湘南国際女子短期大学、横浜国立大学、関東学院大学、岩崎学園横浜リハビリ専門学校、岩崎学園情報科学専門学校、YMCAスポーツ専門学校との間で実施。
- 30 川崎高校、川崎南高校と専修大学との間で実施。
- 31 伊志田高校と首都圏西部大学単位互換協会との間で実施。
- 32 七里ガ浜高校と国連大学との間で実施。
- 33 上溝高校と桜美林大学との間で実施。
- 34 柿生高校と桜美林大学との間で実施。
- 35 二俣川看護福祉高校と首都圏西部大学単位互換協会、北里大学との間で実施。
- 36 清水ヶ丘高校と神奈川大学との間で実施。

高等学校キャリア教育カリキュラム（3年生の単元例示）

1 キャリア教育の単元名

「キャリアセンター見学」（3年生）

2 キャリア教育の目標

本単元での各領域の目標	キャリア教育の視点からの目標
（「総合的な学習の時間」） ○上級学校のキャリア教育の内容を知り、将来の自分の生き方・進路を考える。 ○見学を通して、他者とかわることで、マナー等の必要性を改めて理解し、社会人としてのマナーを体験から学ぶ。 ○見学を通して知り得たこと、考えたことを自らまとめて発表する。	人間関係能力 ○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。（コミュニケーション能力） 情報活用能力 ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。（職業理解能力） 将来設計能力 ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。（役割把握・認識能力）

3 キャリア教育の指導計画

〈事前準備・事前学習〉

- 「調査シート」「キャリアセンター見学報告書」「振り返りシート」など関係資料を印刷・準備する。

単元「キャリアセンター見学」の「ガイダンス」の指導計画（2単元時間のうちの1時間目）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	○キャリアセンター見学のねらいを確認する。 〈学習のねらい〉：上級学校がキャリア教育に取り組んでいる実態を知り、その内容を理解するとともに、今何をすべきかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の情報を収集し、理解することの必要性を伝える。 ・キャリア教育が浸透してきていることを理解させる。 	人間関係能力 ○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。（コミュニケーション能力） 情報活用能力 ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。（職業理解能力）	学習観察
展開	○見学先を決める。 〈見学先の決定〉：「見学可能先一覧」から見学したい学校を選び、提出する。 ○「調査シート」の配布を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・受験希望先があれば優先させる旨を伝える。 	将来設計能力 ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。（役割把握・認識能力）	学習観察
まとめ	○まとめの話を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・見学のねらいを確認する。 ・次回「調査シート」を提出するよう伝える。 		学習観察

単元「キャリアセンター見学」の「ガイダンス」の指導計画（2単元時間のうちの2時間目）

過程	学習活動	指導上の留意点	キャリア教育で育む諸能力	評価方法
導入	○「調査シート」を回収する。 ○本時の学習のねらいを確認する。 〈学習のねらい〉：キャリアセンター見学の際のマナーについて学び、社会人としてのマナーを知る。	・「調査シート」にはコメントを記入し、次回返却する。	人間関係能力 ○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。(コミュニケーション能力) 情報活用能力 ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。(職業理解能力)	学習観察 調査シート
展開	○「見学のマナー」の配布を受ける。 ○見学の際のマナーについて学ぶ。 ○「キャリアセンター見学報告書」の配布を受ける。	・大人と接する際のマナーの大切さを伝える。	将来設計能力 ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。(役割把握・認識能力)	学習観察
まとめ	○まとめの話を聴く。	・見学することで、これからの進路をより深く考えるようもう一度ねらいを確認する。		学習観察

4 キャリア教育における具体の評価項目

キャリア教育で育む諸能力	具体の評価項目
人間関係能力	○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。(コミュニケーション能力)
情報活用能力	○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。(職業理解能力)
将来設計能力	○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。(役割把握・認識能力)

〈事後指導・事後活動〉

- ①「調査シート」にコメントを記入し返却する。
- ②この後、キャリアセンターを見学する。
- ③見学後、「キャリアセンター見学報告書」を作成し、冊子化する。
- ④「振り返りシート」にコメントを記入し、返却する。

(資料) 「キャリアセンター見学」の資料

上級学校調査シート (2 単元時間のうちの 1 時間目にこのシートを活用する)

上級学校調査シート

クラス		番号		氏名	
-----	--	----	--	----	--

【 mission 1 】

○ キャリアセンターを見学する学校について事前に調査しましょう。

見学先の学校名		見学予定日	年 月 日
◆所在地			

電話 ()		FAX ()	
E-mail @		URL http://	
◆交通手段 自宅→			
◆この学校を選んだ理由		◆この学校の教育内容の特色	
◆取得できる資格			
◆就職状況 ◇就職率 () % ◇主な就職先			
◆キャリア教育の概要			
◆これだけは聞いてきたいこと		◆担当者コメント	

キャリアセンター見学報告書（2 単元時間のうちの 1 時間目にこのシートを活用する）

キャリアセンター見学報告書

クラス		番号		氏名	
-----	--	----	--	----	--

【 mission 2 】

○ キャリアセンターを見学し、報告書を作成しましょう。

	見 学 日	年 月 日
見学先の学校名	所要時間	時間 分
<p>◆校風・イメージ （ イメージ通り ・ イメージと違う ）</p> <p>◇校風・イメージでわかったこと・感じたこと</p>		
<p>◆キャリアセンターの内容</p> <p>◇スタッフの人数 （ ） 名</p> <p>◇センター内の主な設備</p> <p>◇センターの業務内容</p>		
.....		
◇キャリアセンターの内容についてわかったこと・感じたこと		
◆キャリア教育の計画と内容		
	年 間 計 画	内 容
1 学 年		

2 学 年		
3 学 年		
4 学 年		

◆インターンシップの内容

- ◇インターンシップ年間参加人数 () 名
- ◇インターンシップ参加学年 () 年
- ◇単位認定 () 単位
- ◇主なインターンシップ先

◆資格取得支援

- ◇取得可能な資格

- ◇資格取得支援内容

◆その他のキャリア教育

-
- ◇キャリア教育の内容についてわかったこと・感じたこと

◆就職状況

◇就職の状況

◇就職に強い分野・企業：

◇就職状況についてわかったこと・感じたこと

◆進学状況

◇大学院への進学率 () %

◇大学院への進学者数 () 名

◇大学院への指導は充実しているか

◇編入の状況

調査校への編入状況：

他校への編入状況：

◇転部転科の状況：

◇進学状況についてわかったこと・感じたこと

◆特に聞いておきたかったことへの調査結果

◆今やるべきだと思うこと

◆感想

◆模擬授業内容

振り返りシート（活動終了後にこのシートを活用する）

振り返りシート

○ 今回の活動を振り返り、5段階で評価してみましょう。

5	よくできた	4	できた	3	ふつう	2	できなかった	1	まったくできなかった
	評価項目		評価状況					キャリア教育の観点	
1	今回の活動は楽しくできましたか		5	4	3	2	1	人間関係能力 ○異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。(コミュニケーション能力) 情報活用能力 ○社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。(職業理解能力) 将来設計能力 ○将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。(役割把握・認識能力)	
2	マナーの必要性を理解できましたか		5	4	3	2	1		
3	意欲的にキャリアセンターの見学ができましたか		5	4	3	2	1		
4	キャリアセンターの担当者の説明をよく聴くことができましたか		5	4	3	2	1		
5	上級学校の取組を知り、今自分が何をすべきかを考えることができましたか		5	4	3	2	1		
6	上級学校の選択の視点について考えることができましたか		5	4	3	2	1		
7	見学を通して得られた情報や考えたことを上手に発表できましたか		5	4	3	2	1		
8	積極的に活動に参加することができましたか		5	4	3	2	1		

感想・気付いたこと

担当者コメント

クラス		番号		氏名	
-----	--	----	--	----	--

キャリア教育へのアプローチⅡでの引用・参考文献

1 キャリア教育のカリキュラム・マネジメント

- 鹿嶋研之助 平成16年「学校教育におけるキャリア教育の進め方」『進路指導』5月号
山崎保寿・黒羽正見 平成16年『教育課程の理論と実践』学陽書房
山崎保寿 平成17年「キャリア教育推進のための四つの要点」『現代教育科学』No. 580
明治図書

2 キャリア教育計画の立案と実践への準備

- 文部省 昭和58年『中学校・高等学校進路指導の手引—高等学校ホームルーム担任編—
(改訂版)』
文部省 平成6年『中学校・高等学校進路指導の手引—中学校学級担任編—(改訂版)』
仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊地武剋編 平成13年『入門 進路指導・相談』福
村出版
国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年 調査研究報告書『児童生徒の職
業観・勤労観を育む教育の推進について』
文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究
協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』
梶輝行 平成16年「キャリア教育カリキュラムに関する理論的研究」『神奈川県立
総合教育センター研究集録』第23集

3 キャリア教育における進路学習

- 全国高等学校進路指導協議会 平成9年『進路学習ベーシックマニュアル』実務教育
出版
神奈川県立高等学校進路指導協議会 平成12年「進路学習指導案作成マニュアル」

4 キャリア教育における啓発的な体験活動

- 文部省 昭和58年『中学校・高等学校進路指導の手引—高等学校ホームルーム担任編—
(改訂版)』
文部省 平成5年『高等学校進路指導資料第2分冊 個性を生かす進路指導をめざし
て』

5 キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの機能

- 日本進路指導協会 平成4年『生徒を生かすキャリア・カウンセリング』日本進路
指導協会
中西信男他 平成6年『カウンセリングのすすめ方』有斐閣
J・O・サンタマリア：佃 直毅訳 平成9年『キャリア・カウンセリング入門』文
化書房博文社
吉田辰雄編 平成13年『21世紀の進路指導事典』プレーン出版

6 キャリア教育推進に向けての指導体制

- 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編 平成3年『進路指導論』福村出版
国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年 調査研究報告書『児童生徒の職
業観・勤労観を育む教育の推進について』
三村隆男 平成16年『キャリア教育入門』実業之日本社

7 キャリア教育の評価

- 神谷孝男 平成12年「キャリア教育の評価」『キャリア教育読本』教育開発研究所
文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究
協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』

8 キャリア教育カリキュラムの例示紹介

小学校キャリア教育カリキュラム

- 文部省 平成6年 『道徳教育推進指導資料（指導の手引）4 小学校 読み物資料とその利用』
- 仙崎武編 平成12年 『キャリア教育読本』 教育開発研究所
- 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊地武剋編 平成13年 『入門 進路指導・相談』 福村出版
- 宮川八岐編 平成13年 『新学習指導要領を生かした特別活動の授業 No.1』 小学館
- 村上龍 平成15年 『13歳のハローワーク』 幻冬舎
- 小野ヒサ子 平成15年 「小学校において学習プログラムをどう工夫するか」 『教職研修』10月号 教育開発研究所
- 文部科学省 平成16年 『小学校学習指導要領解説総則編（平成16年3月一部補訂）』
- 文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』
- 文部科学省 平成16年 『心のノート（小学校3・4年）』
- 羽豆成二編 平成16年 『図解学級経営 学級生活編』 東洋館出版社
- 三村隆男 平成16年 『キャリア教育入門』 実業之日本社
- 三村隆男 平成16年 『図解はじめる小学校キャリア教育』 実業之日本社

中学校キャリア教育カリキュラム

- 文部省 昭和57年 『中学校・高等学校進路指導の手引－進路指導主事編－』
- 文部省 昭和56年 『中学校・高等学校進路指導の手引－指導計画編－』
- 文部省 平成4年 『中学校・高等学校進路指導資料 第1分冊 個性を生かす進路指導をめざして－生き方の探求と自己実現への道程－』
- 文部省 平成5年 『中学校進路指導資料 第2分冊 個性を生かす進路指導をめざして－生徒ひとりひとりの夢と希望を育むために－』
- 文部省 平成6年 『中学校・高等学校進路指導の手引－中学校学級担任編－（改訂版）』
- 仙崎武編 平成12年 『キャリア教育読本』 教育開発研究所
- 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊地武剋編 平成13年 『入門 進路指導・相談』 福村出版
- 藤川喜久男 平成15年 「中学校において学習プログラムをどう工夫するか」 『教職研修』10月号 教育開発研究所
- 文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』
- 文部科学省 平成16年 『中学校学習指導要領解説総則編（平成16年3月一部補訂）』
- 文部科学省 平成16年 『心のノート（中学校）』
- 神奈川県教育委員会 平成16年 『わたしたちの生活と進路（平成16年度）』
- 堀川博基 平成16年 『職場体験プラスαの生き方学習』 実業之日本社
- 三村隆男 平成16年 『キャリア教育入門』 実業之日本社

高等学校キャリア教育カリキュラム

- 文部省 昭和57年 『中学校・高等学校進路指導の手引ー進路指導主事編ー』
文部省 昭和56年 『中学校・高等学校進路指導の手引ー指導計画編ー』
文部省 昭和58年 『中学校・高等学校進路指導の手引ー高等学校ホームルーム担任編ー（改訂版）』
文部省 昭和59年 『体験的・探索的な学習を重視した進路指導ー啓発的経験編ー』
仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編 平成3年 『進路指導論』 福村出版
文部省 平成4年 『中学校・高等学校進路指導資料 第1分冊 個性を生かす進路指導をめざしてー生き方の探求と自己実現への道程ー』
文部省 平成5年 『中学校進路指導資料 第2分冊 個性を生かす進路指導をめざしてー生徒ひとりひとりの夢と希望を育むためにー』
文部省 平成5年 『高等学校進路指導資料 第2分冊 個性を生かす進路指導をめざしてー生徒ひとりひとりの夢と希望を育むためにー』
文部省 平成6年 『中学校・高等学校進路指導の手引ー中学校学級担任編ー（改訂版）』
労働省 平成7年 『労働省編一般職業検査手引き』 雇用問題研究会
東京都高等学校進路指導協議会 平成10年 「都高進研究大会発表資料」
職業教育・進路指導研究会 平成10年 『職業教育・進路指導に関する基礎的研究（最終報告）』
文部科学省 平成12年 『インターンシップ・ガイドブックーインターンシップの円滑な導入と運用のためにー』 ぎょうせい
仙崎武編 平成12年 『キャリア教育読本』 教育開発研究所
全国高等学校進路指導協議会 平成13年 『進路学習実践ハンドブック』 実務教育出版
国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年 調査研究報告書『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』
大橋謙策編 平成14年 『福祉科指導法入門』 中央法規出版
内閣府・文部科学省・厚生労働省・経済産業省 平成15年 「若者自立・挑戦プログラム」
渡辺三枝子 平成15年 「なぜ、キャリア教育が求められるのか」 『教職研修』10月号 教育開発研究所
上田敏和 平成15年 「高大連携の新たな展開」 『ビトウィーン』6月号 進研アド
上田敏和 平成15年 「高校と大学の連携」 『アエラムック』NO.93 朝日新聞社
河合塾 平成15年 「キャリア教育とは何か」 『ガイドライン』4月号・7月号・9月号・11月号 河合塾
リクルート 平成15年 「高校生と保護者の進路に関する意識調査」 『キャリアガイドダンス』NO.3 リクルート
愛媛大学農学部附属農業高等学校 平成15年 『生涯学習を見通した高校・大学の連携、接続の在り方の研究開発』 愛媛大学農学部附属農業高等学校
山崎保寿 平成15年 「高等学校において学習プログラムをどう工夫するか」 『教職研修』10月号 教育開発研究所
文部科学省 平成16年 調査研究報告書『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書ー児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるためにー』
文部科学省 平成16年 『高等学校学習指導要領解説総則編（平成16年6月一部補訂）』
梶輝行 平成16年 「キャリア教育カリキュラムに関する理論的研究」 『神奈川県立総合教育センター研究集録』第23集
山崎保寿 平成17年 「キャリア教育推進のための四つの要点」 『現代教育科学』No.580 明治図書

キャリア教育へのアプローチⅢ

1 キャリア教育を推進するための基本資料

(1) 中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)」

(抜粋)

(平成11年12月16日)

出典：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/991201.htm

第6章 学校教育と職業生活との接続

新規学卒者のフリーター志向が広がり、高等学校卒業者では、進学も就職もしていないことが明らかな者の占める割合が約9%に達し、また、新規学卒者の就職後3年以内の離職も、労働省の調査によれば、新規高卒者で約47%、新規大卒者で約32%に達している。こうした現象は、経済的な状況や労働市場の変化なども深く関係するため、どう評価するかは難しい問題であるが、学校教育と職業生活との接続に課題があることも確かである。

第1節 学校教育と職業生活の接続の改善のための具体的方策

学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育(望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育)を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。また、その実施状況や成果について絶えず評価を行うことが重要である。

同時に、学校教育において情報活用能力や外国語の運用能力の育成等、社会や企業から評価される付加価値を自ら育成するなど、職業生活に結びつく学習も重視していくべきである。

こうした観点に立って、他省庁や関係団体の協力も得ながら、在学中のインターンシップの促進等による体験的活動を重視していくことや、企業経験者によるキャリアアドバイザーの配置、教員のカウンセリング能力の向上等による進路に関するガイダンス、カウンセリング機能の充実を初等中等教育及び高等教育において進めていく必要がある。その際、生徒等の職業適性や興味・関心を適切に測定する方法の研究・開発を進めていくことが求められる。

また、専門高校、盲学校等の専攻科の整備充実、各大学・学部等の教育理念や専門分野等の特性に応じた専門高校・総合学科卒業生選抜やそれらの者を対象とする推薦入学の拡大など、専門高校・総合学科等における専門教育の基礎に立ち、一層進んだ学習を希望する者に対する進路の整備を更に進める必要がある。

さらに、高度専門職業人の養成に特化した実践的な教育を行う大学院の設置の促進等、社会の要請に的確に対応した高度な専門的能力を有する職業人の養成機能の強化を進める必要がある。

第2節 企業等における採用の改善(省略)

第3節 生涯学習の視点に立った高等教育(省略)

- (1) 社会人の学習機会の拡充
- (2) 生涯学習の成果の活用

(2) 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究」報告書

(概要)

(平成 14 年 12 月 21 日) 出典：<http://www.nier.go.jp/shido/sinrogaiyo.htm>

○調査研究の目的

児童生徒の進路意識や職業観・勤労観の育成が重要な課題となっている今日、学校における進路指導において、児童生徒が自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるとともに、職業に関する知識や技能を身につけさせる取組の充実が求められている。

本調査研究は、こうしたことを踏まえ、小・中・高等学校一貫した系統的な進路指導の取組の在り方について分析・検討し、職業観・勤労観の育成に向けた指導の改善・充実に資することを目的として、実施したものである。

○調査研究の概要

第 1 章 今、なぜ、「職業観・勤労観」の育成が求められるのか

今日、若者の職業観・勤労観や学ぶこと・働くことへの意欲や態度の形成をめぐる様々な課題が指摘されている。その背景には、生活環境等の変化による子どもたちの発達の変化、産業・経済の構造的変化や雇用・労働市場の多様化・流動化の進展等が考えられる。

こうした新たな状況の下、子どもたちが自己の進路を主体的に切り拓き、将来、自立した個人として力強く生きていくためには、その基盤となる意欲や態度及びこれらを根本において支える職業観・勤労観を育むことが極めて重要になっている。

第 1 節 子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化

1 高校生の進路状況の変化

子どもたちの進路選択の最も大きな分岐点となっている高卒段階での進路状況は、少子化や産業・経済、雇用情勢等の激しい変化等を背景として、近年、進学率の上昇（10 年間で 49.1%→62.8%）、就職率の下降（同 33.1%→17.1%）、無業者率の上昇（同 4.7%→10.5%）といった傾向が顕著である。

2 生活体験・社会体験等の機会の喪失

都市化、核家族化の進展などによって、子どもたちが様々な直接体験を得る機会が減少し、①働くことの厳しさや喜び、成就感や自己有用感等の獲得、②対人関係能力や社会に適応していく資質・能力の形成、③生きた学びの成立等々、発達課題の達成及び目的意識や職業観・勤労観の基盤形成に様々な影を落としている。

3 経済的豊かさの実現と価値観の多様化

経済的豊かさの増大、価値観の多様化等が進行し、人々の職業選択の在り方も変わりつつある。こうした変化が、価値観や職業観・勤労観の確立という発達課題に立ち向かう若者に、「豊かさ」と「多様化」の中での選択基準・技術の獲得という新たな負荷を課し、これまでに以上に強い葛藤や心理的圧迫を強めている。

第 2 節 子どもたちの職業観・勤労観の現状とその育成をめぐる新たな状況

1 子どもたちの職業観・勤労観の現状

若者の職業観・勤労観等について、学校・企業関係者からは未成熟や低下といった厳しい評価が大勢を占める一方、若者自身の就業への意欲や働く目的に関する意識には大きな変化は見られない。

職業意識・理解については、マスメディアの情報による影響が大きく、自己の興味や好み、自己実現を重視する傾向が見られるが、職業の実際や関連情報の獲得・活用の方法、自分の能力・適性の理解は不十分である。

これらは、職業の実際を把握できず、自己の生き方と職業との関連づけを十分に行うことができない子どもたちの実状等を示唆していると考えられる。

2 職業観・勤労観の育成が不可欠な「時代」

学校から職業への接続の構図は、かつて、労働力確保が優先された時代から大きく変化し、個人の生き方や職業人としての意欲や資質・能力、高度な対人能力等が厳しく問われるようになってきている。

こうした時代にあって、職業観・勤労観は、社会や企業が求める人材を養成するといった役割を超えて、全ての子どもたちが自立し、他者と協働して生きるために身に付けなければならない最低限の力ともいうべき性格を持っている。

第2章 職業観・勤労観を育む教育の意義

第1節 職業観・勤労観の定義

1 職業観・勤労観とは何か

「職業観・勤労観」は、職業や勤労についての知識・理解及びそれらが人生で果たす意義や役割についての個々人の認識であり、職業・勤労に対する見方・考え方、態度等を内容とする価値観である。その意味で、職業・勤労を媒体とした人生観ともいうべきものであって、人が職業や勤労を通してどのような生き方を選択するかの際の基準となり、また、その後の生活によりよく適応するための基盤となるものである。

2 「望ましい職業観・勤労観」とは何か

子どもたちが働く意義や目的を探究し、一人一人が自分なりの職業観・勤労観を形成・確立していく過程を指導・援助することが大切である。その際、多様性を大切にしながらも、それらに共通する要素として、職業の意義についての基本的な理解・認識、自己を価値あるものとする自覚、夢や希望を実現しようとする意欲的な態度など、「望ましさ」を備えたものを目指すことが求められる。

第2節 職業観・勤労観の育成に取り組むに当たっての基本的な考え方

1 学ぶこと・働くことへの意欲を高める

子どもたちの学ぶことや働くことに対する意欲の低下が課題として指摘されている。このため、①分かる授業等によって学習への動機を高め、それを進路意識の高揚や将来の上級学校・職業の選択につないでいくこと、②子どもたちが、将来の夢や希望をしっかりと描くことを通して、今、なぜ、何を学ばなければならないのかを自覚し、学ぶことや働くことへの意欲や目的意識をより確かなものしていくため取組を充実させる必要がある。

2 職業観・勤労観の形成過程を支援する

子どもたちは、確固とした職業観・勤労観を持つことが強く求められる時代に生きながら、それを形成することが難しい状況に置かれている。このことを踏まえ、①職業観・勤労観の形成には、子どもたちの努力だけでなく周囲の指導・援助が不可欠であり、支援によって育むことができるという共通認識を持つこと、②小学校段階からの様々な体験の確保、現実の社会に対する多様な情報の提供及びその活用方法を習得させること等を通して、考える力、学ぶ力、選択する力を育成すること、③その際、個別の指導・援助、相談等の充実留意し、教員のガイダンス・カウンセリング等にかかる資質・能力の向上を図ることが求められる。

第3章 今、進路指導の在り方の何が問われているか

第1節 学習指導要領における進路指導の位置づけの改善

— 略 —

第2節 進路指導の改善・充実に向けた主な課題

1 「進路指導」に対する正しい認識の共有

生徒の成長・発達や進路をめぐる環境が大きく変化し、進学や就職のためだけの指導が有効に機能しにくくなっている今日、長年の課題として指摘され続けてきた本来の進路指導への転換が緊急の課題となっている。進路指導は、生き方にかかる組織的・継続的な指導・援助である。このことを教職員全体がしっかりと認識し、積極的に指導内容・方法等の見直し・改善を進めることが強く求められる。

2 指導内容・方法等の改善・工夫

中・高等学校での進路指導の取組には、生徒の要望や評価との間にズレがあったり、生徒の進路意識や進路選択態度の変容に十分結びついていなかったりする状況が見られる。

このため、生徒の実態や学習ニーズを踏まえつつ、各取組の目的を十分認識するとともに、生徒の心に届くという観点に立って、常に、指導内容・方法及び計画等を点検し、生徒一人一人を温かくきめ細かく支えていく姿勢を一層確立していく必要がある。

その際、児童生徒の発達の全体を見通した適時性や系統性に留意し、小・中・高等学校がそれぞれの役割を認識し、情報交換等を密にして取組を進めることが大切である。

3 計画的・組織的な進路指導の展開

完全学校週5日制の実施、総合的な学習の時間の設置、選択幅の大幅な拡大など、新教育課程の枠組みは大きく変化し、また、学校教育法の一部改正を受け、体験活動の充実とその計画的実施が求められている。

このことを踏まえ、ガイダンスの充実を図るとともに特別活動、教科、道徳、総合的な学習の時間の目的・ねらいを踏まえた有機的な関連の下、より計画的・組織的に進路指導の取組が展開できるよう、教職員が一体となって全体計画を見直していく必要がある。それは、進路指導についての正しい認識が共有されていく重要な場でもある。

4 産業・経済社会の現実についての的確な情報提供

マスメディア等による間接的・一面的な職業関連情報や仮想の現実が増大し、子どもたちの世界に、現実を知らない（知らされない）中で「やりたいこと」に過剰にこだわったり、安易にあきらめたりする傾向が拡大していることが危惧される。

このため、職場見学・体験やインターンシップ、先輩や企業人の経験の活用、産業・経済の動きや雇用の変化等についての十分な情報提供等により、子どもたちに職業の世界が現実感をもって見えるようにする必要がある。また、教員自身が産業界の動きや職場の実情についての見聞と認識を深めることが求められる。

第4章 職業観・勤労観を育む進路指導をどのように進めるか

第1節 職業的（進路）発達と諸能力の育成

1 職業的（進路）発達段階と進路指導 従来、進路指導において、発達段階ごとに育成すべき能力や態度を設けて取り組まれることは少なく、それが進路指導の取組の計画性や系統性を曖昧にし、各教科、道徳、特別活動等の有機的な関連づけが進みにくい一因になっていると考えられる。

今後、小学校段階からの職業的（進路）発達という視点に立って、児童生徒がそれぞれの発達段階に応じ、自己と進路・職業との「関係付け」を適切に行い、職業的（進路）発達に必要な能力・態度を獲得していくことができるようにすることが大切である。

2 学校段階における職業的（進路）発達課題

3 職業的（進路）発達段階を踏まえた諸能力と態度の育成

小・中・高等学校の各段階における職業的（進路）発達課題及び育成すべき能力・態度を基本的な軸とする、構造化された枠組みに基づいて進路指導の取組を展開することが求められる。併せて、評価の観点と言うべきものを明確にしておく必要がある。

第2節 職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）

1 学習プログラムの枠組み（例）の構造

先行研究等に基づき、改めて小・中・高等学校の各段階における職業的（進路）発達課題を検討・整理するとともに、これらの課題達成との関連で育成することが期待される具体的な能力・態度を一般的な目安として示したものである。能力・態度を「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の4つの能力領域に大別するとともに、それぞれを構成する能力を各2つずつ計8つの能力で構成している。（別紙「職業的（進路）発達にかかわる諸能力」参照）

2 学習プログラムの枠組み（例）の活用にあたっての留意点

枠組み（例）は、児童生徒の職業的（進路）発達の見取り図ともいえるべきものである。実践にあたっては、4つの能力は相互に深く影響を与えあうこと、一つの活動によって複数の能力・態度の伸長が可能であることなどに留意し、全ての段階（学年）において、4つの能力の全体を総合的に発達させることを目指して取り組むようにすることが大切である。枠組み（例）が、これまでの進路指導の全体計画、内容・方法等の在り方を改めて点検・評価し、今後の指導に生かしていくことが期待される。

（別紙）

1 学校段階別に見た職業的（進路）発達段階、職業的（進路）発達課題

小学校段階	中学校段階	高等学校段階
＜ 職業的（進路）発達段階 ＞		
進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
＜ 職業的（進路）発達課題 ＞		
<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての職業観・勤労観の確立 ・将来設計の立案と社会移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加

2 職業的（進路）発達にかかわる諸能力

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同し、ものごとに取り組む。	<p>【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力</p> <p>【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力</p>
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	<p>【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力</p> <p>【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力</p>
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	<p>【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力</p> <p>【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で行っていく能力</p>
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	<p>【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力</p> <p>【課題解決能力】 意志決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力</p>

※報告書には、上記1を横軸、2を縦軸とし、各発達段階において育成することが期待される具体的な能力・態度をマトリックス形式の一覧にして示している。

(3) 「若者自立・挑戦プラン」

(平成15年6月10日)

出典：<http://www.keizai-shimon.go.jp/minutes/2003/0612/item3-2.pdf>

若者自立・挑戦戦略会議

文部科学大臣	遠山敦子
厚生労働大臣	坂口 力
経済産業大臣	平沼赳夫
経済財政政策担当大臣	竹中平蔵

1. 認識

(1) 深刻な現状と国家的課題

- 今、若者は、チャンスに恵まれていない。高い失業率、増加する無業者、フリーター、高い離職率など、自らの可能性を高め、それを活かす場がない。
- このような状況が続けば、若者の職業能力の蓄積がなされず、中長期的な競争力・生産性の低下といった経済基盤の崩壊はもとより、不安定就労の増大や生活基盤の欠如による所得格差の拡大、社会保障システムの脆弱化、ひいては社会不安の増大、少子化の一層の進行等深刻な社会問題を惹起しかねない。(参考1)
- わが国にとって人材こそ国家の基礎であり、政府、地方自治体、教育界、産業界等が一体となった国民運動的な取り組みとして、若年者を中心とする「人材」に焦点を当てた根本的対策を早急に講じていく必要がある。
- このため、新たな枠組みとして、ここに「若者自立・挑戦プラン」を策定し、教育・雇用・産業政策の連携を強化するとともに、人材対策への政策資源の重点投入とその効率的な活用、成果の最大化を図りながら、官民一体となって総合的な人材対策を強化する。

(2) 問題の原因

- 若年者問題の主な原因としては、第一に、需要不足等による求人の大幅な減少と、求人のパート・アルバイト化及び高度化の二極分化により需給のミスマッチが拡大していること、第二に、将来の目標が立てられない、目標実現のための実行力が不足する若年者が増加していること、第三に、社会や労働市場の複雑化に伴う職業探索期間の長期化、実態としての就業に至る経路の複雑化、求められる職業能力の質的变化等の構造的変化に、従来の教育・人材育成・雇用のシステムが十分対応できていないことなどが挙げられる。

2. 目指すべき方向

(1) 目指すべき社会

- 「若者が自らの可能性を高め、挑戦し、活躍できる夢のある社会」の実現を目指すべきである。
- また、「生涯にわたり、自立的な能力向上・発揮ができ、やり直しがきく社会」の実現を目指すべきである。

(2) 目指すべき企業像

- 若者に雇用・就業の場を提供する企業、長期的な視点から人を大切にし、人材育成、キャリア支援を図る企業が求められる。

(3) 目指すべき人材像

- 「真に自立し、社会に貢献する人材」が求められる。
- また、「確かな基礎能力、実践力を有し、大いに挑戦し創造する人材」が必要である。

3. 政策の基本的考え方

(1) 若年失業の流れの転換

- 若者が可能性を高め、活躍できる社会を構築するためには、就業機会創出や人材育成のための政策を重点的に実施し、若年失業やフリーター等の増大の流れを大きく転換する必要

がある。

(2) 構造変化に対応したシステム改革

- 若年者問題の原因を、若年者自身のみならず、教育、人材育成、雇用などの社会システムの不適合の問題として捉えて対応する必要がある。
- まず、職業探索期間の長期化や就業に至る経路の複線化に対応して、これまでの卒業即雇用という仕組みだけでなく、各個人の能力、適性に応じ、試行錯誤を経つつも、職業的自立を可能とする仕組みが必要である。
- また、技術革新の進展などの中で職務が高度化し、専門的知識・技能の他、問題発見・解決能力等のような変化に柔軟に対応できる能力が一層重要になっている。
- こうした構造的変化の下で、若年者問題の抜本的解決のためには、教育、人材育成、雇用の各システム全般の改革が必要であり、これを各府省の連携と産業界、教育界、地域社会・行政などの協力により進めることが不可欠である。

(3) 就業機会創出・人材育成の好循環と政策資源の重点投入

- 若者が大いに活躍できる場が必要であり、創業・起業活性化等の新たな市場、就業機会創出のための政策に総力を挙げて取り組む必要がある。
- また、人材の質を高めることは、能力のミスマッチを解消し、新規就業の増大につながるとともに、新たなビジネスや労働需要を生み出す源泉となることから、人材育成のための政策を強化する必要がある。
- これらの政策を強力に推進し、「就業機会創出・人材育成の好循環」を創ることが不可欠である。このため、若年者を中心とする人材育成や創業・起業活性化等による就業機会創出について、政策資源を重点投入する必要がある。

4. 産業界等の主体的な取り組み

- 若年者問題の解決のためには、産業界がその社会的使命を認識し、企業が従来以上に主体的に取り組むことが不可欠である。
- 今般、産業界から、若年者の雇用促進・人材育成を強力に進める決意や、政府の施策への積極的協力の意思が表明された。（参考2）これを高く評価し、政府としては産業界に対して、厳しい経済環境の中でも、若者に雇用や実習の場を提供し、その育成を図るよう強く求めるものである。
- 具体的には、通年採用の普及、求人開拓、インターンシップやトライアル雇用の受入れ、日本版デュアルシステムの推進、若年者に求める人材要件の明確化等について企業の協力を求めていく。
- 一方、政府としても、こうした産業界や企業の取り組みを進めるために必要な情報提供、助言・指導、関係者間の調整等を図る。
- また、教育界においても、勤労観・職業観の醸成の重要性を一層認識し、産業界、地域社会等と協力して取り組む必要がある。
- こうした関係各界の連携と政府の対策が一体となって、就業機会創出・人材育成の十分な成果を生み出すよう最大限取り組む。

5. 本プランの目標

- 本プランにおいては、フリーターが約200万人、若年失業者・無業者が約100万人と増加している現状を踏まえ、当面3年間で、人材対策の強化を通じ、若年者の働く意欲を喚起しつつ、全てのやる気のある若年者の職業的自立を促進し、もって若年失業者等の増加傾向を転換させることを目指す。

6. 政策の推進に当たって

(1) 政策の連携強化、総合的な推進

- 政策の実施に当たっては、関係府省の緊密な連携・協力の下、政策の連携強化と総合的な推進を図る。

(2) 地域の自主性と多様性を尊重した対応

○地域の自主性と多様性を尊重しながら、地域による若年者対策への主体的な取り組みを推進する。

(3) 民間の活用

○民間を活用することが適当なものは民間に委ね、その活用に当たっては、適切な質を確保しつつ、成果・実績に基づいた評価とそれに応じた適切なインセンティブによって、個人・企業・社会のニーズに合ったサービスが提供されるようにする。

(4) 明確な目標設定と施策の的確な評価

○各施策については、その達成目標を明確にした上で、施策の実績・効果を的確に評価しつつ、効果的な展開を図る。

7. 具体的な政策の展開

(1) 具体的政策

具体的な政策については、既存施策の効果を評価し、必要な見直しを行った上で、構造変化に対応した若年者のための新たな教育・人材育成・雇用・創業施策の展開を図る。

①教育段階から職場定着に至るキャリア形成及び就職支援

○次に掲げる取組を、教育施策と雇用・能力開発施策の連携により推進し、若年者の職業的自立、職場定着を進める。

〈キャリア教育、職業体験等の推進〉

- a. 勤労観・職業観の醸成を図るため、学校の教育活動全体を通じ、子どもの発達段階を踏まえた組織的・系統的なキャリア教育（新キャリア教育プラン）を推進する。このため、学習プログラムの開発や教員研修の充実などを図り、各学校の取組を促進する。
- b. 「総合的な学習の時間」等を活用しつつ、学校、企業等の地域の関係者の連携・協力の下に、職業に関する体験学習のための多様なプログラムを推進することなどにより、小学校段階からの各種仕事との触れ合いの機会を充実する。
- c. インターンシップについて、単位認定の促進、期間の多様化などにより内容を充実し、実施の拡大を図る。また、各省が連携して、国、地方の各レベルで関係者による連絡・推進協議会を設置するなど推進体制を強化する。
- d. 社会や企業の最新情報を活かした進路相談などを効果的に実施するため、地域の多様な人材を様々な教育活動の場で積極的に活用する。

〈日本版デュアルシステムの導入、基礎から実践にわたる能力向上機会の提供〉

- a. 若年者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、新たに、企業実習と教育・職業訓練の組合せ実施により若者を一人前の職業人に育てる「実務・教育連結型人材育成システム（日本版デュアルシステム）」を導入する。
 - b. 就業に関わる基礎的な能力を付与する機会、企業等のニーズを踏まえた実践的な職業能力開発の機会を提供するとともに、フリーター等に対する多様な実務的教育の機会（フリーター再教育プラン）を提供することにより、その能力向上を通じた職業的自立を支援する。
- 〈専門人材の養成、配置等を通じた就業支援、キャリア形成支援体制の整備〉

- a. 就職未内定生徒、未就職卒業者等が、ジョブサポーターにより、就職活動から職場定着までの一貫したマンツーマンのきめ細かな就職支援を受けられる体制を整備する。
- b. 新たに、若年者の適性と能力に応じた相談、情報提供等の支援を行い、職業的自立へ導く専門的なキャリア・コンサルティングを行う人材の能力要件を明確化し、その養成を早急に進める。また、こうした専門人材の学校での積極的活用や、ハローワーク等への配置により、若年者の職業的自立に向けた支援機能の充実を図る。

②若年労働市場の整備

○「学卒即本格雇用」以外に「学卒後就職探索期間を経て本格雇用」という就業経路の複線

- 化に対応した就職システムの整備を進める。具体的には、複数応募制、通年採用の普及、トライアル雇用の積極的活用、キャリア探索－形成に係る総合的な情報提供等を推進する。
- 能力を軸としたマッチングを可能とするため、企業が若年者に求める人材要件を明確にし、集約して学校や学生に提示する仕組みを関係者の協力のもとにつくりあげることにより、能力を軸とした若年労働市場の基盤を整備する。
 - 学卒、若年者向けにスキル標準の策定を含む実践的な職業能力を評価・公証する仕組みを新たにつくり、若年者のキャリア目標づくりや企業側の採用の目安としての活用を進める。
- ③若年者の能力の向上／就業選択肢の拡大
- 奨学金の充実や、教育訓練給付制度における政策効果の高い指定講座への重点化等、やる気のある若者に対する教育・訓練機会を提供する。
 - 社会経済の複雑化・高度化に対応し、社会を牽引できるような高度な専門能力等を持つ人材を養成する（キャリア高度化プラン）。
 - a. 大学、大学院、専修学校等において、産学官連携によるキャリアアップのための先導的な短期教育プログラムの開発、推進を図る。
 - b. わが国の経済社会を牽引する高度な専門能力を持つ人材を養成するため、専門職大学院の設置促進などによる高度専門職業人養成の強化を図る。
 - c. 大学院における世界的な水準の人材育成の支援や、新しい教育プログラムの提供や学部教育と大学院教育との連携などの大学教育の工夫改善に資する取組等についての充実強化を図る。
- ④若者が挑戦し、活躍できる新たな市場・就業機会の創出
- 平成18年までの新規開業数の倍増を目標に、特に若年者による創業への挑戦を促すため、新たな支援体系を構築し、重点的・集中的な対策を講じる（「若年者創業チャレンジプラン」の推進）。
 - 具体的には、（i）挑戦者を真に応援する民間やNPOを最大限活用した「創業コミュニティの形成」、（ii）「産業再生・創業促進型人材の重点的育成」、（iii）「創業促進のための制度基盤整備」を柱とし、以下の施策を中心に大胆な政策展開を行う。
 - 〈創業コミュニティの形成〉
 - a. 若年者など30万人以上を対象とした起業予備軍総合支援サービス「起ちあがれニッポン DREAMGATE」について、学生への集中啓発等、若者を意識した新たなサービスを展開する。
 - b. 民間やNPOによるベンチャー企業向けの実践型インターンシップ等を実施し、創業に挑戦する人材を大量発掘・養成する。
 - c. 大学発ベンチャーについて、1000社創出の加速化や、統合技術による事業化など総合的な市場化支援を行う。
 - d. 産業クラスター計画を強化する。販路開拓支援の拡充、資金調達力強化等により、3年間で1万件の新事業創出を図る。また、知的クラスター創成事業を推進するとともに、産業クラスター計画との連携を強化し、新技術の事業化を促進する。
 - 〈産業再生・創業促進型人材の重点的育成〉
 - a. 実効的な教育内容と高い創業・就業実績を持つ民間事業者が行う実践的な創業教育を支援する。
 - b. 経営、ベンチャー、事業再生等の高度人材に関するスキル標準の策定、企業や大学、自治体の連携によるIT人材の育成、スピンオフ型ベンチャー人材の育成など、市場が求める産業再生・創業促進型人材の育成を強化する。
 - c. 技術と経営に精通した高度人材（MOT人材）の育成を強化し、5年間で1万人のMOT人材の輩出を図る。また、先端技術と知的財産の知識を併せ持った人材（知的財産専門人材）の育成、継続的な研修等を強化する。
 - d. 小中高校生に対する体験・参加型の起業家教育を充実し、未来の起業家の育成を強化する。

e. 若手経営者の育成のため、創業塾を拡充する。

〈創業促進のための制度基盤の整備〉

a. 最低資本金制度の撤廃や、簡易で柔軟な事業組織制度として、有限責任会社(L L C)や有限責任組合(L P S)を導入する。

○新産業創出のための独創的研究開発、実用化研究及びその支援を行う施設を整備する。

○幅広い健康サービス産業のネットワーク化による地域における総合的なヘルスケアサービスの創出を図る。

○市民ベンチャーの創出支援やアドバイザーの育成などコミュニティビジネスの活性化等による就業創出を図る。

○潜在需要を喚起する規制改革の加速等により、新たなビジネス市場を拡大する。

(2) 地域における若年者対策推進のための新たな仕組みの整備

(若年者のためのワンストップサービスセンター) 通称: Job Cafe (ジョブカフェ)

○若者の生の声を聞き、きめ細やかな効果のある政策を展開するための新たな仕組みとして、地域の主体的な取り組みによる若年者のためのワンストップセンターの整備を推進する。

【センターのイメージ】

ー地方自治体と地域の企業、学校等の幅広い連携・協力の下、地域による主体的な取り組みとして、その実情に応じ、若年者に対する職業や能力開発、創業支援に関する情報提供、インターンシップ等職場体験機会の確保、キャリアコンサルティング、就職支援サービス等を行う仕組み(センター)を設ける。

ーセンターでは、民間活力の活用に留意しつつ、ワンストップでサービスを提供する。

ー民間委託などによる民間活用に当たっては、そのノウハウを十分に活かし、サービスの質を高めるため、事業成果・実績に基づいた評価などに留意して行う。

○センターの名称や具体的な業務等については、取組を行う地域において利用者である若者の声も聞きながら検討・決定する。

8. プランのフォローアップ

○本プランを踏まえた政策の推進に当たっては、引き続き関係閣僚の間で密接に連携して取り組み、プランの実効ある実現を図る。

(参考1)

【若年者の雇用・就業の深刻な現状】

ー失業者数の増加: 15~24歳の失業者数 92年 40万人→02年69万人

ー高い失業率: 15~24歳の失業率 92年 4.5%→02年 9.9%

ー地域間格差が大: 都道府県別失業率(15~24歳) 5.5~20.8%

高校新卒者の都道府県別就職内定率 61.8~99.0%

ーフリーターの増加: 92年 101万人 → 00年 193万人

ー無業者比率の増加: 大卒無業比率 92年 5.7% → 02年 21.7% (約12万人)

高卒無業比率 92年 4.7% → 02年 10.5% (約14万人)

ー高い離職率(7・5・3現象)

学卒就職3年後までの離職率: 中卒7割、高卒5割、大卒3割

(参考2)

「若年者を中心とする雇用促進・人材育成に関する共同提言」における産業界の主な取り組み(平成15年5月13日 日本経済団体連合会・日本商工会議所)

ー地域における包括的な若年者支援への協力(センター事業への協力)

ーインターンシップ、トライアル雇用等の積極的受入れ

ー人材要件の明確化、求人ニーズの掘り起こし、就職説明会・面接会の実施など情報提供やマッチング機能の強化

ー職業別キャリアマップの作成、標準的な人材育成プログラムの策定への協力

ー生徒・教師の職場体験の受入れ強化、講師派遣などキャリア教育充実への協力

ー創業・起業支援事業の強化

(4) 文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書

～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』（骨子）

(平成16年1月28日)

出典：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm

はじめに

- 少子高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず進路選択をめぐる環境は大きく変化
- 学校における教育活動がともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になったり、十分な取組が行われてこなかったのではないかという指摘
- 本協力者会議は、初等中等教育における「キャリア教育」を推進していくための基本的な方向等について総合的に検討するため、平成14年11月に設置され、今般、報告書を公表
- 本協力者会議の報告は、学校や教育関係者等における「キャリア教育」推進の指針となる提言

第1章 キャリア教育が求められる背景

- 1 学校から社会への移行をめぐる様々な課題
 - (1) 就職・就業をめぐる環境の激変
 - 新規学卒者に対する求人は著しく減少
 - 求職希望と求人希望との不適合が拡大
 - (2) 若者自身の資質等をめぐる課題
 - 勤労観、職業観の未熟さ
 - 職業人としての基礎的資質・能力の低下
- 2 子どもたちの生活・意識の変容
 - (1) 子どもたちの成長・発達上の課題
 - 身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向
 - 生産活動や社会性等における未熟さ
 - (2) 高学歴社会におけるモラトリアム傾向
 - 若者が職業について考えたり、職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向の高まり
 - 進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加

第2章 キャリア教育の意義と内容

- 1 「キャリア」をどうとらえるか
 - 「キャリア」の解釈・意味付けは、それぞれの主張や立場、用いられる場面等によって多様
 - 「キャリア」とは「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」
- 2 キャリア教育の定義
 - 端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」
 - 中央教育審議会答申（平成11年12月）における定義：「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」
 - これを本協力者会議では、「キャリア」概念に基づき、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえている

3 キャリア教育の意義

(1) 教育改革の理念と方向性を示すキャリア教育

- キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すもの

(2) 子どもたちの「発達」を支援するキャリア教育

- キャリアが発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って形成されていくことを踏まえ、子どもたちの成長・発達を支援する視点に立った取組を推進

(3) 教育課程の改善を促すキャリア教育

- 各領域の関連する諸活動を体系化し、組織的・計画的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことが必要

4 キャリア教育の範囲と内容

(1) 学校教育における各領域とキャリア教育

- キャリア教育は、学校の全ての教育活動を通して推進

(2) 小・中・高等学校学習指導要領におけるキャリア教育関連事項

- 学習指導要領において、キャリア教育に関連する事項は相当数に上る
- 各学校において活動相互の関連性や系統性に留意しながら、発達段階に応じた創意工夫ある教育活動を展開していくことが必要

5 進路指導、職業教育とキャリア教育

(1) 進路指導とキャリア教育

- 進路指導の取組はキャリア教育の中核。しかし、従来の進路指導においては、「進路決定の指導」や、生徒一人一人の適性と進路や職業・職種との適合を主眼とした指導が中心
- キャリア教育においては、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とが系統的に調和を取って展開。適合とともに、集団生活に必要な規範意識やマナー、人間関係を築く力やコミュニケーション能力など、適応にかかる幅広い能力の形成の支援を重視

(2) 職業教育とキャリア教育

- 職業教育の取組はキャリア教育の中核。しかし、従来の職業教育の取組では、専門的な知識・技能を習得させることに重きが置かれており、生徒のキャリア発達を如何に支援するかという視点に立った指導は不十分
- 今後、キャリア教育の視点に立って、子どもたちが働くことの意義や専門的な知識・技能を習得することの意義を理解し、その上で科目やコース、将来の職業を自らの意志と責任で選択し、専門的な知識・技能の習得に意欲的に取り組むことができるよう指導の充実が必要

第3章 キャリア教育の基本方向と推進方策

1 キャリア教育の基本方向

(1) 一人一人のキャリア発達への支援

- 子どもたちのキャリア発達を支援するため、各発達段階における発達課題を踏まえ、また、発達における個人差に留意しながら、適時性や系統性などに配慮した諸活動を展開
- キャリアに関する個別あるいはグループ単位でのカウンセリングの機会の確保と質の向上

(2) 「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上

- 教科・科目の学習とキャリア教育との関係は、二者択一的な関係ではなく、職業や進路などキャリアに関する学習が教科・科目の学習や主体的に学ぼうとする意欲

の向上に結びつき、教科・科目の学習がキャリアに関する学習への関心や意欲の向上につながるという、相互補完的な関係

(3) 職業人としての資質・能力を高める指導の充実

- 職業教育の専門性の向上に努めるとともに、高等学校段階までの学習が、それ以降のより高度な専門的な知識・技能を習得する学習につながるよう、基礎・基本の充実・徹底が必要
- 普通教育においても、将来の職業生活を視野に入れ、情報活用能力や外国語の運用能力等、今後、社会や企業で一層必要となる能力を身に付けられるようにすることが重要

(4) 自立意識の涵養と豊かな人間性の育成

- 働くことには、生計の維持、自己実現の喜びとともに、社会に参画し社会を支えるという意義があることの理解
- 小学校段階から、自己と他者や社会との適切な関係を構築する力を育て、将来の精神的、経済的自立を促していくための意識の涵養と豊かな人間性の育成

2 キャリア教育推進のための方策

(1) 「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発

- 児童生徒の各発達段階における発達課題の達成との関連から、各時期に身に付けることが求められる能力・態度の到達目標を具体的に設定
- 個々の活動がどのような能力・態度の形成を図ろうとするものであるのか等の明確化が重要
- 先進的な取組事例の情報提供や学習プログラムの開発・普及

(2) 教育課程への位置付けとその工夫

- 各学校が、キャリア発達の支援という視点から自校の教育課程の在り方を点検・改善していくことが重要
- 児童生徒の発達段階を踏まえ、各校種が果たすべき役割や他校種における活動内容・方法・形態等を把握するなど、校種間の連携や一貫性にも留意
- 今後、各学校における取組状況等を踏まえ、キャリア教育を一層推進する観点から、学習指導要領上の取扱について検討していく必要

(3) 体験活動等の活用

- 体験活動等は、職業や仕事についての具体的・現実的理解の促進、勤労観、職業観の形成等の効果があり、社会の現実を見失いがちな現代の子どもたちが現実に立脚した確かな認識を育む上で欠かすことができないもの
- 体験活動等が一過性の行事にならないよう、事前・事後の指導など、周到的準備と計画のもとに実施する必要があること

(4) 社会や経済の仕組みについての現実的理解の促進等

- 社会の仕組みや経済社会の構造とその働きについて、人生の早い段階からの具体的・現実的理解
- 労働者としての権利・義務、相談機関等に関する情報・知識などの最低限の知識の習得

(5) 多様で幅広い他者との人間関係の構築

- 日頃から、多くの人々と幅広い人間関係を持つことができるよう働きかけ
- 多くの大人が子どもたちと関わる様々な場や機会を積極的に設けていくことが重要

第4章 キャリア教育を推進するための条件整備

1 教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成

(1) 教員一人一人の資質向上

- キャリア教育の本質的理解を全ての教員が共有し、各教育活動等における個々の取組がキャリア教育においてどのような位置付けと役割を果たすものかについて、十分な理解と認識を確立することが不可欠
- (2) 学校のカリキュラム開発能力の向上
 - 各学校におけるキャリア発達への支援を軸としたカリキュラムの開発と、家庭、地域、企業等との幅広い連携・協力関係を得られるようなコーディネート（調整）能力を有する教員を養成するため、キャリア教育の中核的役割を担う教員を対象とした研修の充実
- (3) キャリア・カウンセリングを担当する教員の養成
 - 全ての教員が基本的なキャリア・カウンセリングを行うことができるような研修の充実
 - 「キャリア・カウンセリング研修（基礎）」、「キャリア・カウンセリング研修（専門）」の二つの研修プログラム例を示す
 - 教員養成段階においても、キャリア教育及びキャリア・カウンセリングにかかる基礎的・基本的な知識や理解が得られるような改善が必要
- 2 保護者との連携の推進
 - (1) 学校からの保護者への積極的な働きかけ
 - キャリア教育の推進に際しては、家庭や保護者の役割や影響の大きさを念頭に置き、家庭・保護者との共通理解を図りながら取り組むことが重要
 - 産業構造や進路をめぐる環境の変化等について、企業の人事担当者などから共に学んだり、積極的に情報提供したりするなどして、現実に応じた情報交換や面談等を実施
 - (2) 家庭の役割の自覚と学校教育への積極的な参画
 - 子どもたちに、様々な職業生活の実際や仕事には苦勞もあるが大きなやりがいや達成感もあることを家庭の中で有形無形のうちに感じ取らせたりすることが重要
- 3 学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり
 - (1) 受入事業所等の確保と地域におけるシステムづくり
 - 体験活動の普及・円滑な実施・定着のためには関係機関が一体となって取り組むことが大切であり、体験活動推進のための協議会を組織するなど、地域のシステムづくりが必要
 - (2) キャリア・アドバイザーの確保と活用
 - キャリアを形成していく方法等について専門的な知識や情報を持っている人々をキャリア・アドバイザーとして学校に招き、講演・講話、懇談会等を実施
 - 職種、経歴、年齢等、幅広い層からキャリア・アドバイザーを確保できるよう、対象となる人材の名簿づくりや人材バンク登録システムなどを構築
- 4 関係機関等の連携と社会全体の理解の促進
 - キャリア教育の意義を教育界から各界、各層に幅広く発信
 - 関係機関等が職場体験、インターンシップ等の実施やキャリア・アドバイザーの活用等について連絡・協議して推進していく場を国、地方の各レベルで整備
 - (1) ハローワーク等との緊密な連携
 - 国、都道府県教育委員会等は、ハローワークの幅広い業務・施策について学校への周知を図り、各学校においては、日頃から緊密な情報交換に努めることが必要
 - (2) 大学・専門学校等との連携
 - 高大連携にかかる取組は、大学・専門学校等への進学や大学・専門学校等卒業後の進路や職業について考えることになるなど、子どもたちのキャリア意識を高めるという視点を重視し、関係者が一体となった一層の工夫が望まれること

(3) 関係団体・企業等の理解と協力の推進

- 経済団体においては、職場体験やインターンシップ等の意義の周知及び受け入れへの協力等について、より広く傘下の企業に働きかけるとともに、企業等においては、社会的責任という認識のもと、学校の取組や生徒の活動を積極的に支援していく姿勢を持って協力していくことを期待

おわりに

- 今後、本報告の提言に基づく具体的な取組や事例等を紹介する「キャリア教育推進の手引き」（仮称）の作成など、様々な施策が必要
- 大人自身が自己の在り方生き方を考えたり見直したりする姿勢を持つとともに、キャリア発達を支援する社会的気運を醸成し、社会全体で子どもたちに働きかけていくことが大きな課題

※教員研修プログラム(例)の「キャリア・カウンセリング研修(基礎)」と「キャリア・カウンセリング研修(専門)」については、キャリア教育へのアプローチⅡの「5 キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの機能」のところに掲載したので、そちらを参照されたい。

(5) 文部科学省「専門高校等における『日本版デュアルシステム』の推進に向

けて－実務と教育とが連結した新しい人材育成システム推進のための政策提言－の骨子」

(平成16年2月20日)

出典：http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/02/04022002/002.htm

はじめに

- 現在、我が国においては若年者の就労問題が深刻な状況であることから「若者自立・挑戦プラン」や「基本方針2003」において若者向けの教育訓練システムとして「日本版デュアルシステム(実務・教育連結型人材育成システム)※」を導入することを提言。

※「日本版デュアルシステム」＝企業実習と教育・職業訓練の組合せ実施により若者を一人前の職業人に育てる若年者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組み（「若者自立・挑戦プラン」）

- 本協力者会議は、文部科学省の委託により、専門高校等における「日本版デュアルシステム」導入に関する調査研究を行ったものであり、学校・産業界双方へのアンケート調査等に基づき、今般専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進の実施方策等を提言した報告書を取りまとめた。

1 専門高校等における「日本版デュアルシステム」のあるべき姿とそのねらい

(1) 専門高校等における「日本版デュアルシステム」のあるべき姿

- 「日本版デュアルシステム」の専門高校等への導入は、将来の「スペシャリスト」を目指す専門高校生等にとって有意義な教育システムである。

- 産業界と専門高校等とが連携をとりながら双方にとってメリットがあるように協同で人材を育成する教育システムを構築する。

(2) 専門高校等における「日本版デュアルシステム」のねらい

- 实际的・実践的な職業知識・技術を養う教育・訓練を高等学校教育に導入して専門高校生等の資質・能力の伸長を図るとともに、勤労観、職業観を育み学校を活性化し、地域の産業・企業が求める人材など社会に有為な人材を育成する。

2 専門高校等における「日本版デュアルシステム」を導入する上での課題と具体的な実施方策

(1) 専門高校等と企業との連携の基本的方針

- 連携の基本的方針として、学校側と企業側双方にとってメリットのある連携の在り方が必要。

(2) 学校と企業との役割分担

○本システムを実効あるものにしていくためには、学校と企業との役割分担を明確にすることが不可欠。

(3) 実習希望生徒と受入企業とのマッチング（連携のコーディネート）

○生徒と受入企業での実習内容との適切なマッチング（連携のコーディネート）は、本システムを実効的な教育システムとするための根幹。

○連携のコーディネート機能を果たす体制の整備などにおいては、地域の教育・労働・産業に関わる行政の支援と協力が必要。

(4) 受入企業の開拓

○学校と企業との連携及びそのためのコーディネートの在り方については、インターンシップに参考となる先行事例を参考にしつつ、県・市の教育・労働・産業に関わる行政及び地域の経済・産業団体の支援・協力による受入企業の開拓が必要。

(5) 企業への支援

○本システムを構築する上で、産業界（企業）への支援や助成の在り方について検討が必要。

(6) 教育課程上の位置付け及び評価について

○学校・学科や教科の特性、実習内容、期間等によって様々なケースが考えられるが、時間割上の工夫等が必要であり、モデル事業の実施を踏まえて、柔軟な教育課程上の位置付けを検討。

(7) 実施上の協定・契約

○生徒が受入企業で企業実習に専念し成果を上げるためには、企業との協定・契約や安全教育等安全上の配慮が必要。

(8) 生徒に対する報酬

○試行的な事業での具体的な事例を通じて、今後更に検討。

3 専門高校等における「日本版デュアルシステム」モデル事業の在り方について

○本格的な「日本版デュアルシステム」の実施に先立ち、学校と企業との連携の在り方等の効果的導入手法を探るため、「地域指定によるモデル事業」を実施することが必要。

○地域の実態に応じ、その特徴を生かしたモデル事業であることや学校と企業とのコーディネートの在り方を模索するモデル事業であることが必要。

(参考) 「日本版デュアルシステム」に関するアンケート集計結果

○全国の専門高校等 769 校、企業 557 校に対して調査を実施。

【学校側の調査結果の概要】

① インターンシップの実施状況

- ・調査対象の 86. 1% が実施しており、2 年次に実施している比率が高い。
- ・期間は 3 日未満の短期間に留まっているものが多い。

② 「日本版デュアルシステム」を実施することについて

- ・「実施に賛成」47. 0%、「どちらともいえない」45. 9%。「実施に反対」はわずか 6. 1%。
- ・導入のメリットとして、「社会人・職業人としての生活態度やマナーの育成」（72. 2%）、「勤労観・職業観の醸成」（69. 5%）が多い。ついで、「実践的で実際的な知識・技能の習得」（54. 1%）。
- ・学習形態としては大きく 2 形態に分かれ、「1 ヶ月のまとまった期間」（42. 9%）、「週の 2 日～3 日、一定期間実施する」（33. 5%）となっている。
- ・生徒への報酬として、「交通費等に実費弁償程度（66. 0%）」と「相当の報酬が支払われても良い（17. 3%）」とで多くを占める。

- ・必要な条件整備として、「災害等に対する傷害保険制度及び賠償責任保険制度」（87.3%）が一番多く、行政による受入企業に対する優遇措置（51.8%）、「企業と学校との契約や協定」（45.0%）が続いている。

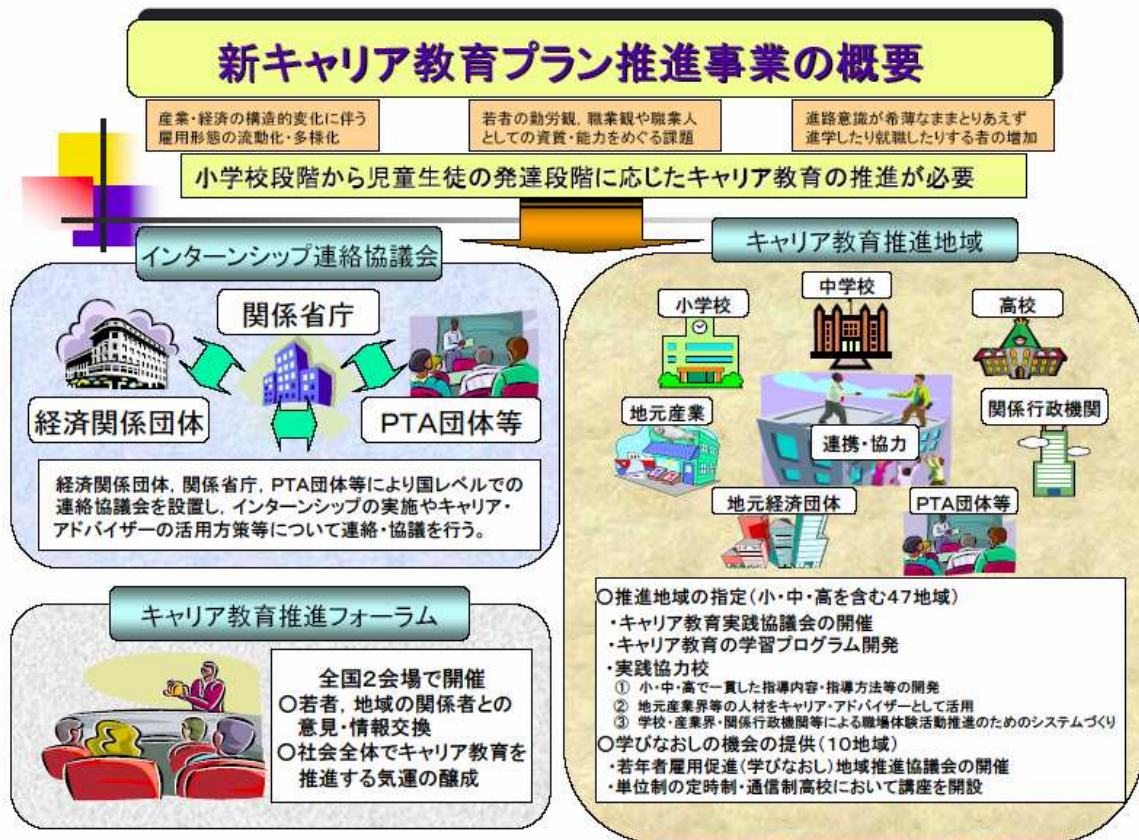
【企業側の調査結果の概要】

- ① 専門高校の教育で養うことが必要だと思う資質・能力
 - ・「意欲的かつ責任をもって仕事に取り組む職業観、勤労観」（72.8%）、「基本的な生活態度や言葉遣い、マナー」（62.8%）、「人との協調性やコミュニケーション能力」（53.8%）、「一般教養や読・書・算などの基礎学力」（52.8%）等基本的なものが多い。
- ② 「日本版デュアルシステム」を導入することによって育成が期待できる能力
 - ・「意欲的かつ責任をもって仕事に取り組む職業観、勤労観」（61.6%）が多い。
- ③ 「日本版デュアルシステム」を導入することによる受入企業のメリット
 - ・「実習生の指導を通しての従業員の自覚や誇りの高揚」（50.0%）、「将来における良質の若年労働力の確保」（47.2%）が高い。
- ④ 企業側がメリットを実感できるための条件整備
 - ・学校側の事前準備（勤労観や社会人としてのマナー）
 - ・行政あるいは受益者によるコスト負担
 - ・その他の条件整備として、健康安全守秘責任体制整備、3者（企業、生徒、学校）におけるルール作り、関係者の協力体制等があった。
- ⑤ 適当だと思う報酬
 - ・業務遂行の対価としての（アルバイト程度の）報酬を出しても良いという企業が多く（51.6%）、ついで生徒の交通費負担等の実費程度（29.6%）が多い。



(6) 文部科学省「新キャリア教育プラン推進事業」

(平成16年4月) 出典: http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/wakamono/001.pdf



平成16・17・18年度キャリア教育推進地域指定事業研究テーマ一覧

(出典: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/04081101/002.htm)

都道府県	推進地域名	研究テーマ	研究の重点
1 北海道	富良野市	児童生徒一人一人の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進	子どもたちが、日常の学習活動をととして、将来、社会人・職業人として自立し時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していくために必要な他者と協力して取り組む態度やコミュニケーション能力など、幅広い資質の育成を図る観点から、これまでの進路指導の在り方を改善していくことに重点を置く。 また、第1年次は各実践協力校での学習プログラムの開発を、第2年次は小・中・高の連携を重視した学習プログラムの研究を、第3年次は各実践協力校の学習プログラムの教育課程上の位置づけや進路指導の改善の方策を、それぞれ中心として研究し、地域における組織的・系統的なキャリア教育の在り方についてまとめる。
2 青森	平内町	小・中・高等学校における系統的なキャリア教育の在り方について	学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステムづくりについて、また地域においてキャリア教育の牽引役となるよう整備を進めている行政機関「ジョブカフェあおもり」(青森県若年者就職支援センター)を小・中・高校において活用する方法について研究する。

3	岩手	種市町		<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動全体を通じてキャリア教育を推進するための教育課程の在り方及び職場見学・職場体験・インターンシップなど、職業に関する体験的活動の教育課程への適切な位置付けについて明らかにする。 産業や雇用等の現実を学び、勤労観、職業観を身に付けさせるための、特別活動、総合的な学習の時間等におけるキャリア・アドバイザーの人材の確保及びその活用の在り方について明らかにする。 職場見学、職場体験、インターンシップなど、職業に関する体験的活動を効果的に推進する学校と受入事業所、地元経済団体等との連携・協力体制の構築の在り方について明らかにする。 キャリア教育の意義・必要性についての保護者・企業等への効果的な啓発の在り方について明らかにする。
4	宮城	松山町	児童生徒一人一人の職業観・勤労観を育む学習活動の工夫	小・中学校及び高等学校の各発達段階に応じた、望ましい職業観・勤労観を育てるための学習プログラムの開発
5	秋田	南外村・西仙北町		<p>児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために、児童生徒の生き方、進路にかかわる教育、指導・援助の充実を図る。そのために、次の3つの視点を重点とし、事業を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもたちに「知」・「徳」・「体」の調和のとれた発達を促し、一人一人のもつ資質や能力を最大限に発揮しながら、身に付けた意欲や態度を日常生活や将来の生き方に生かすことができるような教育を推進する。 小・中・高等学校の各段階における進路にかかわる発達課題を明らかにし、各段階において身に付けさせたい能力・態度の育成に向けて意図的、継続的な取り組みを展開する。 児童生徒の進路にかかわる発達課題を踏まえた上で、一人一人に望ましい職業観・勤労観を育てるために、キャリア教育を各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の学習と関連付け、学校教育全体を通して系統的、体系的な取り組みを展開する。
6	山形	白鷹市	「郷土を愛し、志高く・故郷を誇る白鷹人」の育成に向け、小中高及び地域が連携したキャリア教育の実践研究 一関わり合う体験活動をとおり、自己有用感を育み、自己実現に向けた課題克服力の育成	<ol style="list-style-type: none"> 小中高の授業参観を積極的に実施し、将来高度で専門的な知識・技能を習得できるように、基礎・基本が確実に身に付く授業を実践する。 社会適応に向けた、児童生徒の各発達段階における「望むべき児童生徒像」を具体的に設定し、それぞれが果たすべき役割や連携を明確にして、全教育課程を通じた実践を積み上げる。 総合的な学習の時間や特別活動に加え、他の教科等でも地域人材の積極活用を進めるとともに、地域の方々が授業に参画できるような組織作りを進める。 小中高に応じた職業及び職場体験の場を開拓するとともに、体験を通して社会性が高まるようなプログラムを開発する。 年次又は学期ごとの具体的評価項目及び規準を定め評価し、改善に努めるとともに常に地域に公開し、協働して「白鷹人づくり」を進める。
7	福島	福島市	地域・学校間の連携による組織的・系統的なキャリア教育の在り方について	<ol style="list-style-type: none"> 現在、各学校において実施している「スチューデントシティ」、「職場体験」、「インターンシップ」を地域産業界、関連機関、学校相互の連携により実施し、その効果を検証する。 キャリア形成に関して、児童・生徒の望まれる姿を各発達段階に応じて具体的に設定し、学校、家庭における指導プログラムを検討する。 総合的な学習の時間、特別活動、さらに教科指導の中で、キャリア教育に関わる内容を明確にし、それらを体系化した教育課程の編成を検討する。 教員一人一人のキャリア教育に関する指導力を向上させる。
9	栃木	栃木市	キャリア発達を支援する体験的な活動の学習プログラム開発	組織的・系統的なキャリア教育を行うために、小学校、中学校、高等学校を通じた体験的な活動の学習プログラム開発を行う。

10	群馬	左波・伊勢崎地区	発達段階に応じたキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の研究について～調査・体験活動等を通じた勤労観・職業観の形成～	勤労観、職業観及び職業に関する知識や技能を身に付け、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を育てるために、小学校段階から発達段階に応じた指導方法・指導内容の研究をする。 特に、地域の職業調べや社会人・職業人インタビュー、ボランティア活動、職場体験などの体験活動等により、望ましい職業観を身に付け、個々人の違いや多様性を認めた上で主体的に自分の価値や存在意義を発見させ、「なぜ学ぶのか」「なぜ働くのか」「自分は一体何がしたいのか」といったことを深く考えさせるための指導方法と指導内容を研究し、学校や地域の実態、児童生徒の発達段階に応じた特色ある教育内容を築いていくことをねらいとする。 また、家庭、地域社会、企業、関係機関等の連携・協力体制のシステムづくりに取り組む。
11	埼玉			小学校、中学校、高等学校を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を行うため、産業や雇用等の現実を学び、勤労観、職業観を身につけさせるためのキャリア・アドバイザーの確保およびその活用の在り方について研究を行い、学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステム作りを行う。
12	千葉	香取郡多古町		小学校・中学校・高等学校と学校種を越えて、児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育(児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それにふさわしいキャリアを形成していくための必要な意欲・態度や能力を育てる教育)を推進することにより、児童生徒の学習に対する目的意識や職業意識、勤労観を自己理解を通して育成し、それぞれの児童生徒が持っている夢や希望の実現を支援するプログラム等の開発。
13	東京	東京都		各校種の児童・生徒の発達段階に応じて、下記の内容についての研究を行う。 ① 学校の所在する地域での体験活動の内容・方法の開発 ② 総合的な学習の時間等に位置づけた職業に関する学習の内容・方法の開発 ③ 体験活動を振り返ることにより勤労観・職業観を深める学習の内容・方法の開発
14	神奈川	県西部地区		地域の教育力を活用し体験活動を行う中で、児童・生徒一人一人の勤労観、職業観を発達段階に応じて育てる。
15	新潟	柏崎地域		児童・生徒の将来の職業人としての資質や能力を育てるため、小学校から発達段階に応じたキャリア教育を実施し、学校間及び学校と社会との円滑な接続を図るための効果的な方策を検討する。 そのために、児童・生徒の職業観・勤労観を育むため、キャリアアドバイザーを活用した実践や体験活動等の効果的な運用を目指しながら、教科・科目や特別活動など全ての教育活動における組織的・継続的な取り組みの在り方について研究する。
16	富山	小矢部市	発達段階に応じた勤労観・職業観の育成を図るための研究	小・中・高における児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育について、家庭・地域・企業・関係機関の理解や協力を得ながら推進し、「働くこと」への関心の高揚を図るための方策について研究する。
17	石川	小松市		① 望ましいキャリア発達を促す連続性・一貫性のある指導 ② 地域人材等の積極的な活用による望ましい職業観・勤労観の育成 ③ 職場見学・職場体験・インターンシップ等の充実・活性化 ④ キャリア教育についての保護者・地域への啓発及び県内への普及
18	福井	美山町地区		小・中・高等学校の系統的な指導による望ましい勤労観、職業観の育成 家庭・地域社会・関係機関との連携によるキャリア教育の推進 ア 小学校 ・自己及び他者への積極的な関心の形成 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 イ 中学校 ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 ・生き方や進路に関する現実的探索 ウ 高等学校 ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての職業観・就労意識の形成 ・進路の現実把握と試行的参加
2	長野	中野市	地域における系統的・組織的キャリア	小学校・中学校・高等学校それぞれで行っている進路指導・職業教育を地域の企業人や職業人の協力を得ながら整理し、キャリア教育を確立する。

0			ア教育	
2 1	岐阜	岐阜地域	児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方	<p>小学校、中学校、高等学校を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発</p> <p>① キャリア発達を踏まえた年間指導計画の作成について</p> <p>② 小中学校及び高等学校間の連続性や一貫性を踏まえた教材開発について</p> <p>③ 職業に関する体験的活動の教育課程への適切な位置付けやインターンシップの単位認定の促進について</p> <p>④ 教員研修プログラムの開発と教員研修会の実施について</p>
2 2	静岡	静岡県		<p>小学校・中学校・高等学校の連携をとおし、成長段階に沿ったキャリア教育を行い、職業観・勤労観及び職業に関する知識・技能を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる。児童生徒一人一人がそれぞれにふさわしいキャリアの形成に必要な意欲・態度や能力を育てるために、地域の企業、行政機関等と連携したキャリア教育の研究を行う。</p>
2 3	愛知	渥美・田原地区	小・中・高等学校における系統的なキャリア教育の在り方について	<p>渥美地域の実情を踏まえ、児童生徒一人一人の発達段階に応じたキャリア教育を支援する立場に立ち、小学校、中学校、高等学校の連携を緊密にした組織的・系統的なキャリア教育推進のための指導方法や指導内容の在り方を研究する。</p>
2 4	三重	飯南町		<p>中学校での教科「人間と社会」、高校各学年で実施しているキャリアサポート科目「産業社会と人間」「キャリアデザイン」「いいなんゼミ」での学習を核とし、高校、中学校及び小学校と連携して、組織的・系統的なキャリア教育のあり方を実践・研究する。</p>
		亀山市	児童・生徒に対するキャリア教育をどのように推進していくか 一地元小中学校、地域との組織的な連携の具体化を求めながら	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望の多い本校生徒に今まで以上の系統的なキャリア教育に取り組む。 ・地元小中学校、地域との連携を推進していく。 ・地元企業、経済団体、ハローワーク等との連携を深める。
2 5	滋賀	近江八幡市	生徒の発達段階に応じた、小、中、高等学校におけるキャリア教育の推進	<p>① 近隣の小学校・中学校・高等学校との連携を深め、発達段階に応じた一貫した指導内容・指導方法等を研究開発する。</p> <p>② キャリアアドバイザーなどの専門性の高い人材活用やインターンシップをよりいっそう充実する。</p> <p>③ 児童・生徒の在り方・生き方を考えた将来設計のプログラムを開発する。</p>
2 6	京都	木津町・精華町		<p>「私のしごと館」の地元である地域的特性を生かして、施設を有効に活用しながら、小・中・高等学校の連続性・一貫性に配慮したキャリア教育の指導方法・指導内容を研究する。</p>
2 7	大阪	大阪府キャリア教育推進地域	生き方を考え、目的意識を持ち、将来の夢に向かってチャレンジできる児童生徒の育成	<p>府内全域の公立小・中・高等学校においてキャリア教育に関しての理解を深め、キャリア教育の視点から各学校での取り組みを体系化していくことに重点を置き、府内3地区でモデルとなる研究を行う。</p>
2 8	兵庫	姫路市		<p>小・中・高校生がものづくり等の体験学習を通して職場見学、職場体験、インターンシップなど、職業に関する体験的活動を効果的に推進し、職業観・勤労観を養う。高校生が小・中学生を指導することで、生徒自身の学習意欲、職業意識の向上を図る。3年間同一生徒が関わることで、学習成果の向上について検証する。</p> <p>小・中・高等学校の教員が共通の研修の場において、発達段階に応じた指導内容・方法のあり方を検討するとともに、学校間連携による体験的活動を通してキャリア教育の推進と学校の活性化を図る。</p>
2 9	奈良	奈良県		<p>小学校から高等学校までの学校の教育活動を通して、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、児童生徒一人一人に望ましい職業観・勤労観の育成を図る。</p> <p>奈良県キャリア教育実践協議会をキャリア教育実践モデル校の代表、小・中学校</p>

				の特別活動部会及び高等学校進路指導部会の代表、学識経験者、経済団体等で構成し、キャリア教育実践モデル校における研究の円滑な実施に向けた情報交換や協議を行うとともに、その成果の普及を図る。
30	和歌山			
32	島根	仁摩地域	小中高一貫したキャリア教育を推進することにより、子どもたちのより確かな「生きる力」の育成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育に係る小中高で一貫した教育課程の編成の在り方 ② 自ら将来の進路を切り開いていくために必要な能力・態度の育成の在り方 ③ 「職業観」「勤労観」、特に「何のために働くのか」という「目的意識」を地域ぐるみで育成していくための方策
33	岡山	備前市		<ul style="list-style-type: none"> ① 小学校、中学校、高等学校を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発 ② 産業や雇用等の現実を学び、勤労観、職業観を身につけさせるためのキャリア・アドバイザーの確保及びその活用の在り方 ③ 学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステムづくり
34	広島	尾三地域	児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・この地域は、平成13年から3年間、広島県の「小中高連携教育推進実践モデル地域指定事業」の指定を受け、地元の小・中・高等学校が一体となり実践研究に取り組んできた地域である。 ・この事業の研究成果を踏まえ、地域の教育力を活用し、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育に関する教育プログラムの研究開発を行う。 ・児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育成するために、インターンシップ、キャリア・アドバイザーの活用、保護者・企業等への啓発等の取組について、調査研究を行う。 ・職場見学、職場体験、インターンシップ等による職業に関する体験的な活動を効果的に推進する学校と受け入れ事業所、地元経済団体等との連携の在り方及び協力体制の構築について研究を行う。 ・これらの研究に当たっては、「キャリア教育実戦競技会」から指導、助言を受ける。
35	山口	宇部市		<ul style="list-style-type: none"> ① 職場体験、インターンシップの充実に向けた産学官の体制づくり ② キャリア・アドバイザーとなる人材の確保及びその活用の在り方の研究 ③ 総合的な学習の時間及び特別活動を活用したキャリア教育推進のための系統的な進路学習カリキュラムの開発 ④ キャリア教育推進のための小学校、中学校、高等学校の連携の在り方
36	徳島	徳島県		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に望ましい勤労観・職業観を身につけさせるとともに、自己の個性、適性を自覚し、児童生徒同士が互いに学ぶ大切さと高い職業意識の育成を図る。 ・キャリア教育を実践し、校種の連携を図る。
37	香川	坂出市		<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校間の連続性や一貫性を配慮した学習プログラムの開発 ・キャリア教育推進のための教育課程の在り方の検討 ・職場体験学習、インターンシップの推進と学校・産業界・関係行政機関等によるシステムづくり ・キャリア・アドバイザーの活用の検討 ・保護者、企業等への効果的な啓発方法の検討
38	愛媛	新居浜市	児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発 ・勤労観、職業観を身につけさせるためのキャリア・アドバイザーの確保及びその活用の在り方 ・学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステムづくり ・キャリア教育の意義・必要性についての保護者・企業等への効果的な啓発の在り方
39	高知	須崎市		<p>小中学校ともに効果的な取組を模索するとともに、小学校・中学校・高等学校をとしての取組が実施できるようその方法・内容の検討を行い、「わくわくチャレンジ in すさき」を効果的な取組にしていきたいと考える。そして、わくチャレ該当学年以外にも研究成果を広げていきたいと考える。</p> <p>また、高等学校においては、各県立高校の学科の特色を生かしたキャリア教育を推進していくとともに、生徒一人一人の進路発達の評価(点検・確認)をしていくことによって、確かなこの発達を支援していきたいと考える。さらに、キャリア教育の成果を</p>

				確認するための一つの指標となる評価方法を開発していき、客観的評価をしていきたいと考える。
4 0	福岡	北九州地区	小・中・高連携によるキャリア教育の推進について	<p>キャリア教育に関する諸施策を通じて各学校種間の連携を強化し、小・中・高一貫して児童・生徒の望ましい職業観・勤労観を育成することによって、児童・生徒の学習意欲の向上を図り、自発的に学校の教育活動に励むことを目的とする。</p> <p>(1) 方策:学校間連携の充実方策の在り方について ・オープンキャンパス、中高連絡会、学校開放講座等</p> <p>(2) 指導内容:キャリア教育を通じた望ましい職業観・勤労観育成のための教育課程の編成、実施、評価について ・キャリア教育を通じた一貫した教育課程の作成、キャリア教育に関する評価方法の確立等</p> <p>(3) 指導方法:キャリア教育を実施するための教員等の指導方法の在り方について ・キャリア・アドバイザーの確保と活用方法、キャリア教育に関する教員研修プログラムの作成、キャリアガイダンスの手法の確立等</p> <p>(4) 教材・指導資料:キャリア教育を通じた望ましい進路情報の提供 ・「キャリア教育手引書」の作成、職業紹介ビデオの作成、講演・シンポジウムの実施等</p> <p>(5) その他:家庭・地域との連携の在り方 ・職場体験やインターンシップの充実、「若年者自立・挑戦プラン」との連携、高大連携の促進</p>
4 2	長崎	諫早市		<p>小学校</p> <p>① 職場見学、職場体験の受入事業所の開拓及び連携の在り方</p> <p>② 職場見学の教育課程上への位置づけ(低・中・高学年における段階的指導)</p> <p>③ 中学校と連携したキャリア教育の在り方</p> <p>中学校</p> <p>① 職場体験活動等の受入事業所の開拓及び連携の在り方</p> <p>② 職場体験活動等の教育課程上への位置づけ</p> <p>③ 高等学校と連携したキャリア教育の在り方</p> <p>高等学校</p> <p>① インターンシップ等の受入事業所の開拓及び連携の在り方</p> <p>② インターンシップ等の教育課程上への位置づけ</p> <p>③ 中学校と連携したキャリア教育の在り方</p>
4 3	熊本	宇城地域	児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の在り方	<p>① 小学校、中学校、高等学校を通じ、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発及び職業に関する体験的活動の教育課程への適切な位置づけについて</p> <p>② 産業や雇用等の現実を学び、勤労観、職業観を身につけさせるためのキャリア・アドバイザーの確保及びその活用の在り方について</p> <p>③ 学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステムづくり</p> <p>④ キャリア教育の意義・必要性についての保護者・企業等への効果的な啓発の在り方について</p>
4 4	大分	佐伯地域	児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の在り方	<p>① 小学校、中学校、高等学校を通じ、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を行うための指導方法・指導内容の開発及び職業に関する体験的活動の教育課程への適切な位置づけについて</p> <p>② 産業や雇用等の現実を学び、勤労観、職業観を身につけさせるための外部講師等の確保及びその活用の在り方について</p> <p>③ 学校・産業界・関係行政機関等による職場体験活動推進のためのシステムづくり</p> <p>④ キャリア教育の意義・必要性についての保護者・企業等への効果的な啓発の在り方について</p>
4 5	宮崎	都城市	小・中・高等学校の一貫したキャリア教育推進のための学習プログラム開発	<p>・小・中・高のそれぞれに実施している進路指導や行事、総合的な学習の時間等を系統的・継続的に実施することによって、さらに効果的なものとする。</p> <p>・子供達の志を育むことで、自己の個性や能力を発揮しようとする態度を培い、自らが学ぼうとする意欲を育む。</p>
4 6	鹿児島	山川町	小・中・高の連携を図ったキャリア教育の在り方	<p>① 小・中・高等学校を通じた体系的なキャリア教育を推進するための指導内容・指導方法等の開発</p> <p>・職業観・勤労観の育成等に関する児童生徒の発達段階に応じた指導内容・</p>

				<p>方法の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高連携による基礎学力の向上 ・キャリア教育を学校の教育課程全体を通じて進めるための教育課程への位置づけ ・体験的な進路学習等における家庭・地域との連携の在り方及び体制づくり <p>② 産業や雇用等の現実を学び、望ましい勤労観・職業観を育てるためのキャリア・アドバイザーの確保及び活用法の研究</p>
4 7	沖縄	西原地域	小学校、中学校、高等学校の各段階における勤労観・職業観の育成	小学校、中学校、高等学校間の連続性や一貫性に配慮したキャリア教育学習プログラムの開発
5 7	神戸市	神戸市	子どもたちの望ましい職業観・勤労観や、働くことの意欲を育むために、小・中・高12年間の一貫したキャリア教育の充実を図る。	<p>神戸市では、フリーターや無業者の増加など若者の職業意識・勤労意欲の低下という現状を打開するため、平成16年度より「『ホンモノ』との出会い12年プラン～子どもたちの夢さがし～」を策定し、子どもたちが「伸びやかに育つ教育のまち」の実現に向けて、将来の夢や希望をもち、意欲あふれる子どもたちを育てるため、次の3事業を中心にキャリア教育の充実を図りたい。</p> <p>① 小・中・高におけるキャリア教育の充実</p> <p>「起業家教育、経済教育、進路学習、職場・職業体験、ボランティア活動など様々な体験学習等」を体系化し、小・中・高12年間の一貫したキャリア教育の充実を図る。</p> <p>各学校で研究実践に取り組む一方で、各学校の連続性や12年間の一貫性に配慮したキャリア教育のカリキュラム開発にも取り組む。</p> <p>また、本計画書の実践協力校6校以外に、神戸市独自で推進協力校を指定し、研究推進体制の拡充を図る予定である。</p> <p>② 「その道の達人」に学ぶ体験講座の実施</p> <p>音楽・芸術・スポーツ・科学技術など各分野のプロ・達人を招き、体験講座を開催し、「ホンモノ」との出会いを通じて子どもたちの夢や意欲を育む。</p> <p>③ 大人・親の働く姿を見せる運動の展開</p> <p>商工会議所・企業・商店街連合会・PTA等と連携・協力し、大人・親の働く姿に触れることを通じて、勤労の意義や働くことの喜びを実感できる機会を設ける。また、関係者に呼びかけて「神戸市キャリア教育推進協議会」を設置し、人材バンク登録システムの構築にも取り組む。</p>

神奈川県立総合教育センターでのキャリア教育関係の研究成果一覧

- 梶 輝行「キャリア教育カリキュラムに関する理論的研究ーキャリア諸能力の育成を目指すカリキュラムの構造分析を中心にー」(『研究集録』第23集、平成16年)
- 藤森洋一「中学校におけるキャリア教育カリキュラムの開発ー地域との協働を軸とした生きる力の育成についてー」(『長期研修員研究報告』第2集、平成16年)
- 山本 城「高等学校普通科におけるキャリア教育カリキュラムの開発ーガイダンスとカウンセリングの有機的な関連を図った指導の工夫ー」(『長期研修員研究報告』第2集、平成16年)
- 佐藤隆之「小学校におけるキャリア教育カリキュラムの開発ー夢・希望・憧れの自己イメージの獲得をめざした6年間のカリキュラム構想ー」(『長期研修員研究報告』第3集、平成17年)
- 松本雅志「生徒のキャリア発達を支援するキャリア教育カリキュラムの開発ー生徒の「自己効力感を養う支援・評価のあり方ー」(『長期研修員研究報告』第3集、平成17年)
- 中井亜由「高等学校普通科におけるキャリア教育カリキュラムの開発ー特別活動を中心として」(『長期研修員研究報告』第3集、平成17年)

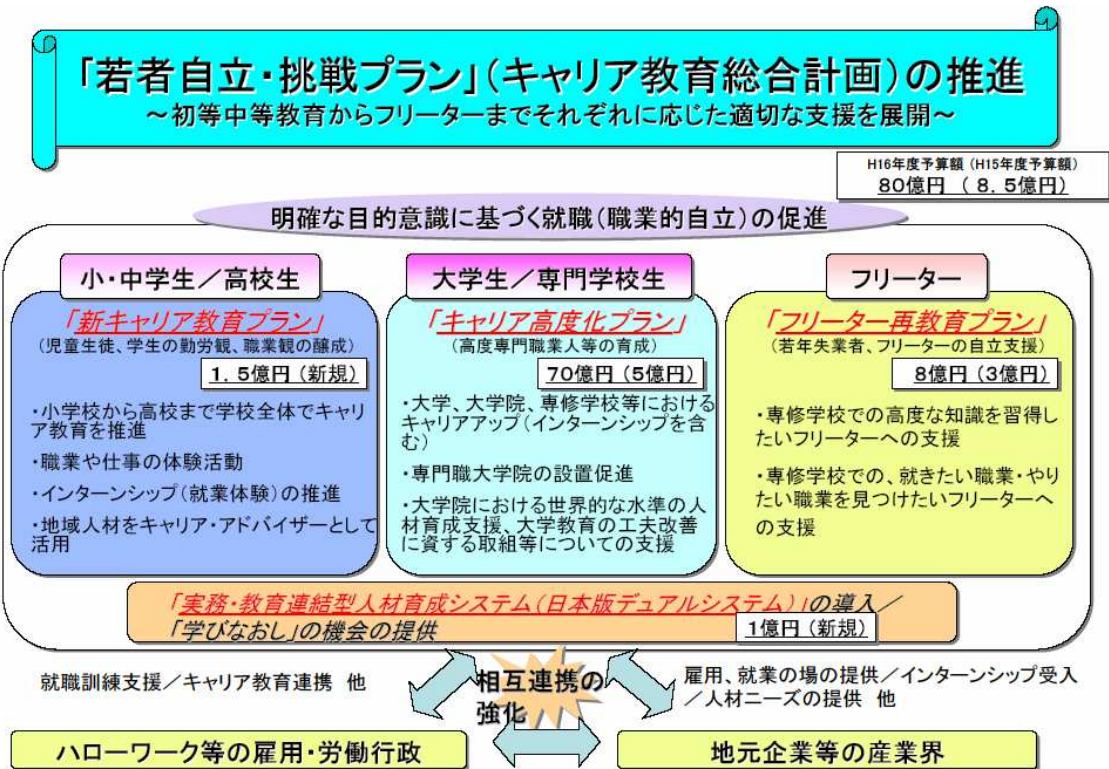
(7) 第5回若者自立・挑戦戦略会議（6月18日）配布資料「文部科学省における

これまでの取組」

(平成16年6月)

出典：

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/001/04063001/002/001.pdf



主な取組の進捗状況について

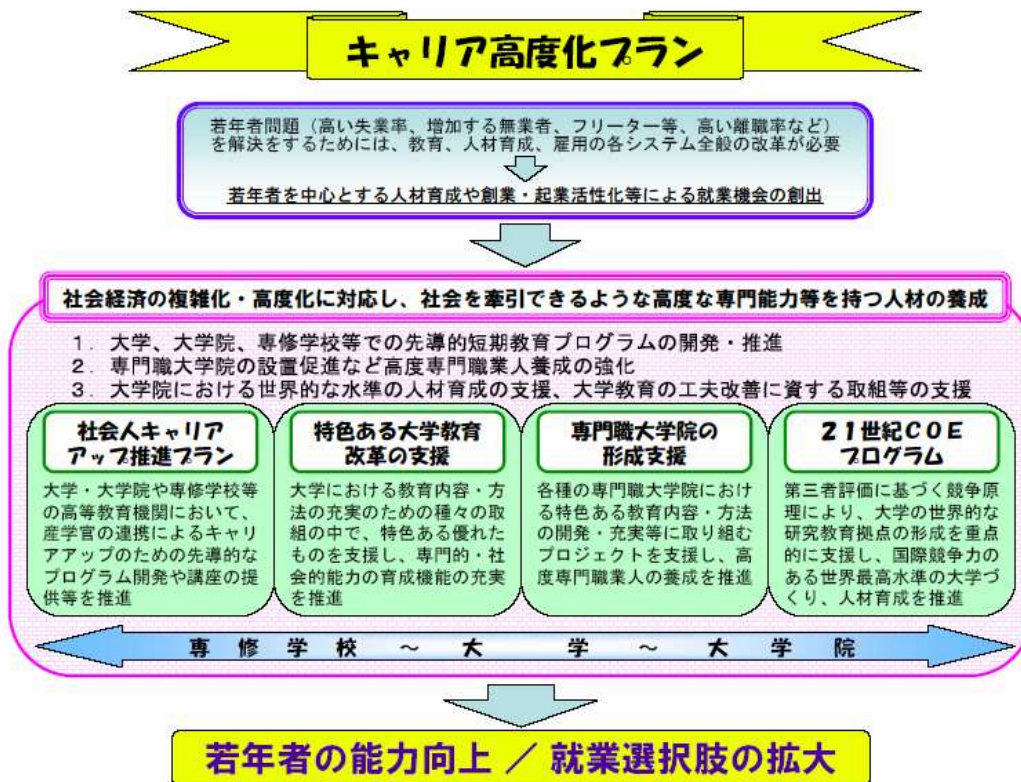
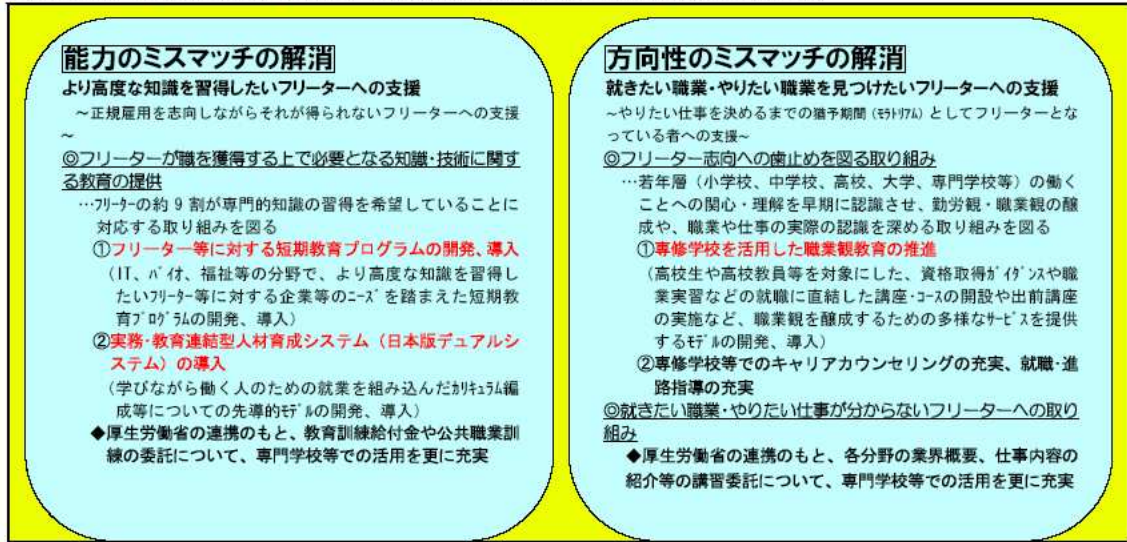
- | | |
|--|--|
| <p>小・中学生／高校生</p> <p>～キャリア教育の推進
(児童生徒の勤労観、職業観の育成)～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」報告書(平成16年1月)を踏まえ、学校教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進 ○ 小・中・高等学校で一貫したキャリア教育の指導内容・方法等について地域ぐるみで実践研究を行う「キャリア教育推進地域」を指定し、事業を実施 | <p>フリーター等</p> <p>～フリーター・若年失業者・無業者に対する再教育機会の提供、自立支援～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ フリーター等が職を獲得する上で必要な知識・技術に関する教育を提供するため、専修学校を活用して、企業等のニーズを踏まえた短期教育プログラムの開発・普及に着手
(7校×8分野(工業、農業、医療、衛生、教育・社会福祉、商業実務、服飾・家政、文化・教養)程度)
→ 7月からの事業開始に向け、委託先を決定すべく精査中 |
| <p>高校生／専門学校生</p> <p>～実務・教育連結型人材育成システム
(日本版デュアルシステム)の導入～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門高校等や専修学校において、企業実習と組み合わせ教育を行うための、就業を組み込んだカリキュラムの開発・普及やモデル事業等を実施
(専門高校等:12地域程度、専修学校:20地域程度)
→ 早期の事業開始に向け、委託先を決定すべく精査中 <p>※ また、平成15年度より、地域産業の振興や伝統技能の継承に取り組もうとする専門高校などに対する支援を行う「目指せスペシャリスト」事業を実施</p> | <p>大学生／専門学校生</p> <p>～キャリア高度化の支援
(高度専門職業人等の育成)～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度専門職業人養成の強化のため、専門職大学院の設置促進を図る
(平成15年度制度創設、8大学10専攻を設置)
→ 平成16年度:新たに76大学83専攻を設置 ○ 大学教育の工夫改善に資する取組についての支援を行うため、平成15年度から「特色ある大学教育支援プログラム」を導入(平成15年度:選定80件)
→ 平成16年度:応募534件、7月中に選定取組を決定予定 |

フリーター再教育プラン(若者の自立・挑戦プラン)の展開について

フリーター対策の政策としては、大きく分けて①正規雇用の拡大に資する施策と②フリーターの能力向上等雇用機会の拡大を図る施策があると考えられる。文部科学省では②を中心とした施策を関係省庁と連携し実施する。

フリーターの能力向上等を図る上で、フリーターが直面している以下の2つのミスマッチの解消を図る必要がある。

- ①正規雇用を志向しながら必要となる知識、技術等の能力が足りない(能力のミスマッチ)
- ②就きたい職業・やりたい仕事が異なっていた、あるいは何をしたらよいか分からない(方向性のミスマッチ)



2 キャリア教育を推進するための主な参考文献

事典関係



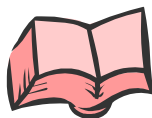
ここで紹介する文献等は、平成 17 年 1 月未までに出版されたものを対象にした。

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
1	現代カリキュラム事典	日本カリキュラム学会	ぎょうせい	平成 13
キャリア教育のカリキュラム開発に取り組む上で、ツールとして役立つ				

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
2	21 世紀の進路指導事典	吉田辰雄編	ブレーン出版	平成 13
小・中・高・盲ろう養護学校等でのキャリア教育・進路指導・職業指導に広く対応している				

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
3	現代カウンセリング事典	国分康孝編	金子書房	平成 13
カウンセリングに関する対応方法や具体的な知識・スキルを豊富に盛り込んでいる				

キャリア教育関係



No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
1	キャリア教育の理論と実践	福地 守作著	玉川大学出版部	平成 7
キャリア教育研究に関する著者の 20 年間にわたる研究の集大成である				

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
2	キャリア開発教育制度研究序説	藤田晃之著	教育開発研究所	平成 9
キャリア開発教育の観点から、中学校教育での進路指導を論究した研究書である				

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
3	キャリア教育読本	仙崎武編	教育開発研究所	平成 12
小・中・高・盲ろう養護学校に対応したキャリア教育推進に向けた入門書である				

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
4	キャリア発達論	柳井修著	ナカニシヤ出版	平成 13
中学生・高校生に応じたキャリア発達の基礎理論とキャリア・カウンセリングを論じる				

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
5	新訂 21 世紀のキャリア開発	仙崎武他編	文化書房博文社	平成 14
キャリア教育の歩みと現代社会での自己のキャリア形成の基本と方策にふれる				

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
6	キャリア教育入門	三村隆男著	実業之日本社	平成 16
	キャリア教育の歴史と理論をはじめ、学校での実践的な取組を紹介した入門書である			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
7	図解はじめる小学校キャリア教育	三村隆男編	実業之日本社	平成 16
	小学校でのキャリア教育への取組を事例紹介も含めて取り扱った実践書である			

キャリア・カウンセリング関係



No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
1	ガイダンス・カウンセリングで学校を変える	仙崎武・渡辺三枝子編	教育開発研究所	平成 13
	学校でのガイダンス・カウンセリングの機能等について小・中学校を対象に論究する			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
2	キャリアカウンセリング入門	渡辺三枝子・E. L. ハー著	ナカニシヤ出版	平成 13
	キャリア・カウンセリングの歴史、そして理論と具体的技法を紹介した書である			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
3	キャリア・カウンセリング	宮城まり子著	駿河台出版	平成 14
	キャリア・カウンセリングの理論から実践的なスキルについて紹介した入門書である			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
4	キャリア・カウンセリング	木村周著	雇用問題研究会	平成 15
	キャリア・ガイダンスとカウンセリングの理論と実践を取り扱った改訂新版の書である			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
5	キャリアの心理学	渡辺三枝子編	ナカニシヤ出版	平成 15
	キャリア・カウンセリングの基礎理論を、8人の心理学者の学説から紹介した書である			

進路指導・進路学習関係



No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
1	担任のための生き方教育としての進路指導	仙崎武編	学事出版	平成 11
	中学校・高等学校を対象にした実践的な指導書で、ワークシート例示を含んでいる			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
2	入門進路指導・相談	仙崎武他編	福村出版	平成 12
	小・中・高等学校を対象に、実践的な進路指導や進路相談への対応等を紹介している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
3	進路指導を生かす総合的な学習	鹿嶋研之助著	実業之日本社	平成 12
	中学校での「総合的な学習の時間」における進路指導の実際等について紹介している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
4	高等学校ホームルーム担任読本	小川一郎編	文教書院	平成 13
	ホームルーム担任としての進路に関する指導的な取組方法の実際等を網羅している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
5	「トライやる・ウィーク」で子供が変わる	羽瀨強一著	明治図書	平成 13
	平成 10 年度から兵庫県で取り組まれた「トライやる・ウィーク」の実践を紹介している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
6	生きる力が育つ生徒指導と進路指導	松田文子・高橋超編	北大路書房	平成 14
	中学校・高等学校を対象に、現代社会のとらえから進路指導の理論と課題を整理する			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
7	13歳のハローワーク	村上龍著	幻冬舎	平成 15
	キャリア教育にとって、新たな視点から 514 種の職種を紹介したまさにツールである			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
8	学力から人間力へ	市川伸一編	教育出版	平成 15
	若者をめぐるフリーター問題など、若者の学ぶ意欲・働く意欲を論究した書である			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
9	個性を生かす教育と集団指導	宮川八岐編	教育出版	平成 15
	小学校における集団指導の基礎・基本について、教科・特別活動等から紹介している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
10	フリーターという生き方	小杉礼子著	勁草書房	平成 15
	フリーターが増加する背景や問題の所在、そして対応方法について論究している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
11	ニート フリーターでもなく 失業者でもなく	玄田有史・曲沼美恵著	幻冬舎	平成 16
	働くこと学ぶことにも踏み出せないニートと称される若者の実態等を紹介している			

No.	書名	著者・编者	出版社	発行年
12	図解学級経営 学級生活編	羽豆成二編	東洋館出版社	平成 16
	小学校の学級経営の理論と実践を紹介し、進路指導への取組についても紹介している			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
13	職場体験プラスαの生き方学習	堀川博基著	実業之日本社	平成 16
	中学校での職場体験の取組方法等について、キャリア教育の観点からも言及している			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
14	「ガイダンスの機能の充実」によるこれからの生徒指導、特別活動	高橋哲夫・森嶋昭伸・今泉紀嘉編	教育出版	平成 16
	小・中・高等学校を対象にガイダンスの機能について論究し、実践例も紹介している			

No.	書名	著者・編者	出版社	発行年
15	特色ある学校づくりとカリキュラム開発	安彦忠彦編	ぎょうせい	平成 16
	学校でのカリキュラム開発やカリキュラム・マネジメント等にかける実践的な指導書			

キャリア教育を特集した定期刊行物関係



No.	定期刊行物名	特集内容	発行元	発行年月	巻-号
1	学校経営	子供の未来を拓く「進路指導」	第一法規出版	平成 14 年 10 月	47-12
2	キャリアガイダンス最新ノウハウブック	新・キャリア教育基礎講座/入門編/進路情報編	リクルート	平成 15 年 4 月	
3	キャリアガイダンス最新ノウハウブック	新・キャリア教育基礎講座/個別指導編	リクルート	平成 15 年 9 月	
4	教職研修	キャリア教育をどう進めるか	教育開発研究所	平成 15 年 10 月	374 号
5	キャリアガイダンス最新ノウハウブック	新・キャリア教育基礎講座/年間計画編	リクルート	平成 15 年 11 月	
6	中等教育資料	進路指導の新たな展開ーキャリア教育の推進に向けてー	ぎょうせい	平成 16 年 2 月	813 号
7	VIEW21 中学版	中学校のキャリア教育を考える	ベネッセ	平成 16 年 4 月	1 号
8	キャリアガイダンス	キャリア教育最先端ルポ	リクルート	平成 16 年 5 月	
9	月刊高校教育	キャリア教育の推進	学事出版	平成 16 年 6 月	37-8
10	悠	キャリア教育の捉え方・生かし方	ぎょうせい	平成 16 年 9 月	21-9
11	キャリアガイダンス最新ノウハウブック	ガイダンス&カウンセリングテキスト	リクルート	平成 16 年 9 月	
12	キャリアガイダンス	キャリア教育新時代へ	リクルート	平成 17 年 1 月	
13	現代教育科学	なぜ「キャリア教育」が必要か	明治図書	平成 17 年 1 月	580 号

3 キャリア教育推進に役立つサイト集

1 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

- 我が国のキャリア教育推進に関する情報を提供しており、『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』やリーフレット等の入手が可能である。

2 国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/>

- 同研究所生徒指導研究センターによる「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究」報告書(概要)をはじめ、同センターによる研究成果が掲載されている。



3 教育情報ナショナルセンター (NICER) <http://www.nicer.go.jp/>

- 同センターによる教育の情報化推進に向けたサイトで、様々支援ツールやコンテンツなどを紹介している。

4 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

- 厚生労働統計一覧・全国ハローワーク等の所在案内等の諸資料の検索の他、「JOB JOB WORLD」には「私のしごと館」を活用すると様々な仕事調べが可能である。

5 独立行政法人 労働政策研究・研修機構 <http://www.jil.go.jp/>

- 国内の労働関係や企業の動向に関する調査研究の結果や各種統計情報を入手できる他、旧日本労働研究機構以来の研究業績も見られ、労働・産業・雇用に関する情報の宝庫である。

6 独立行政法人 雇用・能力開発機構 <http://www.ehdo.go.jp/>

- 職業能力の開発や向上に関する情報を入手でき、全国のヤングジョブスポットに関する情報も得ることができ、キャリア形成を支援ツール等が充実している。



7 PLANETかながわ <http://www.planet.pref.kanagawa.jp/>

- 子ども向けの(体験活動・ボランティア)情報をも提供し、神奈川県内の生涯学習情報や体験活動・ボランティア情報等が充実している。

8 かながわ若者就職支援センター

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/koyotaisaku/hp/wakamonocenter.htm>

- 神奈川県が若者の就職を支援するための施設として開設したもので、社会人の方による高校への出前授業や高校生の職場見学会等を案内し、様々な方法で就職活動を支援している。

9 ヤングジョブスポットよこはま http://www.ehdo.go.jp/kanagawa/young_job.html

- 神奈川県に開設されたヤングジョブスポットよこはまの活動内容等について情報を提供しており、毎月の行事案内や様々なサービスの在り方等を知ることができる。

10 キャリアガイダンス.net <http://www.recruit.co.jp/shingaku/career-g/>

- 株式会社リクルートによるキャリア教育・進路指導に関するワークシート類・統計データ・教育事例等の紹介や同社刊行物の「キャリアガイダンス」等をはじめ、豊富な情報を収める。

11 リクルート進学ネット <http://www.recruit.co.jp/shingaku/>

- 株式会社リクルートによる運営するサイトで、学校選択や学部等の選択に向けて支援するツールをはじめ、仕事調べや適する適職診断などキャリア教育に関する情報が充実している。

12 進路指導net <http://www.j-n.co.jp/kyouiku/>

- 実業之日本社が運営する進路指導・キャリア教育・「総合的な学習の時間」等を支援するサイトである。

13 学びの場.com <http://www.manabinoba.com/>

- 株式会社内田洋行の知的生産性研究所が運営するサイトで、教材や授業の実践例などをはじめ、様々な支援ツールも備えられている。

14 財団法人 日本進路指導協会 <http://www7.ocn.ne.jp/~shinro/>

- 月刊『進路指導』をはじめ、同協会が主催する研修会や出版物の案内を行っている。

15 全国中学校進路指導連絡協議会
<http://www.j-n.co.jp/kyouiku/link/dantai.html#002>

- 同協議会の運営及び各都道府県における中学校進路指導の研究会等の情報を提供している。

16 全国高等学校進路指導協議会 <http://www.zenkousin.net/>

- 同協議会の年間の活動案内をはじめ同協議会編の高校生のキャリアノートの紹介記事等の情報も提供している。

17 日本進路指導学会 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsscsg/>

- 同学会の活動内容や刊行物の紹介の他、キャリア・カウンセラー制度及びキャリア・カウンセラー養成研修等の内容案内と認定に関する情報の提供にも努めている。

『キャリア教育推進ハンドブック』の作成関係者

【助言者】

所 属	職 名	氏 名	備 考
信州大学教育学部	教 授	山崎 保寿	平成 16 年度

【調査研究協力員】

所 属	職 名	氏 名	備 考
大和市立南林間小学校	教 諭	小川 薫	平成 16 年度
逗子市立逗子中学校	教 諭	鈴木 孝久	平成 15 年度
綾瀬市立北の台中学校	教 諭	岡本 恵子	平成 15・16 年度
神奈川県立長後高等学校 (現、県立藤沢総合高等学校)	教 諭	有森 斉	平成 15 年度
神奈川県立弥栄東高等学校	教 諭	上田 敏和	平成 15・16 年度
神奈川県立高浜高等学校	教 諭	梶原 実	平成 16 年度

【神奈川県立総合教育センター】

所 属	職 名	氏 名	備 考
研究開発課	研修指導主事	梶 輝行	平成 15・16 年度
研究開発課	研修指導主事	江原 美明	平成 16 年度
研究開発課	教育専門員	相原 実	平成 15 年度
研究開発課	教育専門員	水野 治	平成 16 年度

キャリア教育推進ハンドブック

発行日 平成 17 年 3 月 31 日

発行者 清水 進一

発行所 神奈川県立総合教育センター（カリキュラムセンター）

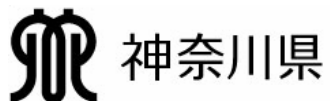
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

電話 (0466)81-1659 (研究開発課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>



古紙配合率100%再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466) 81-0188

FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466) 81-8521

FAX (0466) 83-4500